

# 市政に関する世論調査

## 結果報告書

— 第58回 令和7年度 —

宇 都 宮 市

---

# 目次

I	調査の概要	- 1 -
1.	調査の目的	- 1 -
2.	調査の項目	- 1 -
3.	調査の設計	- 2 -
4.	回収結果	- 3 -
5.	標本誤差	- 4 -
6.	調査報告書の見方	- 4 -
II	調査回答者の属性	- 5 -
III	調査結果のあらまし	- 8 -
1.	宇都宮市に対する感じ方について	- 8 -
2.	広報媒体の活用状況について	- 8 -
3.	デジタル化について	- 8 -
4.	男女共同参画について	- 9 -
5.	保健と福祉のまるごと相談窓口エールUについて	- 9 -
6.	まちづくり活動への参加意識について	- 9 -
7.	防犯・交通安全に関する意識・状況について	- 9 -
8.	多様な性について	- 10 -
9.	空き家に関する意識について	- 10 -
10.	成年後見制度について	- 10 -
11.	結婚・出産・子育てに関する意識について	- 10 -
12.	「宮っこを守り・育てる都市宣言」について	- 10 -
13.	雇用形態について	- 10 -
14.	宇都宮産の農産物について	- 11 -
15.	カーボンニュートラル（脱炭素）について	- 11 -
16.	SDGsの認知度について	- 11 -
17.	「もったいない運動」について	- 11 -
18.	良好な生活環境の確保に係る市民満足度について	- 11 -
19.	生物多様性について	- 12 -
20.	自転車のまちづくりについて	- 12 -
21.	スポーツに関することについて	- 12 -
22.	日本遺産について	- 12 -
23.	文化的景観について	- 12 -
24.	選挙の投票率向上に向けた取組について	- 13 -
25.	生涯学習について	- 13 -
26.	中心市街地の活性化について	- 13 -
27.	宇都宮市のみどりについて	- 13 -
28.	宇都宮市の景観について	- 14 -
29.	水災害（洪水など）への備えについて	- 14 -

---

IV 第58回市政に関する世論調査の結果	- 15 -
1. 宇都宮市に対する感じ方について	- 15 -
2. 広報媒体の活用状況について	- 24 -
3. デジタル化について	- 38 -
4. 男女共同参画について	- 44 -
5. 保健と福祉のまると相談窓口エールUについて	- 60 -
6. まちづくり活動への参加意識について	- 62 -
7. 防犯・交通安全に関する意識・状況について	- 68 -
8. 多様な性について	- 74 -
9. 空き家に関する意識について	- 76 -
10. 成年後見制度について	- 82 -
11. 結婚・出産・子育てに関する意識について	- 84 -
12. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について	- 87 -
13. 雇用形態について	- 89 -
14. 宇都宮産の農産物について	- 95 -
15. カーボンニュートラル（脱炭素）について	- 101 -
16. SDGsの認知度について	- 121 -
17. 「もったいない運動」について	- 123 -
18. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について	- 125 -
19. 生物多様性について	- 127 -
20. 自転車のまちづくりについて	- 131 -
21. スポーツに関することについて	- 134 -
22. 日本遺産について	- 140 -
23. 文化的景観について	- 144 -
24. 選挙の投票率向上に向けた取組について	- 148 -
25. 生涯学習について	- 152 -
26. 中心市街地の活性化について	- 154 -
27. 宇都宮市のみどりについて	- 157 -
28. 宇都宮市の景観について	- 165 -
29. 水災害（洪水など）への備えについて	- 171 -
V 調査結果の考察	- 172 -
VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果	- 184 -
1. あなたのことについて	- 184 -
2. 現在の宇都宮市について	- 194 -
3. 各施策についての重要度	- 198 -
4. 各施策についての満足度	- 204 -

# I 調査の概要

---

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別、年齢、職業、家族構成、居住年数、居住地域、居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い、好きな理由、嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の利用状況、「広報うつのみや」の入手方法、「広報うつのみや」で読んでいる主な記事
デジタル化	デジタル機器の所有状況、インターネットを利用しているか、インターネットを利用しない理由
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間、社会的な活動の実施状況、配偶者からの暴力を受けた経験
保健と福祉のまるごと相談窓口エール U	保健と福祉のまるごと相談窓口エール U の認知度
まちづくり活動への参加意識	まちづくり活動に参加しているか、参加中または興味があるまちづくり活動、まちづくり活動に参加していない理由
防犯・交通安全に関する意識・状況	安心して暮らすことができているか、自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況、自転車保険の加入状況
多様な性	LGBTQ（エルジービーティーキュー）の認知度
空き家に関する意識	所有している（将来相続する可能性のある）住宅の今後について、空き家の活用について、宇都宮空き家会議にして欲しい取組について
成年後見制度	成年後見制度の認知度
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか、結婚に対する考え、結婚している（いずれ結婚するつもり）場合、お子さんは何人ほしいか
宮っこを守り・育てる都市宣言	「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度
雇用形態	現在の雇用形態、希望する雇用形態、希望する雇用形態を選んだ理由
宇都宮産の農産物	宇都宮産の農産物の購入意欲、宇都宮の農業を大切にしたいと思うか、環境に配慮して生産された農産物の購入意欲
カーボンニュートラル（脱炭素）	省エネルギーや創エネルギーなどの取組、現在取り組んでいない理由・要因
SDGs	SDGs の認知度
もったいない運動	「もったいない運動」の認知度
良好な生活環境の確保に係る市民満足度	環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策の満足度
生物多様性	「生物多様性」の認知度、外来種が及ぼす影響の認知度

自転車のまちづくり	「自転車のまち」の実現を目指していることの認知度、自転車を使いやすいまちだと思うか、「自転車のまち」を推進していく上で必要な取組
スポーツに関すること	市の魅力向上にスポーツが活用されていると感じているか、直接会場へ行ってプロスポーツ観戦をしたか、スポーツに関する指導を行ってみたいと思うか
日本遺産	「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度、「大谷石文化」を誇りに思うか
文化的景観	「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことの認知度、「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことを誇りに思うか
選挙の投票率向上に向けた取組	どのような方法で選挙の有無を認知しているか、選挙の低投票率の理由
生涯学習	現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているか
中心市街地の活性化	中心市街地に出かける頻度、中心市街地へ出かける目的、街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか
宇都宮市のみどり	みどりの量についての感じ方、「みどり」に関することで取り組みたいこと、「みどり」を増やすために必要な取組
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるか、イベントや求人告知などで街なかを走行する広告宣伝車の印象、街なかを走行する広告宣伝車について、そのような印象を持たれた点
水災害（洪水など）への備え	水災害への備えとして取り組んでいること

### 3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満18歳以上の日本国籍を有する市民5,400人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和7年7月30日～8月30日

## 4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
5,400	2,758	51.1%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10 歳代	男性	38	1	2.6%	7	18.4%	8	21.1%
	女性	44	2	4.5%	10	22.7%	12	27.3%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	計	82	3	3.7%	17	20.7%	20	24.4%
20 歳代	男性	285	11	3.9%	50	17.5%	61	21.4%
	女性	231	13	5.6%	64	27.7%	77	33.3%
	その他	—	0	—	1	—	1	—
	計	516	24	4.7%	115	22.3%	139	26.9%
30 歳代	男性	355	24	6.8%	75	21.1%	99	27.9%
	女性	308	27	8.8%	112	36.4%	139	45.1%
	その他	—	2	—	1	—	3	—
	計	663	53	8.0%	188	28.4%	241	36.3%
40 歳代	男性	485	48	9.9%	136	28.0%	184	37.9%
	女性	373	55	14.7%	137	36.7%	192	51.5%
	その他	—	0	—	1	—	1	—
	計	858	103	12.0%	274	31.9%	377	43.9%
50 歳代	男性	494	85	17.2%	115	23.3%	200	40.5%
	女性	453	127	28.0%	159	35.1%	286	63.1%
	その他	—	1	—	1	—	2	—
	計	947	213	22.5%	275	29.0%	488	51.5%
60 歳代	男性	406	140	34.5%	93	22.9%	233	57.4%
	女性	391	200	51.2%	85	21.7%	285	72.9%
	その他	—	1	—	0	—	1	—
	計	797	341	42.8%	178	22.3%	519	65.1%
70 歳代	男性	374	195	52.1%	47	12.6%	242	64.7%
	女性	492	326	66.3%	45	9.1%	371	75.4%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	無回答	—	1	—	—	—	1	—
計	866	522	60.3%	92	10.6%	614	70.9%	
80 歳以上	男性	214	116	54.2%	9	4.2%	125	58.4%
	女性	457	188	41.1%	20	4.4%	208	45.5%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	無回答	—	3	—	0	—	3	—
計	671	307	45.8%	29	4.3%	336	50.1%	
無回答	男性	—	3	—	0	—	3	—
	女性	—	0	—	0	—	0	—
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	無回答	—	21	—	0	—	21	—
計	—	24	—	0	—	24	—	
全体	男性	2,651	623	23.5%	532	20.1%	1,155	43.6%
	女性	2,749	938	34.1%	632	23.0%	1,570	57.1%
	その他	—	4	—	4	—	8	—
	無回答	—	25	—	0	—	25	—
合計	5,400	1,590	29.4%	1,168	21.6%	2,758	51.1%	

## 5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,758	±1.12%	±1.49%	±1.70%	±1.82%	±1.86%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.45%
1,200	±1.70%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.83%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

< 標本誤差の算出方法 >

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の満18歳以上の人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

< 表の見方 >

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,758で宇都宮市が「好き」との答えが50.5%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも50.5%±1.86%以内(48.64%~52.36%)である」とみることができる。

## 6. 調査報告書の見方

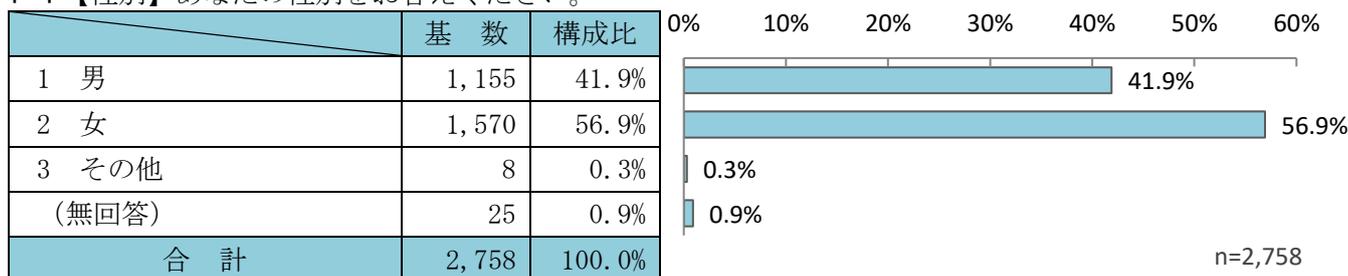
- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- n値が少ない属性は記述に含まれない場合がある。
- 世論調査のクロス集計結果については、年齢や家族構成等の属性によって、回答者数にばらつきがあることから、参考として記載する。

## Ⅱ 調査回答者の属性

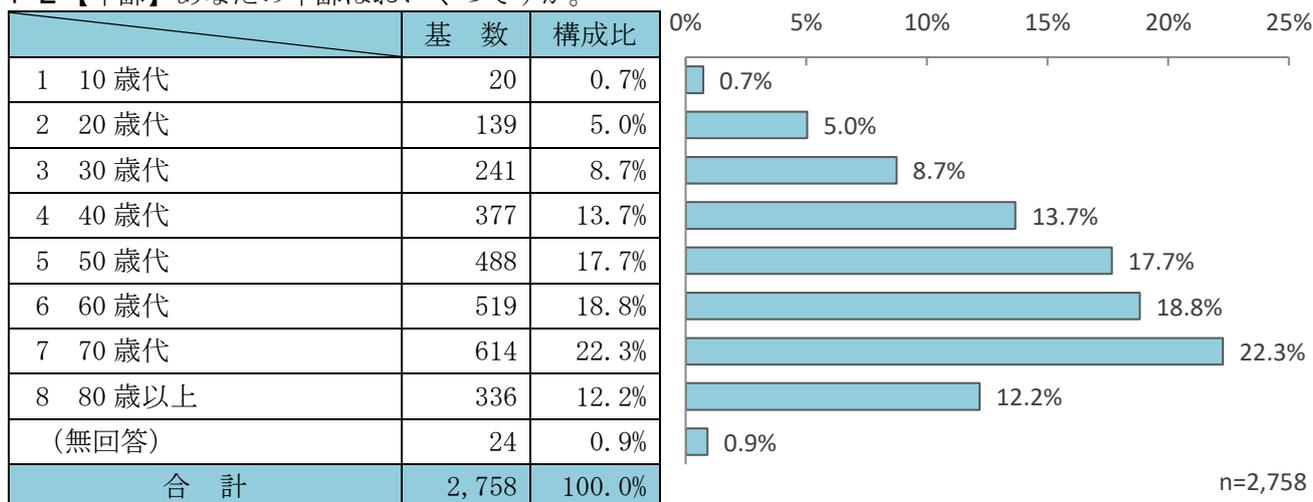
---

## II 調査回答者の属性

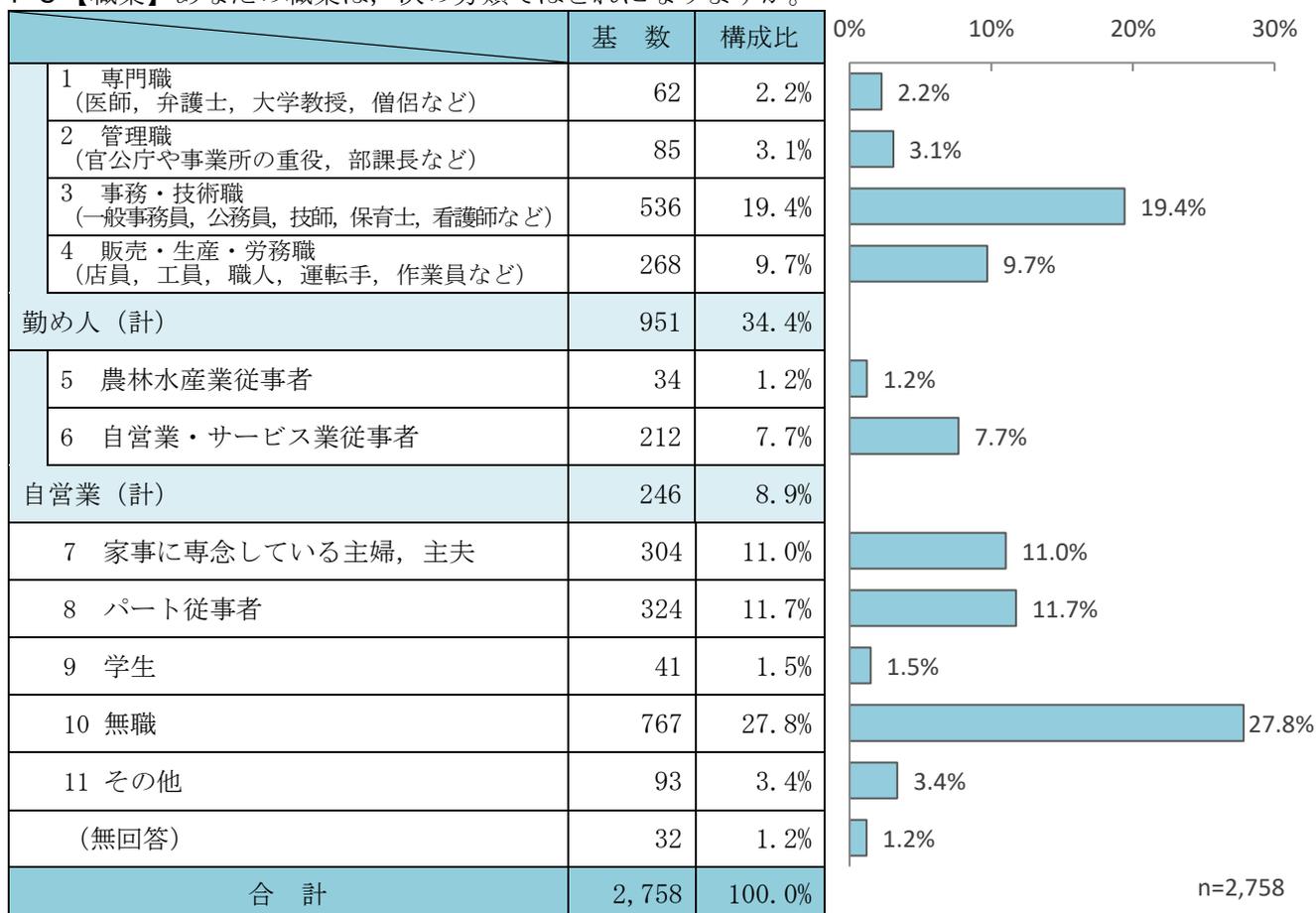
F 1 【性別】 あなたの性別をお答えください。



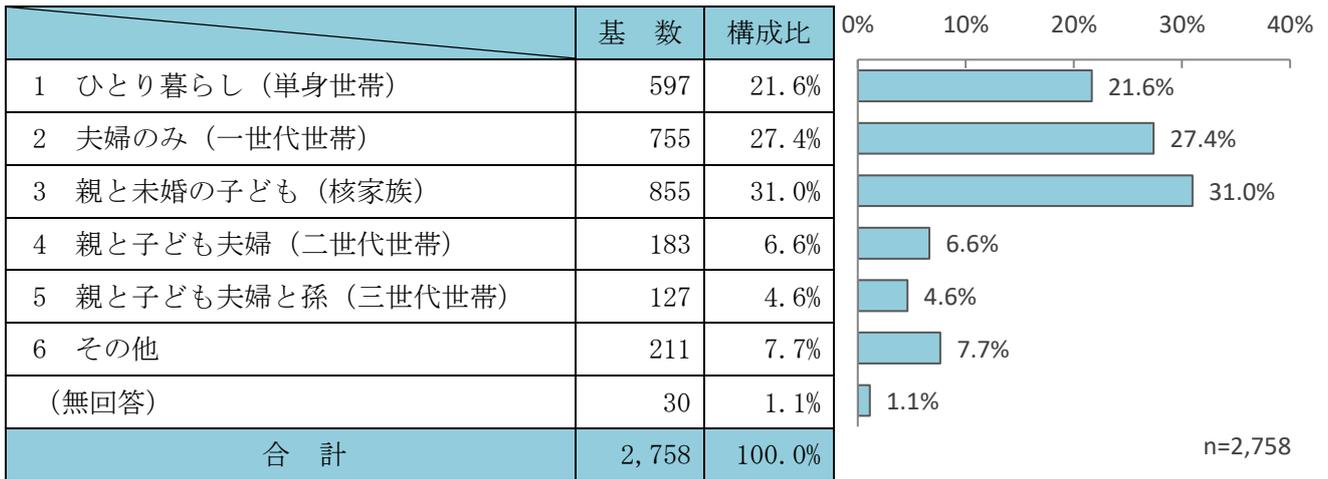
F 2 【年齢】 あなたの年齢はおいくつですか。



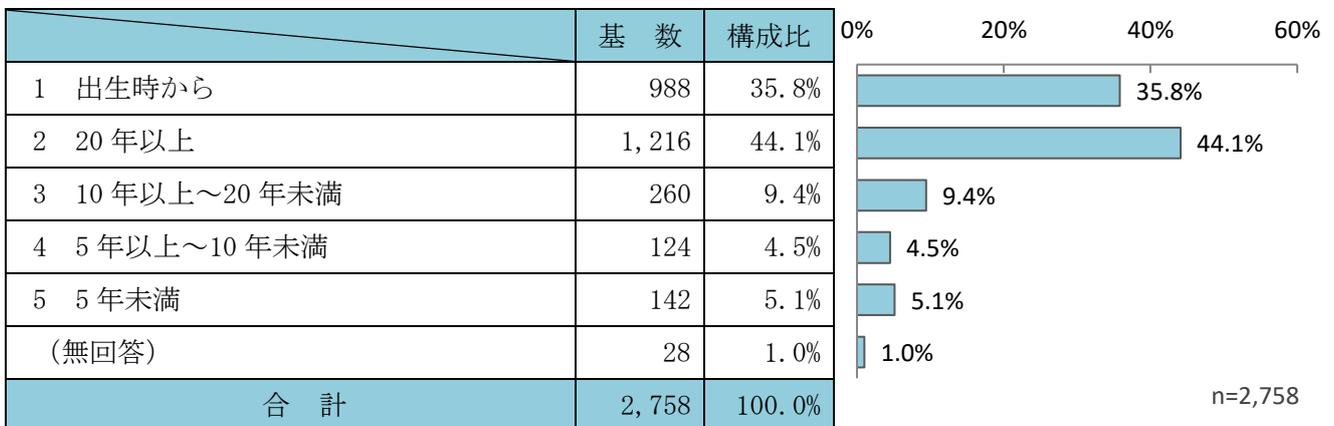
F 3 【職業】 あなたの職業は、次の分類ではどれになりますか。



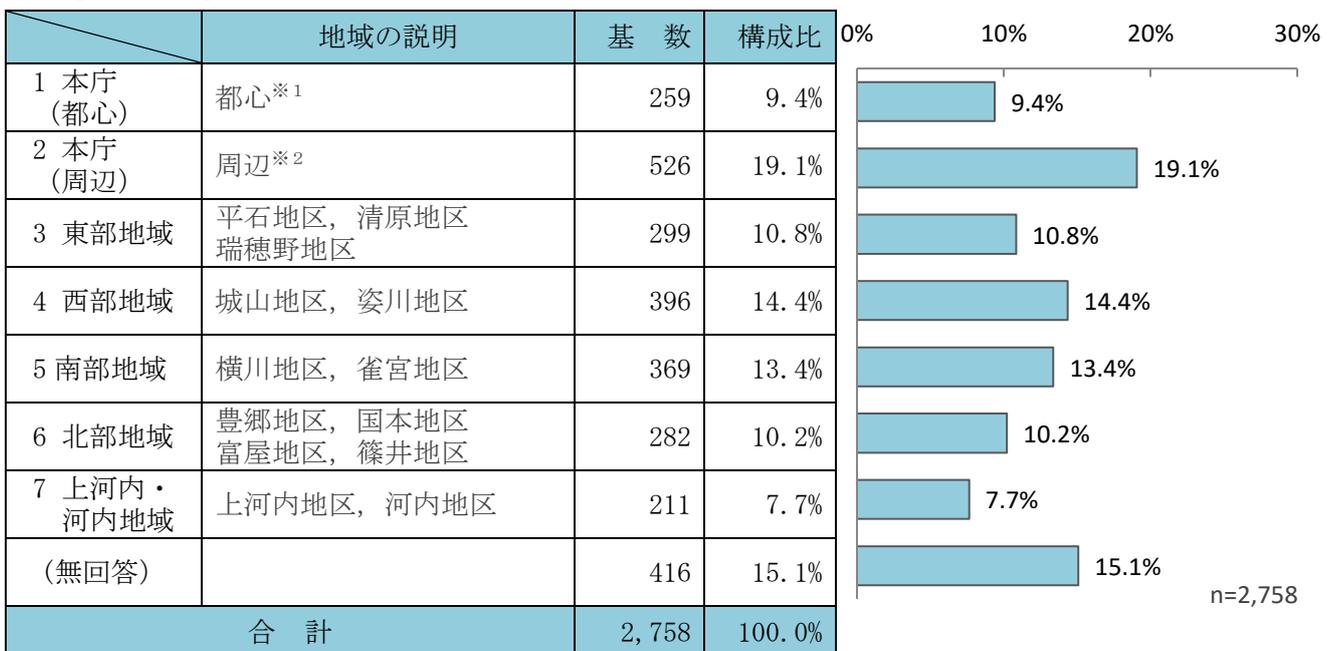
F 4 【家族構成】 あなたの家族構成はどれに該当しますか。



F 5 【居住年数】 あなたは、宇都宮市にお住まいになってどのくらいになりますか。



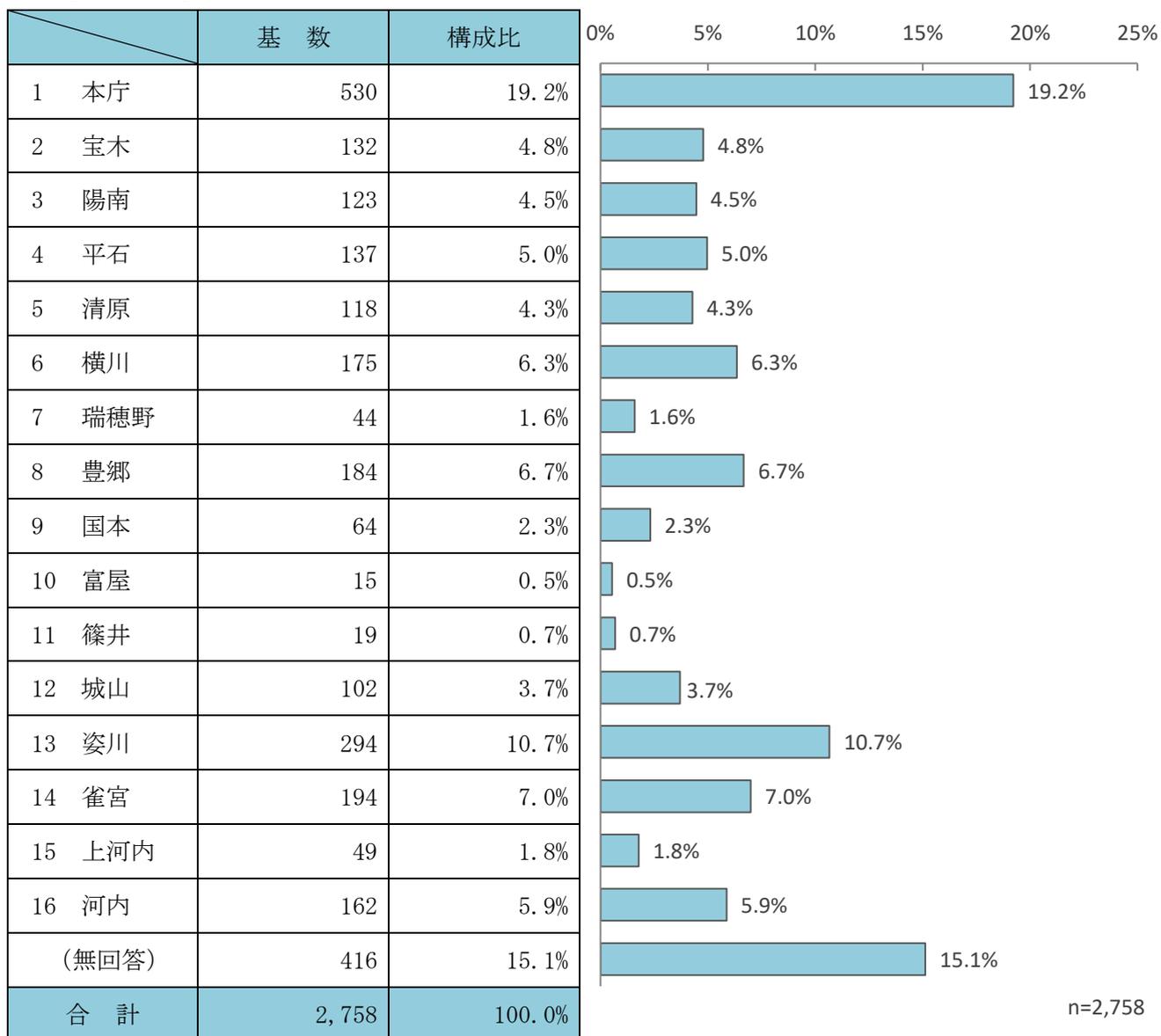
F 6 【居住地域】 あなたがお住まいの町はどちらですか。



※1 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りで囲まれた地域

※2 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りより外側の地域

F 6 【居住地区】



### Ⅲ 調査結果のあらまし

---

## III 調査結果のあらまし

### 第 58 回市政に関する世論調査の結果

#### 1. 宇都宮市に対する感じ方について

##### (1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割半ばであった。一方、「どちらかといえば嫌い」と「嫌い」を合わせた【嫌い（計）】は1割に満たなかった。

##### (2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が5割弱で最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「自然環境の豊かさ」、「慣れ親しんだところ」と続いた。

##### (3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が3割弱で最も高く、次いで「交通渋滞の多さ」、「街に活気がないところ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いた。

#### 2. 広報媒体の活用状況について

##### (1) 市政情報の各広報媒体の利用状況

市政情報の各広報媒体の利用状況については、「よく利用する」と「ときどき利用する」を合わせた【利用する（計）】は「広報紙」が6割半ばで最も高く、次いで「ホームページ」、「テレビ番組」と続いた。

##### (2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込」が約5割で最も高かった。一方、「手に入っていない」は約3割であった。

##### (3) 「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

「広報うつのみや」で読んでいる主な記事については、「うつのみやのイベント」が6割弱で最も高く、次いで「市政情報」、「特集」、「情報ひろば」と続いた。

#### 3. デジタル化について

##### (1) デジタル機器の所有状況

デジタル機器の所有状況については、「スマートフォン」が8割半ばで最も高く、次いで「パソコン」、「固定電話」と続いた。

##### (2) インターネットを利用しているか

インターネットを利用しているかについては、「利用している」が7割半ばであった。

##### (3) インターネットを利用しない理由

インターネットを利用しない理由については、「必要性を感じない」が6割弱で最も高く、次いで「操作方法等がわからない」、「興味がない」と続いた。

## 4. 男女共同参画について

### (1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は「7時間未満」が3割半ばであった。育児は「対象者なし」を除くと「7時間未満」が1割に満たず、介護は「対象者なし」を除くと「7時間未満」が約1割であった。

### (2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が6割強で最も高く、次いで「地域活動（自治会やまちづくりなど）」、「グループ活動（芸術やスポーツなど）」と続いた。

### (3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについては、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり（計）】は、「精神的な暴力」が1割弱で、受けた暴力の種類では最も高かった。

## 5. 保健と福祉のまると相談窓口エールUについて

### (1) 保健と福祉のまると相談窓口エールUの認知度

保健と福祉のまると相談窓口エールUの認知度については、「知らない」が9割強であった。

## 6. まちづくり活動への参加意識について

### (1) まちづくり活動に参加しているか

まちづくり活動に参加しているかについては、「参加している」が1割半ばであった。

### (2) 参加中または興味があるまちづくり活動

参加中または興味があるまちづくり活動については、「高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動」と「健康や医療サービスに関する活動」が約3割であった。

### (3) まちづくり活動に参加していない理由

まちづくり活動に参加していない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が4割半ばであった。

## 7. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

### (1) 安心して暮らすことができているか

安心して暮らすことができているかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】は9割弱であった。

### (2) 自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況

自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が約7割であった。

### (3) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」が約6割であった。

## 8. 多様な性について

### (1) LGBTQ（エルジービーティーキュー）の認知度

LGBTQ（エルジービーティーキュー）の認知度については、「言葉も内容も知っている」が5割弱であった。

## 9. 空き家に関する意識について

### (1) 所有している（将来相続する可能性のある）住宅の今後について

所有している（将来相続する可能性のある）住宅の今後については、「話し合っていない」が3割半ばであった。

### (2) 空き家の活用について

空き家の活用については、「住宅のままの利用」が約4割であった。

### (3) 宇都宮空き家会議にして欲しい取組について

宇都宮空き家会議にして欲しい取組については、「空き家の活用方法の提案」が4割半ばであった。

## 10. 成年後見制度について

### (1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度については、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」が4割強であった。

## 11. 結婚・出産・子育てに関する意識について

### (1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が約6割であった。

### (2) 結婚に対する考え

結婚に対する考えについては、「結婚するつもりはない」が8割弱であった。

### (3) 結婚している（いずれ結婚するつもり）場合、お子さんは何人ほしいか

結婚している（いずれ結婚するつもり）場合、お子さんは何人ほしいかについては、「2人」が5割弱であった。

## 12. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について

### (1) 「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度

「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度については、「宣言は知らないが、子どもを大切にしている行動を実践している」が5割強であった。

## 13. 雇用形態について

### (1) 現在の雇用形態

現在の雇用形態については、「正社員（フルタイム）」が2割半ばであった。

### (2) 希望する雇用形態

希望する雇用形態については、「正社員（フルタイム）」と「働く気はない」が約3割であった。

### (3) 希望する雇用形態を選んだ理由

希望する雇用形態を選んだ理由については、「生計を立てるため、安定して働きたいから」が3割半ばであった。

## 14. 宇都宮産の農産物について

### (1) 宇都宮産の農産物の購入意欲

宇都宮産の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】は約8割であった。

### (2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】は約9割であった。

### (3) 環境に配慮して生産された農産物の購入意欲

環境に配慮して生産された農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】は8割半ばであった。

## 15. カーボンニュートラル(脱炭素)について

### (1) 省エネルギーや創エネルギーなどの取組

省エネルギーや創エネルギーなどの取組について「取り組んでいる」は、『断熱性の高い壁・屋根・窓への改修』が2割弱であった。

### (2) 現在取り組んでいない理由・要因

現在取り組んでいない理由・要因については、「初期投資費用が高い」がすべての項目で4割半ばを超えた。

## 16. SDGsの認知度について

### (1) SDGsの認知度

SDGsの認知度については、「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が約3割であった。

## 17. 「もったいない運動」について

### (1) 「もったいない運動」の認知度

「もったいない運動」の認知度については、「内容を知っており、実践している」が3割半ばであった。

## 18. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

### (1) 環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策の満足度

環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策の満足度については、「満足」と「やや満足」を合わせた【満足(計)】は3割半ばであった。

## 19. 生物多様性について

### (1) 「生物多様性」の認知度

「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っていた」が4割強であった。

### (2) 外来種が及ぼす影響の認知度

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っていた」が8割半ばであった。

## 20. 自転車のまちづくりについて

### (1) 「自転車のまち」の実現を目指していることの認知度

「自転車のまち」の実現を目指していることの認知度については、「知っている」が5割半ばであった。

### (2) 自転車を使いやすいまちだと思うか

自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「どちらとも言えない」が約3割であった。

### (3) 「自転車のまち」を推進していく上で必要な取組

「自転車のまち」を推進していく上で必要な取組については、「自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）の整備」が約5割で最も高く、次いで「自転車に関する交通ルールやマナーの定着」、「駐輪場（鉄道駅、ライトライン停留場、バス停留所など）の整備」と続いた。

## 21. スポーツに関することについて

### (1) 市の魅力向上にスポーツが活用されていると感じているか

市の魅力向上にスポーツが活用されていると感じているかについては、「非常に感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせた【感じている（計）】は7割半ばであった。

### (2) 直接会場へ行ってプロスポーツ観戦をしたか

直接会場へ行ってプロスポーツ観戦をしたかについては、「観戦しなかった」が8割強であった。

### (3) スポーツに関する指導を行ってみたいと思うか

スポーツに関する指導を行ってみたいと思うかについては、「行いたくない」が約6割であった。

## 22. 日本遺産について

### (1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度については、「知らない」が5割強であった。

### (2) 「大谷石文化」を誇りに思うか

「大谷石文化」を誇りに思うかについては、「思う」と「やや思う」を合わせた【思う（計）】は8割弱であった。一方、「思わない」と「あまり思わない」を合わせた【思わない（計）】は1割半ばであった。

## 23. 文化的景観について

### (1) 「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことの認知度

「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことの認知度については、「知らなかった」が6割半ばであった。

(2) 「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことを誇りに思うか  
「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことを誇りに思うかについては、「非常に誇りに思う」と「どちらかといえば誇りに思う」を合わせた【思う(計)】は8割半ばであった。一方、「どちらかといえば誇りに思わない」と「まったく誇りに思わない」を合わせた【思わない(計)】は1割半ばであった。

## 24. 選挙の投票率向上に向けた取組について

(1) どのような方法で選挙の有無を認知しているか

どのような方法で選挙の有無を認知しているかについては、「テレビやニュース」が6割半ばであった。

(2) 選挙の低投票率の理由

選挙の低投票率の理由については、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が6割弱であった。

## 25. 生涯学習について

(1) 現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ(運動)活動をしているか

現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ(運動)活動をしているかについては、「していない」が6割弱であった。

## 26. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地に出かける頻度

中心市街地に出かける頻度については、「年に数回程度」が3割強であった。

(2) 中心市街地へ出かける目的

中心市街地へ出かける目的については、「買い物」が約5割で最も高く、次いで「飲食」、「病院(通院・見舞い)」と続いた。

(3) 街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか

街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるかについては、「もっと楽しめる場所がほしい」が3割半ばであった。

## 27. 宇都宮市のみどりについて

(1) みどりの量についての感じ方

みどりの量についての感じ方については、「a 郊外部」は『ちょうどよい』が約7割、「b 都市部」は『少ない』が約5割、「c 自宅周辺」は『ちょうどよい』が6割強であった。

(2) 「みどり」に関することで取り組みたいこと

「みどり」に関することで取り組みたいことについては、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」が約5割であった。

(3) 「みどり」を増やすために必要な取組

「みどり」を増やすために必要な取組については、「人が歩くところや溜まる場所に木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」が8割弱であった。

## 28. 宇都宮市の景観について

### (1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるか

宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるかについては、「非常に良くなった」と「どちらかという  
と良くなった」を合わせた【良くなった(計)】は5割強であった。一方、「非常に悪くなった」と「どちら  
かというと悪くなった」を合わせた【悪くなった(計)】は1割強であった。

### (2) イベントや求人告知などで街なかを走行する広告宣伝車の印象

イベントや求人告知などで街なかを走行する広告宣伝車の印象については、「悪い」と「どちらかとい  
うと悪い」を合わせた【悪い(計)】は3割半ばであった。一方、「良い」と「どちらかという  
と良い」を合わせた【良い(計)】は約3割であった。

### (3) 街なかを走行する広告宣伝車について、そのような印象を持たれた点

街なかを走行する広告宣伝車について、そのような印象を持たれた点については、その他を除くと「広告  
の内容が悪い」と「都市の風景に合っていない」が1割半ばであった。

## 29. 水災害(洪水など)への備えについて

### (1) 水災害への備えとして取り組んでいること

水災害への備えとして取り組んでいることについては、「ハザードマップの確認(洪水浸水想定区域内外  
の確認など)」が約5割で最も高く、次いで「災害時の避難場所の確認」、「備蓄品・非常用持出品の準備(飲  
料水・食料品、生活用品、衣類など)」と続いた。

## IV 第 58 回市政に関する世論調査の結果

---

## IV 第 58 回市政に関する世論調査の結果

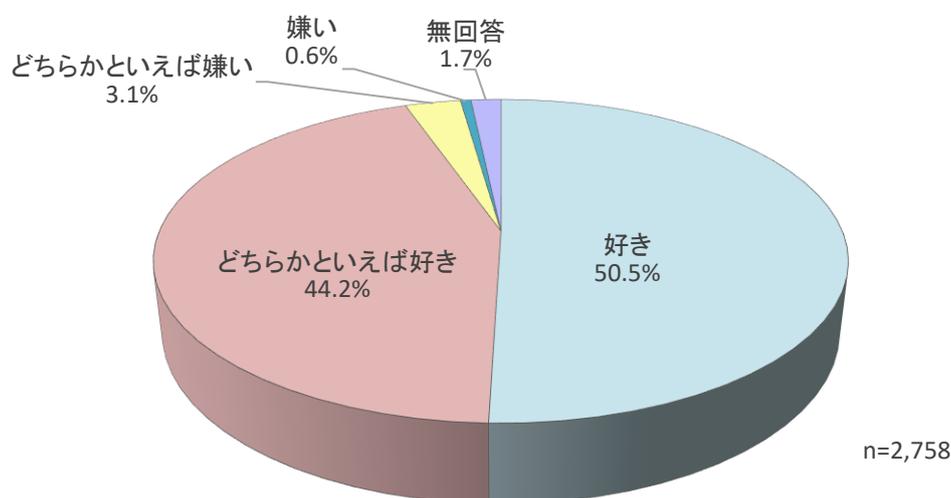
### 1. 宇都宮市に対する感じ方について

#### (1) 宇都宮市の好き・嫌い

◇ 「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】が9割半ば

問 1	宇都宮市を好きですか。それとも嫌いですか。	(○は1つ)
		n=2,758
1	好き	50.5%
2	どちらかといえば好き	44.2%
3	どちらかといえば嫌い	3.1%
4	嫌い	0.6%
	(無回答)	1.7%

<図IV-1-1>全体



宇都宮市を好きか、嫌いかを聞いたところ、「好き」が50.5%、「どちらかといえば好き」が44.2%で、これらを合わせた【好き（計）】は94.7%であった。一方、「どちらかといえば嫌い」が3.1%、「嫌い」が0.6%で、これらを合わせた【嫌い（計）】は3.7%と1割に満たなかった。(図IV-1-1)

<参考>

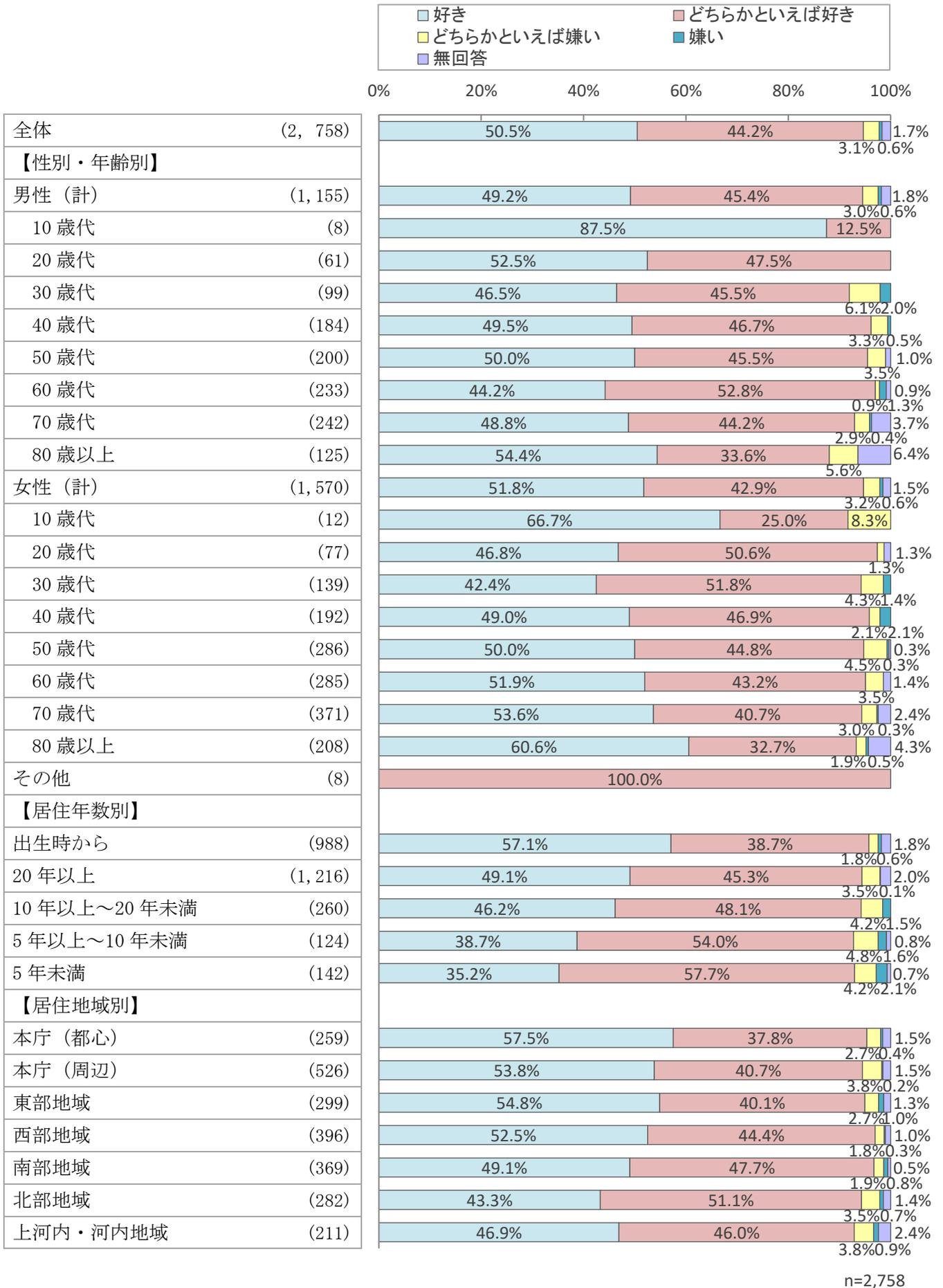
性別・年齢別で見ると、【好き（計）】は<その他>を除くと、<男性10・20歳代>が100.0%、<女性20歳代>が97.4%であった。一方、【嫌い（計）】は<女性10歳代>が8.3%で最も高く、次いで<男性30歳代>が8.1%であった。(図IV-1-2)

居住年数別で見ると、【好き（計）】は<出生時から>が95.8%で最も高く、次いで<20年以上>が94.4%であった。一方、【嫌い（計）】は<5年以上～10年未満>が6.4%で最も高く、次いで<5年未満>が6.3%であった。(図IV-1-2)

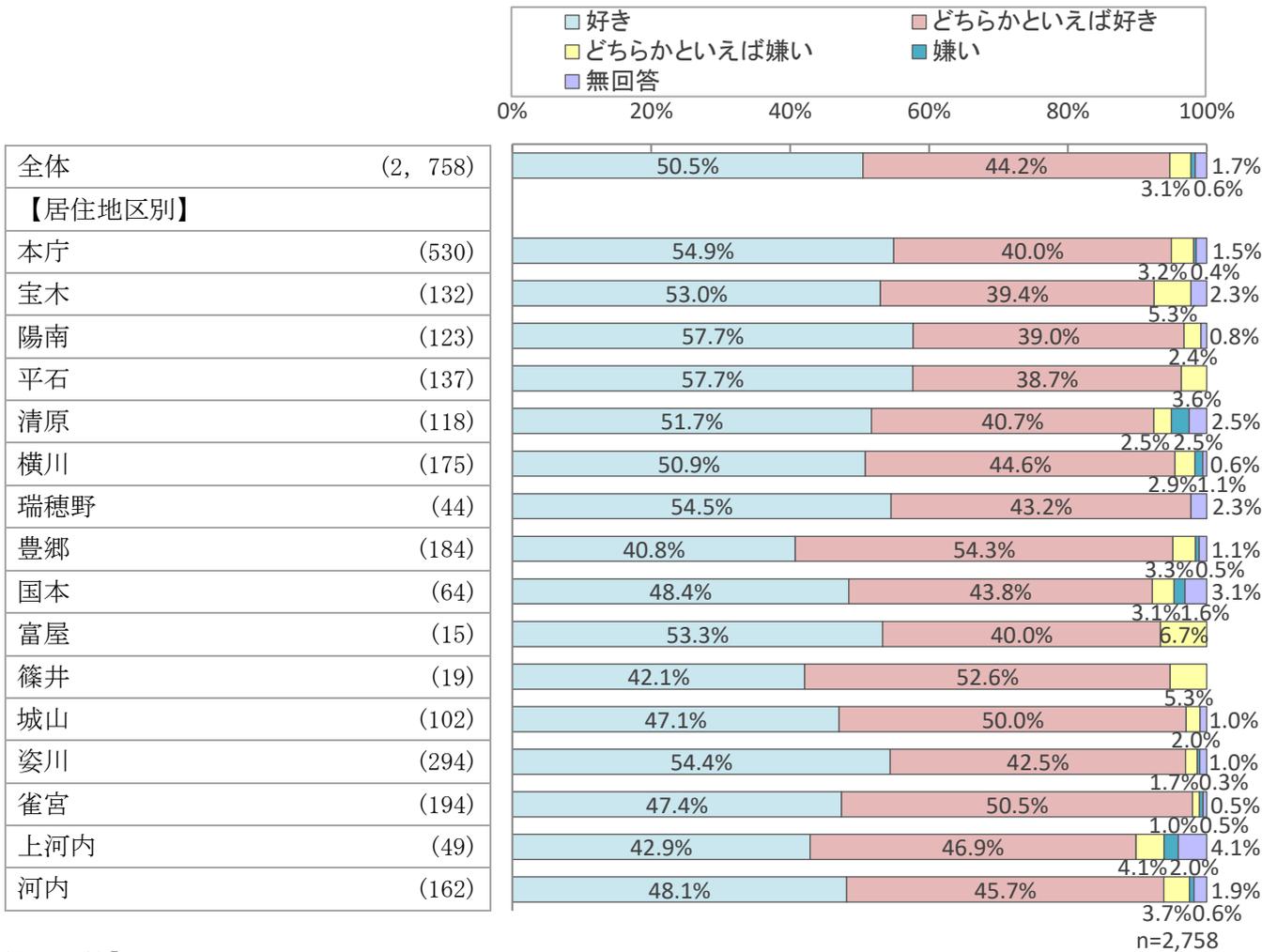
居住地域別で見ると、【好き（計）】は<西部地域>が96.9%で最も高く、次いで<南部地域>が96.8%であった。一方、【嫌い（計）】は<上河内・河内地域>が4.7%で最も高く、次いで<北部地域>が4.2%であった。(図IV-1-2)

居住地区別で見ると、【好き（計）】は<雀宮>が97.9%で最も高く、次いで<瑞穂野>が97.7%であった。一方、【嫌い（計）】は<富屋>が6.7%で最も高く、次いで<上河内>が6.1%であった。(図IV-1-3)

<図IV-1-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



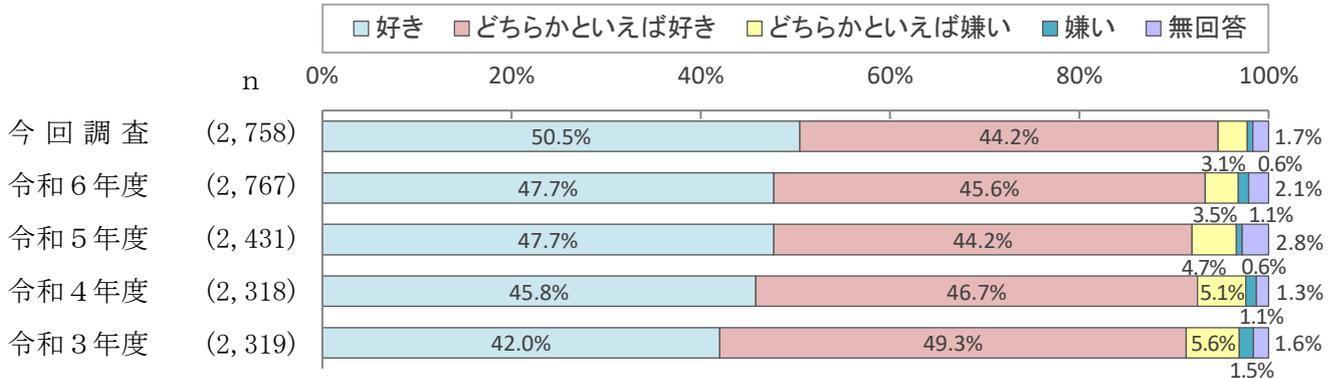
<図IV-1-3>居住地区別



【経年比較】

選択項目	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
令和7年度	50.5%	44.2%	3.1%	0.6%	1.7%
令和6年度	47.7%	45.6%	3.5%	1.1%	2.1%
令和5年度	47.7%	44.2%	4.7%	0.6%	2.8%
令和4年度	45.8%	46.7%	5.1%	1.1%	1.3%
令和3年度	42.0%	49.3%	5.6%	1.5%	1.6%

<図IV-1-4>経年比較



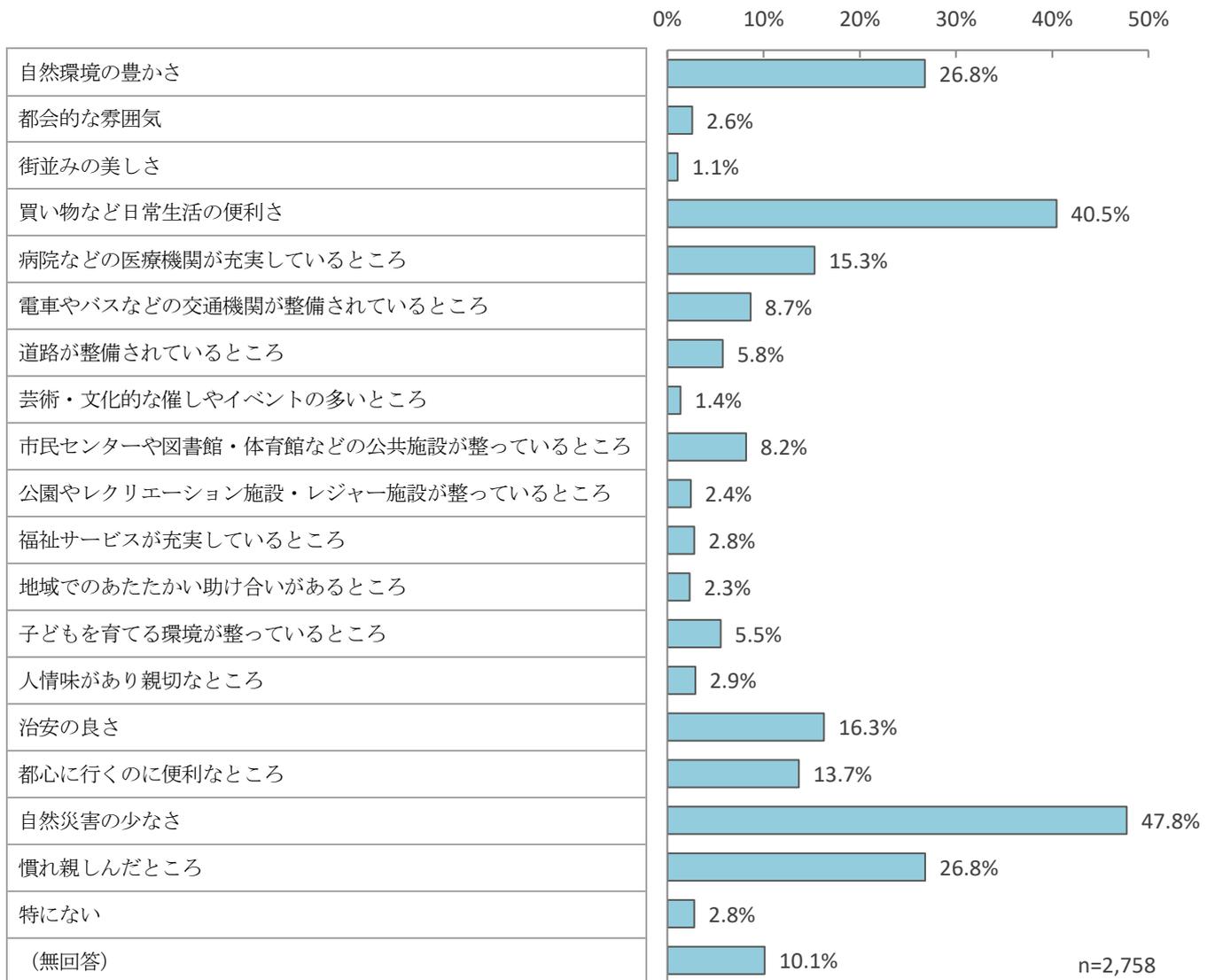
【好き（計）】及び【嫌い（計）】について過去4年間と比較したところ、「好き」が徐々に増加している。（図IV-1-4）

## (2) 好きな理由

### ◇ 「自然災害の少なさ」が5割弱

問2 宇都宮市の好きだと思うところをあげてください。		(○は3つまで)
		n=2,758
1	自然環境の豊かさ	26.8%
2	都会的な雰囲気	2.6%
3	街並みの美しさ	1.1%
4	買い物など日常生活の便利さ	40.5%
5	病院などの医療機関が充実しているところ	15.3%
6	電車やバスなどの交通機関が整備されているところ	8.7%
7	道路が整備されているところ	5.8%
8	芸術・文化的な催しやイベントの多いところ	1.4%
9	市民センターや図書館・体育館などの公共施設が整っているところ	8.2%
10	公園やレクリエーション施設・レジャー施設が整っているところ	2.4%
11	福祉サービスが充実しているところ	2.8%
12	地域でのあたたかい助け合いがあるところ	2.3%
13	子どもを育てる環境が整っているところ	5.5%
14	人情味があり親切なところ	2.9%
15	治安の良さ	16.3%
16	都心に行くのに便利なところ	13.7%
17	自然災害の少なさ	47.8%
18	慣れ親しんだところ	26.8%
19	特にない	2.8%
	(無回答)	10.1%

<図IV-1-5>全体



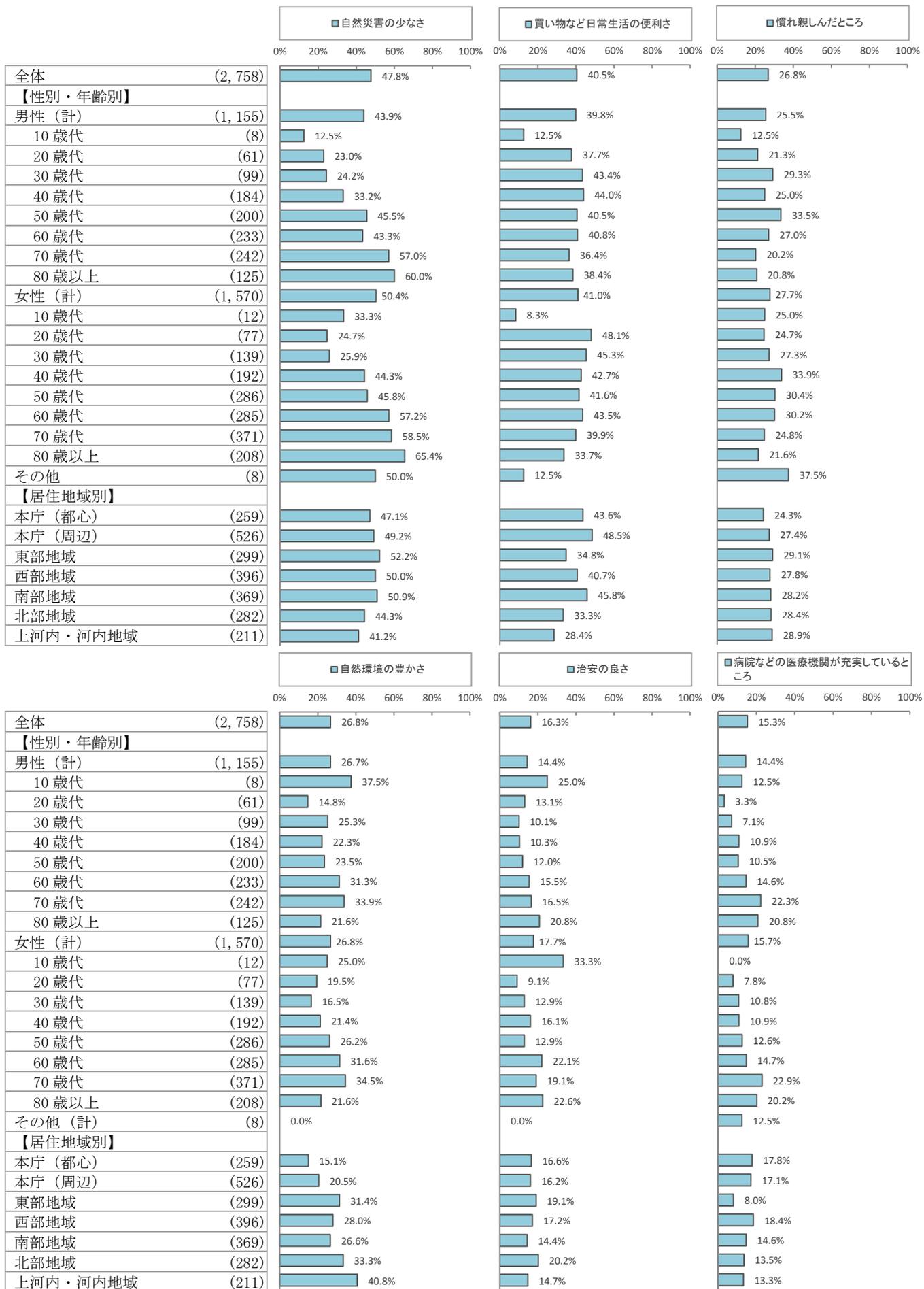
宇都宮市で好きだと思うところについては、1位が「自然災害の少なさ」で47.8%、2位「買い物など日常生活の便利さ」が40.5%、3位「自然環境の豊かさ」「慣れ親しんだところ」が26.8%、5位「治安の良さ」が16.3%、6位「病院などの医療機関が充実しているところ」が15.3%と続いた。(図IV-1-5)

<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「自然災害の少なさ」は<女性 80歳以上>が65.4%で最も高く、次いで<男性 80歳以上>が60.0%であった。「買い物など日常生活の便利さ」は<女性 20歳代>が48.1%で最も高く、次いで<女性 30歳代>が45.3%であった。「慣れ親しんだところ」は<その他>を除くと、<女性 40歳代>が33.9%で最も高く、次いで<男性 50歳代>が33.5%であった。「自然環境の豊かさ」は<男性 10歳代>が37.5%で最も高く、次いで<女性 70歳代>が34.5%であった。「治安の良さ」は<女性 10歳代>が33.3%で最も高く、次いで<男性 10歳代>が25.0%であった。「病院などの医療機関が充実しているところ」は<女性 70歳代>が22.9%で最も高く、次いで<男性 70歳代>が22.3%であった。(図IV-1-6)

居住地域別でみると、「自然災害の少なさ」は<東部地域>が52.2%、「買い物など日常生活の便利さ」は<本庁(周辺)>が48.5%、「慣れ親しんだところ」は<東部地域>が29.1%、「自然環境の豊かさ」は<上河内・河内地域>が40.8%、「治安の良さ」は<北部地域>が20.2%、「病院などの医療機関が充実しているところ」は<西部地域>が18.4%で最も高かった。(図IV-1-6)

<図IV-1-6>性別・年齢別／居住地域別（上位6項目）

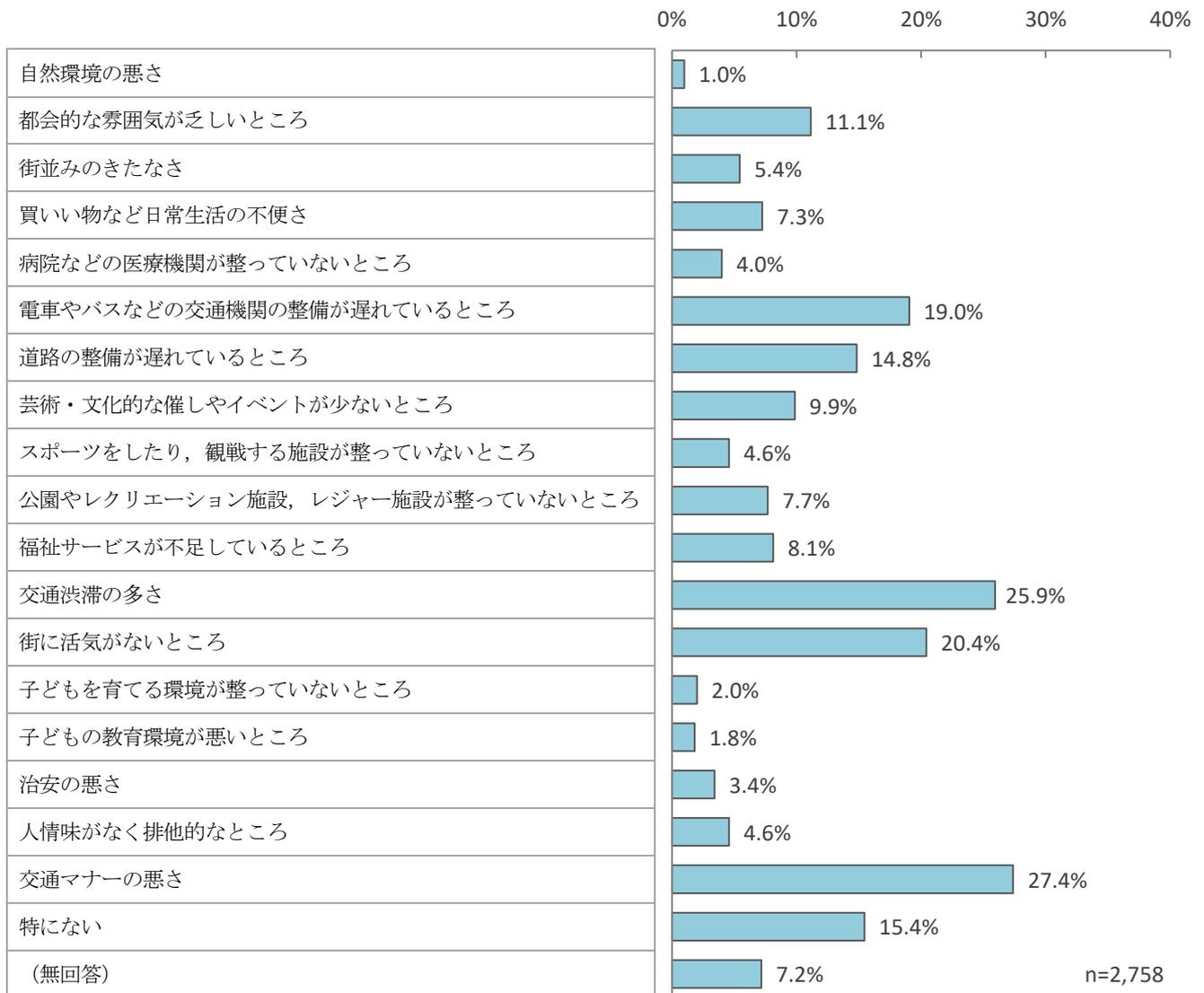


### (3) 嫌いな理由

#### ◇「交通マナーの悪さ」が3割弱

問3	宇都宮市の嫌いだと思うところをあげてください。	(○は3つまで)
		n=2,758
1	自然環境の悪さ	1.0%
2	都会的な雰囲気が乏しいところ	11.1%
3	街並みのきたなさ	5.4%
4	買い物など日常生活の不便さ	7.3%
5	病院などの医療機関が整っていないところ	4.0%
6	電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ	19.0%
7	道路の整備が遅れているところ	14.8%
8	芸術・文化的な催しやイベントが少ないところ	9.9%
9	スポーツをしたり、観戦する施設が整っていないところ	4.6%
10	公園やレクリエーション施設、レジャー施設が整っていないところ	7.7%
11	福祉サービスが不足しているところ	8.1%
12	交通渋滞の多さ	25.9%
13	街に活気がないところ	20.4%
14	子どもを育てる環境が整っていないところ	2.0%
15	子どもの教育環境が悪いところ	1.8%
16	治安の悪さ	3.4%
17	人情味がなく排他的なところ	4.6%
18	交通マナーの悪さ	27.4%
19	特にない	15.4%
	(無回答)	7.2%

<図IV-1-7>全体



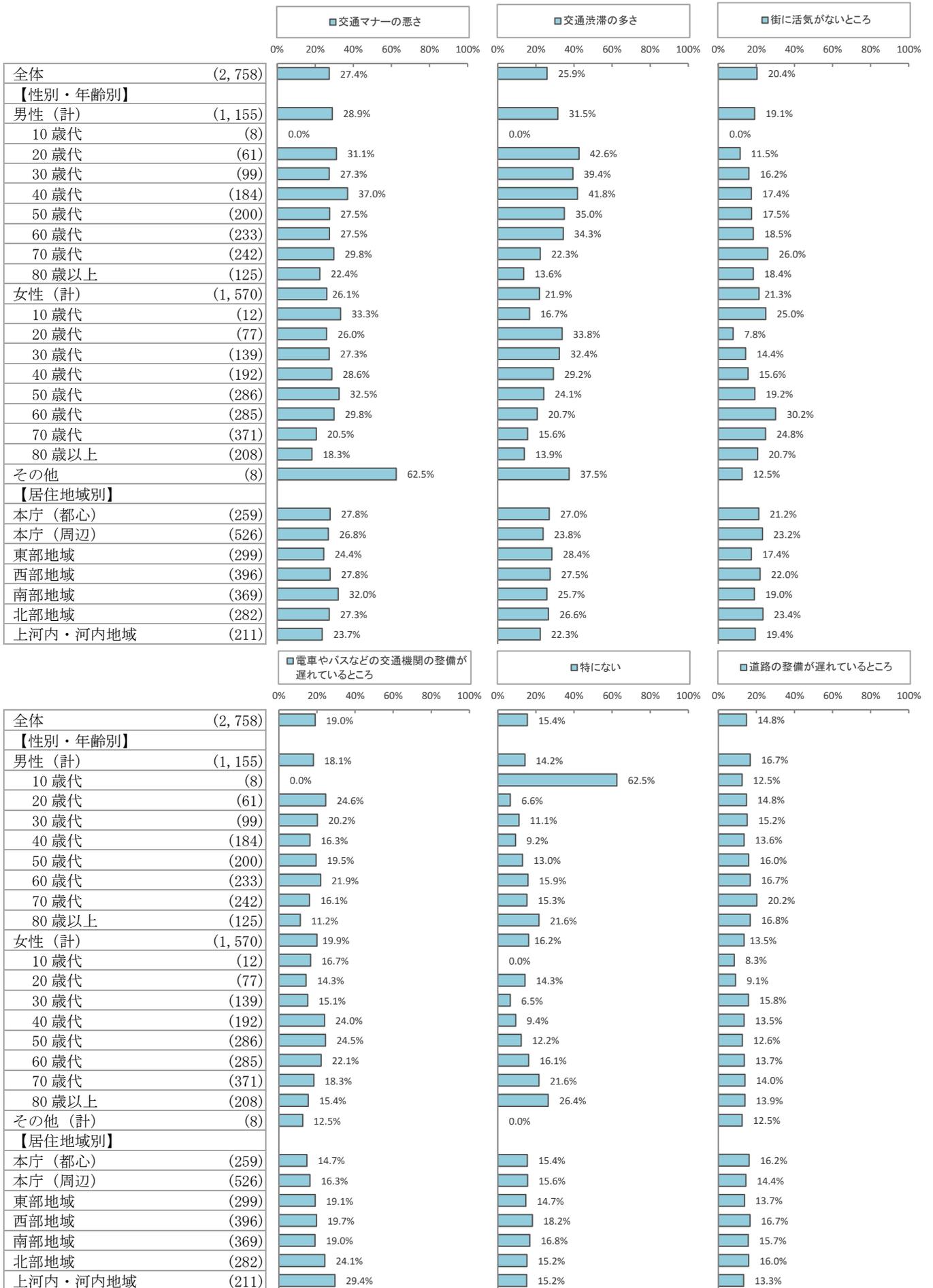
宇都宮市の嫌いだと思うところについては、1位が「交通マナーの悪さ」で27.4%、2位「交通渋滞の多さ」が25.9%、3位「街に活気がないところ」が20.4%、4位「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」が19.0%、5位「特にない」が15.4%、6位「道路の整備が遅れているところ」が14.8%と続いた。(図IV-1-7)

<参考>

上位6項目について性別・年齢別で見ると、「交通マナーの悪さ」は<その他>を除くと、<男性40歳代>が37.0%で最も高く、次いで<女性10歳代>が33.3%であった。「交通渋滞の多さ」は<男性20歳代>が42.6%で最も高く、次いで<男性40歳代>が41.8%であった。「街に活気がないところ」は<女性60歳代>が30.2%で最も高く、次いで<男性70歳代>が26.0%であった。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<男性20歳代>が24.6%で最も高く、次いで<女性50歳代>が24.5%であった。「特にない」は<男性10歳代>が62.5%で最も高く、次いで<女性80歳以上>が26.4%であった。「道路の整備が遅れているところ」は<男性70歳代>が20.2%で最も高く、次いで<男性80歳以上>が16.8%であった。(図IV-1-8)

上位6項目について居住地域別で見ると、「交通マナーの悪さ」は<南部地域>が32.0%、「交通渋滞の多さ」は<東部地域>が28.4%、「街に活気がないところ」は<北部地域>が23.4%、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<上河内・河内地域>が29.4%、「特にない」は<西部地域>が18.2%、「道路の整備が遅れているところ」は<西部地域>が16.7%でそれぞれ最も高かった。(図IV-1-8)

<図IV-1-8>性別・年齢別／居住地域別（上位6項目）



## 2. 広報媒体の活用状況について

### (1) 市政情報の各広報媒体の利用状況

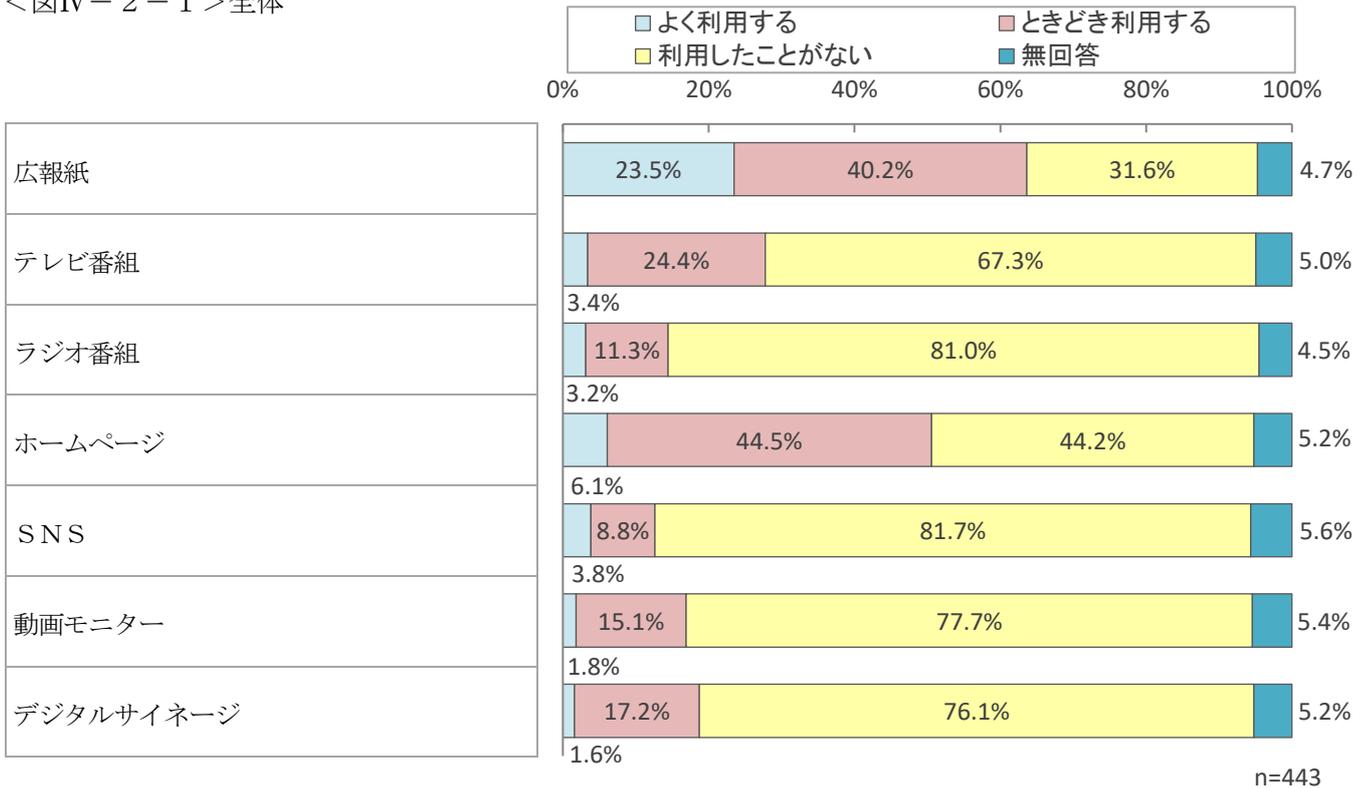
◇ 「よく利用する」と「ときどき利用する」を合わせた【利用する（計）】は「広報紙」が6割半ば

問4 宇都宮市では、次のような手段を使って、市政情報を市民の皆様提供しています。次の各広報媒体について、それぞれの視聴状況にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

n=443

	広報媒体	よく利用 する	ときどき 利用する	利用した ことがない	(無回答)	合計
1.広報紙	・「広報うつのみや」 毎月1回、新聞折込での配布や電子書籍等	23.5%	40.2%	31.6%	4.7%	100.0%
2.テレビ 番組	・「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」 (とちぎテレビ：テレビ放映中は常時提供) ・「教えてイトコうつのみや」 (とちぎテレビ：毎月第4金曜日 午後7時～) ・「LRTで宇都宮旅 ライトライン情報局」 (宇都宮ケーブルテレビ：毎月第4月曜日から7日間、 1日7回)	3.4%	24.4%	67.3%	5.0%	100.0%
3.ラジオ 番組	・「うつのみやインフォメーション」 (栃木放送：第1・3月曜日 午前10時15分～) ・「ウィークエンドうつのみや」 (栃木放送：毎週金曜日 午後5時20分～) ・「宇都宮プライド愉快的ラジオ」 (エフエム栃木：毎週金曜日 正午～) ・「未来はじまる宇都宮」 (コミュニティFM「ミヤラジ」：毎週水曜日 午前11 時～)	3.2%	11.3%	81.0%	4.5%	100.0%
4.ホーム ページ	宇都宮市公式ホームページ	6.1%	44.5%	44.2%	5.2%	100.0%
5.SNS	・LINE (教えてミヤリー) (宇都宮市公式アカウント) ・YouTube (宇都宮市公式アカウント) ・X (宇都宮市公式アカウント) ・Instagram (宇都宮市公式アカウント)	3.8%	8.8%	81.7%	5.6%	100.0%
6.動画 モニター	市民課や地区市民センターの窓口・主要道路沿い・大通り バス停などに設置	1.8%	15.1%	77.7%	5.4%	100.0%
7.デジタル サイネージ	ライトライン停留所・幹線道路などに設置されている大 型モニター	1.6%	17.2%	76.1%	5.2%	100.0%

<図IV-2-1>全体



市政情報の各広報媒体の利用状況については、「よく利用する」と「時々利用する」を合わせた【利用する(計)】は、「広報紙」が63.7%で最も高く、次いで「ホームページ」が50.6%、「テレビ番組」が27.8%と続いた。(図IV-2-1)

<参考>

市政情報の各広報媒体の利用状況について【利用する(計)】が最も高かった「広報紙」を性別・年齢別でみると、<男性80歳以上>が91.3%で最も高く、次いで<女性70歳代>が83.6%であった。「ホームページ」は<女性30歳代>が83.4%で最も高く、次いで<女性50歳代>が76.1%であった。

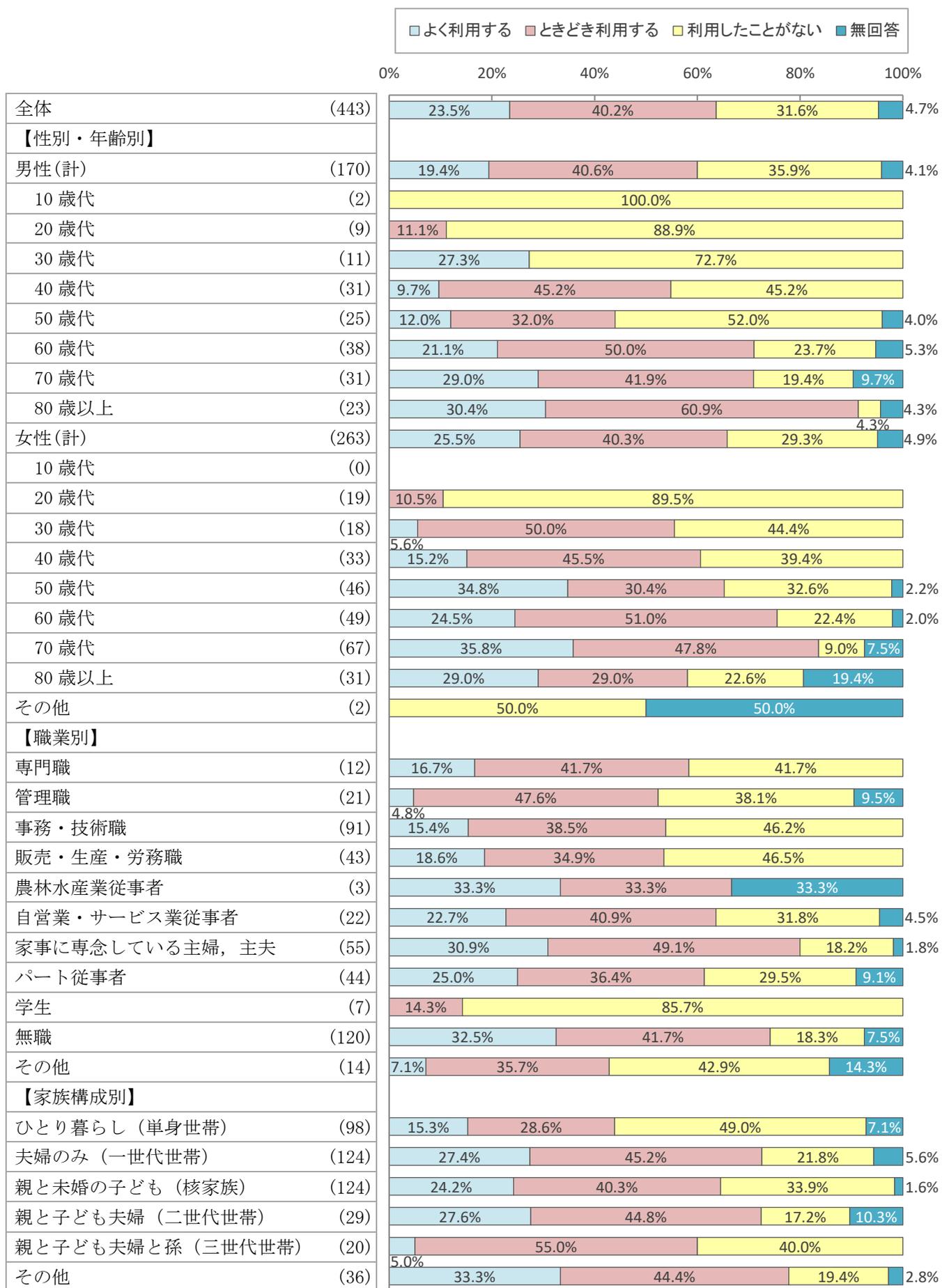
(図IV-2-2)

職業別でみると、「広報紙」は<家事に専念している主婦、主夫>が80.0%で最も高く、次いで<無職>が74.2%であった。「ホームページ」は<管理職>が90.5%で最も高く、次いで<事務・技術職>が64.8%であった。(図IV-2-2)

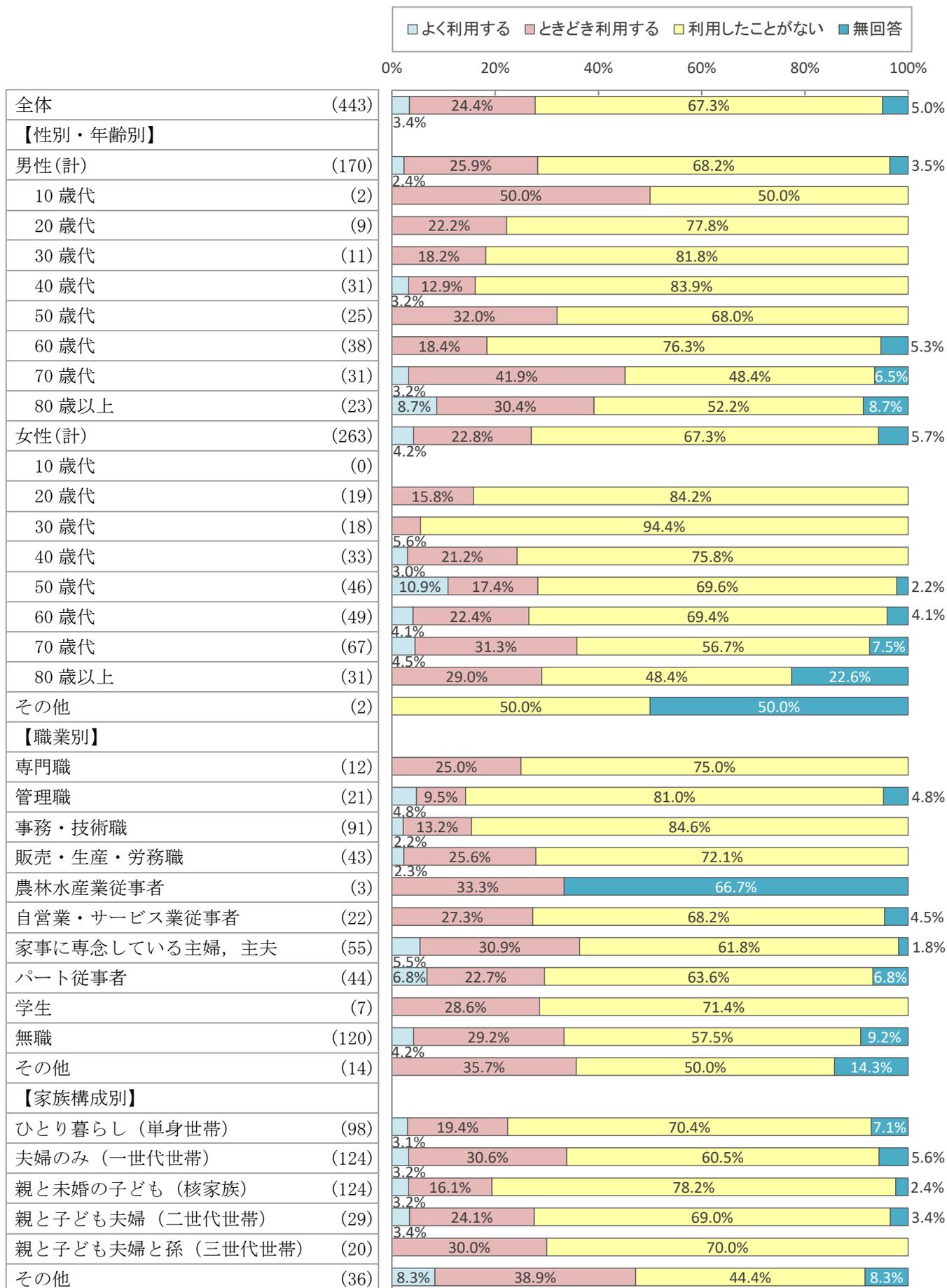
家族構成別でみると、「広報紙」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が72.6%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が72.4%であった。「ホームページ」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が65.5%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が63.8%であった。

(図IV-2-2)

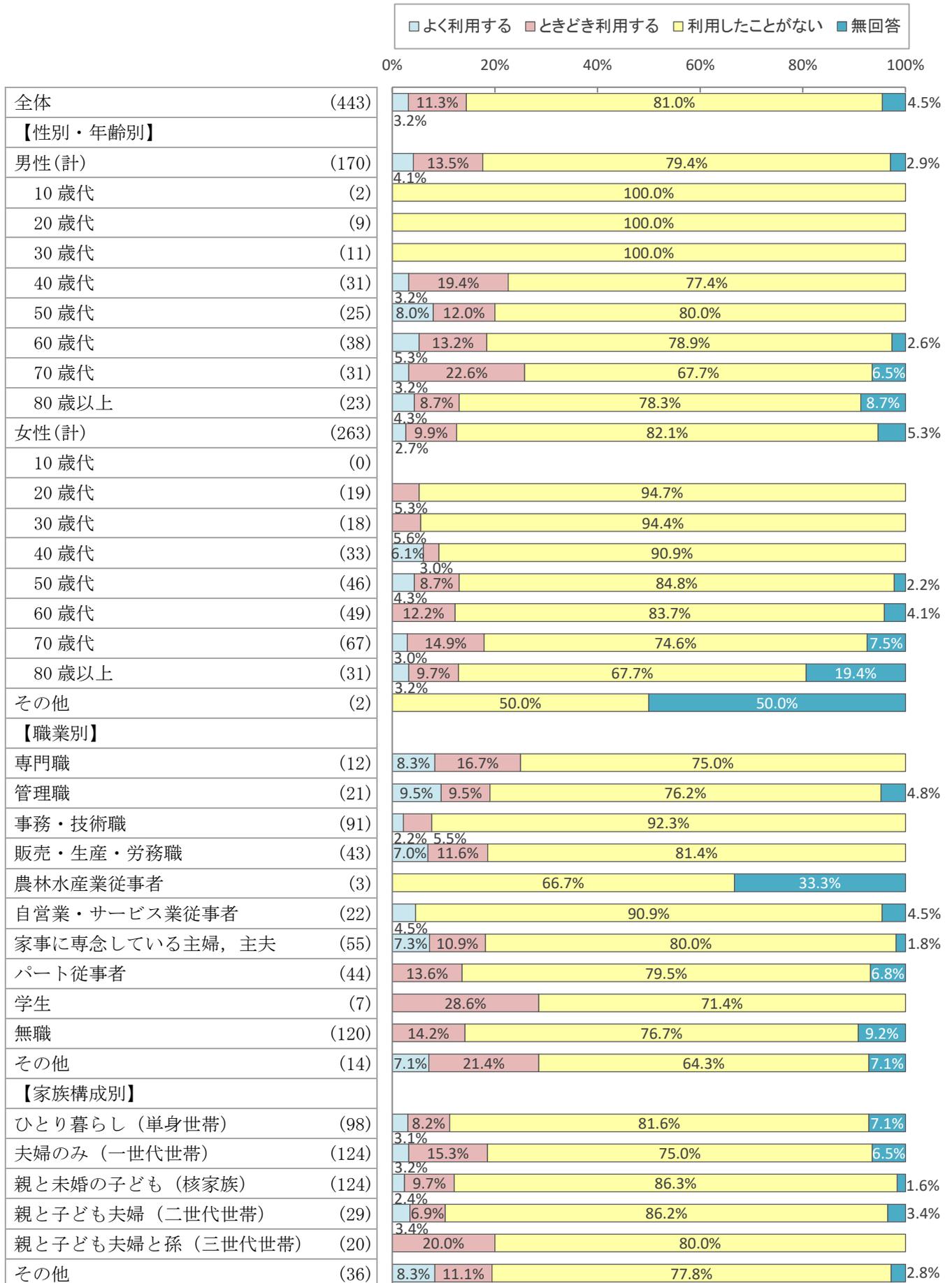
<図IV-2-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別「広報紙」



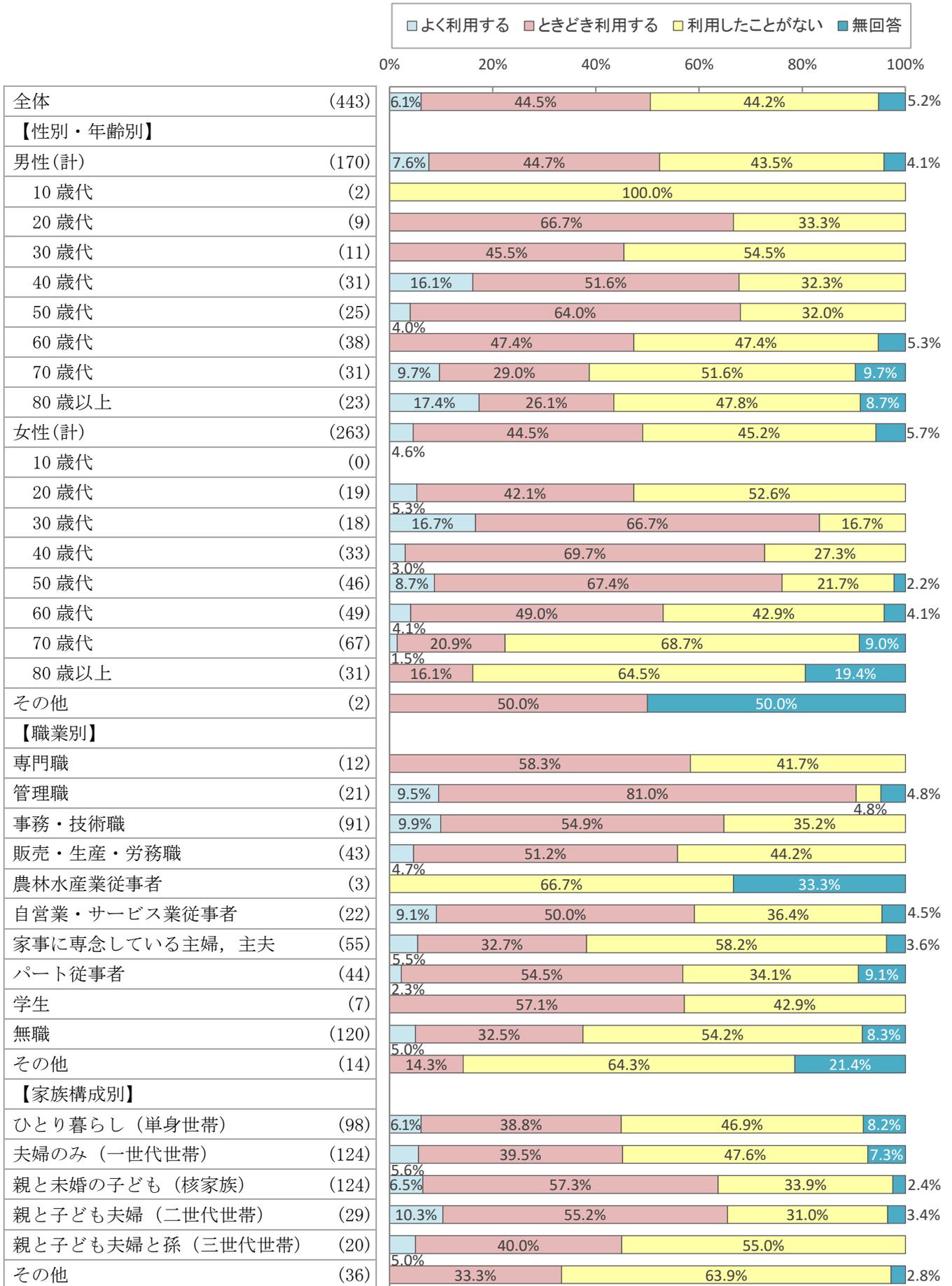
<図IV-2-3>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組」



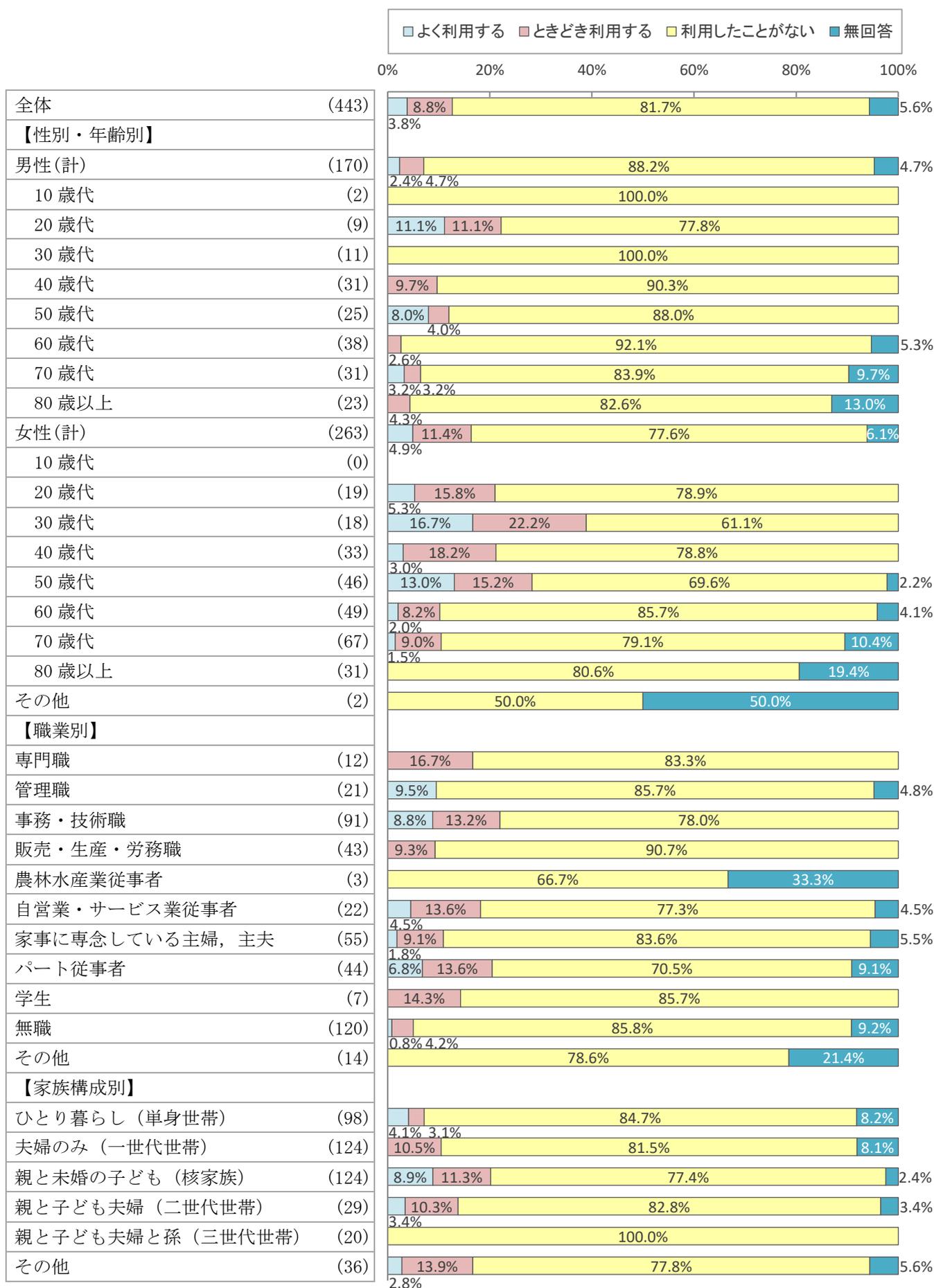
<図IV-2-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組」



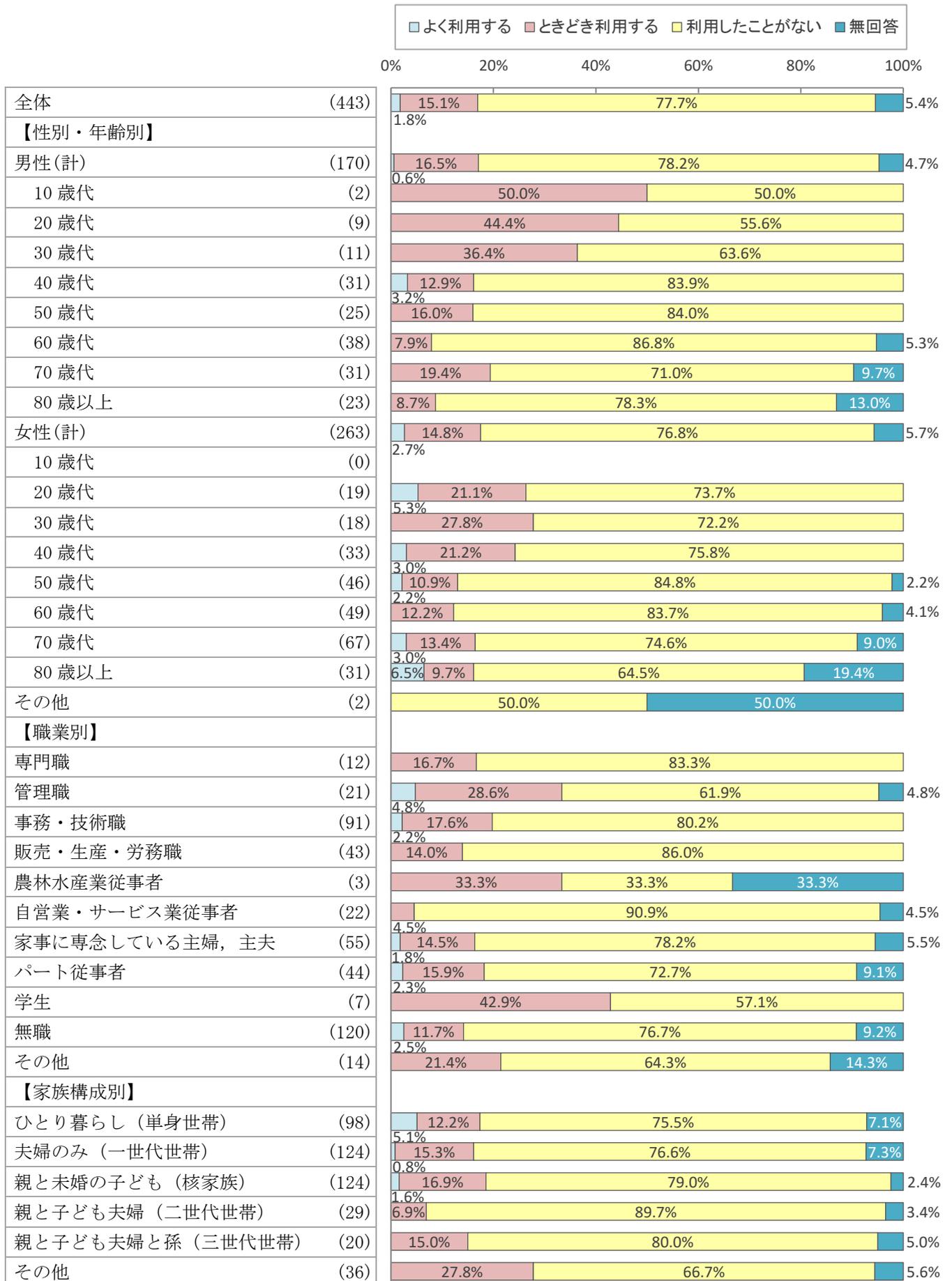
<図IV-2-5>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ホームページ」



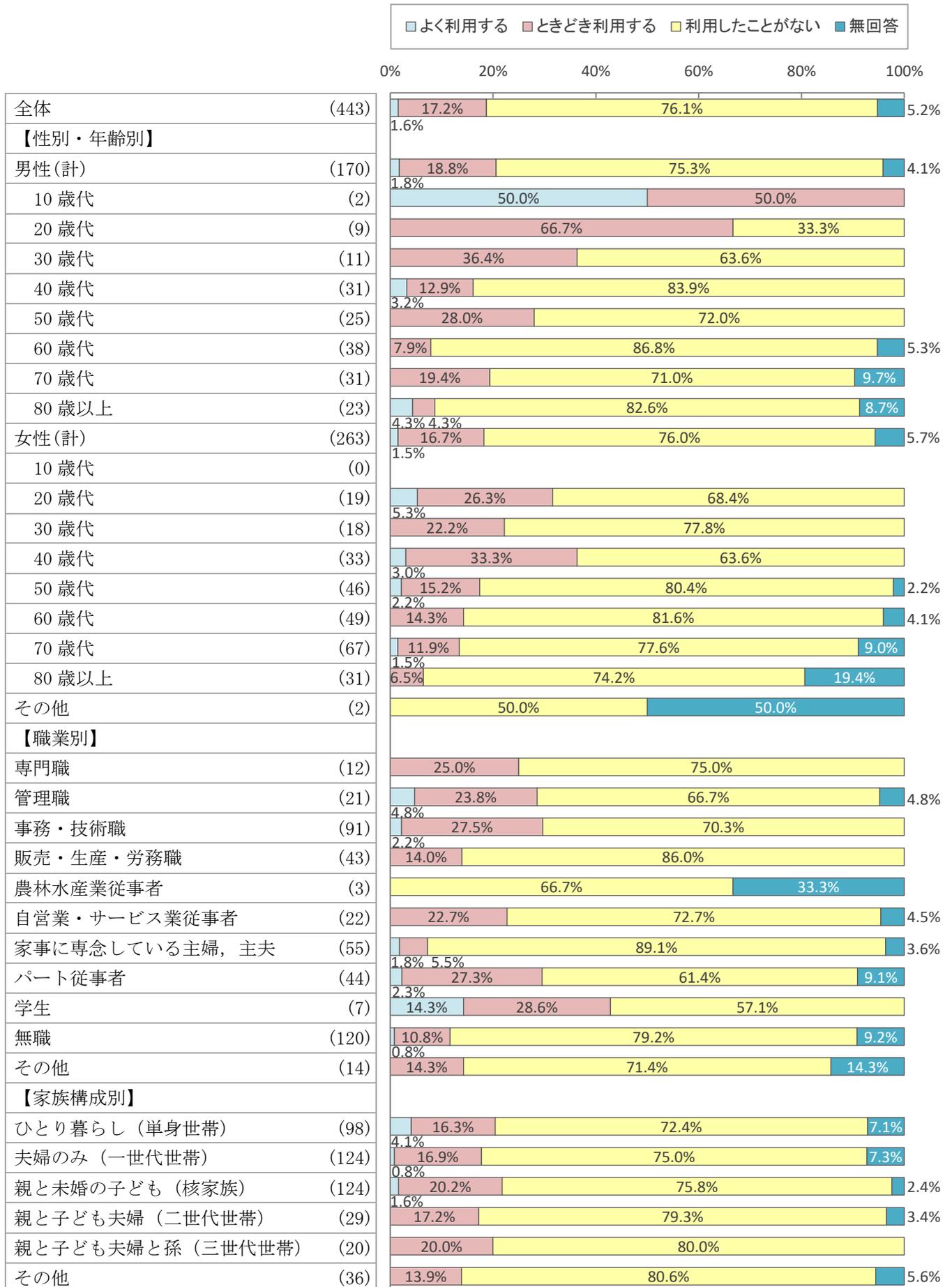
<図IV-2-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別「SNS」



<図IV-2-7>性別・年齢別／職業別／家族構成別「動画モニター」



<図IV-2-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別「デジタルサイネージ」

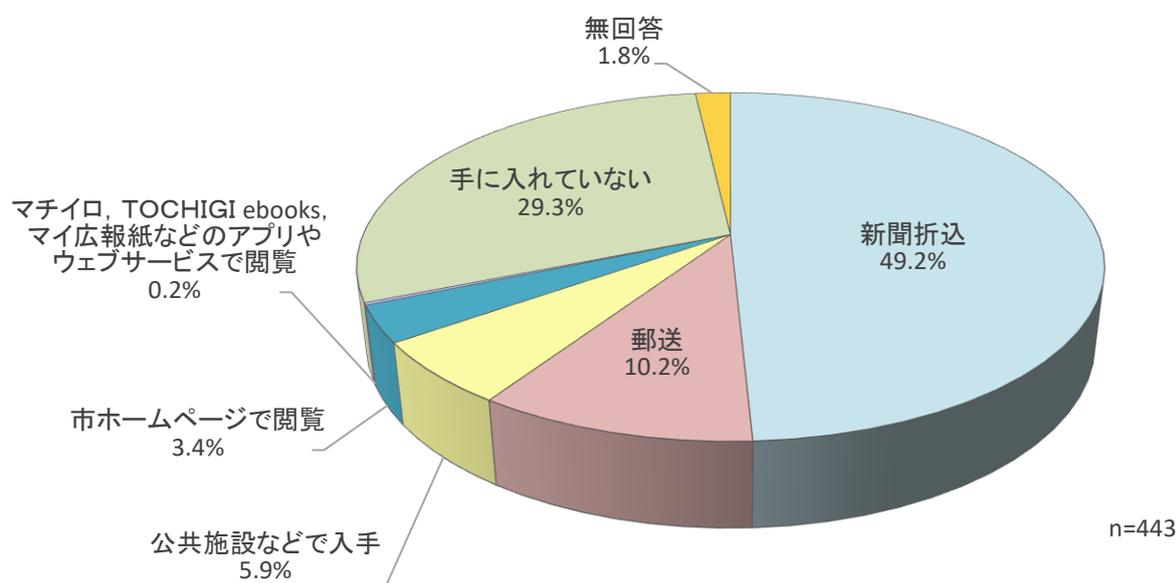


## (2) 「広報うつのみや」の入手方法

### ◇ 「新聞折込」が約5割

問5	あなたはどのような方法で、「広報うつのみや」の情報を手に入れていますか。	(○は1つ)
		n=443
1	新聞折込	49.2%
2	郵送	10.2%
3	公共施設などで入手	5.9%
4	市ホームページで閲覧	3.4%
5	マチイロ, TOCHIGI ebooks, マイ広報紙などのアプリやウェブサービスで閲覧	0.2%
6	手に入れていない	29.3%
	(無回答)	1.8%

### <図IV-2-9>全体



「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込」が49.2%で最も高かった。一方、「手に入れていない」は29.3%であった。(図IV-2-9)

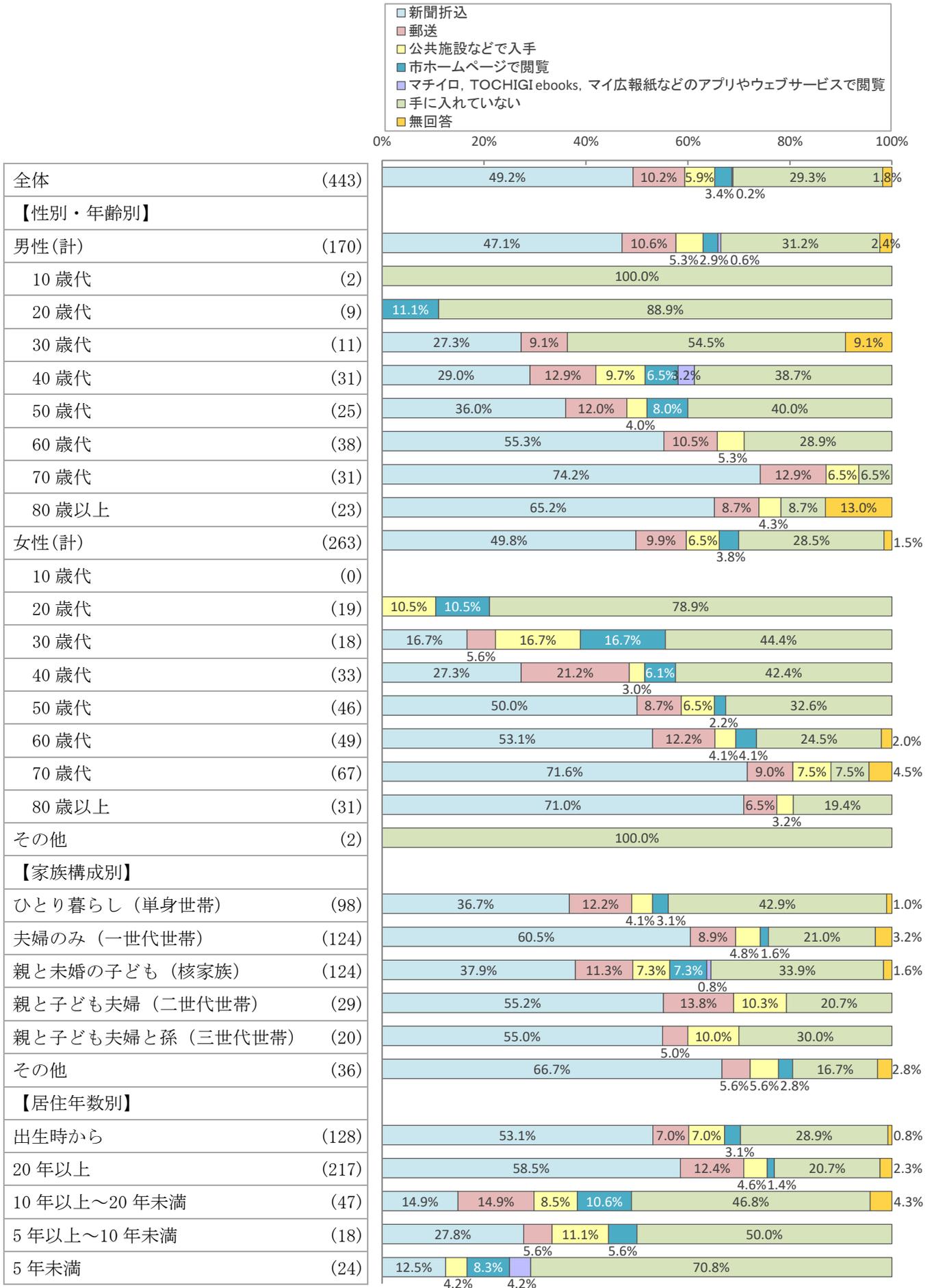
### <参考>

性別・年齢別でみると、「新聞折込」は<男性70歳代>が74.2%で最も高く、次いで<女性70歳代>が71.6%、<女性80歳以上>が71.0%と続いた。一方、「手に入れていない」は<その他>を除くと、<男性10歳代>が100.0%、<男性20歳代>が88.9%であった。(図IV-2-10)

家族構成別でみると、「新聞折込」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が60.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が55.2%であった。一方、「手に入れていない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が42.9%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が33.9%であった。(図IV-2-10)

居住年数別でみると、「新聞折込」は<20年以上>が58.5%で最も高かった。一方、「手に入れていない」は<5年未満>が70.8%で最も高かった。(図IV-2-10)

<図IV-2-10>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



(3) 「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

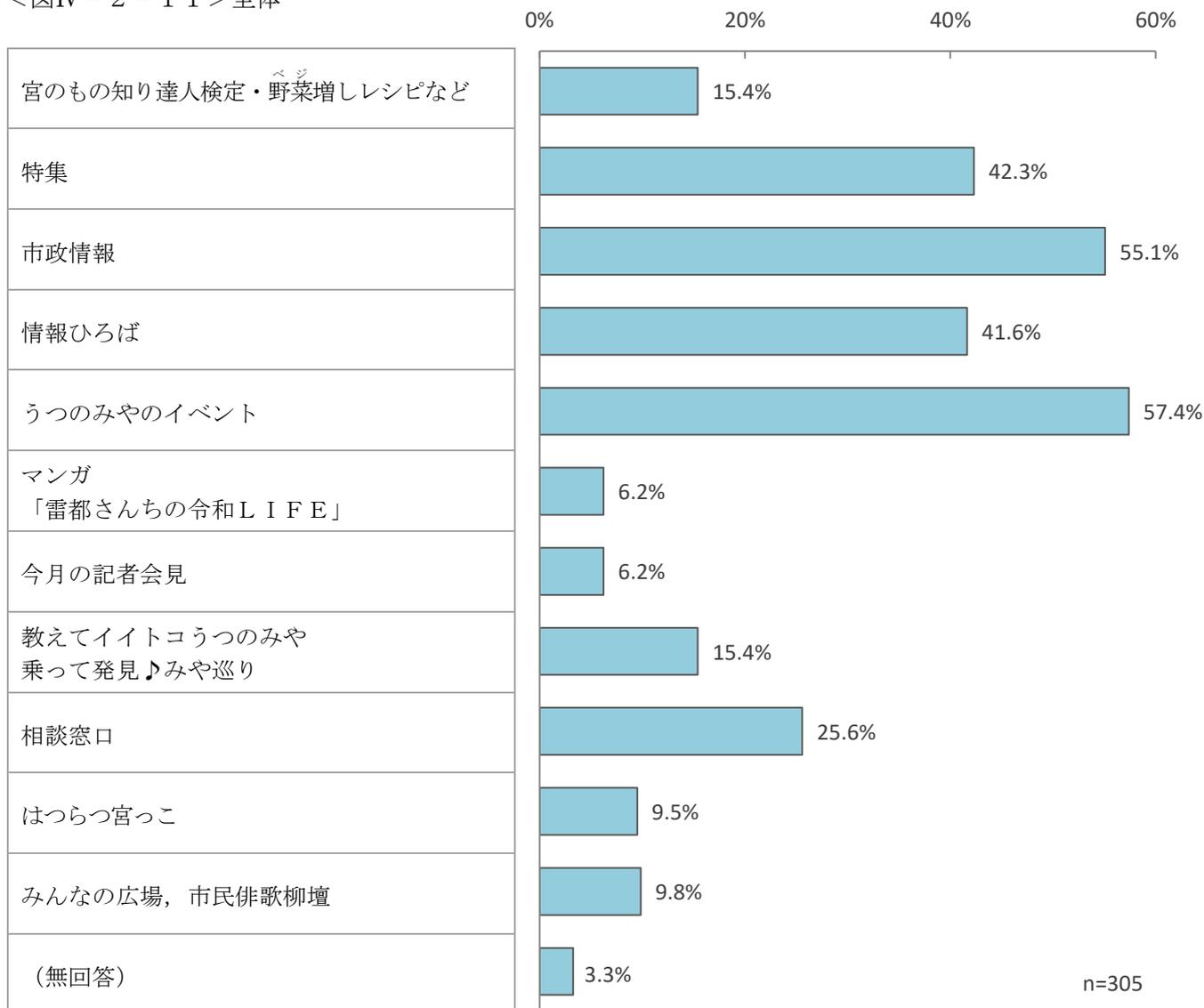
◇ 「うつのみやのイベント」が6割弱

問6 問5で1～5を選んだ方にお伺いします。「広報うつのみや」では、どのような記事を主に読んでいますか。項目の番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

n=305

項目	ページ等	内容	
1 宮のもの知り達人検定・野菜増しレシピなど	目次	宇都宮にまつわる知識のクイズ, レシピの紹介など	15.4%
2 特集	カラー	市の重点事業や旬な話題, ライトライン事業についてなど	42.3%
3 市政情報	—	シニア・健康・子ども・暮らし・税・文化 外国人向け情報など	55.1%
4 情報ひろば	—	県や国などからのお知らせ	41.6%
5 うつのみやのイベント	—	各教室・講座・催し一覧, 市内施設情報など	57.4%
6 マンガ 「雷都さんちの令和L I F E」	カラー	マンガを通じて, 市の取組などを紹介	6.2%
7 今月の記者会見	カラー	市長の定例記者会見について紹介	6.2%
8 教えてイトコうつのみや 乗って発見♪みや巡り	カラー	とちぎテレビ, 宇都宮ケーブルテレビ連動企画 市内の情報を紹介	15.4%
9 相談窓口	カラー	法律・行政・健康・福祉・子ども・女性に関する 相談窓口などの案内	25.6%
10 はつらつ宮っこ	カラー	輝いている市民を紹介	9.5%
11 みんなの広場, 市民俳歌柳壇	カラー	広報うつのみやを読んだ方からの意見, 市民から 投稿された写真や俳句・短歌・川柳を紹介	9.8%
(無回答)			3.3%

<図IV-2-11>全体



問5で「広報うつのみや」を入手していると答えた人(305人)に、どのような記事を主に読んでいるかについてお伺いしたところ、1位が「うつのみやのイベント」で57.4%、2位「市政情報」が55.1%、3位「特集」が42.3%、4位「情報ひろば」が41.6%、5位「相談窓口」が25.6%と続いた。(図IV-2-11)

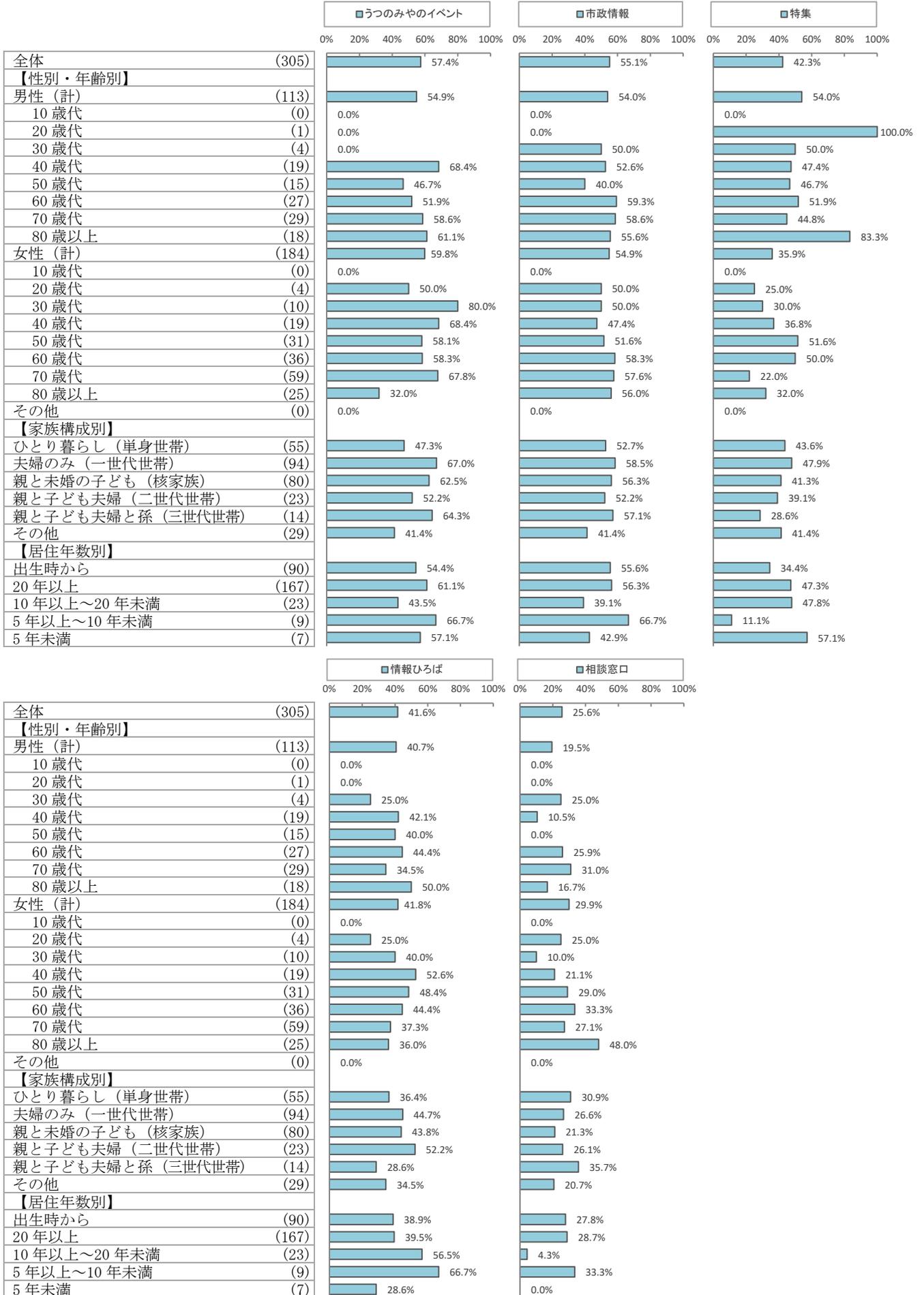
<参考>

上位5項目について性別・年齢別でみると、「うつのみやのイベント」は<女性30歳代>が80.0%、「市政情報」は<男性60歳代>が59.3%で最も高かった。(図IV-2-12)

上位5項目について家族構成別でみると、「うつのみやのイベント」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が67.0%、「市政情報」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が58.5%で最も高かった。(図IV-2-12)

上位5項目について居住年数別でみると、「うつのみやのイベント」で<5年以上~10年未満>が66.7%、「市政情報」は<5年以上~10年未満>が66.7%で最も高かった。(図IV-2-12)

<図IV-2-12>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別（上位5項目）



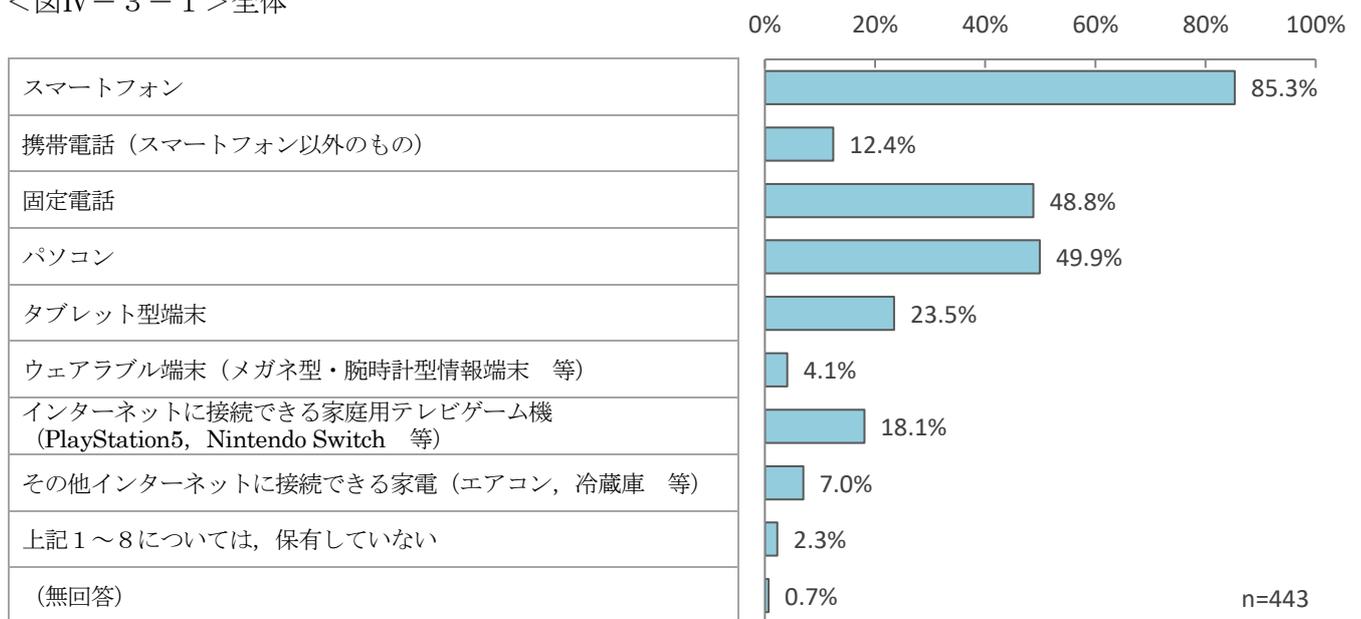
### 3. デジタル化について

#### (1) デジタル機器の所有状況

##### ◇ 「スマートフォン」が8割半ば

問7 あなたが持っているデジタル機器は何ですか。	(〇はいくつでも)	n=443
1 スマートフォン		85.3%
2 携帯電話 (スマートフォン以外のもの)		12.4%
3 固定電話		48.8%
4 パソコン		49.9%
5 タブレット型端末		23.5%
6 ウェアラブル端末 (メガネ型・腕時計型情報端末 等)		4.1%
7 インターネットに接続できる家庭用テレビゲーム機 (PlayStation5, Nintendo Switch 等)		18.1%
8 その他インターネットに接続できる家電 (エアコン, 冷蔵庫 等)		7.0%
9 上記1～8については, 保有していない (無回答)		2.3%
		0.7%

#### <図IV-3-1>全体



デジタル機器の所有状況については、「スマートフォン」が85.3%で最も高く、次いで「パソコン」が49.9%、「固定電話」が48.8%、「タブレット型端末」が23.5%と続いた。(図IV-3-1)

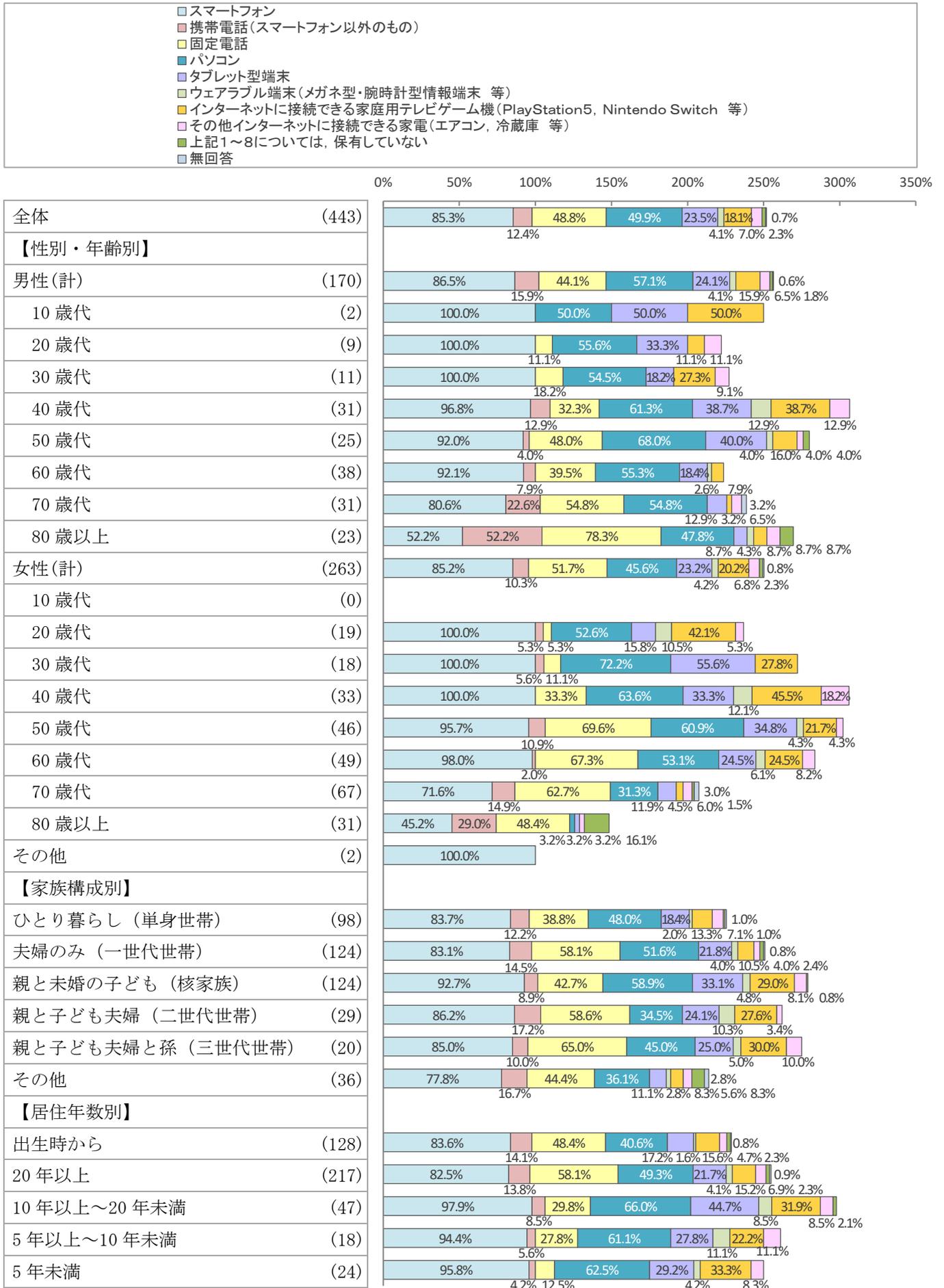
#### <参考>

性別・年齢別で見ると、「スマートフォン」は<男性10・20・30歳代><女性20・30・40歳代>が100.0%、次いで<女性60歳代>が98.0%であった。「パソコン」は<男性50歳代>が68.0%で最も高く、次いで<女性40歳代>が63.6%であった。(図IV-3-2)

家族構成別で見ると、「スマートフォン」は<親と未婚の子ども(核家族)>が92.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が86.2%であった。「パソコン」は<親と未婚の子ども(核家族)>が58.9%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が51.6%であった。(図IV-3-2)

居住年数別で見ると、「スマートフォン」は<10年以上～20年未満>が97.9%で最も高かった。「パソコン」は<10年以上～20年未満>が66.0%で最も高かった。(図IV-3-2)

<図IV-3-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

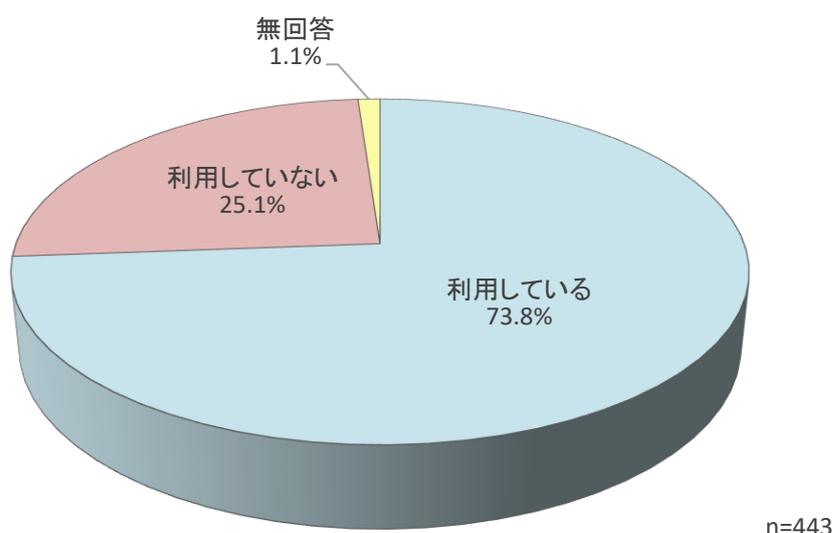


## (2) インターネットを利用しているか

### ◇ 「利用している」が7割半ば

問8	あなたは、現在、インターネットを利用していますか。	(○は1つ)
		n=443
1	利用している	73.8%
2	利用していない	25.1%
	(無回答)	1.1%

#### <図IV-3-3>全体



インターネットを利用しているかについては、「利用している」が73.8%、一方、「利用していない」は25.1%であった。(図IV-3-3)

#### <参考>

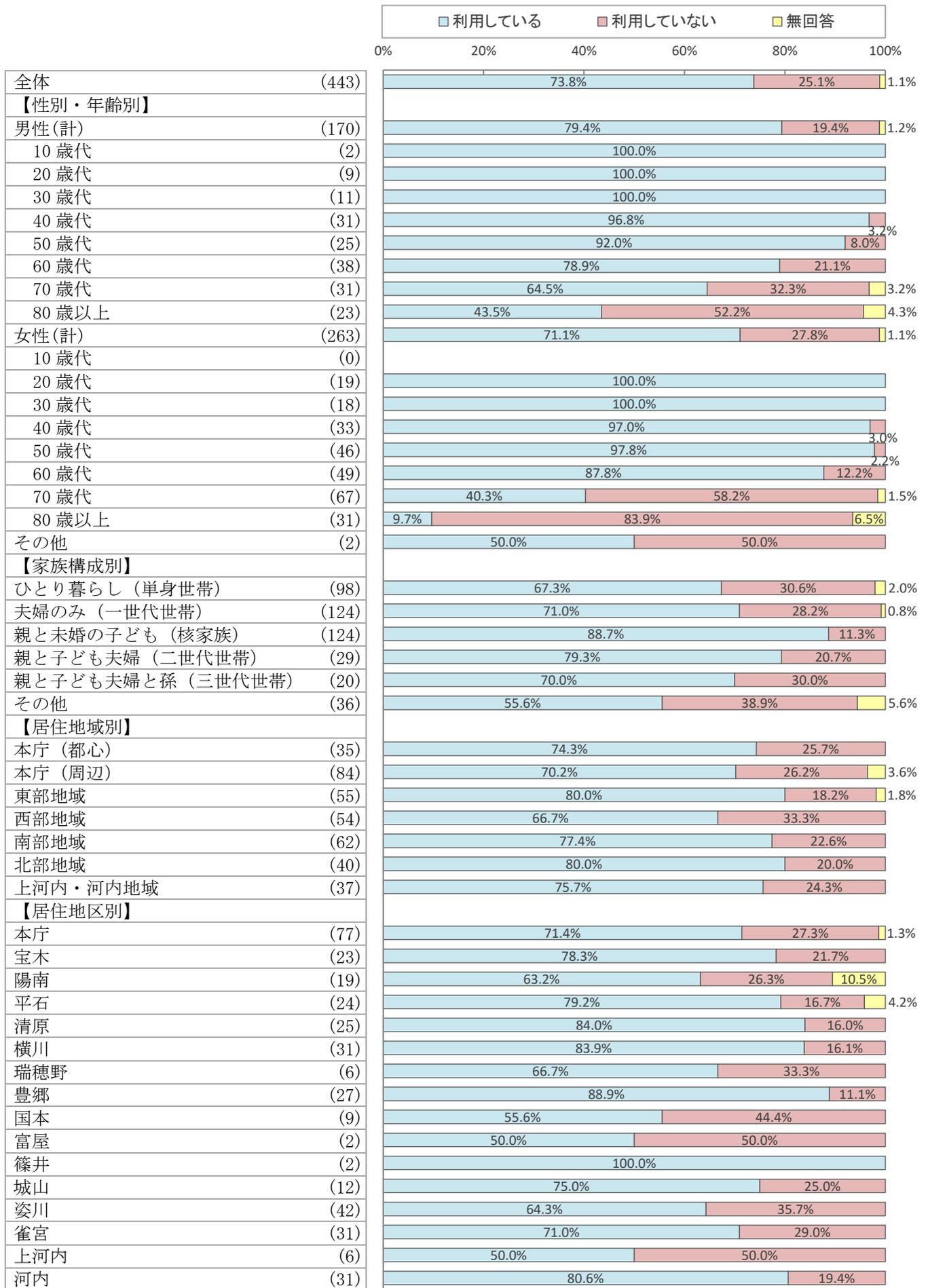
性別・年齢別でみると、「利用している」は<男性10・20・30歳代><女性20・30歳代>が100.0%、次いで<女性50歳代>が97.8%であった。一方、「利用していない」は<女性80歳以上>が83.9%で最も高く、次いで<女性70歳代>が58.2%であった。(図IV-3-4)

家族構成別でみると、「利用している」は<親と未婚の子ども(核家族)>が88.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が79.3%であった。一方、「利用していない」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が30.6%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が30.0%であった。(図IV-3-4)

居住地域別でみると、「利用している」は<東部地域><北部地域>が80.0%で最も高く、次いで<南部地域>が77.4%であった。一方、「利用していない」は<西部地域>が33.3%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が26.2%であった。(図IV-3-4)

居住地区別でみると、「利用している」は<篠井>が100.0%、次いで<豊郷>が88.9%であった。一方、「利用していない」は<富屋><上河内>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<国本>が44.4%であった。(図IV-3-4)

<図IV-3-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別／居住地区別

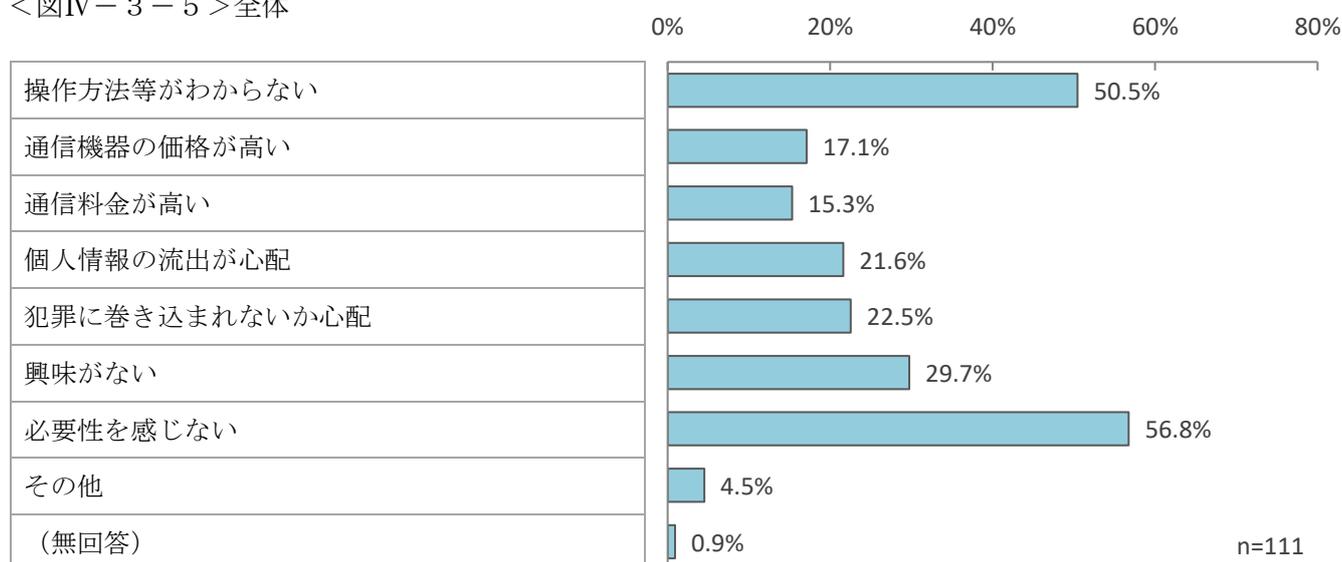


### (3) インターネットを利用しない理由

#### ◇ 「必要性を感じない」が6割弱

問9	問8で「インターネットを利用していない」を選んだ方にお伺いします。あなたが、インターネットを利用しない理由は何ですか。	(○はいくつでも)	n=111
1	操作方法等がわからない		50.5%
2	機器の価格が高い		17.1%
3	通信料金が高い		15.3%
4	個人情報の流出が心配		21.6%
5	犯罪に巻き込まれないか心配		22.5%
6	興味がない		29.7%
7	必要性を感じない		56.8%
8	その他		4.5%
	(無回答)		0.9%

<図IV-3-5>全体



インターネットを利用しない理由については、「必要性を感じない」が56.8%で最も高く、次いで「操作方法等がわからない」が50.5%、「興味がない」が29.7%、「犯罪に巻き込まれないか心配」が22.5%と続いた。(図IV-3-5)

#### <参考>

性別・年齢別でみると、「必要性を感じない」は<その他>を除くと、<男性50歳代><女性50歳代>がいずれも100.0%、次いで<男性70歳代>が90.0%であった。「操作方法等がわからない」は<その他>を除くと、<男性40歳代><女性40・50歳代>がいずれも100.0%、次いで<女性60歳代>が66.7%であった。(図IV-3-6)

家族構成別でみると、「必要性を感じない」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が100.0%、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が66.7%であった。「操作方法等がわからない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が100.0%、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が57.1%であった。(図IV-3-6)

居住地域別でみると、「必要性を感じない」は<本庁(周辺)>が72.7%で最も高く、次いで<本庁(都心)><上河内・河内地域>がいずれも66.7%であった。「操作方法等がわからない」は<本庁(周辺)>が63.6%で最も高く、次いで<東部地域>が60.0%であった。(図IV-3-6)

居住地区別でみると、「必要性を感じない」は<陽南>が100.0%、次いで<本庁>が71.4%であった。「操作方法等がわからない」は<清原>が75.0%で最も高く、次いで<本庁>が61.9%であった。(図IV-3-6)

<図IV-3-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別／居住地区別



## 4. 男女共同参画について

### (1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

#### ◇【家事】は「7時間未満」が3割半ば

問10 一週間の生活の中で、家事・育児・介護におおよそどの程度の時間を費やしたかお答えください。

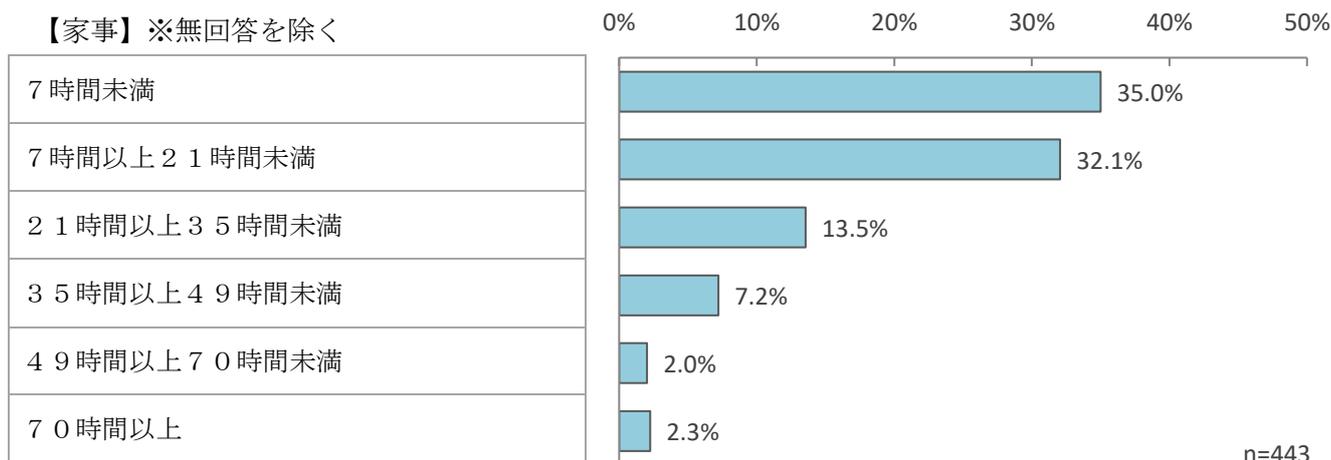
※ 育児，介護について，対象者がいない場合は，「7 対象者なし」に○をつけてください。

(項目ごとに○は1つ)

#### (1) 家事

	n=443
1 7時間未満	35.0%
2 7時間以上21時間未満	32.1%
3 21時間以上35時間未満	13.5%
4 35時間以上49時間未満	7.2%
5 49時間以上70時間未満	2.0%
6 70時間以上	2.3%
(無回答)	7.9%

#### <図IV-4-1>全体



一週間の生活の中で、家事に費やした時間については、「7時間未満」が35.0%で最も高く、次いで「7時間以上21時間未満」が32.1%、「21時間以上35時間未満」が13.5%であった。(図IV-4-1)

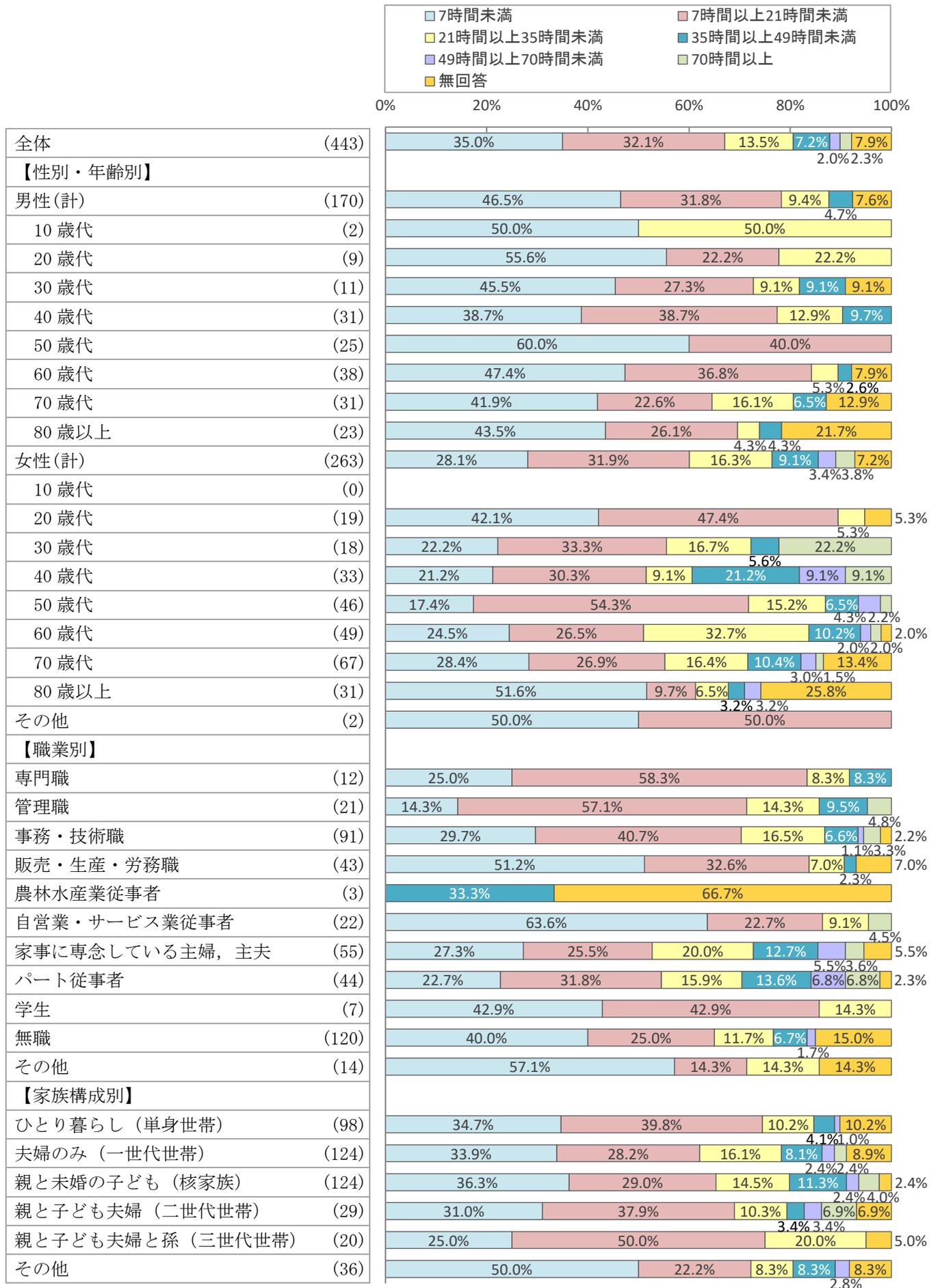
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「35時間以上49時間未満」，「49時間以上70時間未満」，「70時間以上」を合わせた【35時間以上(計)】は<女性40歳代>が39.4%で最も高く，同年代<男性40歳代>は9.7%であった。(図IV-4-2)

職業別でみると，【35時間以上(計)】は<農林水産業従事者>が33.3%で最も高く，次いで<パート従事者>が27.2%，<家事に専念している主婦，主夫>が21.8%と続いた。(図IV-4-2)

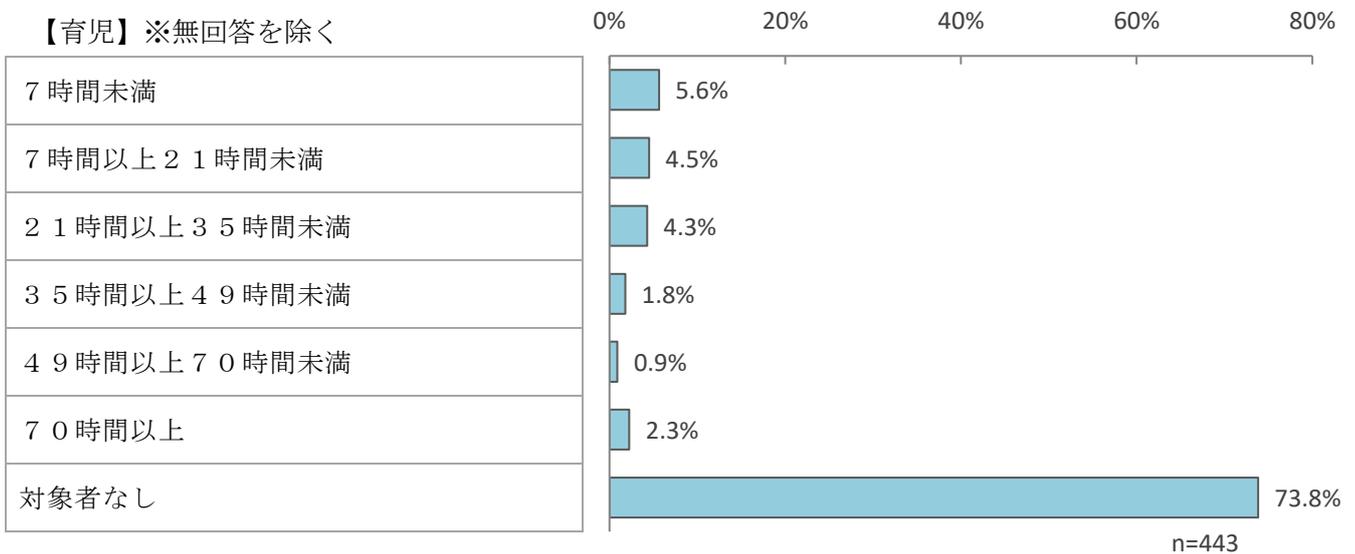
家族構成別でみると，【35時間以上(計)】は<親と未婚の子ども(核家族)>が17.7%で最も高く，次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が13.7%であった。(図IV-4-2)

<図IV-4-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(2) 育児		n=443
1	7 時間未満	5.6%
2	7 時間以上 2 1 時間未満	4.5%
3	2 1 時間以上 3 5 時間未満	4.3%
4	3 5 時間以上 4 9 時間未満	1.8%
5	4 9 時間以上 7 0 時間未満	0.9%
6	7 0 時間以上	2.3%
7	対象者なし (無回答)	73.8% 6.8%

<図IV-4-3>全体



一週間の生活の中で、育児に費やした時間については、「対象者なし」を除くと「7時間未満」が5.6%で最も高く、次いで「7時間以上2.1時間未満」が4.5%であった。(図IV-4-3)

<参考>

性別・年齢別でみると、「3.5時間以上4.9時間未満」、「4.9時間以上7.0時間未満」、「7.0時間以上」を合わせた【3.5時間以上(計)】は<女性30歳代>が38.9%で最も高く、同年代<男性30歳代>は0.0%であった。(図IV-4-4)

職業別でみると、【3.5時間以上(計)】は<管理職>が14.3%で最も高く、次いで<パート従事者>が13.6%であった。(図IV-4-4)

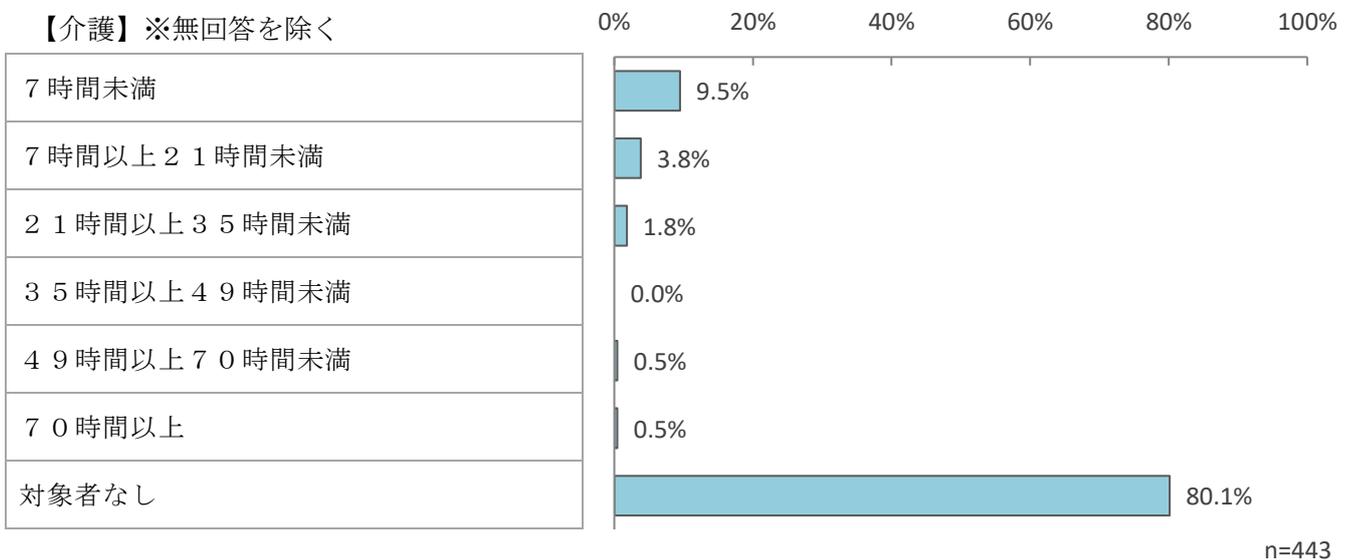
家族構成別でみると、【3.5時間以上(計)】は<親と未婚の子ども(核家族)>が12.1%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が10.3%であった。(図IV-4-4)

<図IV-4-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(3) 介護		n=443
1	7 時間未満	9.5%
2	7 時間以上 2 1 時間未満	3.8%
3	2 1 時間以上 3 5 時間未満	1.8%
4	3 5 時間以上 4 9 時間未満	0.0%
5	4 9 時間以上 7 0 時間未満	0.5%
6	7 0 時間以上	0.5%
7	対象者なし (無回答)	80.1% 3.8%

<図IV-4-5>全体



一週間の生活の中で、介護に費やした時間については、「対象者なし」を除くと「7 時間未満」が 9.5%で最も高く、次いで「7 時間以上 2 1 時間未満」が 3.8%であった。(図IV-4-5)

<参考>

性別・年齢別でみると、介護を行っている人の割合は<女性 60 歳代>が 28.4%で最も高く、次いで<男性 50 歳代>が 28.0%、<女性 50 歳代>が 21.8%、<男性 60 歳代>が 21.0%と続いた。(図IV-4-6)

職業別でみると、介護を行っている人の割合は<専門職>が 50.0%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が 23.3%、<家事に専念している主婦、主夫>が 21.7%と続いた。(図IV-4-6)

家族構成別でみると、介護を行っている人の割合は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 30.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が 20.0%、<親と未婚の子ども(核家族)>が 19.3%と続いた。(図IV-4-6)

<図IV-4-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

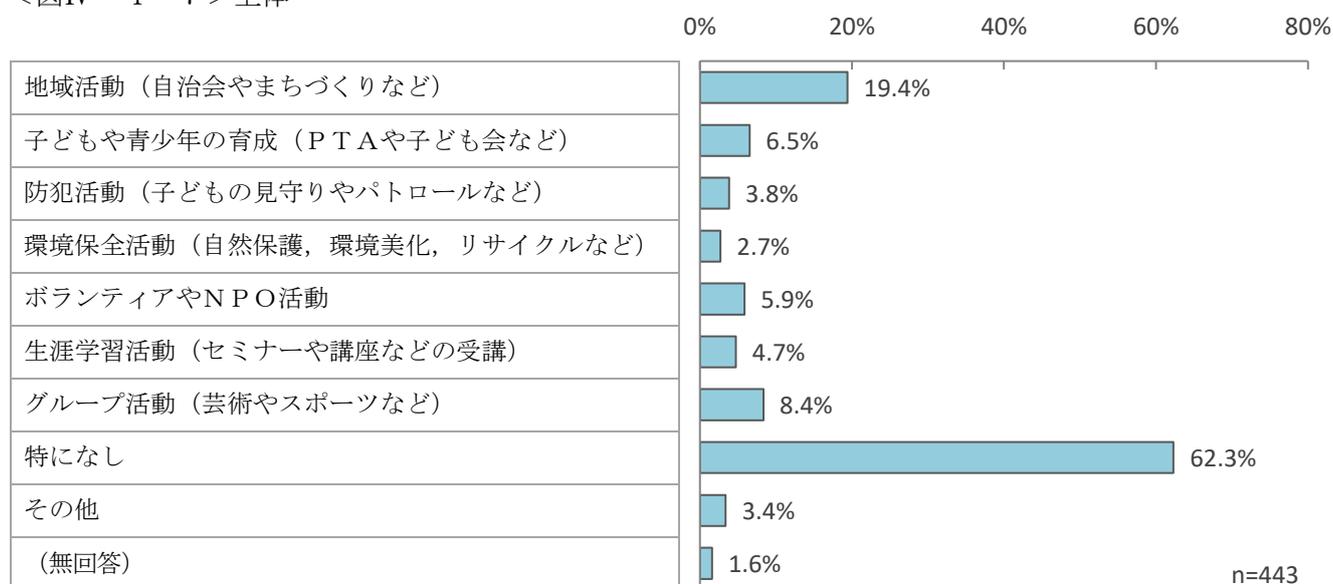


## (2) 社会的な活動の実施状況

### ◇ 「特になし」が6割強

問11	現在，地域などで社会的な活動を行っていますか。	(○はいくつでも)
		n=443
1	地域活動（自治会やまちづくりなど）	19.4%
2	子どもや青少年の育成（PTAや子ども会など）	6.5%
3	防犯活動（子どもの見守りやパトロールなど）	3.8%
4	環境保全活動（自然保護，環境美化，リサイクルなど）	2.7%
5	ボランティアやNPO活動	5.9%
6	生涯学習活動（セミナーや講座などの受講）	4.7%
7	グループ活動（芸術やスポーツなど）	8.4%
8	特になし	62.3%
9	その他	3.4%
	（無回答）	1.6%

#### <図IV-4-7>全体



現在，地域などで社会的な活動を行っているかについては，「特になし」が62.3%で最も高く，次いで「地域活動（自治会やまちづくりなど）」が19.4%，「グループ活動（芸術やスポーツなど）」が8.4%と続いた。（図IV-4-7）

#### <参考>

性別・年齢別でみると，「特になし」は<その他>を除くと，<男性10歳代>が100.0%，次いで<男性20歳代>が88.9%であった。（図IV-4-8）

職業別でみると，「特になし」は<その他>を除くと，<販売・生産・労務職>が79.1%で最も高く，次いで<無職>が66.7%であった。（図IV-4-8）

家族構成別でみると，「特になし」は<その他>を除くと，<ひとり暮らし（単身世帯）>が68.4%で最も高く，次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が62.1%であった。（図IV-4-8）

<図IV-4-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別



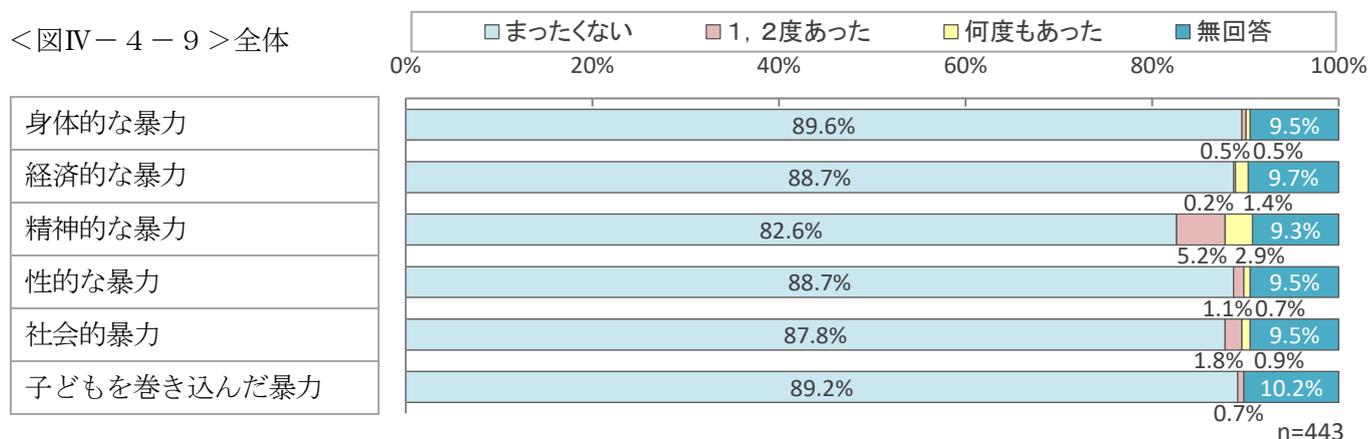
### (3) 配偶者からの暴力を受けた経験

◇ 「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり (計)】は、「精神的な暴力」が1割弱

問12 過去1年間に配偶者から次のような暴力を受けたことがありますか。  
(項目ごとに○は1つ)  
n=443

	項目	まったくない	1, 2度あった	何度もあった	無回答
1	身体的な暴力 (殴る・蹴る・つねる・髪を引っ張る・物を投げつけるなど)	89.6%	0.5%	0.5%	9.5%
2	経済的な暴力 (生活費を渡さない・給料や貯金を勝手に使われる・仕事をさせないなど)	88.7%	0.2%	1.4%	9.7%
3	精神的な暴力 (言葉や態度で侮辱する・どなったり脅したりする・何を言っても無視する・別れるなら死ぬ, 又は殺すと言うなど)	82.6%	5.2%	2.9%	9.3%
4	性的な暴力 (性行為を強要する・避妊に協力しない・無理やりアダルト動画を見せる・中絶を強要するなど)	88.7%	1.1%	0.7%	9.5%
5	社会的暴力 (実家や友人との付き合いを制限する・携帯電話や郵便物を勝手に見る・外出を制限する・行動を監視するなど)	87.8%	1.8%	0.9%	9.5%
6	子どもを巻き込んだ暴力 (子ども前で「バカだ」「親の資格がない」などと非難する・「子どもに危害を加える」と言って脅すなど)	89.2%	0.7%	0.0%	10.2%

<図IV-4-9>全体



過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについては、「何どもあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり (計)】は、「精神的な暴力」が8.1%で最も高く、次いで「社会的暴力」が2.7%、「性的な暴力」が1.8%であった。(図IV-4-9)

#### <参考>

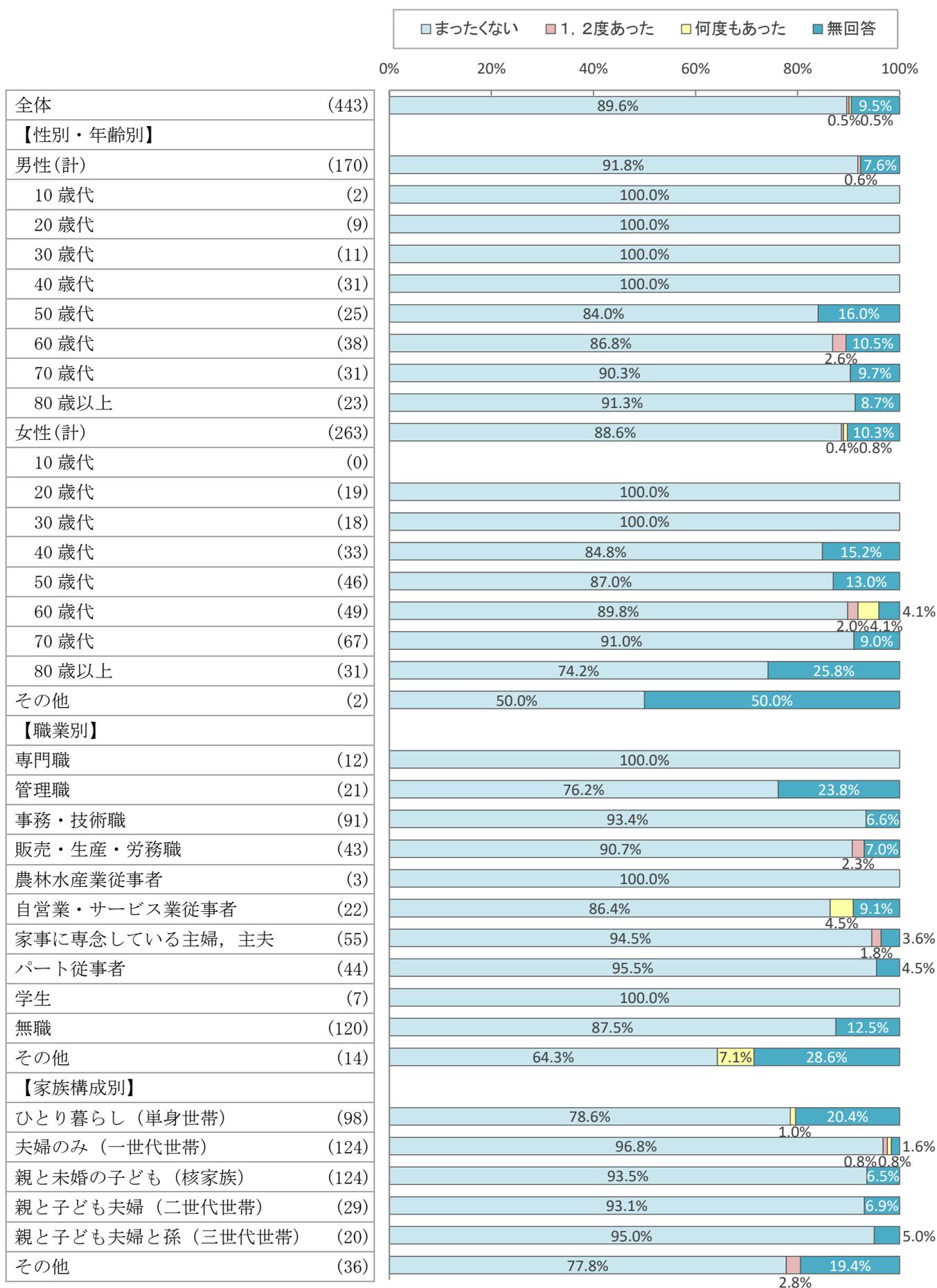
さらに暴力の種類ごとに性別・年齢別でみると【経験あり (計)】が最も多かったのは、「精神的な暴力」で<女性 60歳代>が18.4%、「社会的暴力」は<男性 80歳以上>が8.7%、「性的な暴力」は<女性 60歳代>が6.1%であった。(図IV-4-10~図IV-4-15)

暴力を受けたことがある(総合)について性別でみると、【経験あり (計)】は<女性>が3.3%、<男性>が1.8%で<女性>が高かった。性別・年齢別でみると、【経験あり (計)】は<女性 60歳代>が7.5%で最も高かった。(図IV-4-16 総合)

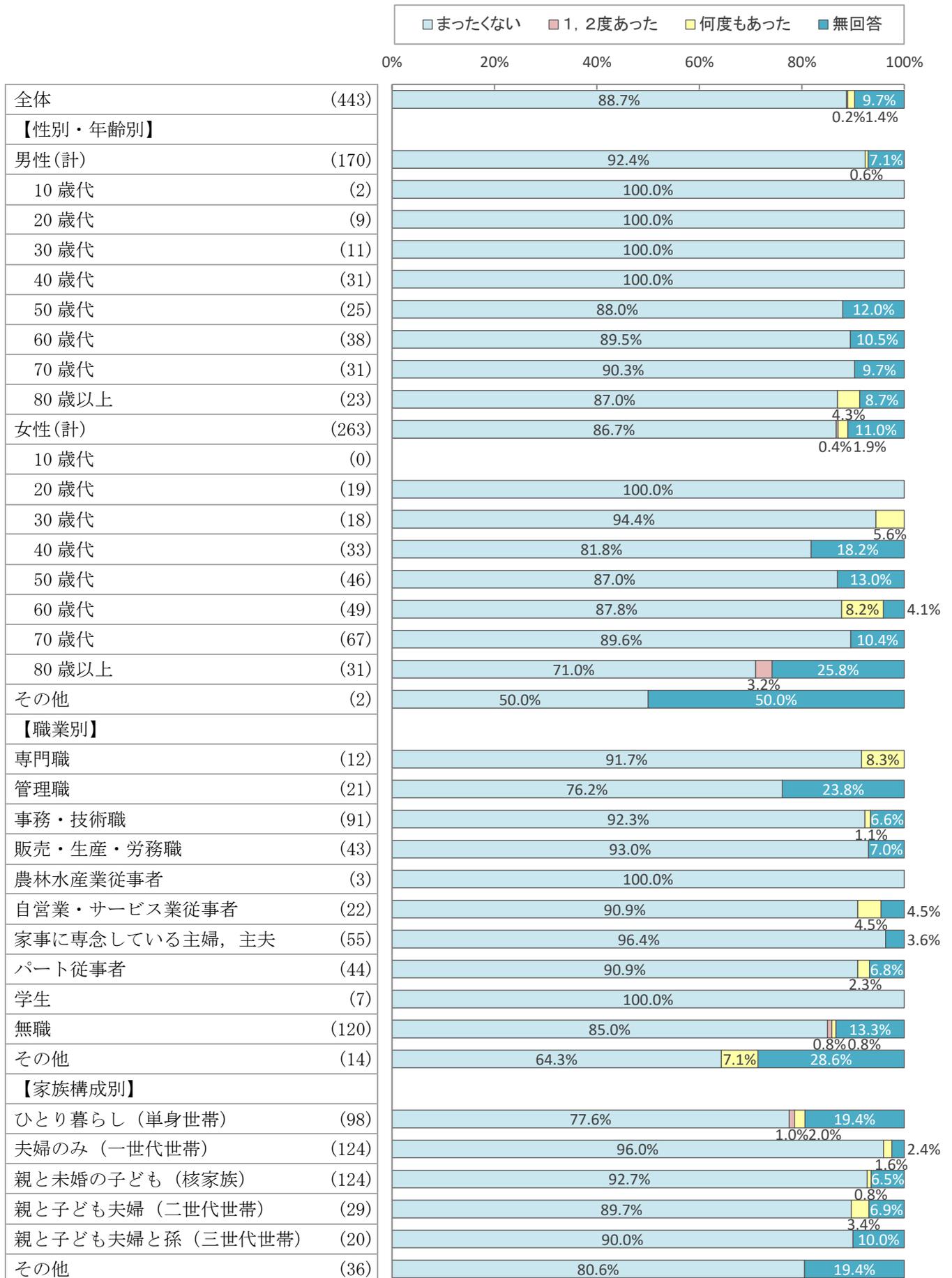
暴力を受けたことがある(総合)について職業別でみると、【経験あり (計)】は<専門職>が9.8%で最も高かった。(図IV-4-16 総合)

暴力を受けたことがある(総合)について家族構成別でみると、【経験あり (計)】は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が7.5%で最も高かった。(図IV-4-16 総合)

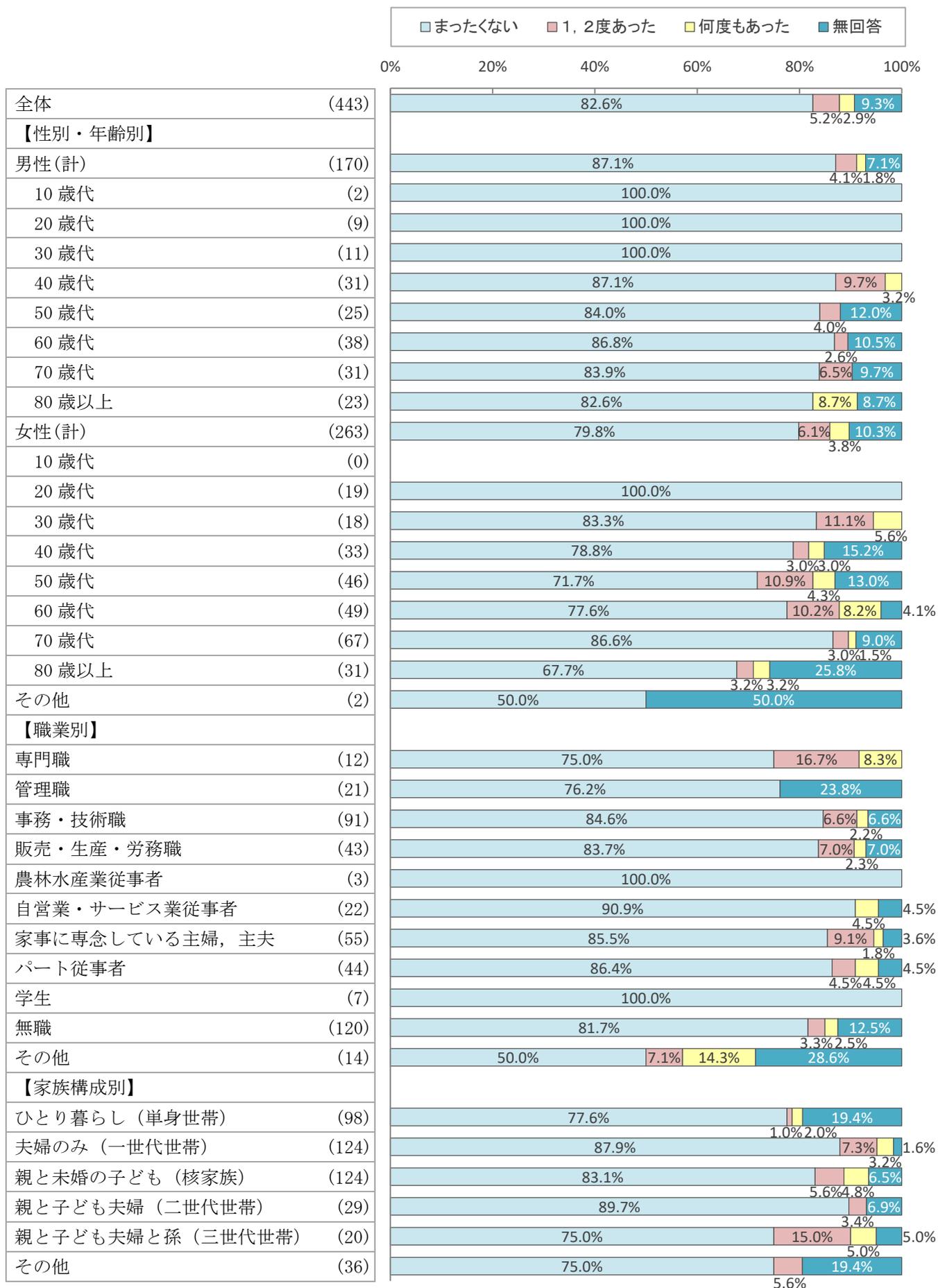
<図IV-4-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別「①身体的な暴力」



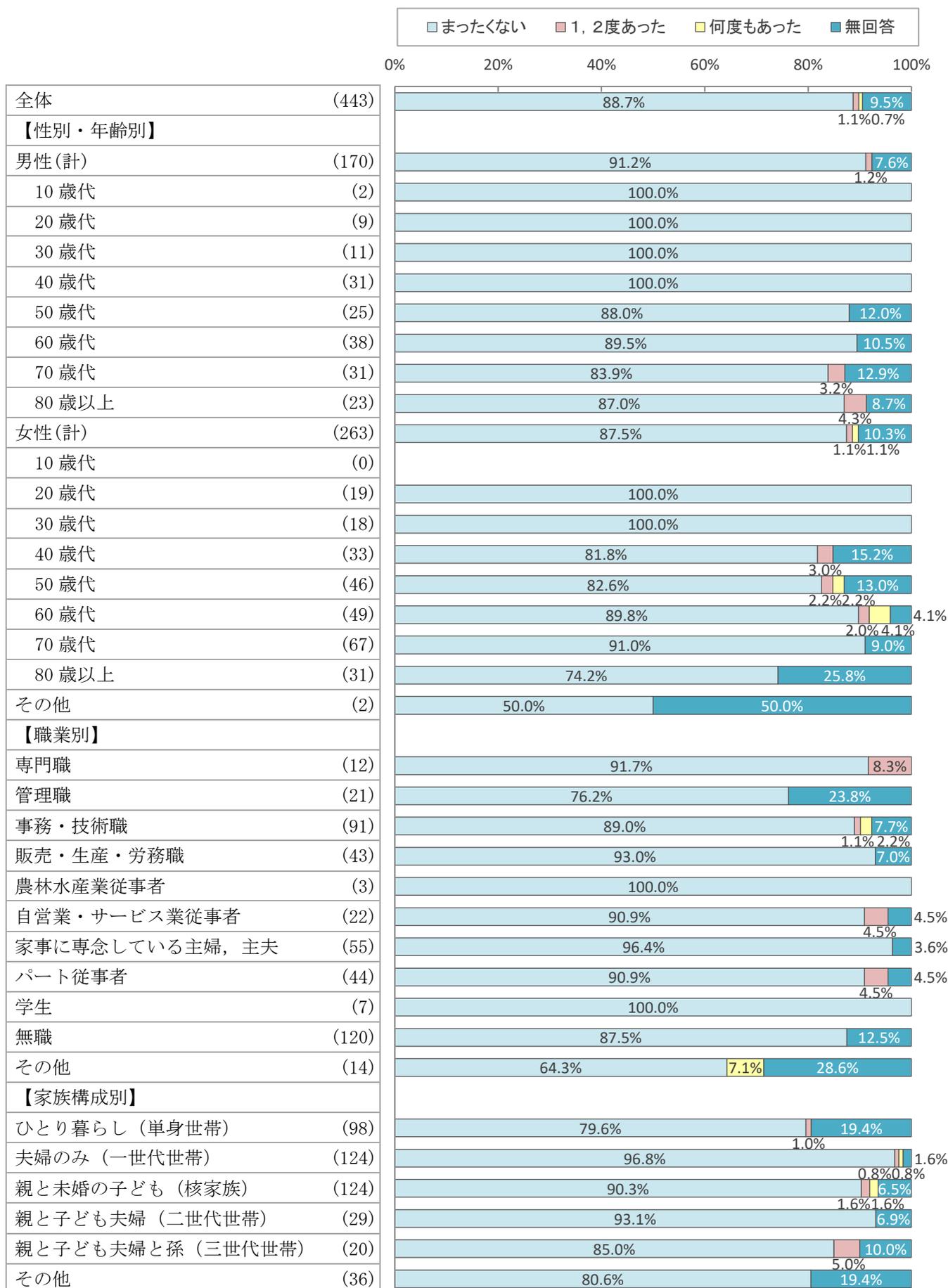
<図IV-4-11>性別・年齢別／職業別／家族構成別「②経済的な暴力」



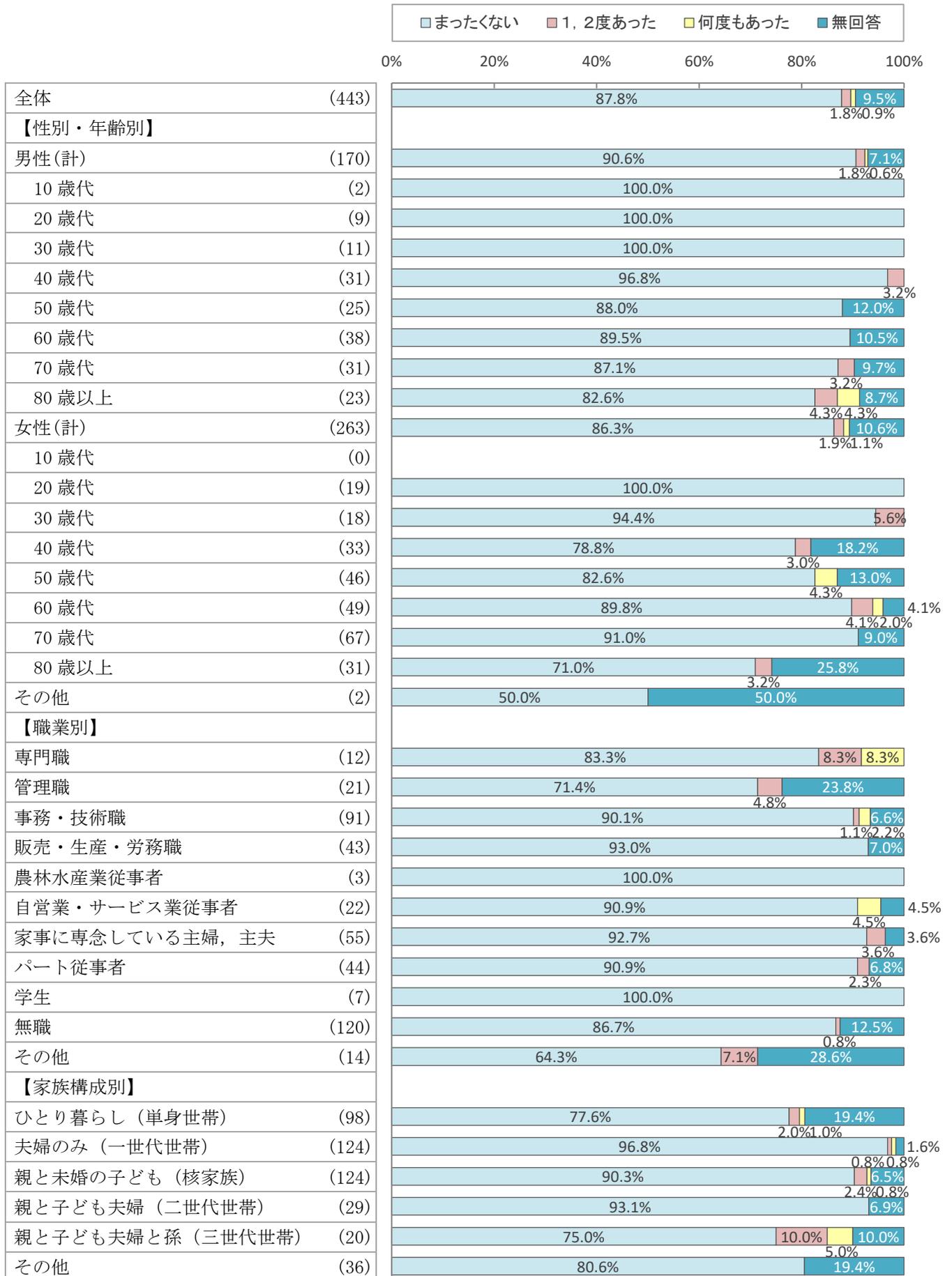
<図IV-4-12>性別・年齢別／職業別／家族構成別「③精神的な暴力」



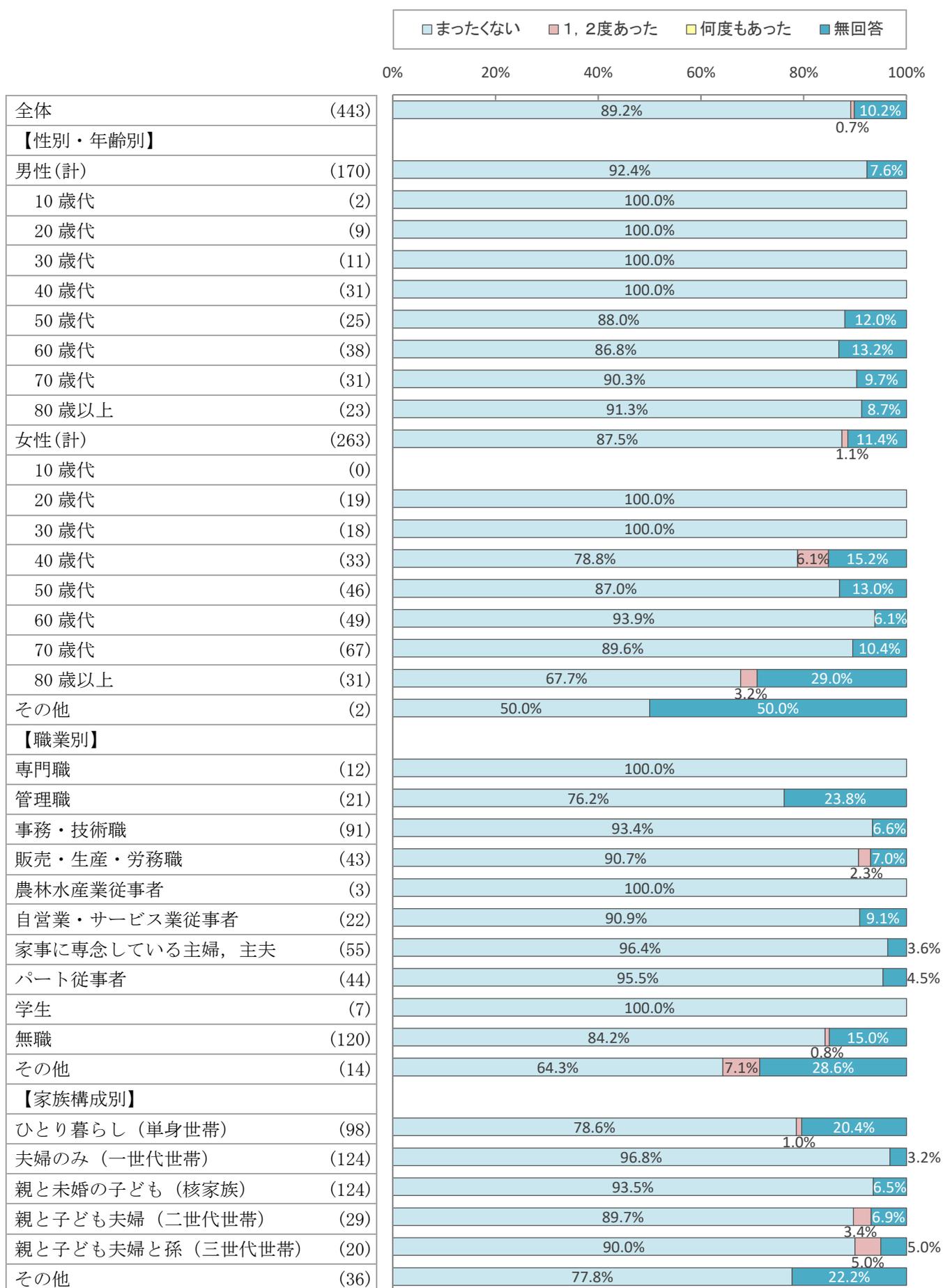
<図IV-4-13>性別・年齢別／職業別／家族構成別「④性的な暴力」



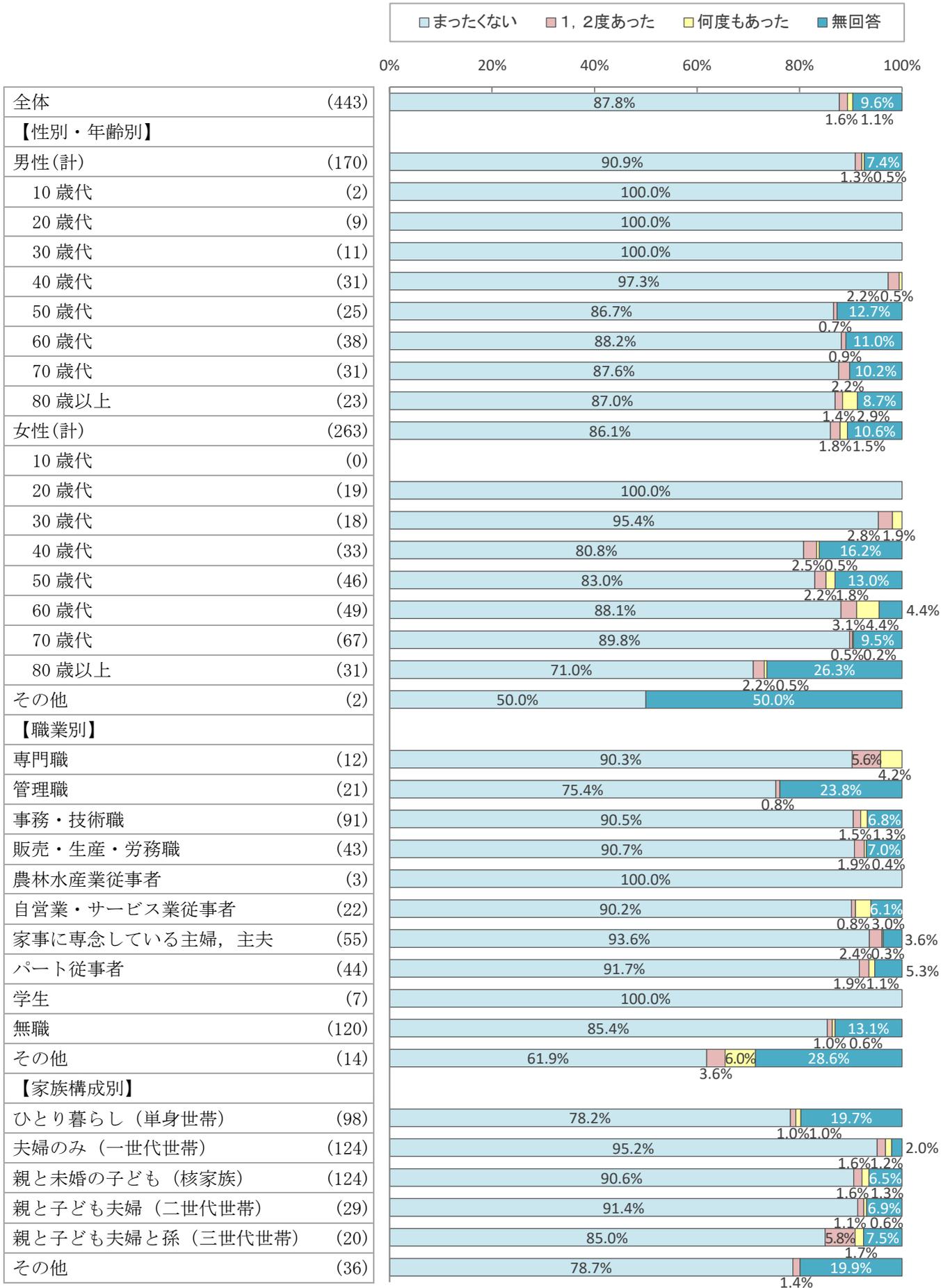
<図IV-4-14>性別・年齢別／職業別／家族構成別「⑤社会的暴力」



<図IV-4-15>性別・年齢別／職業別／家族構成別「⑥子どもを巻き込んだ暴力」



<図IV-4-16>性別・年齢別／職業別／家族構成別「⑦総合」



## 5. 保健と福祉のまるごと相談窓口メールUについて

### (1) 保健と福祉のまるごと相談窓口メールUの認知度

◇ 「知らない」が9割強

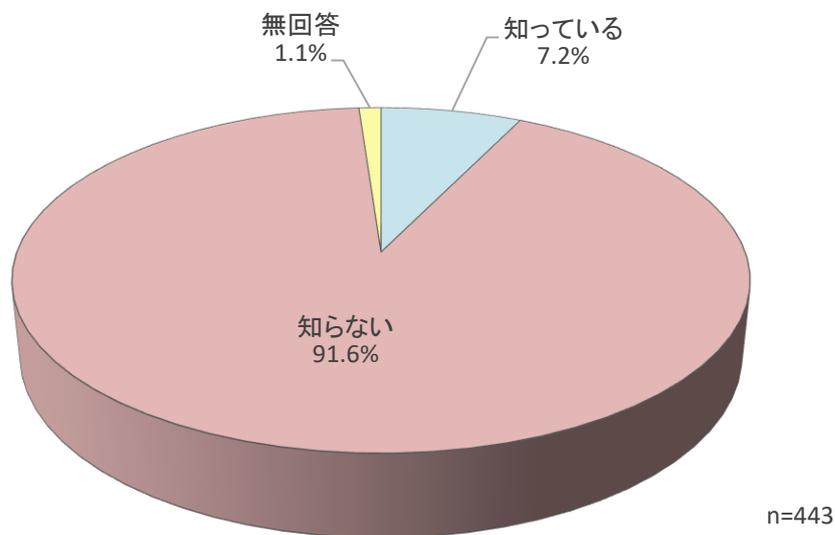
問13 「保健と福祉のまるごと相談窓口メールU」(※)を知っていますか。

※ どこに相談したらよいか分からない困りごとを適切な支援機関等につなぐ総合相談窓口

(○は1つ)

		n=443
1	知っている	7.2%
2	知らない	91.6%
	(無回答)	1.1%

<図IV-5-1>全体

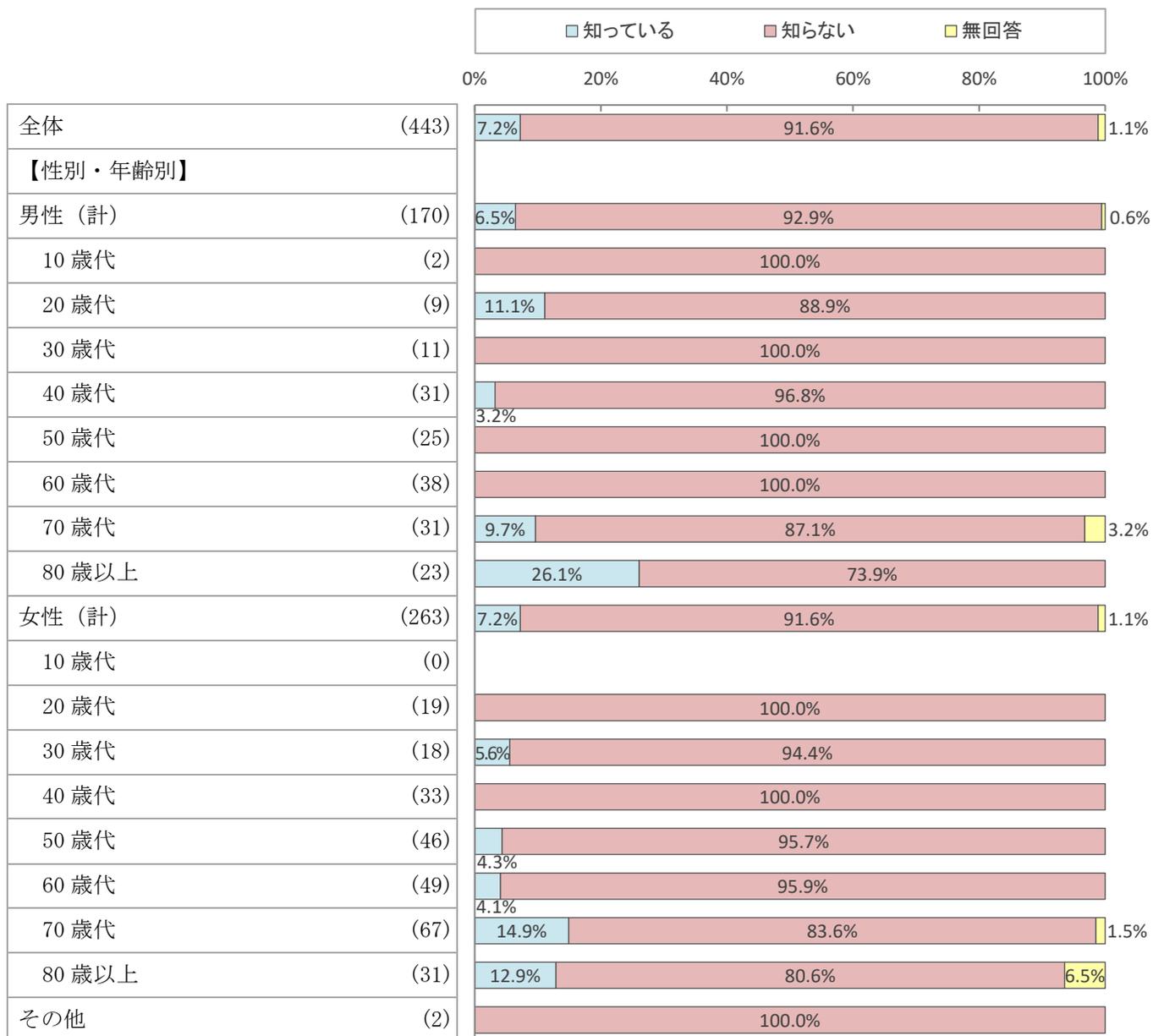


保健と福祉のまるごと相談窓口メールUの存在を知っているかについては、「知らない」が91.6%であった。一方、「知っている」は7.2%であった。(図IV-5-1)

<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<男性10・30・50・60歳代><女性20・40歳代>がいずれも100.0%、次いで<男性40歳代>が96.8%であった。一方、「知っている」は<男性80歳以上>が26.1%、次いで<女性70歳代>が14.9%であった。(図IV-5-2)

<図IV-5-2>性別・年齢別



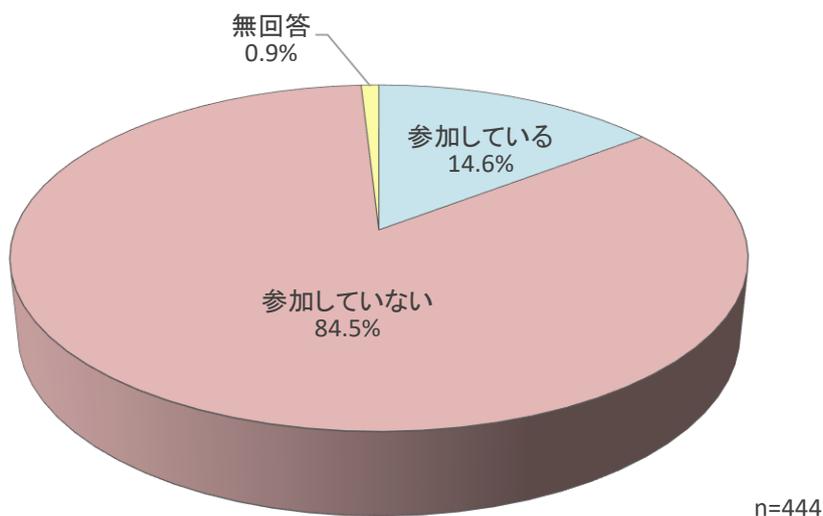
## 6. まちづくり活動への参加意識について

### (1) まちづくり活動に参加しているか

◇ 「参加している」が1割半ば

問14	あなたはまちづくり活動に参加していますか。	(○は1つ)
		n=444
1	参加している	14.6%
2	参加していない (無回答)	84.5%
		0.9%

<図IV-6-1>全体



まちづくり活動に参加しているかについては、「参加している」が14.6%であった。一方、「参加していない」は84.5%であった。(図IV-6-1)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「参加している」は<男性80歳以上>が28.6%で最も高く、次いで<女性60歳代>が21.4%であった。一方、「参加していない」は<男性10・20歳代><女性10・20歳代>がいずれも100.0%、次いで<男性50歳代>が93.3%であった。(図IV-6-2)

家族構成別で見ると、「参加している」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が20.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が13.5%であった。一方、「参加していない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が90.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世代世帯)>が88.0%であった。(図IV-6-2)

居住地域別で見ると、「参加している」は<上河内・河内地域>が32.4%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が19.6%であった。一方、「参加していない」は<東部地域>が89.5%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が89.4%であった。(図IV-6-2)

居住地区別で見ると、「参加している」は<富屋><篠井>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<上河内>が44.4%であった。一方、「参加していない」は<瑞穂野>が100.0%、次いで<豊郷>が93.5%であった。(図IV-6-2)

<図Ⅳ－6－2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別／居住地区別

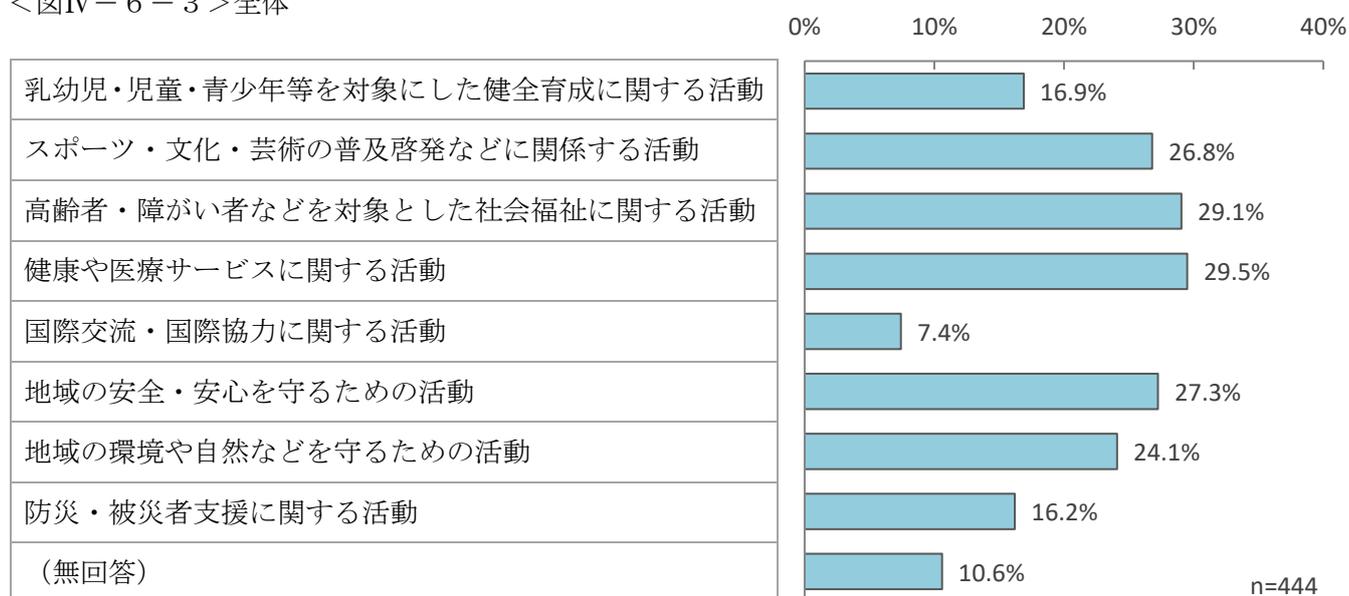


## (2) 参加中または興味があるまちづくり活動

◇ 「高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動」と「健康や医療サービスに関する活動」が約3割

問15 あなたはどのような種類のまちづくり活動に興味がありますか、または参加していますか。 (○はいくつでも)		n=444
1	乳幼児・児童・青少年等を対象にした健全育成に関する活動	16.9%
2	スポーツ・文化・芸術の普及啓発などに関係する活動	26.8%
3	高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動	29.1%
4	健康や医療サービスに関する活動	29.5%
5	国際交流・国際協力に関する活動	7.4%
6	地域の安全・安心を守るための活動	27.3%
7	地域の環境や自然などを守るための活動	24.1%
8	防災・被災者支援に関する活動	16.2%
	(無回答)	10.6%

<図IV-6-3>全体



参加中または興味があるまちづくり活動については、「健康や医療サービスに関する活動」が29.5%で最も高く、次いで「高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動」が29.1%であった。

(図IV-6-3)

### <参考>

性別・年齢別でみると、「健康や医療サービスに関する活動」は<女性10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性50歳代>が40.0%、<女性40歳代>が38.7%と続いた。(図IV-6-4)

家族構成別でみると、「健康や医療サービスに関する活動」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が40.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が37.5%であった。(図IV-6-4)

居住地区別でみると、「健康や医療サービスに関する活動」は<富屋>が50.0%で最も高く、次いで<城山>が41.7%であった。(図IV-6-4)

<図IV-6-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

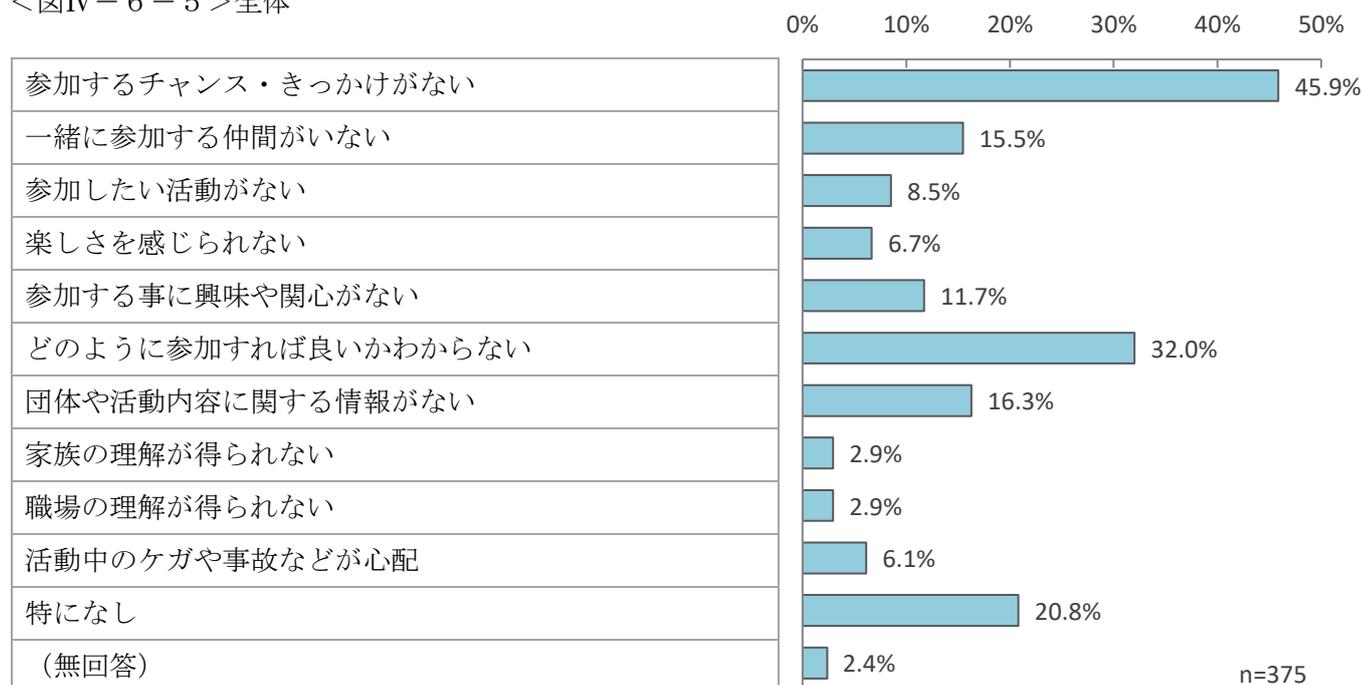


### (3) まちづくり活動に参加していない理由

#### ◇「参加するチャンス・きっかけがない」が4割半ば

理由	割合
問16 問14で「2 参加していない」を選んだ方にお伺いします。まちづくり活動に参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)	n=375
1 参加するチャンス・きっかけがない	45.9%
2 一緒に参加する仲間がいない	15.5%
3 参加したい活動がない	8.5%
4 楽しさを感じられない	6.7%
5 参加する事に興味や関心がない	11.7%
6 どのように参加すれば良いかわからない	32.0%
7 団体や活動内容に関する情報がない	16.3%
8 家族の理解が得られない	2.9%
9 職場の理解が得られない	2.9%
10 活動中のケガや事故などが心配	6.1%
11 特になし	20.8%
(無回答)	2.4%

<図IV-6-5>全体



まちづくり活動に参加していない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が45.9%、次いで「どのように参加すれば良いかわからない」が32.0%であった。(図IV-6-5)

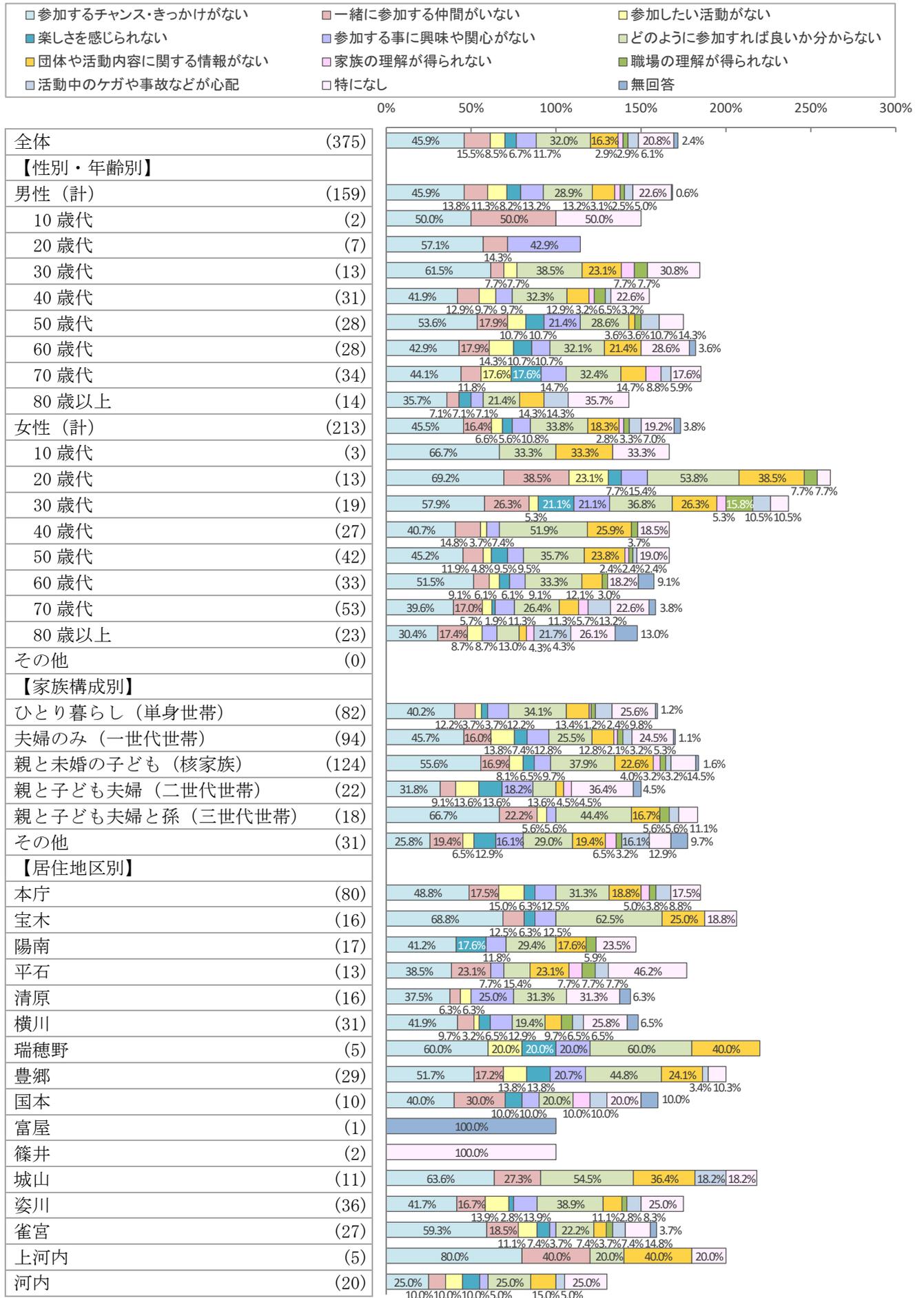
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<女性20歳代>が69.2%、<女性10歳代>が66.7%、<男性30歳代>が61.5%と続いた。(図IV-6-6)

家族構成別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が66.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が55.6%であった。(図IV-6-6)

居住地区別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<上河内>が80.0%、<宝木>が68.8%であった。(図IV-6-6)

<図IV-6-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別



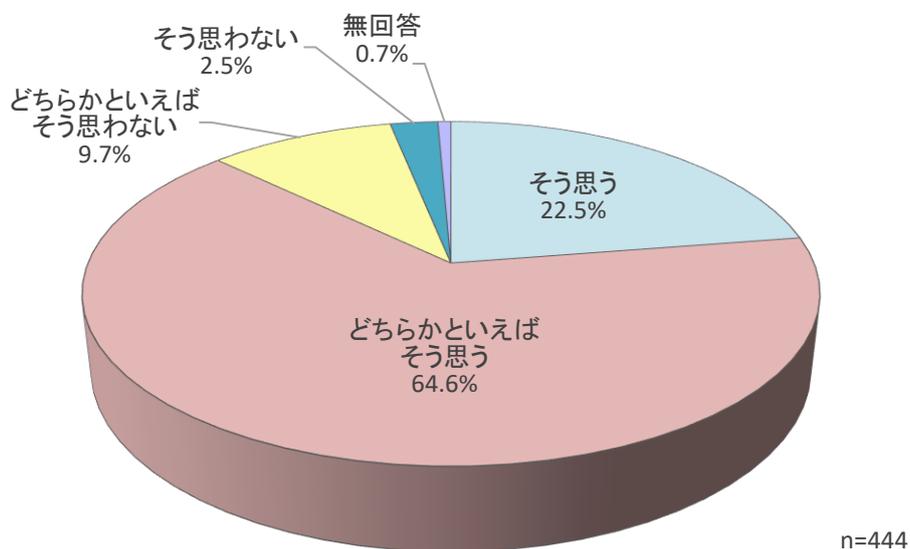
## 7. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

### (1) 安心して暮らすことができているか

◇ 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が9割弱

問17 宇都宮市では、犯罪のない安全で安心なまちづくりを推進していますが、あなたは普段安心して暮らすことができていると思いますか。		(○は1つ)
		n=444
1	そう思う	22.5%
2	どちらかといえばそう思う	64.6%
3	どちらかといえばそう思わない	9.7%
4	そう思わない	2.5%
	(無回答)	0.7%

<図IV-7-1>全体



安心して暮らすことができているかについては、「そう思う」が22.5%、「どちらかといえばそう思う」が64.6%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は87.1%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」が9.7%、「そう思わない」が2.5%で、これらを合わせた【そう思わない（計）】は12.2%であった。

(図IV-7-1)

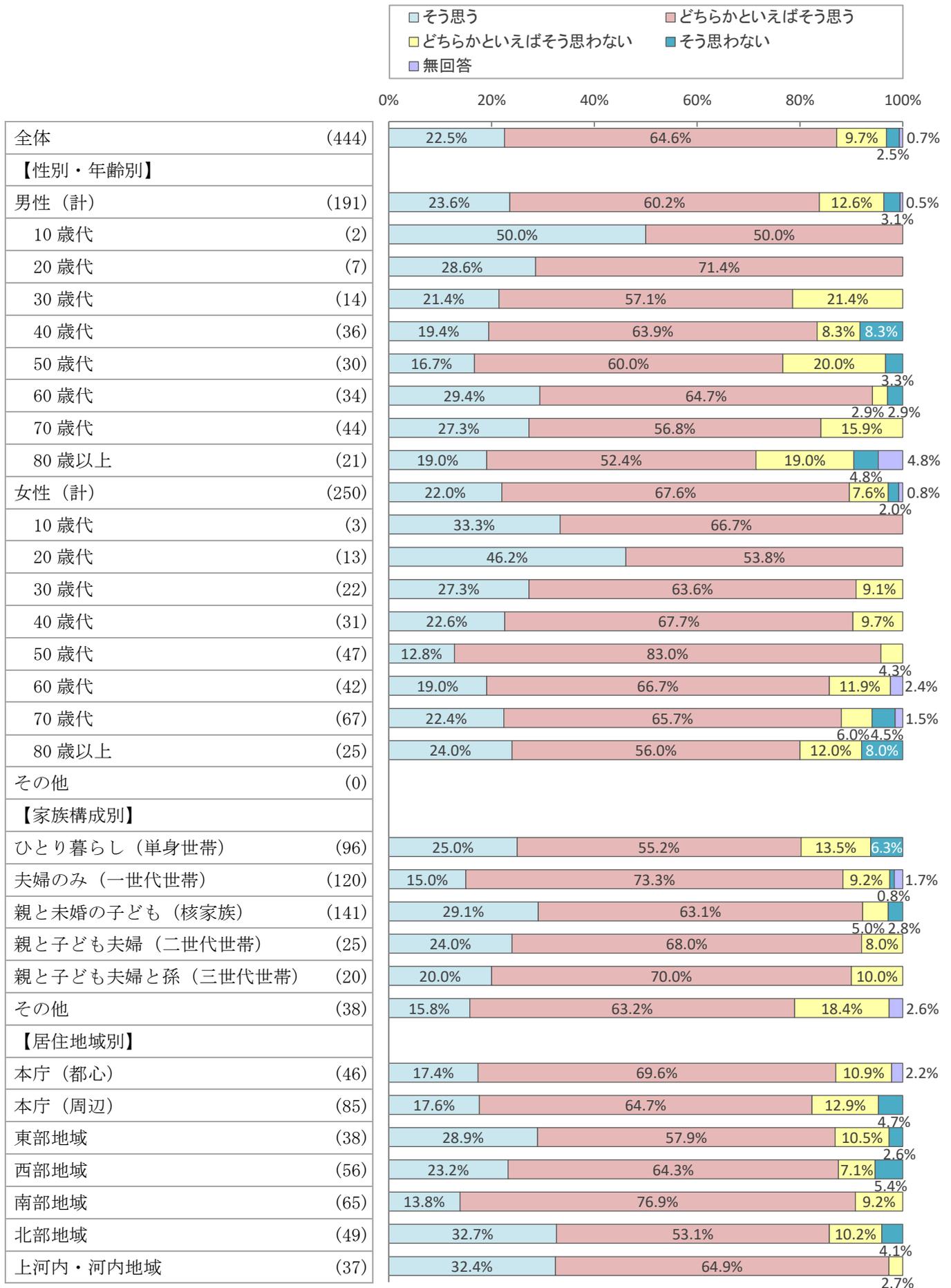
#### <参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は<男性10・20歳代><女性10・20歳代>が100.0%、<女性50歳代>が95.8%であった。【そう思わない（計）】は<男性80歳以上>が23.8%で最も高く、次いで<男性50歳代>が23.3%であった。(図IV-7-2)

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は<親と未婚の子ども(核家族)>が92.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が92.0%であった。【そう思わない（計）】は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が19.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)><親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>がいずれも10.0%であった。(図IV-7-2)

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は<上河内・河内地域>が97.3%で最も高く、次いで<南部地域>が90.7%であった。【そう思わない（計）】は<本庁(周辺)>が17.6%で最も高く、次いで<北部地域>が14.3%であった。(図IV-7-2)

<図IV-7-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

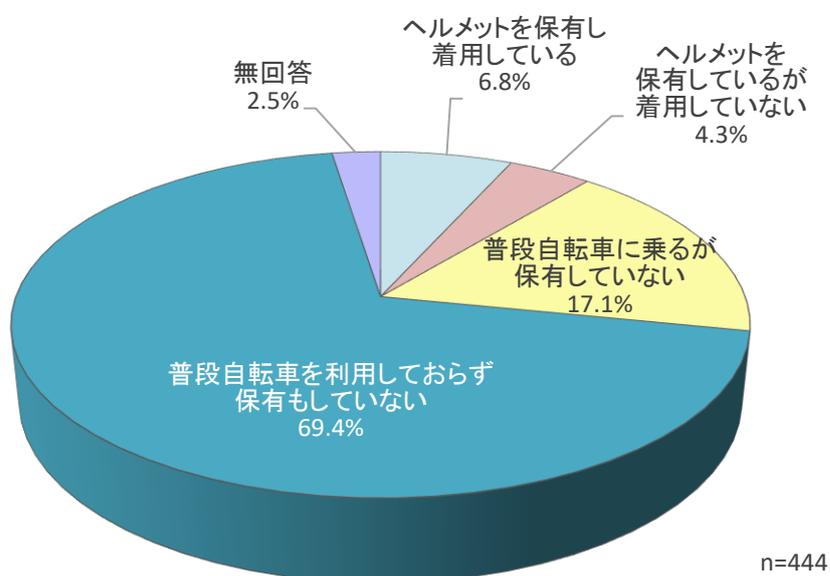


## (2) 自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況

### ◇ 「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が約7割

問18 あなたは、自転車乗車用のヘルメットを持っていますか。また、自転車乗車中は着用していますか。		(○は1つ)
		n=444
1	ヘルメットを保有し着用している	6.8%
2	ヘルメットを保有しているが着用していない	4.3%
3	普段自転車に乗るが保有していない	17.1%
4	普段自転車を利用しておらず保有もしていない	69.4%
	(無回答)	2.5%

#### <図IV-7-3>全体



自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が69.4%で最も高く、次いで「普段自転車に乗るが保有していない」が17.1%であった。

(図IV-7-3)

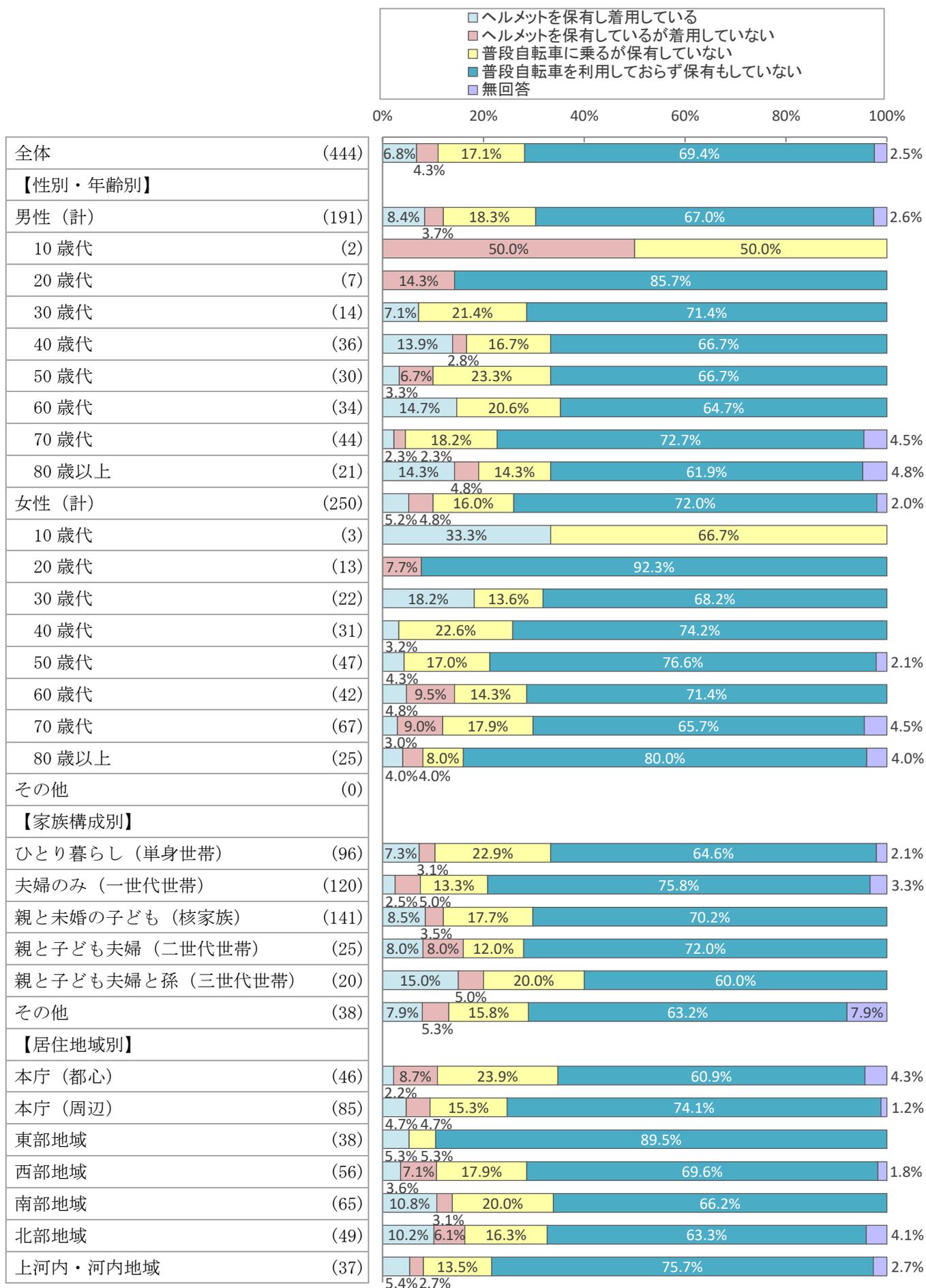
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<女性20歳代>が92.3%で最も高く、次いで<男性20歳代>が85.7%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<女性10歳代>が66.7%、<男性10歳代>が50.0%であった。(図IV-7-4)

家族構成別でみると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が75.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が72.0%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が22.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が20.0%であった。(図IV-7-4)

居住地域別でみると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<東部地域>が89.5%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が75.7%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<本庁(都心)>が23.9%で最も高く、次いで<南部地域>が20.0%であった。(図IV-7-4)

<図IV-7-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

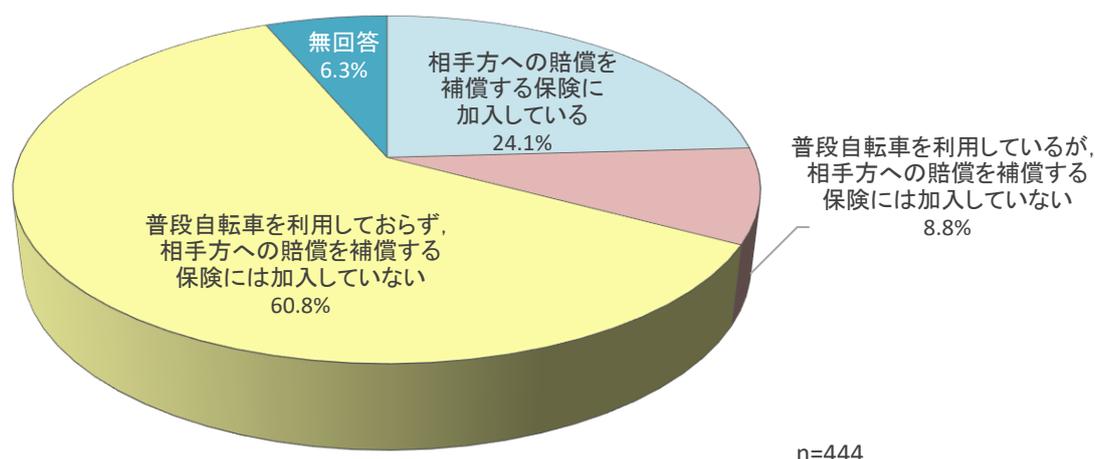


### (3) 自転車保険の加入状況

◇ 「普段自転車を利用しておらず、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」が約6割

問19 あなたは、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手のけがの治療費などを補償する保険（自転車保険）に加入していますか。		(○は1つ)
		n=444
1	相手方への賠償を補償する保険に加入している（TSマーク付帯保険（※）含む） ※ 自転車安全整備士が点検した際に貼付されるTSマークが付いた自転車が対象の保険	24.1%
2	普段自転車を利用しているが、相手方への賠償を補償する保険には加入していない	8.8%
3	普段自転車を利用しておらず、相手方への賠償を補償する保険には加入していない	60.8%
	（無回答）	6.3%

<図IV-7-5>全体



自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」が60.8%で最も高く、次いで「相手方への賠償を補償する保険に加入している」が24.1%であった。（図IV-7-5）

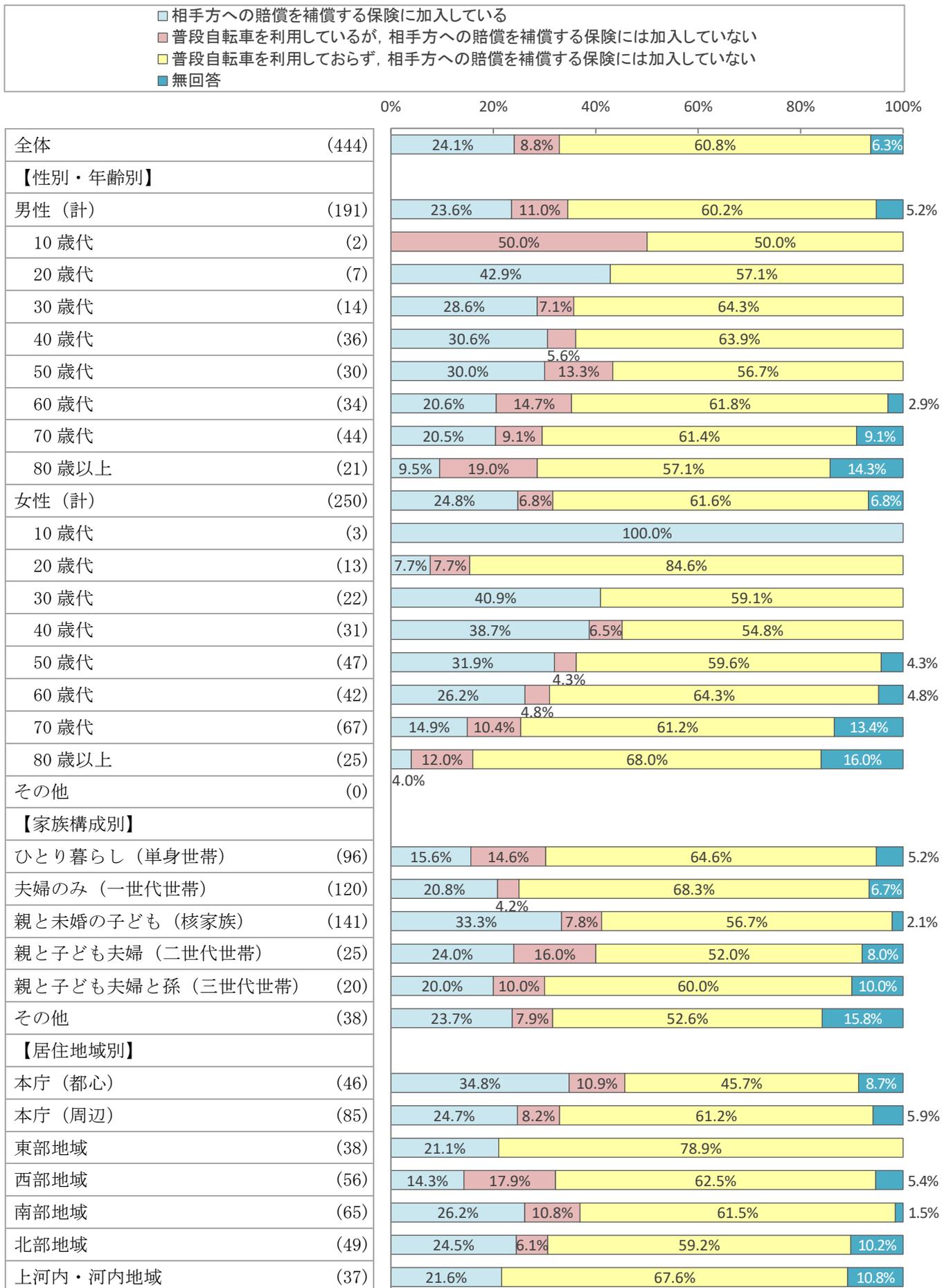
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「普段自転車を利用しておらず、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」は<女性20歳代>が84.6%で最も高く、次いで<女性80歳以上>が68.0%であった。（図IV-7-6）

家族構成別でみると、「普段自転車を利用しておらず、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」は<夫婦のみ（一世帯世帯）>が68.3%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が64.6%であった。（図IV-7-6）

居住地域別でみると、「普段自転車を利用しておらず、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」は<東部地域>が78.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が67.6%であった。（図IV-7-6）

<図IV-7-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



## 8. 多様な性について

### (1) LGBTQ (エルジービーティーキュー) の認知度

#### ◇ 「言葉も内容も知っている」が5割弱

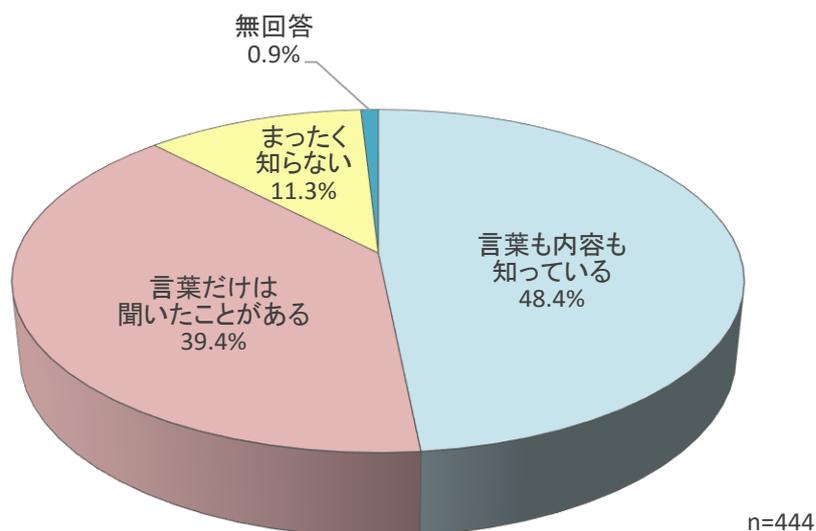
問20 LGBTQ (エルジービーティーキュー) (※) という言葉について聞いたことがありますか。

※ L (レズビアン・女性同性愛者), G (ゲイ・男性同性愛者), B (バイセクシャル・両性愛者), T (トランスジェンダー・からだところの性が一致せず, 性別に違和感を覚える人), Q (クエスチョニング・性自認や性的指向が明確ではない人, 探している人, 決めかねている人/クイア・LGBTに当てはまらない性的マイノリティや性的マイノリティを広範的に包括する概念) の5つの単語の頭文字をとった言葉で, 性的マイノリティ (性的少数者) を表す総称のひとつ

(○は1つ)

	n=444
1 言葉も内容も知っている	48.4%
2 言葉だけは聞いたことがある	39.4%
3 まったく知らない	11.3%
(無回答)	0.9%

<図IV-8-1>全体



LGBTQ (エルジービーティーキュー) の認知度については、「言葉も内容も知っている」が 48.4%、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が 39.4%であった。(図IV-8-1)

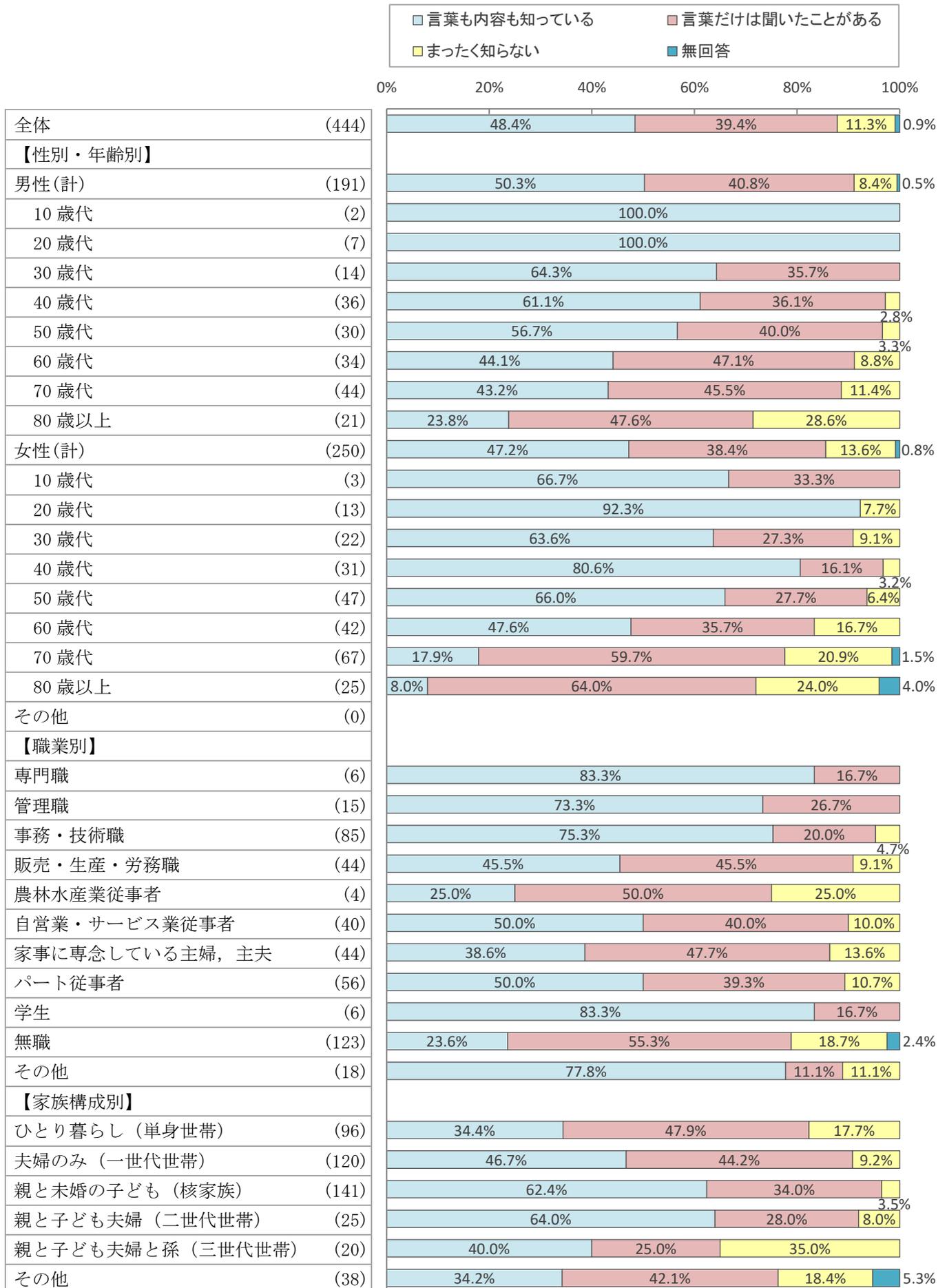
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「言葉も内容も知っている」は<男性 10・20 歳代>がいずれも 100.0%、次いで<女性 20 歳代>が 92.3%であった。(図IV-8-2)

職業別でみると、「言葉も内容も知っている」は<その他>を除くと、<専門職><学生>がいずれも 83.3%で最も高く、次いで<事務・技術職>が 75.3%であった。(図IV-8-2)

家族構成別でみると、「言葉も内容も知っている」は<親と子ども夫婦 (二世帯世帯)>が 64.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども (核家族)>が 62.4%であった。(図IV-8-2)

<図IV-8-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別



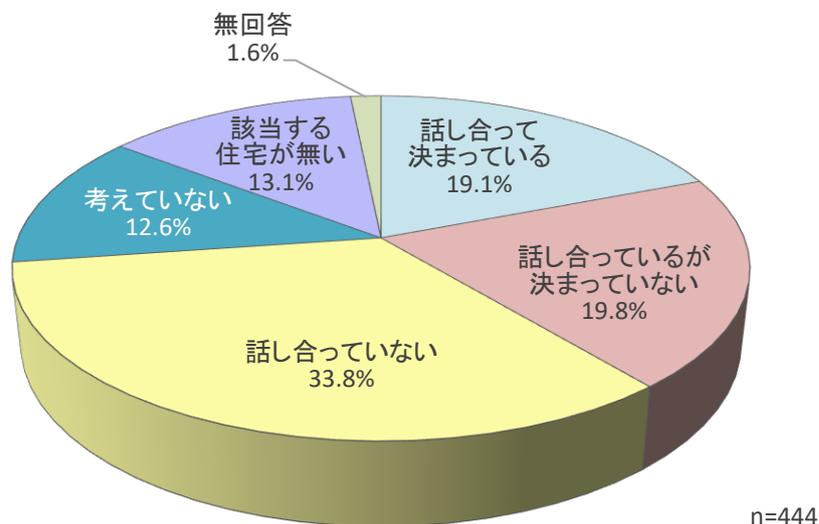
## 9. 空き家に関する意識について

(1) 所有している（将来相続する可能性のある）住宅の今後について

◇ 「話し合っていない」が3割半ば

問 2 1	あなたが所有している、または将来相続する可能性のある住宅の今後について、ご家族の間でどのような準備をしていますか。	(○は1つ)	n=444
1	話し合っていて決まっている		19.1%
2	話し合っているが決まっていない		19.8%
3	話し合っていない		33.8%
4	考えていない		12.6%
5	該当する住宅が無い		13.1%
	(無回答)		1.6%

<図IV-9-1>全体



所有している（将来相続する可能性のある）住宅の今後については、「話し合っていない」が33.8%、次いで「話し合っているが決まっていない」が19.8%であった。（図IV-9-1）

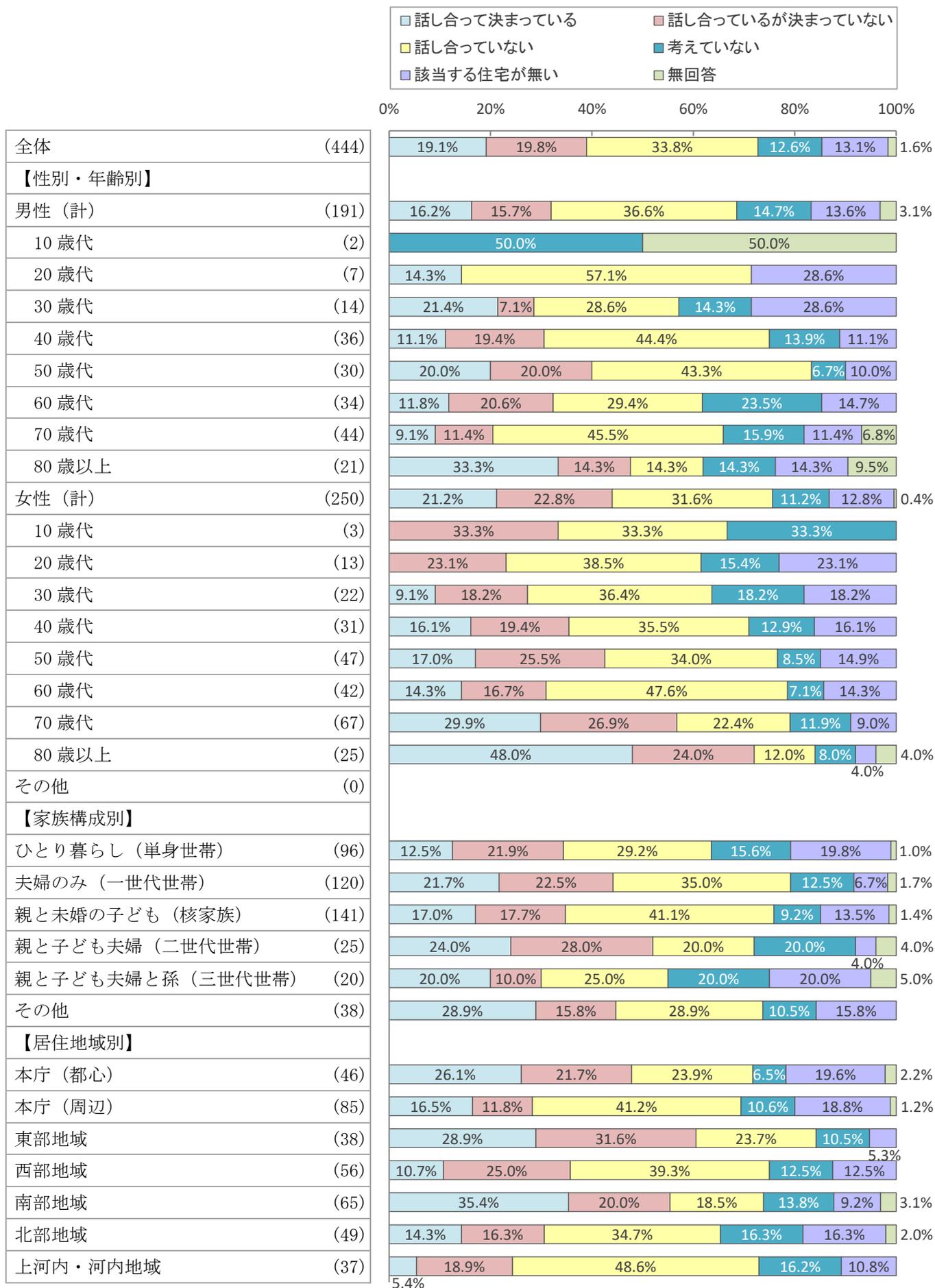
<参考>

性別・年齢別でみると、「話し合っていない」は<男性 20 歳代>が57.1%で最も高く、次いで<女性 60 歳代>が47.6%であった。「話し合っているが決まっていない」は<女性 10 歳代>が33.3%で最も高く、次いで<女性 70 歳代>が26.9%であった。（図IV-9-2）

家族構成別でみると、「話し合っていない」は<親と未婚の子ども（核家族）>が41.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が35.0%であった。「話し合っているが決まっていない」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が28.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が22.5%であった。（図IV-9-2）

居住地域別でみると、「話し合っていない」は<上河内・河内地域>が48.6%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が41.2%であった。「話し合っているが決まっていない」は<東部地域>が31.6%で最も高く、次いで<西部地域>が25.0%であった。（図IV-9-2）

<図IV-9-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

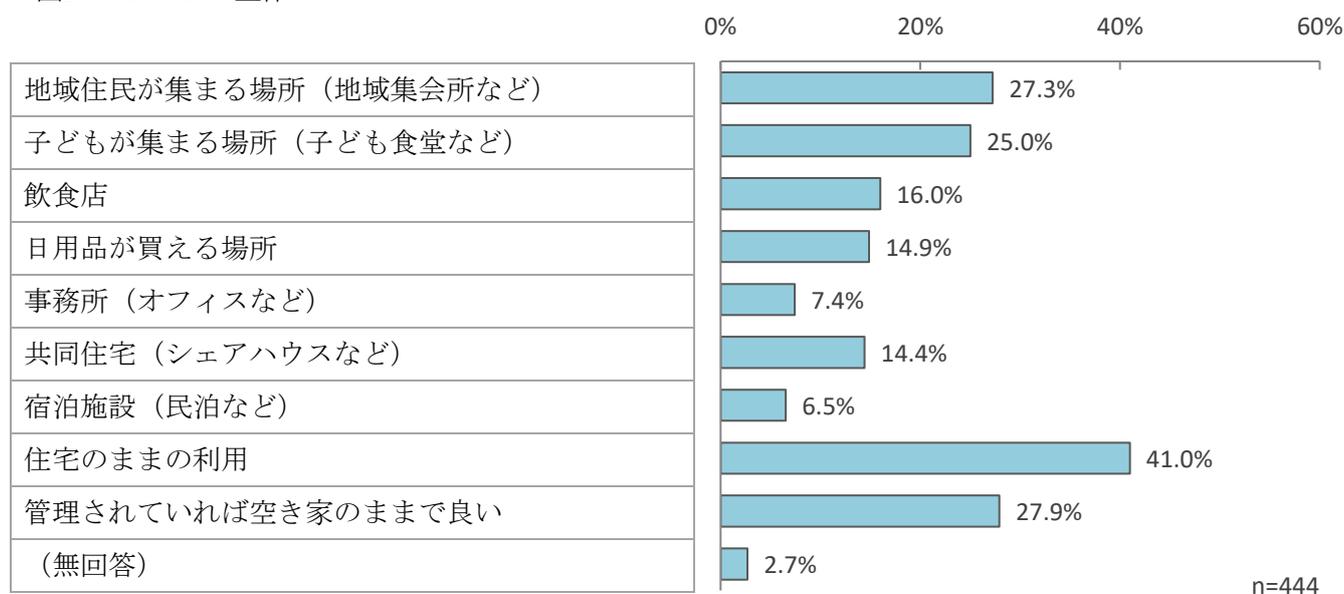


## (2) 空き家の活用について

### ◇ 「住宅のままの利用」が約4割

問22 近所の空き家が、どのように活用されると良いと思いますか。		(○はいくつでも)
		n=444
1	地域住民が集まる場所（地域集会所など）	27.3%
2	子どもが集まる場所（子ども食堂など）	25.0%
3	飲食店	16.0%
4	日用品が買える場所	14.9%
5	事務所（オフィスなど）	7.4%
6	共同住宅（シェアハウスなど）	14.4%
7	宿泊施設（民泊など）	6.5%
8	住宅のままの利用	41.0%
9	管理されていれば空き家のままで良い (無回答)	27.9%
		2.7%

<図IV-9-3>全体



空き家の活用については、「住宅のままの利用」が41.0%、次いで「管理されていれば空き家のままで良い」が27.9%であった。（図IV-9-3）

#### <参考>

性別・年齢別でみると、「住宅のままの利用」は<男性20歳代>が71.4%で最も高く、次いで<女性10歳代>が66.7%であった。「管理されていれば空き家のままで良い」は<男性80歳以上>が47.6%で最も高く、次いで<男性40歳代>が44.4%であった。（図IV-9-4）

家族構成別でみると、「住宅のままの利用」は<その他>を除くと、<夫婦のみ（一世帯世帯）>が46.7%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が41.7%であった。「管理されていれば空き家のままで良い」は<その他>を除くと、<夫婦のみ（一世帯世帯）>が35.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が29.2%であった。（図IV-9-4）

居住年数別でみると、「住宅のままの利用」は<出生時から>が42.6%で最も高く、次いで<20年以上>が42.3%であった。「管理されていれば空き家のままで良い」は<10年以上～20年未満>が43.3%で最も高く、次いで<5年以上～10年未満>が42.3%であった。（図IV-9-4）

<図IV-9-4>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

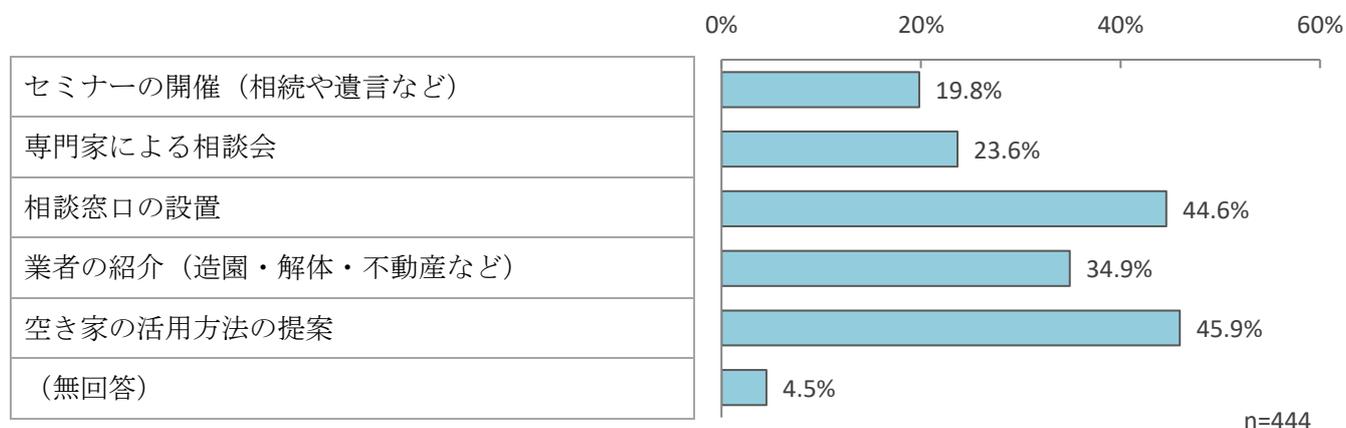


### (3) 宇都宮空き家会議にして欲しい取組について

#### ◇ 「空き家の活用方法の提案」が4割半ば

問23	本市は、官民連携組織「宇都宮空き家会議」を設立し、空き家の所有者と利用希望者をマッチングする事業や空き家を活用して地域集会所の整備支援などに取り組んでいます。今後、宇都宮空き家会議にどのような取組をして欲しいですか。 (〇はいくつでも)	n=444
1	セミナーの開催（相続や遺言など）	19.8%
2	専門家による相談会	23.6%
3	相談窓口の設置	44.6%
4	業者の紹介（造園・解体・不動産など）	34.9%
5	空き家の活用方法の提案	45.9%
	（無回答）	4.5%

#### <図IV-9-5>全体



宇都宮空き家会議にして欲しい取組については、「空き家の活用方法の提案」が45.9%、次いで「相談窓口の設置」が44.6%であった。（図IV-9-5）

#### <参考>

性別・年齢別でみると、「空き家の活用方法の提案」は、＜男性10歳代＞が100.0%、次いで＜女性30歳代＞が68.2%であった。「相談窓口の設置」は、＜女性10歳代＞が66.7%で最も高く、次いで＜男性80歳以上＞が61.9%であった。（図IV-9-6）

家族構成別でみると、「空き家の活用方法の提案」は＜親と子ども夫婦（二世帯世帯）＞が56.0%で最も高く、次いで＜親と未婚の子ども（核家族）＞が51.1%であった。「相談窓口の設置」は＜その他＞を除くと、＜親と子ども夫婦（二世帯世帯）＞が52.0%で最も高く、次いで＜夫婦のみ（一世帯世帯）＞が46.7%であった。（図IV-9-6）

居住年数別でみると、「空き家の活用方法の提案」は＜5年以上～10年未満＞が69.2%で最も高く、次いで＜10年以上～20年未満＞が56.7%であった。「相談窓口の設置」は＜20年以上＞が46.9%で最も高く、次いで＜10年以上～20年未満＞が46.7%であった。（図IV-9-6）

<図IV-9-6>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



## 10. 成年後見制度について

### (1) 成年後見制度の認知度

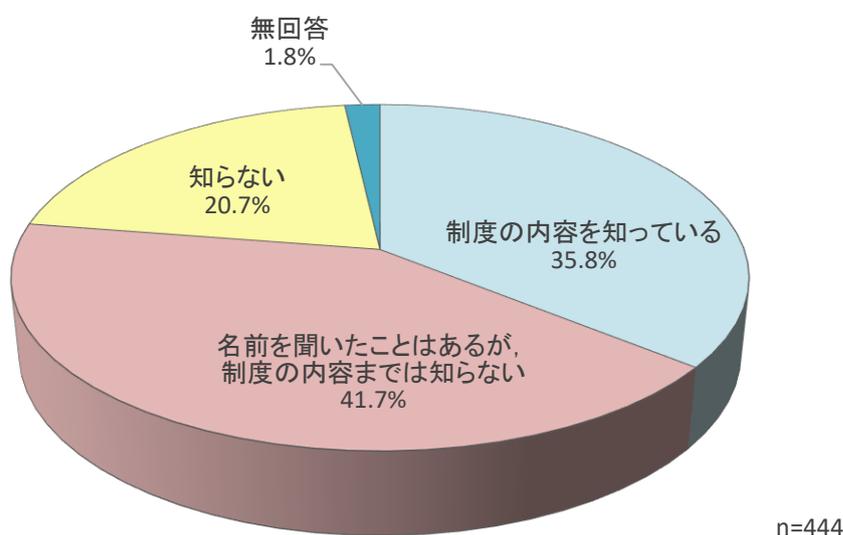
◇ 「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」が4割強

問24 「成年後見制度（※）」を知っていますか。

※ 成年後見制度とは、認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が不十分なため、日常生活で必要となる契約手続きや金銭管理などに支障がある人について、その不十分な判断能力を補い、本人の権利が守られるようにする制度  
(○は1つ)

	n=444
1 制度の内容を知っている	35.8%
2 名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない	41.7%
3 知らない	20.7%
(無回答)	1.8%

<図IV-10-1>全体

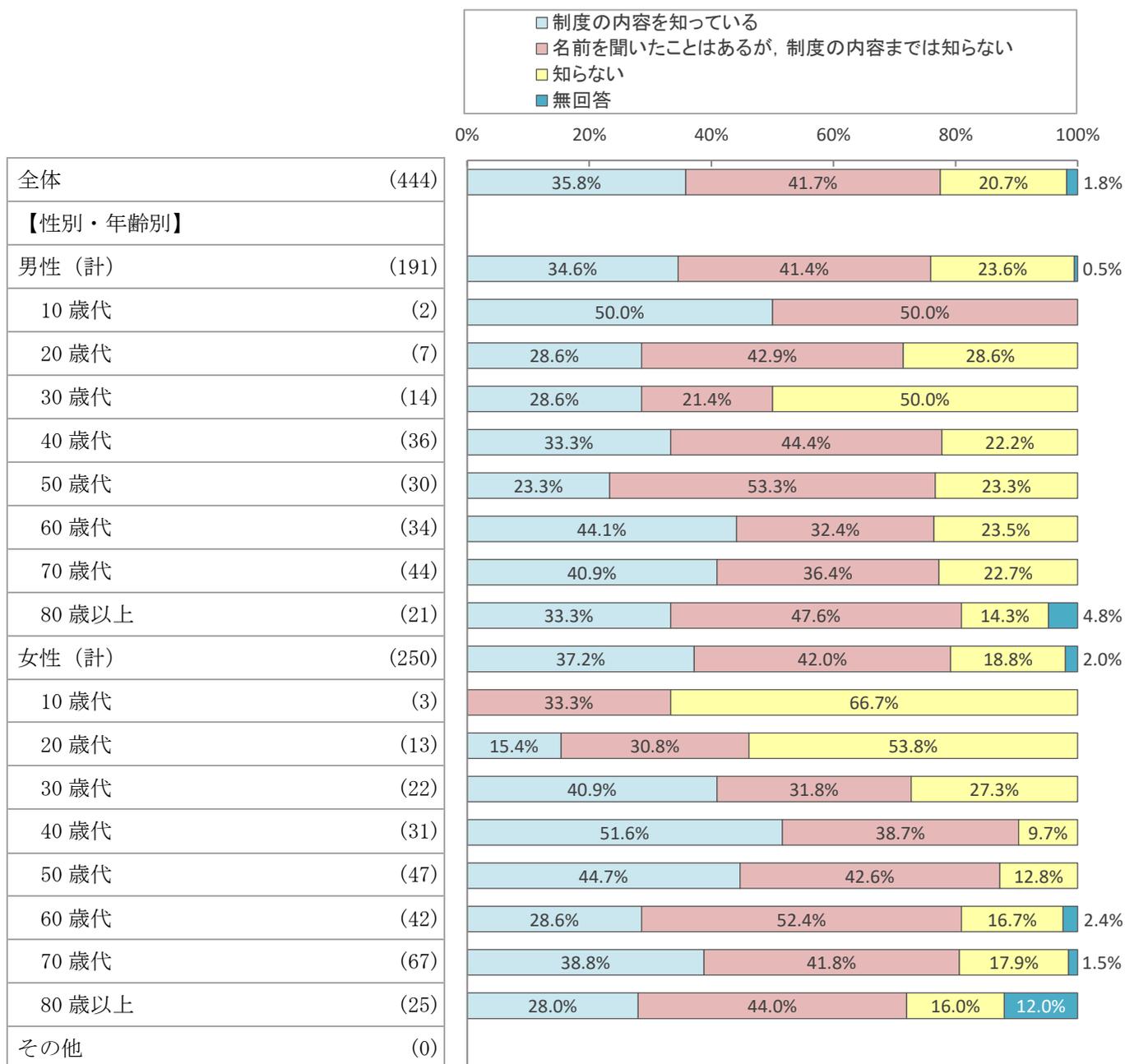


「成年後見制度」を知っているかについては、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」が41.7%で最も高く、次いで「制度の内容を知っている」が35.8%であった。(図IV-10-1)

<参考>

性別・年齢別でみると、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」は<男性50歳代>が53.3%で最も高く、次いで<女性60歳代>が52.4%であった。「制度の内容を知っている」は<女性40歳代>が51.6%で最も高く、次いで<男性10歳代>が50.0%であった。(図IV-10-2)

<図IV-10-2>性別・年齢別



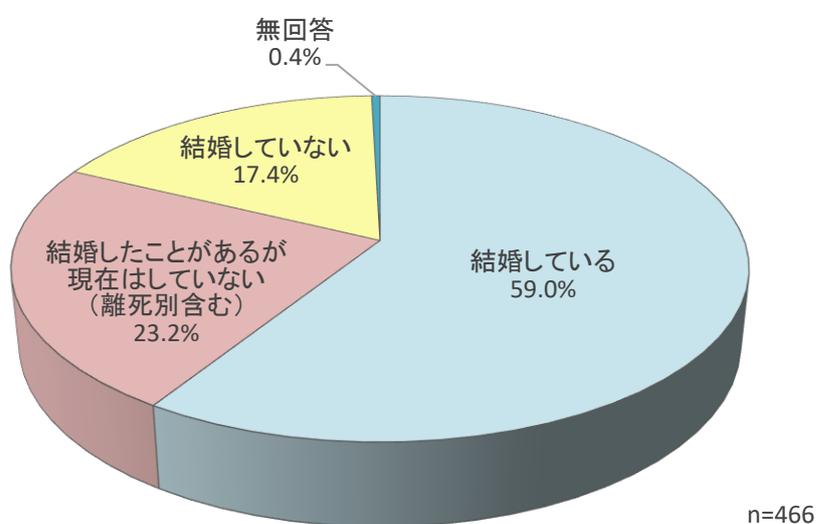
## 1 1. 結婚・出産・子育てに関する意識について

### (1) 結婚しているか

◇ 「結婚している」が約6割

問25	あなたは結婚していますか。	(○は1つ)
		n=466
1	結婚している	59.0%
2	結婚したことがあるが現在はしていない (離死別含む)	23.2%
3	結婚していない	17.4%
	(無回答)	0.4%

<図IV-11-1>全体



結婚しているかについては、「結婚している」が59.0%で最も高く、次いで「結婚したことがあるが現在はしていない (離死別含む)」が23.2%であった。一方、「結婚していない」は17.4%であった。

(図IV-11-1)

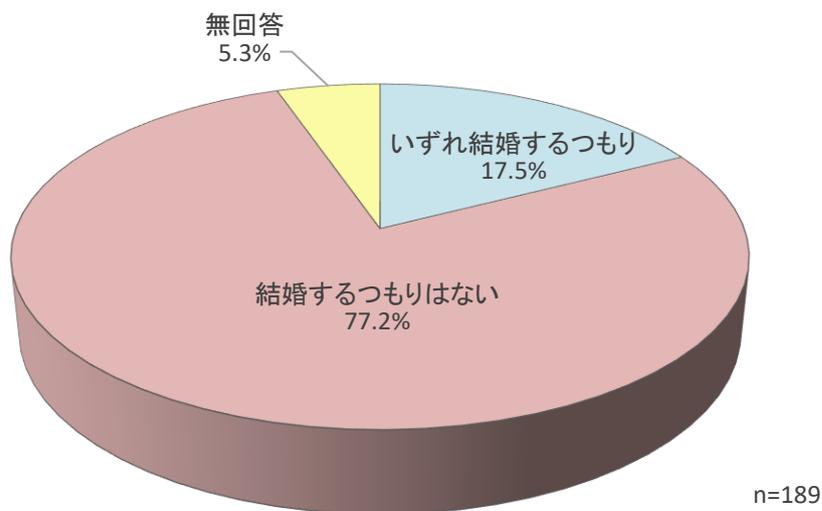
## (2) 結婚に対する考え

### ◇ 「結婚するつもりはない」が8割弱

問26 問25で「2 結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」、「3 結婚していない」を選んだ方にお伺いします。あなたの結婚に対する考えは、次のうちどちらですか。(○は1つ)

		n=189
1	いずれ結婚するつもり	17.5%
2	結婚するつもりはない (無回答)	77.2%
		5.3%

<図IV-11-2>全体



結婚に対する考えについては、「結婚するつもりはない」が 77.2%，一方、「いずれ結婚するつもり」は 17.5%であった。(図IV-11-2)

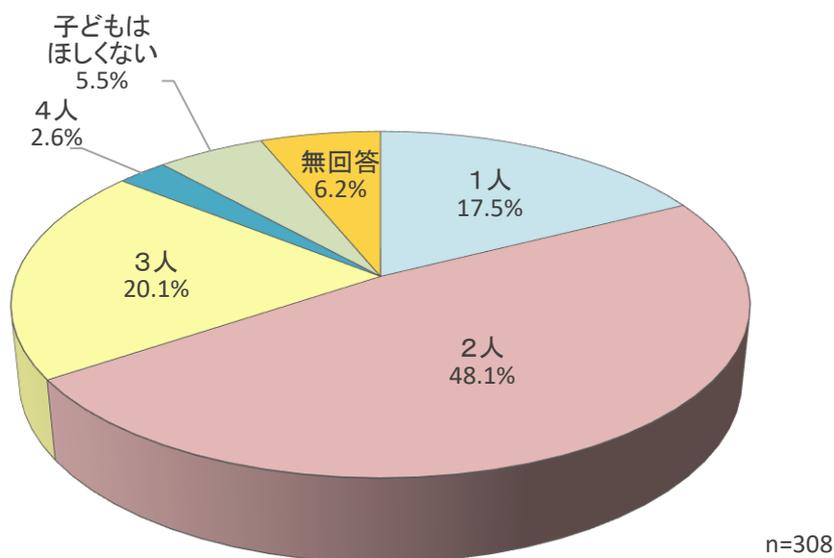
(3) 結婚している (いずれ結婚するつもり) 場合, お子さんは何人ほしいか

◇ 「2人」が5割弱

問27 問25で「1 結婚している」または問26で「1 いずれ結婚するつもり」を選んだ方にお伺いします。お子さんは, 何人ほしいですか。現在, お子さんのいる方は, 合わせた数をお答えください。 (○は1つ)

		n=308
1	1人	17.5%
2	2人	48.1%
3	3人	20.1%
4	4人	2.6%
5	5人以上 ( 人)	0.0%
6	子どもはほしくない (無回答)	5.5% 6.2%

<図IV-11-3>全体



結婚しているもしくはいずれ結婚するつもりを選択した場合, お子さんは何人ほしいかについては, 「2人」が48.1%で最も高く, 次いで「3人」が20.1%, 「1人」が17.5%と続いた。(図IV-11-3)

## 12. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について

### (1) 宮っこを守り・育てる都市宣言の認知度

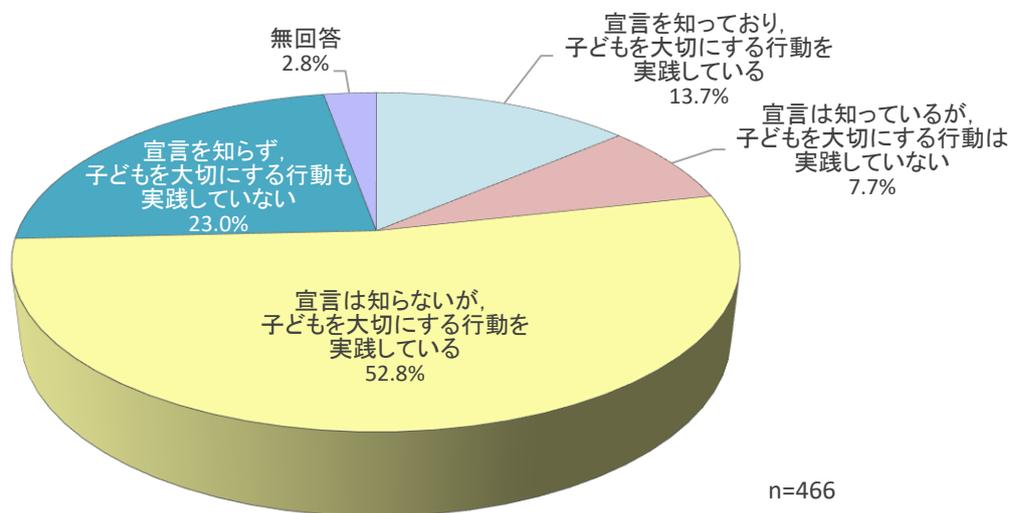
◇ 「宣言は知らないが、子どもを大切にしている行動を実践している」が5割強

問28 「宮っこを守り・育てる都市宣言」(※)を知っていますか。

※ 本宣言は、子どもたち一人ひとりが、地域社会の中で、「人間力」を高めながら、自分らしく、当たり前前に成長できるまち宇都宮を実現するため、「子どもの意見を聞く」「子どもを見守る」など、大人の行動規範として制定した都市宣言です。(〇は1つ)

	n=466
1 宣言を知っており、子どもを大切にしている行動を実践している	13.7%
2 宣言は知っているが、子どもを大切にしている行動は実践していない	7.7%
3 宣言は知らないが、子どもを大切にしている行動を実践している	52.8%
4 宣言を知らず、子どもを大切にしている行動も実践していない	23.0%
(無回答)	2.8%

<図IV-12-1>全体



「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度については、「宣言は知らないが、子どもを大切にしている行動を実践している」が52.8%で最も高く、次いで「宣言を知らず、子どもを大切にしている行動も実践していない」が23.0%であった。(図IV-12-1)

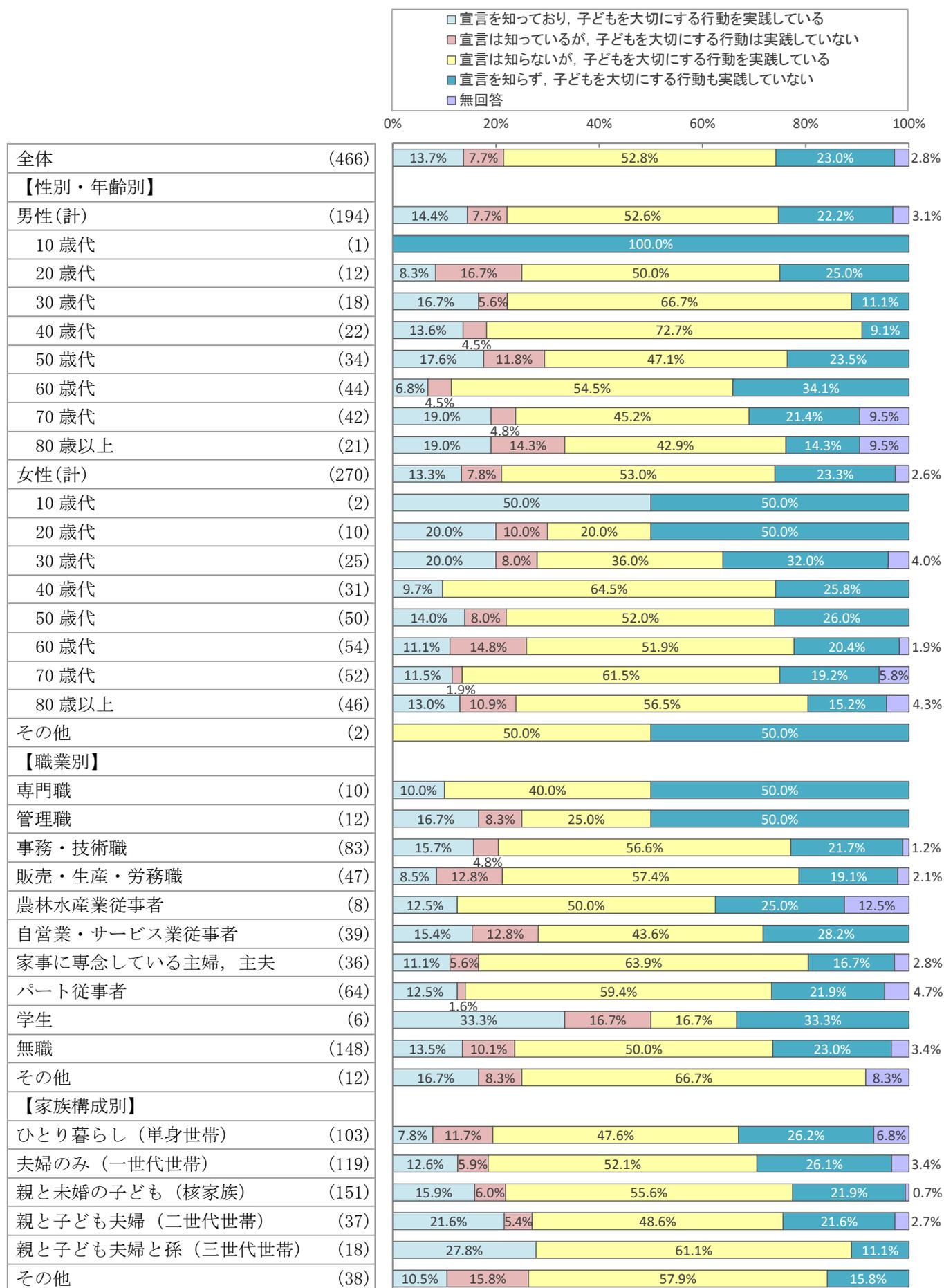
<参考>

性別・年齢別でみると、「宣言は知らないが、子どもを大切にしている行動を実践している」は<男性40歳代>が72.7%で最も高く、次いで<男性30歳代>が66.7%であった。「宣言を知らず、子どもを大切にしている行動も実践していない」は<その他>を除くと、<男性10歳代>が100.0%、次いで<女性10・20歳代>がいずれも50.0%であった。(図IV-12-2)

職業別でみると、「宣言は知らないが、子どもを大切にしている行動を実践している」は<その他>を除くと、<家事に専念している主婦、主夫>が63.9%で最も高く、次いで<パート従事者>が59.4%であった。「宣言を知らず、子どもを大切にしている行動も実践していない」は<専門職><管理職>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<学生>が33.3%であった。(図IV-12-2)

家族構成別でみると、「宣言は知らないが、子どもを大切にしている行動を実践している」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が61.1%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が55.6%であった。「宣言を知らず、子どもを大切にしている行動も実践していない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が26.2%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が26.1%であった。(図IV-12-2)

<図IV-12-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別



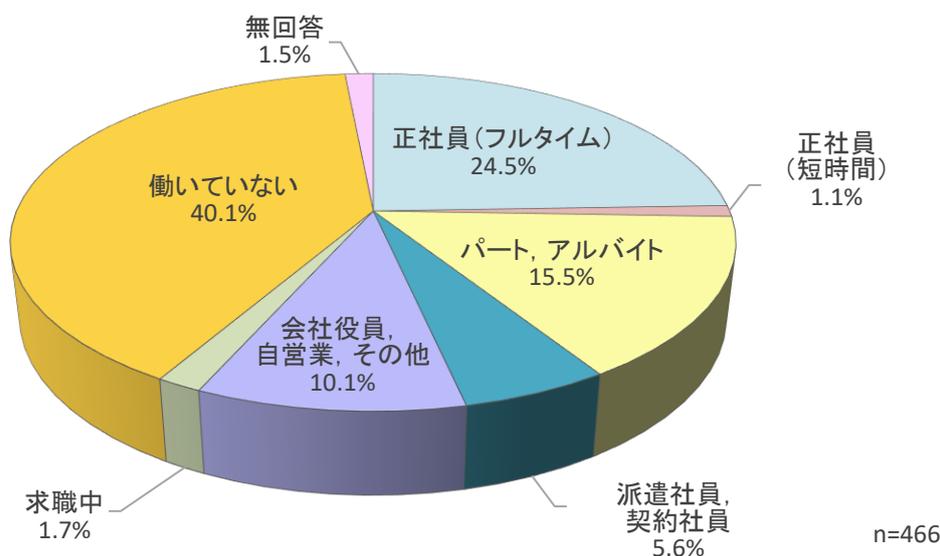
### 1 3. 雇用形態について

#### (1) 現在の雇用形態

◇ 「正社員（フルタイム）」が2割半ば

問 2 9 現在の雇用形態を選択してください。		(○は1つ)
		n=466
1	正社員（フルタイム）	24.5%
2	正社員（短時間）	1.1%
3	パート，アルバイト	15.5%
4	派遣社員，契約社員	5.6%
5	会社役員，自営業，その他	10.1%
6	求職中	1.7%
7	働いていない	40.1%
	（無回答）	1.5%

<図IV-13-1>全体



現在の雇用形態については、「働いていない」を除くと、「正社員（フルタイム）」が24.5%であった。（図IV-13-1）

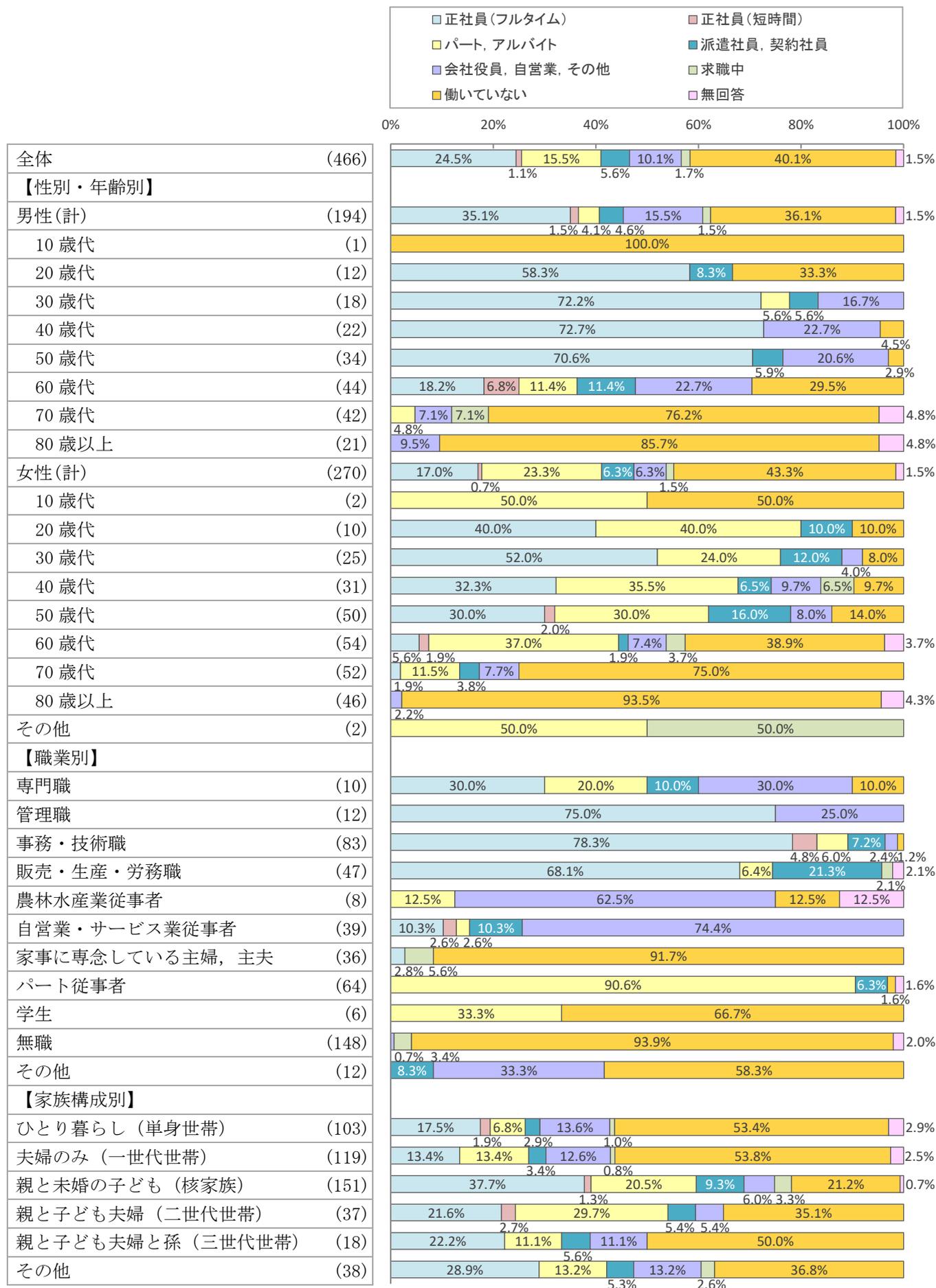
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「働いていない」を除くと、「正社員（フルタイム）」は<男性 40 歳代>が72.7%で最も高く、次いで<男性 30 歳代>が72.2%であった。（図IV-13-2）

職業別でみると、「働いていない」を除くと、「正社員（フルタイム）」は<事務・技術職>が78.3%で最も高く、次いで<管理職>が75.0%であった。（図IV-13-2）

家族構成別でみると、「働いていない」を除くと、「正社員（フルタイム）」は<親と未婚の子ども（核家族）>が37.7%で最も高く、次いで<その他>が28.9%であった。（図IV-13-2）

<図Ⅳ-13-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

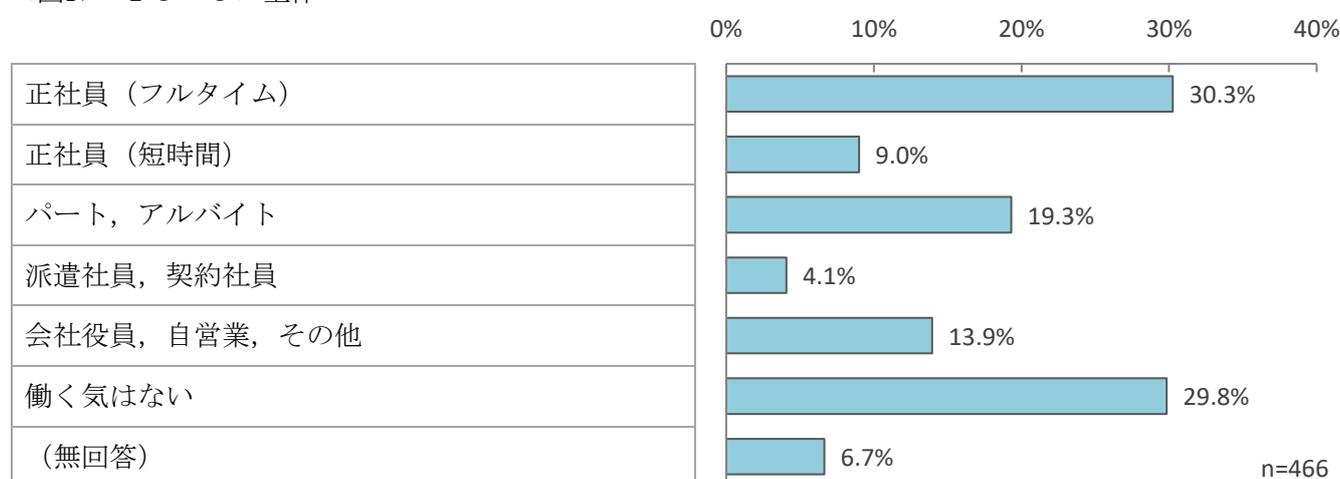


## (2) 希望する雇用形態

### ◇ 「正社員（フルタイム）」と「働く気はない」が約3割

問30 希望する雇用形態を選択してください。		(○は2つまで)
		n=466
1	正社員（フルタイム）	30.3%
2	正社員（短時間）	9.0%
3	パート，アルバイト	19.3%
4	派遣社員，契約社員	4.1%
5	会社役員，自営業，その他	13.9%
6	働く気はない	29.8%
	(無回答)	6.7%

#### <図IV-13-3>全体



希望する雇用形態については、「正社員（フルタイム）」が 30.3%，次いで「働く気はない」が 29.8%であった。（図IV-13-3）

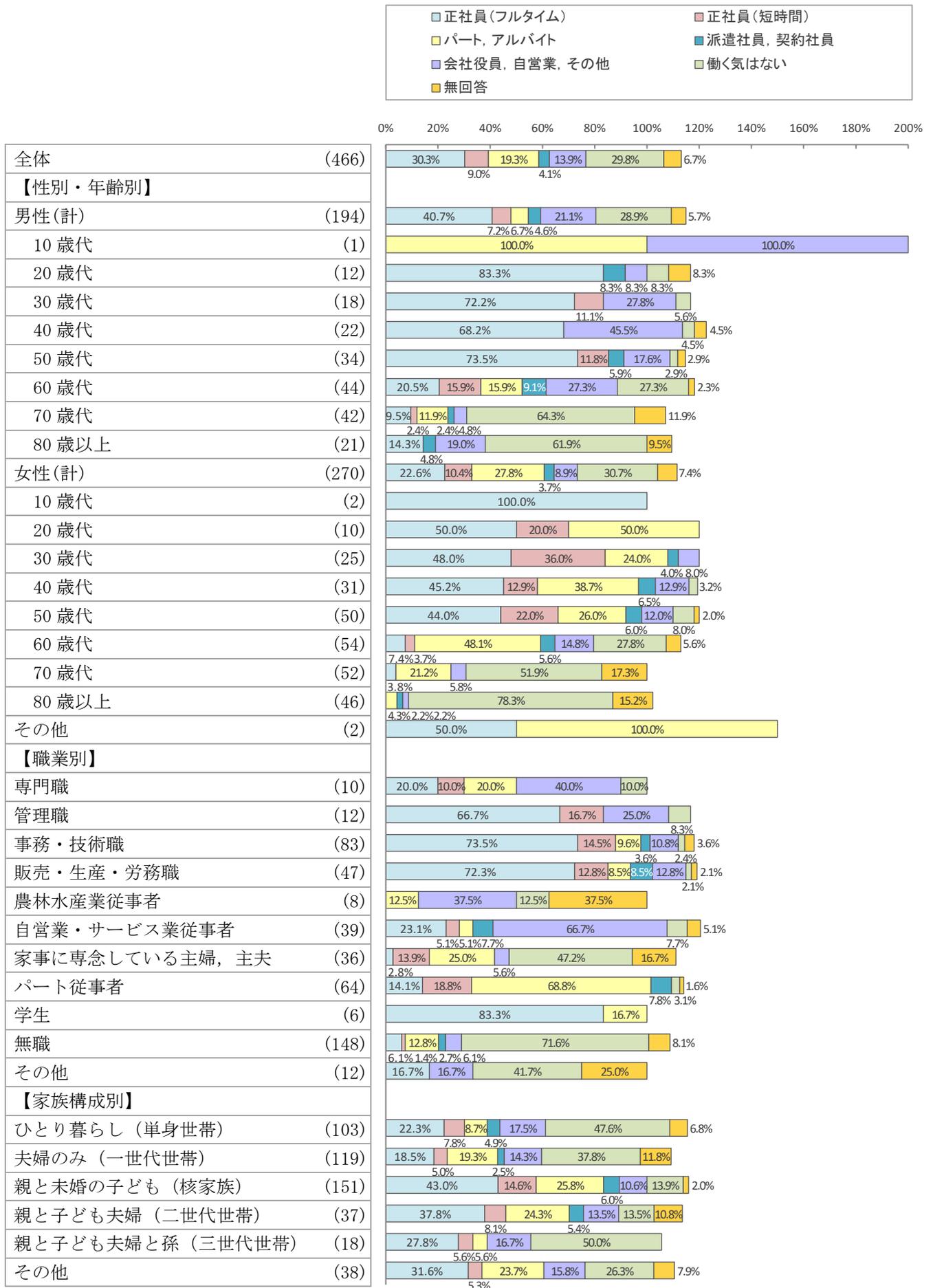
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「正社員（フルタイム）」は<女性 10 歳代>が 100.0%，次いで<男性 20 歳代>が 83.3%であった。「働く気はない」は<女性 80 歳以上>が 78.3%で最も高く，次いで<男性 70 歳代>が 64.3%であった。（図IV-13-4）

職業別でみると、「正社員（フルタイム）」は<学生>が 83.3%で最も高く，次いで<事務・技術職>が 73.5%であった。「働く気はない」は<無職>が 71.6%で最も高く，次いで<家事に専念している主婦，主夫>が 47.2%であった。（図IV-13-4）

家族構成別でみると、「正社員（フルタイム）」は<親と未婚の子ども（核家族）>が 43.0%で最も高く，次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 37.8%であった。「働く気はない」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 50.0%で最も高く，次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が 47.6%であった。（図IV-13-4）

<図IV-13-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別

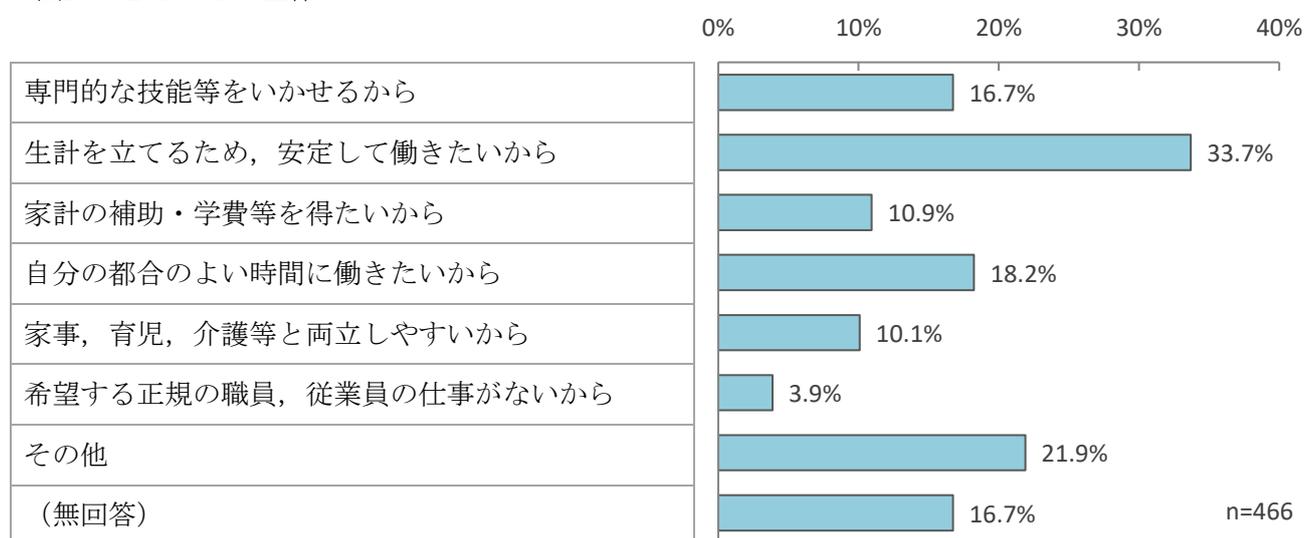


### (3) 希望する雇用形態を選んだ理由

◇ 「生計を立てるため，安定して働きたいから」が3割半ば

問31	問30の雇用形態を選んだ理由を選択してください。	(○はいくつでも)	n=466
1	専門的な技能等をいかせるから		16.7%
2	生計を立てるため，安定して働きたいから		33.7%
3	家計の補助・学費等を得たいから		10.9%
4	自分の都合のよい時間に働きたいから		18.2%
5	家事，育児，介護等と両立しやすいから		10.1%
6	希望する正規の職員，従業員の仕事がないから		3.9%
7	その他		21.9%
	(無回答)		16.7%

<図IV-13-5>全体



希望する雇用形態を選んだ理由については，<その他>を除くと，「生計を立てるため，安定して働きたいから」が33.7%，次いで「自分の都合のよい時間に働きたいから」が18.2%であった。(図IV-13-5)

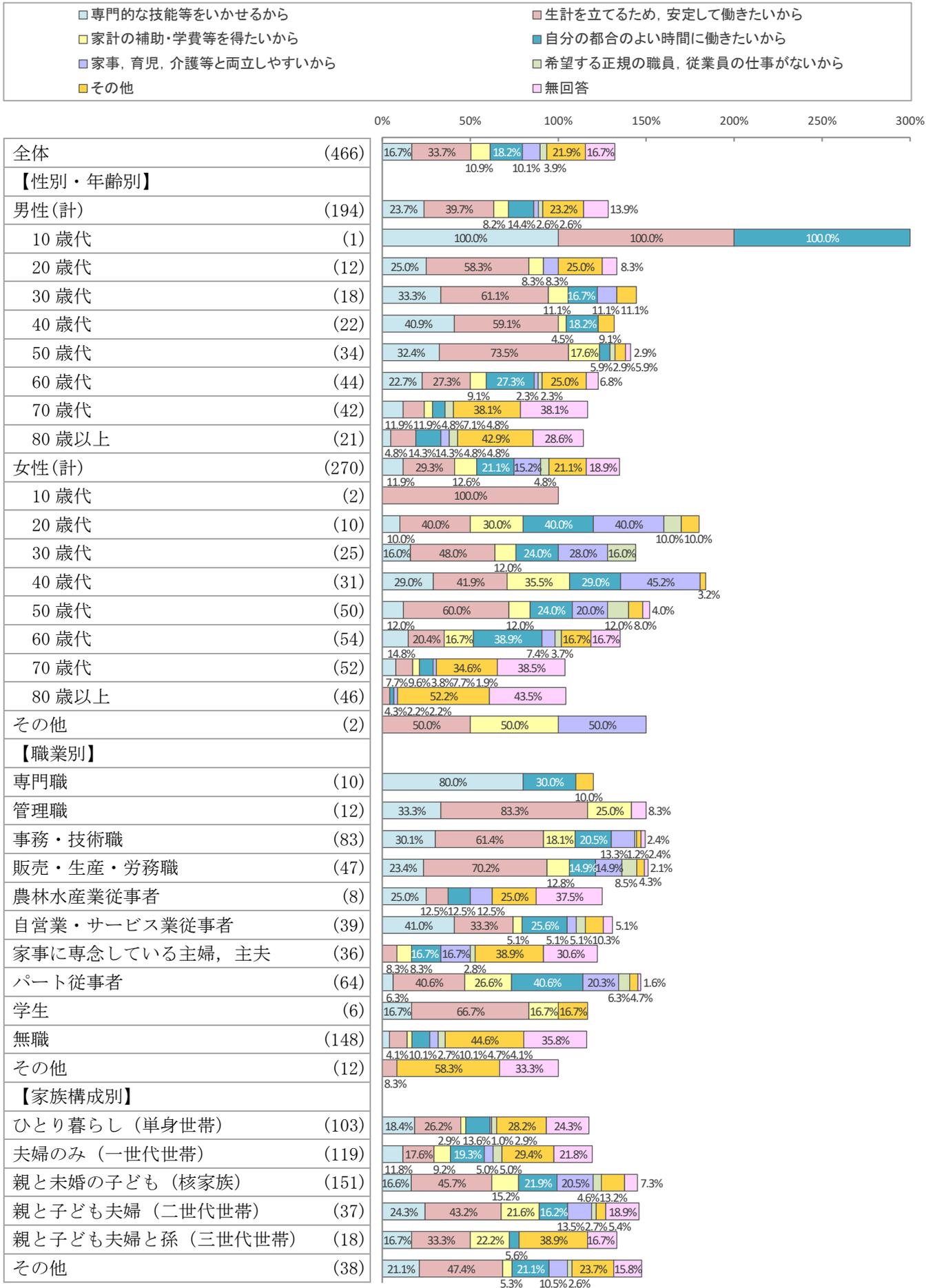
<参考>

性別・年齢別でみると，「生計を立てるため，安定して働きたいから」は<男性10歳代><女性10歳代>が100.0%，次いで<男性50歳代>が73.5%であった。「自分の都合のよい時間に働きたいから」は<男性10歳代>が100.0%，次いで<女性20歳代>が40.0%であった。(図IV-13-6)

職業別でみると，「生計を立てるため，安定して働きたいから」は<管理職>が83.3%で最も高く，次いで<販売・生産・労務職>が70.2%であった。「自分の都合のよい時間に働きたいから」は<パート従事者>が40.6%で最も高く，次いで<専門職>が30.0%であった。(図IV-13-6)

家族構成別でみると，「生計を立てるため，安定して働きたいから」は<その他>を除くと，<親と未婚の子ども(核家族)>が45.7%で最も高く，次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が43.2%であった。「自分の都合のよい時間に働きたいから」は<その他>を除くと，<親と未婚の子ども(核家族)>が21.9%で最も高く，次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が19.3%であった。(図IV-13-6)

<図IV-13-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別



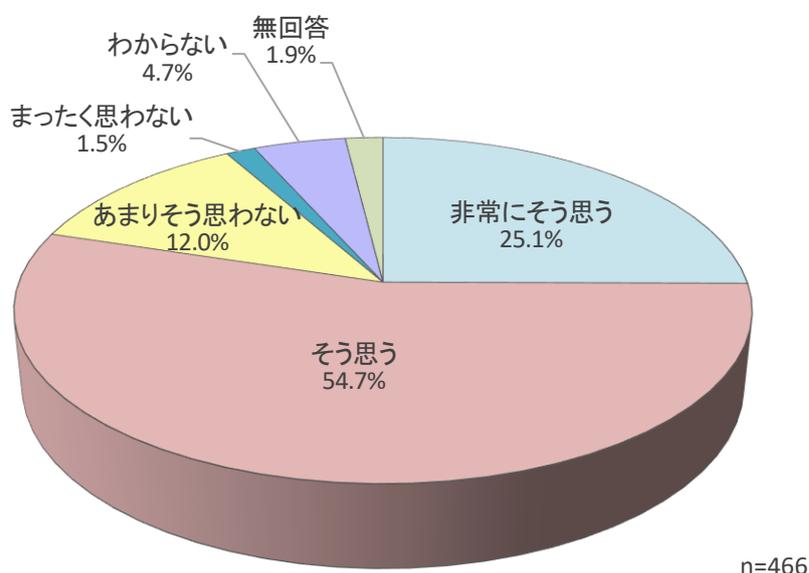
## 1 4. 宇都宮産の農産物について

### (1) 宇都宮産の農産物の購入意欲

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約8割

問 3 2 「宇都宮産」の農産物を積極的に選択して購入したいと思いますか。	(○は1つ)
	n=466
1 非常にそう思う	25.1%
2 そう思う	54.7%
3 あまりそう思わない	12.0%
4 まったく思わない	1.5%
5 わからない	4.7%
(無回答)	1.9%

<図IV-14-1>全体



「宇都宮産」の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」が 25.1%、「そう思う」が 54.7%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は 79.8%であった。一方、「あまりそう思わない」が 12.0%、「まったく思わない」が 1.5%で、これらを合わせた【思わない（計）】は 13.5%であった。（図IV-14-1）

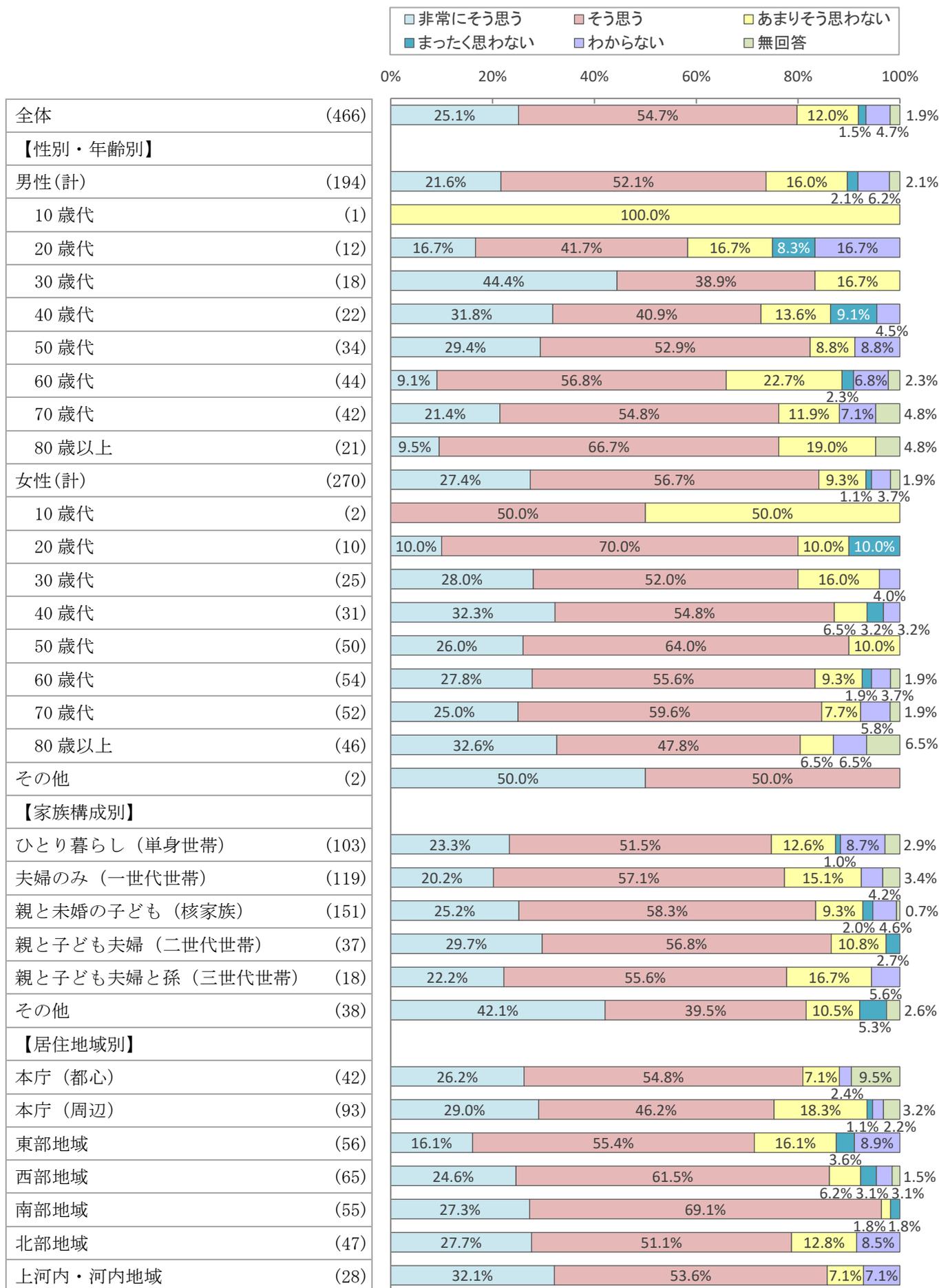
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は<その他>を除くと、<女性 50 歳代>が 90.0%で最も高く、次いで<女性 40 歳代>が 87.1%であった。一方、【思わない（計）】は<男性 10 歳代>が 100.0%、次いで<女性 10 歳代>が 50.0%であった。（図IV-14-2）

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 86.5%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が 83.5%であった。一方、【思わない（計）】は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 16.7%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が 15.1%であった。（図IV-14-2）

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は<南部地域>が 96.4%で最も高く、次いで<西部地域>が 86.1%であった。一方、【思わない（計）】は<東部地域>が 19.7%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が 19.4%であった。（図IV-14-2）

<図Ⅳ-14-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

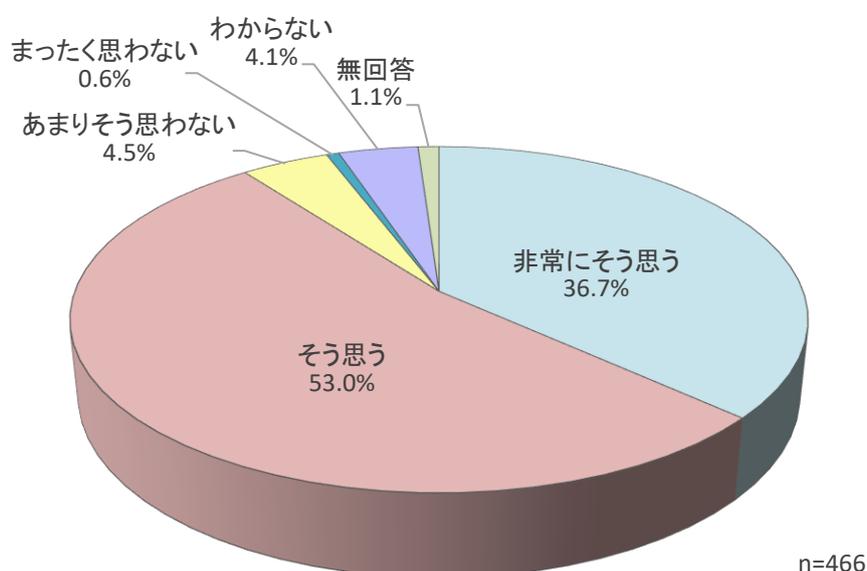


## (2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割

問33 宇都宮の農業を大切にしたいと思いますか。		(○は1つ)
		n=466
1	非常にそう思う	36.7%
2	そう思う	53.0%
3	あまりそう思わない	4.5%
4	まったく思わない	0.6%
5	わからない	4.1%
	(無回答)	1.1%

<図IV-14-3>全体



宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」が36.7%、「そう思う」が53.0%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は89.7%であった。一方、「あまりそう思わない」が4.5%、「まったく思わない」が0.6%で、これらを合わせた【思わない（計）】は5.1%であった。（図IV-14-3）

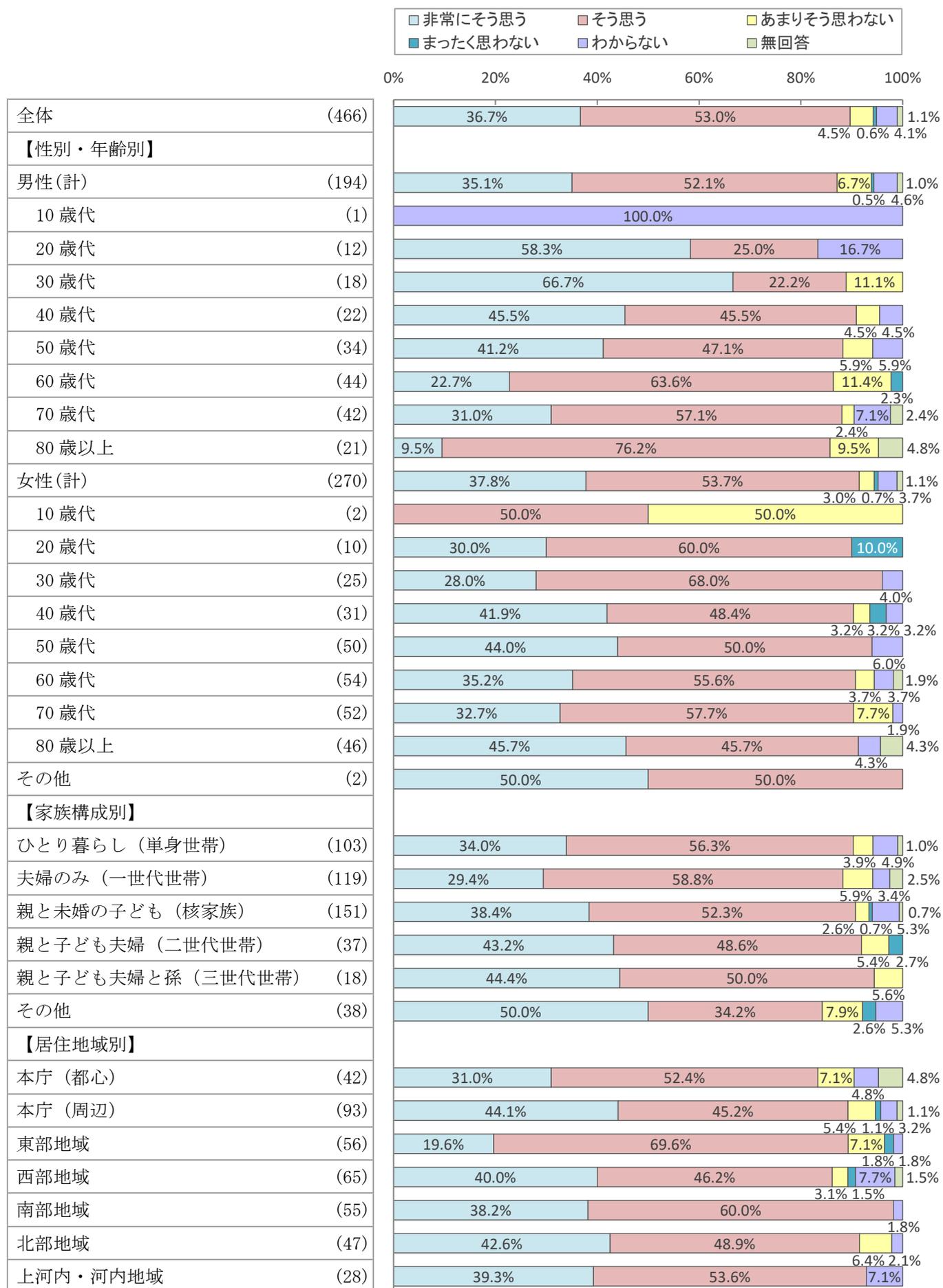
### <参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は<その他>を除くと、<女性30歳代>が96.0%で最も高く、次いで<女性50歳代>が94.0%であった。一方、【思わない（計）】は<女性10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性60歳代>が13.7%であった。（図IV-14-4）

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が94.4%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が91.8%であった。一方、【思わない（計）】は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が8.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が5.9%であった。（図IV-14-4）

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は<南部地域>が98.2%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が92.9%であった。一方、【思わない（計）】は<東部地域>が8.9%で最も高く、次いで<本庁（都心）>が7.1%であった。（図IV-14-4）

<図IV-14-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

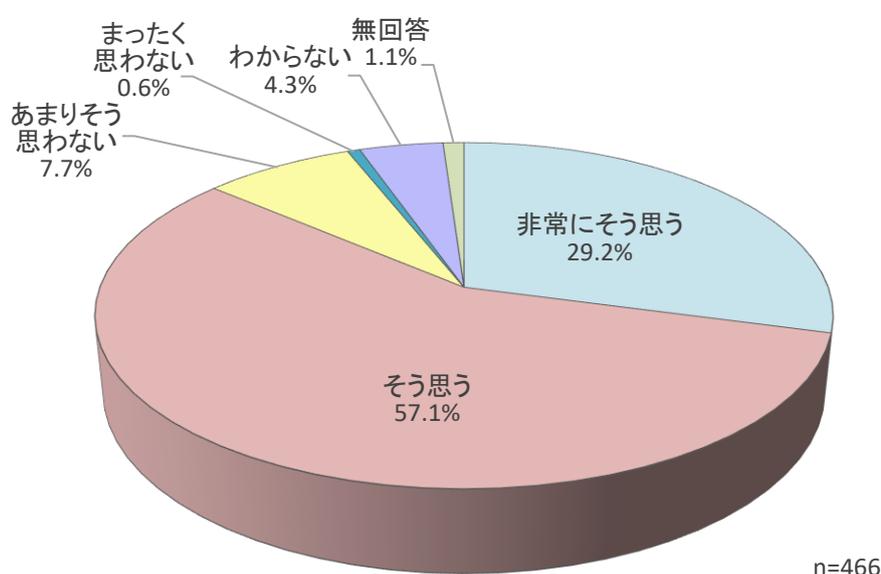


### (3) 環境に配慮して生産された農産物の購入意欲

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割半ば

問34 環境に配慮して生産された農産物を積極的に選択して購入したいと思いますか。 (○は1つ)		n=466
1	非常にそう思う	29.2%
2	そう思う	57.1%
3	あまりそう思わない	7.7%
4	まったく思わない	0.6%
5	わからない	4.3%
	(無回答)	1.1%

<図IV-14-5>全体



環境に配慮して生産された農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」が29.2%、「そう思う」が57.1%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は86.3%であった。一方、「あまりそう思わない」が7.7%、「まったく思わない」が0.6%で、これらを合わせた【思わない（計）】は8.3%であった。

(図IV-14-5)

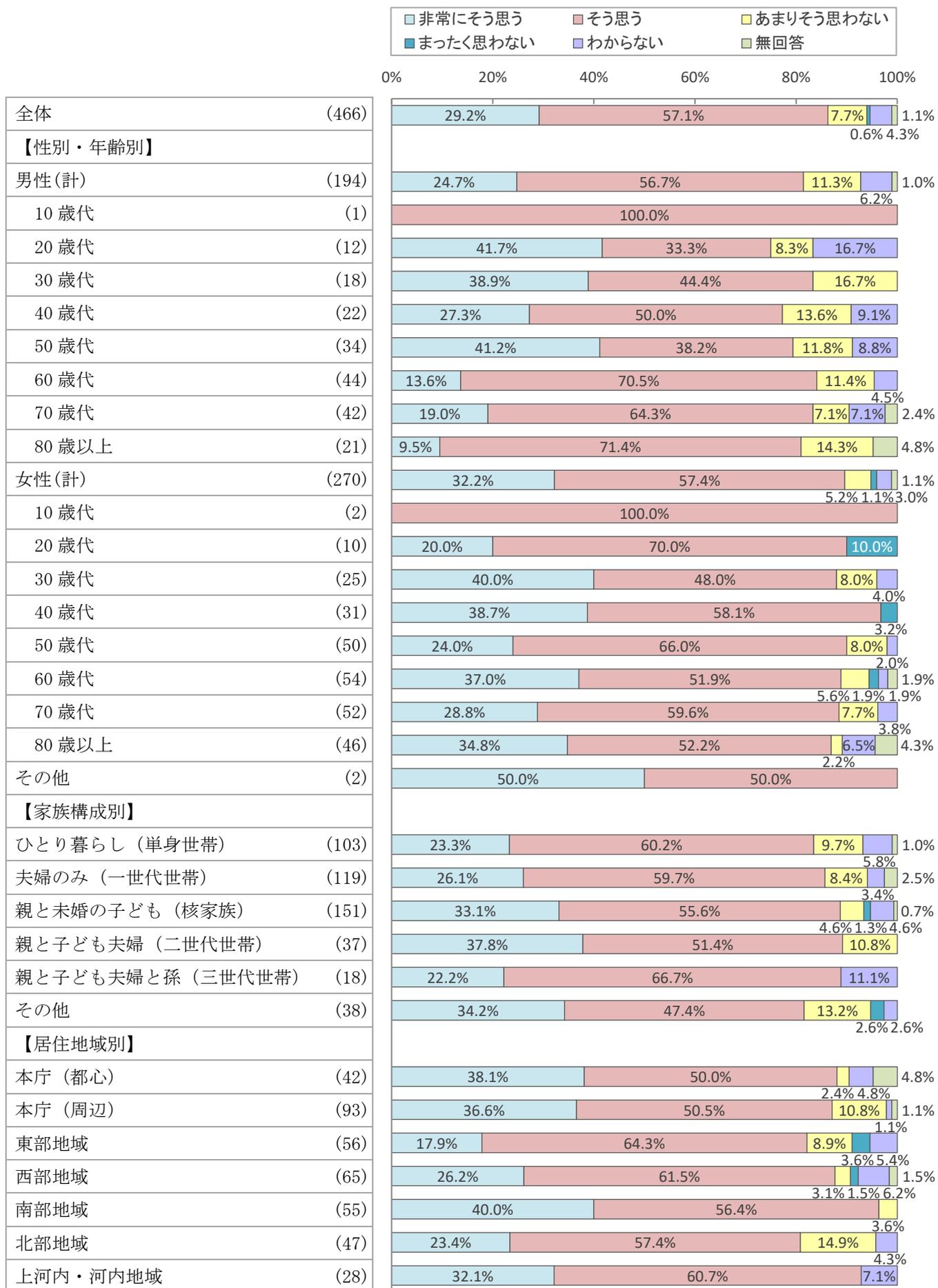
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は<その他>を除くと、<男性10歳代><女性10歳代>が100.0%、次いで<女性40歳代>が96.8%であった。一方、【思わない（計）】は<男性30歳代>が16.7%で最も高く、次いで<男性80歳以上>が14.3%であった。(図IV-14-6)

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が89.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が88.9%であった。一方、【思わない（計）】は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が10.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が9.7%であった。(図IV-14-6)

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は<南部地域>が96.4%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が92.8%であった。一方、【思わない（計）】は<北部地域>が14.9%で最も高く、次いで<東部地域>が12.5%であった。(図IV-14-6)

<図IV-14-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



## 15. カーボンニュートラル（脱炭素）について

### (1) 省エネルギーや創エネルギーなどの取組

◇ 「取り組んでいる」は『断熱性の高い壁・屋根・窓への改修』が2割弱

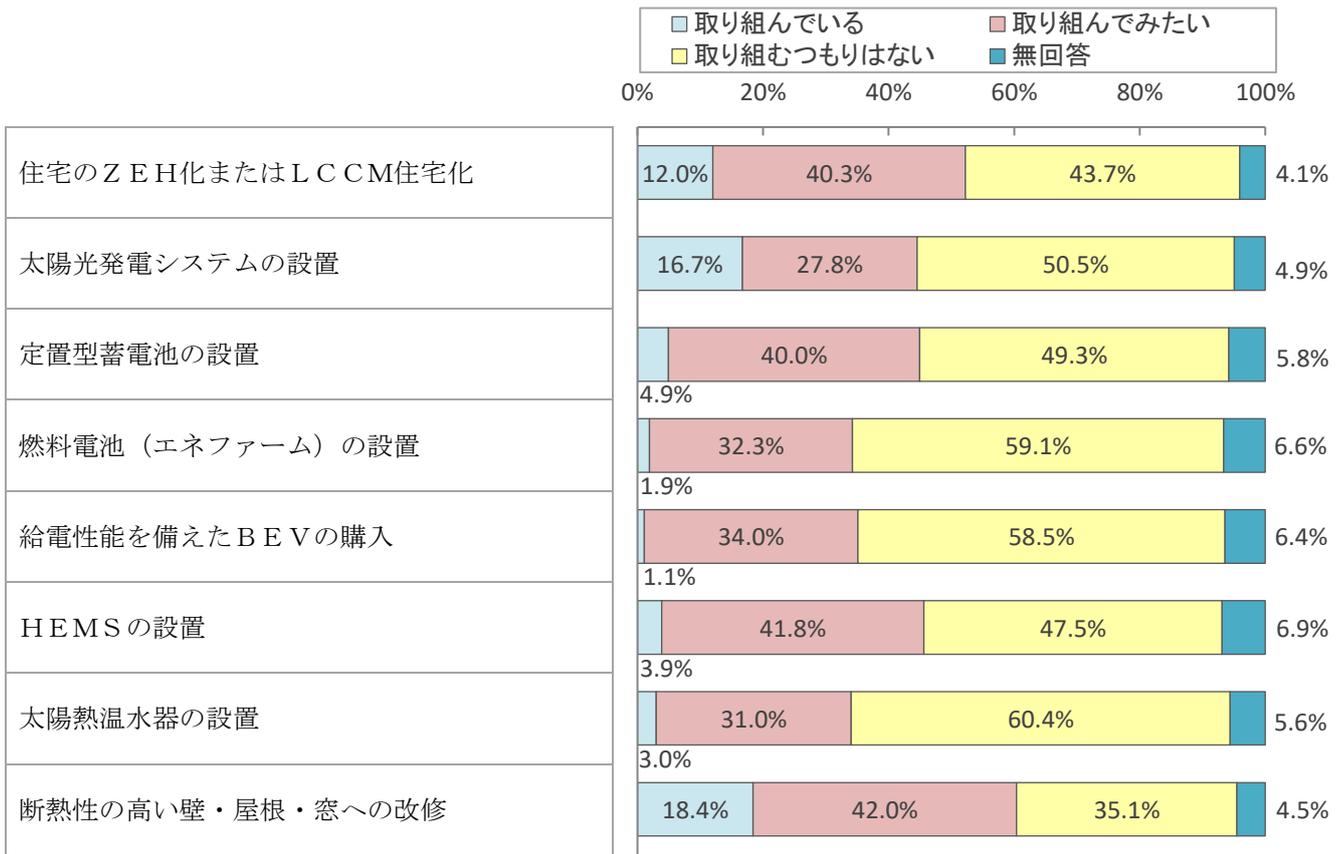
問35 省エネルギーや創エネルギーなどの取組について、以下の設備・機器等の導入に「取り組んでいる」場合は1, 「取り組んでみたい」場合は2, 「取り組むつもりはない」場合は3で教えてください。

1 「取り組んでいる」, 2 「取り組んでみたい」, 3 「取り組むつもりはない」 (○は1つ)

n=467

項目	取り組んでいる	取り組んでみたい	取り組むつもりはない	(無回答)	合計
1 住宅のZEH（※1）化またはLCCM住宅（※2）化  ※1 ゼロ・エネルギー・ハウスの略。窓や壁の断熱性能を向上させるとともに、省エネ設備を導入することで省エネルギーを実現し、太陽光発電設備等の再生可能エネルギーの導入によりエネルギーを自給自足することで、太陽光発電設備等で創ったエネルギーと家庭で使うエネルギーをつり合わせ、1年間で消費するエネルギーを実質的にゼロとすることを旨とした住宅  ※2 ライフ・サイクル・カーボン・マイナス住宅の略。居住時だけでなく、住宅の建設から廃棄時に至るまでできるだけ省CO2に取り組む、太陽光発電設備等の利用により、住宅建設時のCO2排出量も含めライフサイクルを通じてのCO2の収支をマイナスにする住宅	12.0%	40.3%	43.7%	4.1%	100.0%
2 太陽光発電システムの設置	16.7%	27.8%	50.5%	4.9%	100.0%
3 定置型蓄電池の設置	4.9%	40.0%	49.3%	5.8%	100.0%
4 燃料電池（エネファーム）の設置	1.9%	32.3%	59.1%	6.6%	100.0%
5 給電性能を備えたBEV（※）の購入 ※ ガソリンを使わず電気のみを使用して走行する車	1.1%	34.0%	58.5%	6.4%	100.0%
6 HEMS（※）の設置 ※ ホームエネルギーマネジメントシステムの略。家庭でのエネルギー使用状況を、専用のモニターやパソコン、スマートフォン等に表示することにより、家庭における快適性や省エネルギーを支援するシステム	3.9%	41.8%	47.5%	6.9%	100.0%
7 太陽熱温水器の設置	3.0%	31.0%	60.4%	5.6%	100.0%
8 断熱性の高い壁・屋根・窓への改修	18.4%	42.0%	35.1%	4.5%	100.0%

<図IV-15-1>全体



n=467

省エネルギーや創エネルギーなどの取組については、「取り組んでいる」は『断熱性の高い壁・屋根・窓への改修』が18.4%で最も高く、次いで『太陽光発電システムの設置』が16.7%、『住宅のZEH化またはLCCM住宅化』が12.0%と続いた。「取り組むつもりはない」は『太陽熱温水器の設置』が60.4%で最も高く、次いで『燃料電池（エネファーム）の設置』が59.1%、『給電性能を備えたBEVの購入』が58.5%と続いた。（図IV-15-1）

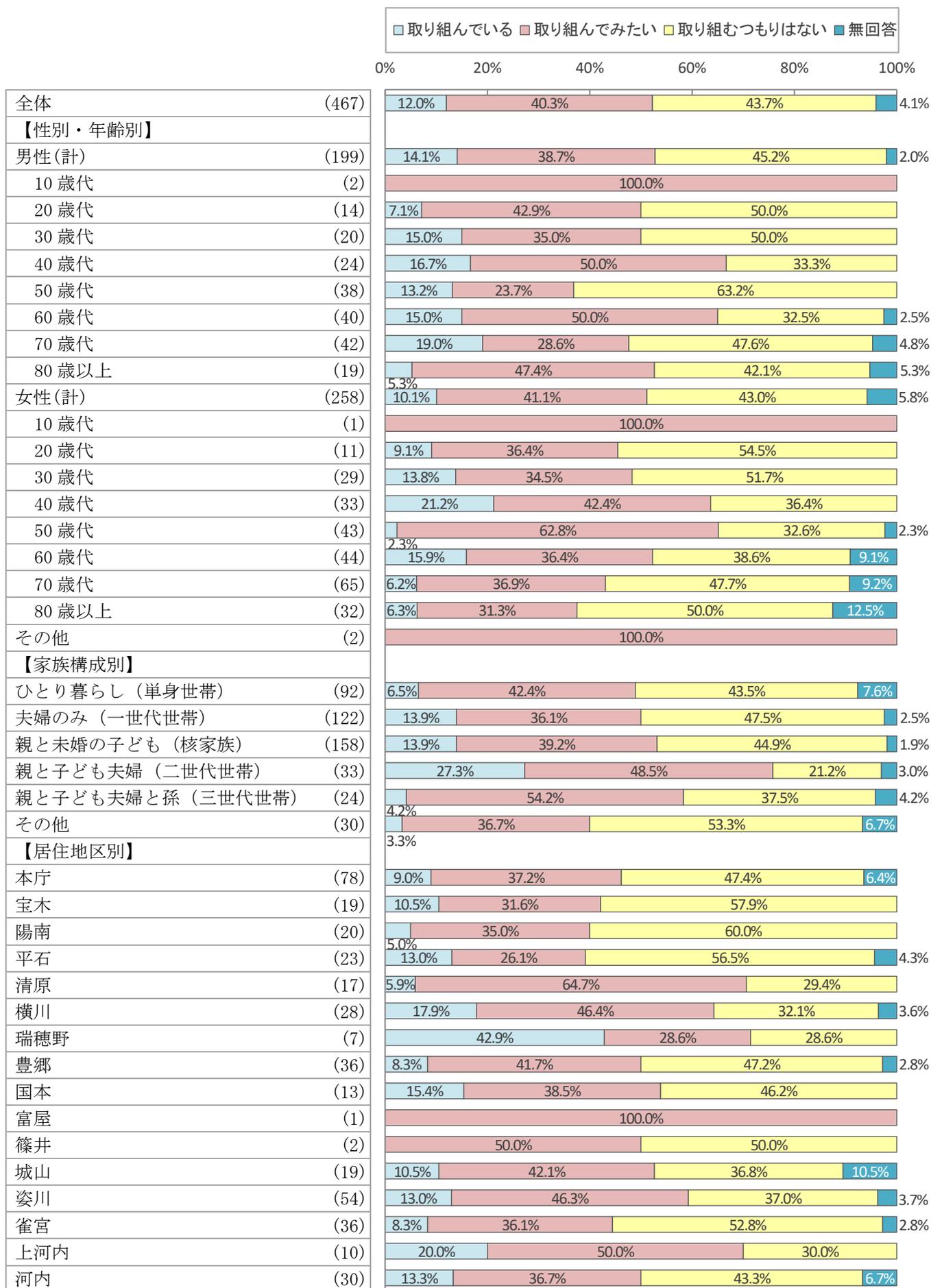
<参考>

省エネルギーや創エネルギーなどの取組について「取り組んでいる」が最も高かった『断熱性の高い壁・屋根・窓への改修』を性別・年齢別でみると、<女性30歳代>が34.5%で最も高く、次いで<女性40歳代>が27.3%、<男性40歳代><女性60歳代>がいずれも25.0%と続いた。（図IV-15-9）

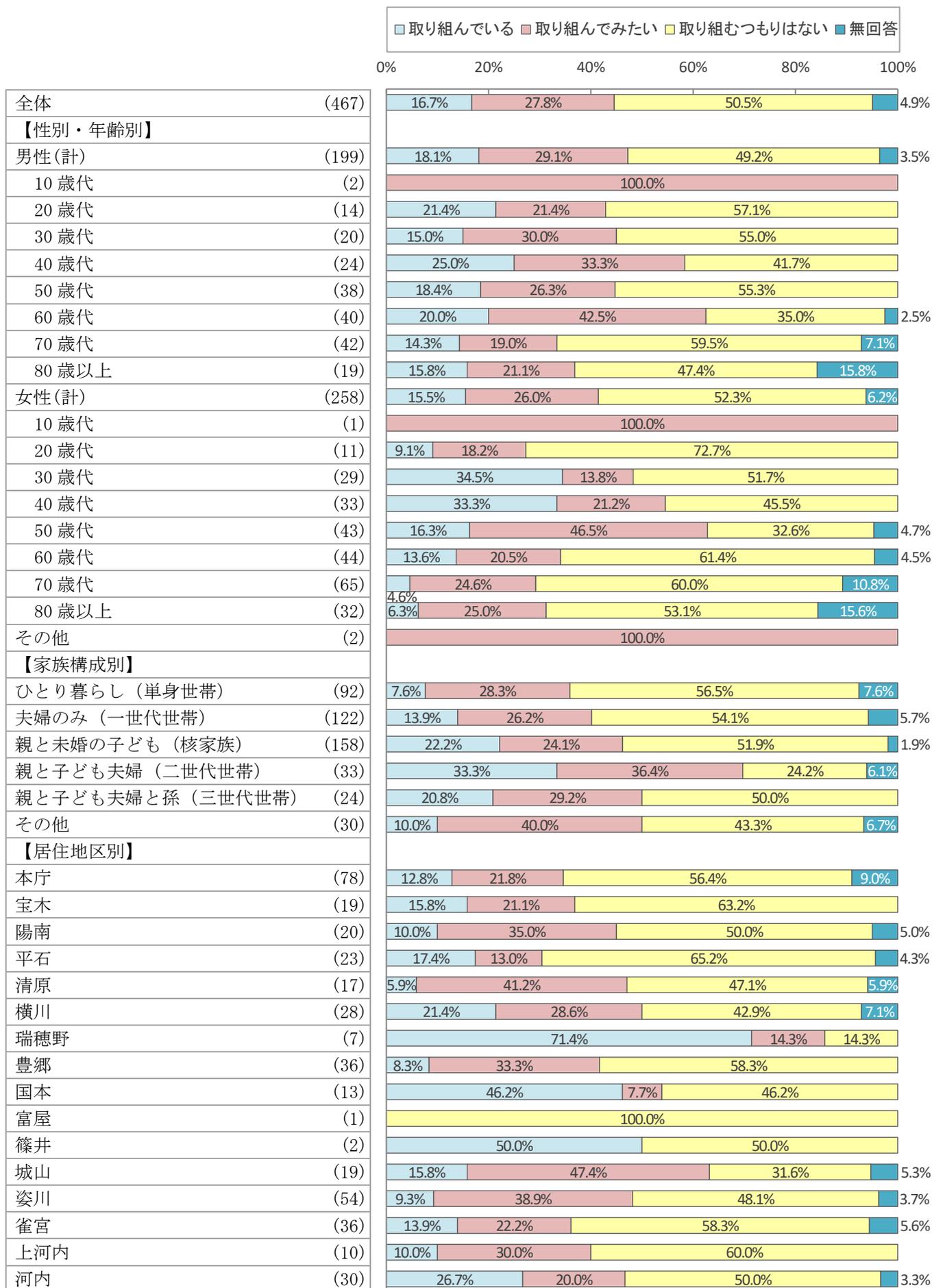
家族構成別でみると、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が39.4%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が21.5%、<夫婦のみ（一世帯世帯）>が21.3%と続いた。（図IV-15-9）

居住地区別でみると、<富屋>が100.0%、次いで<瑞穂野>が42.9%、<清原>が29.4%と続いた。（図IV-15-9）

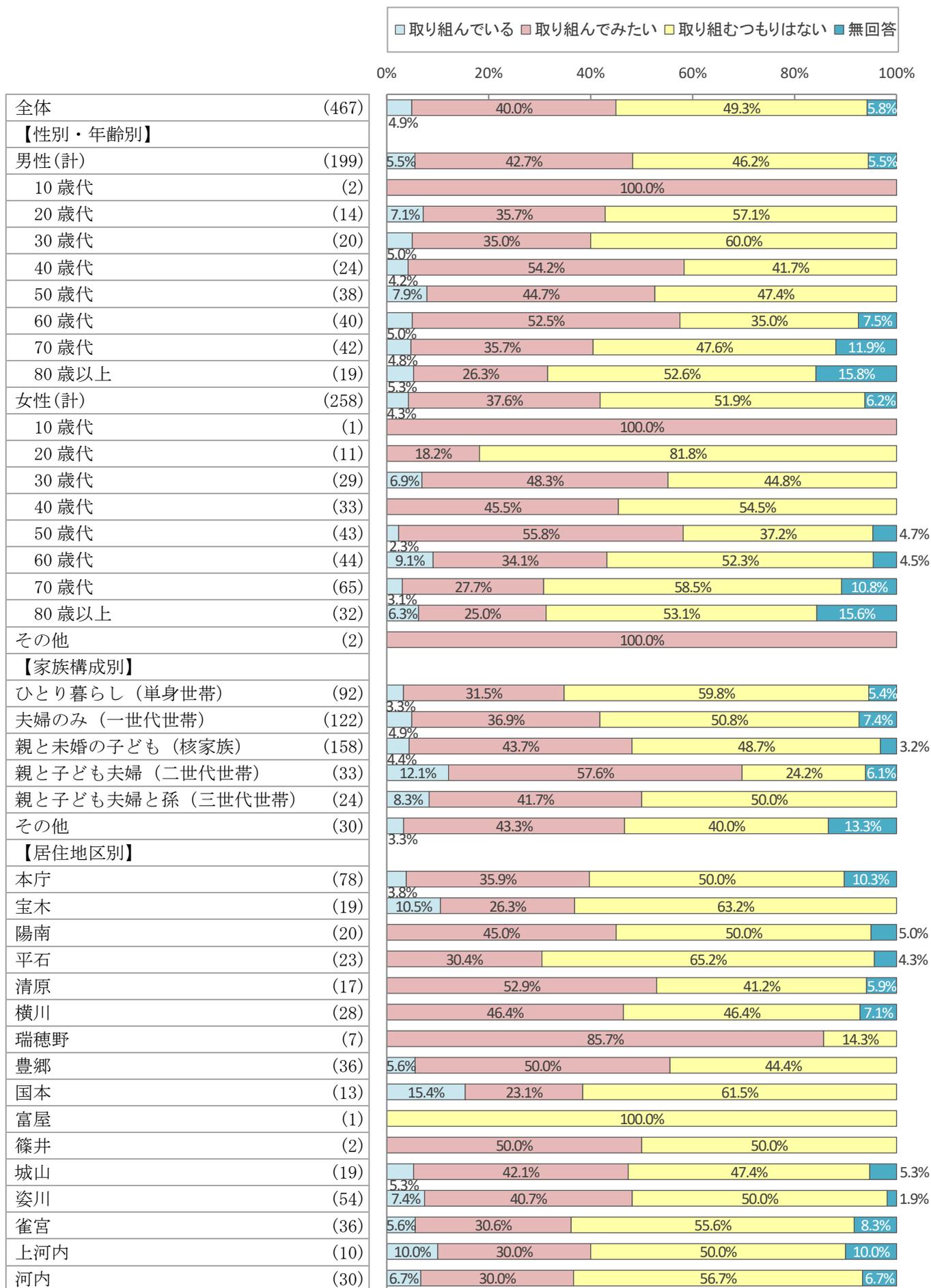
<図IV-15-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「住宅のZEH化またはLCCM住宅化」



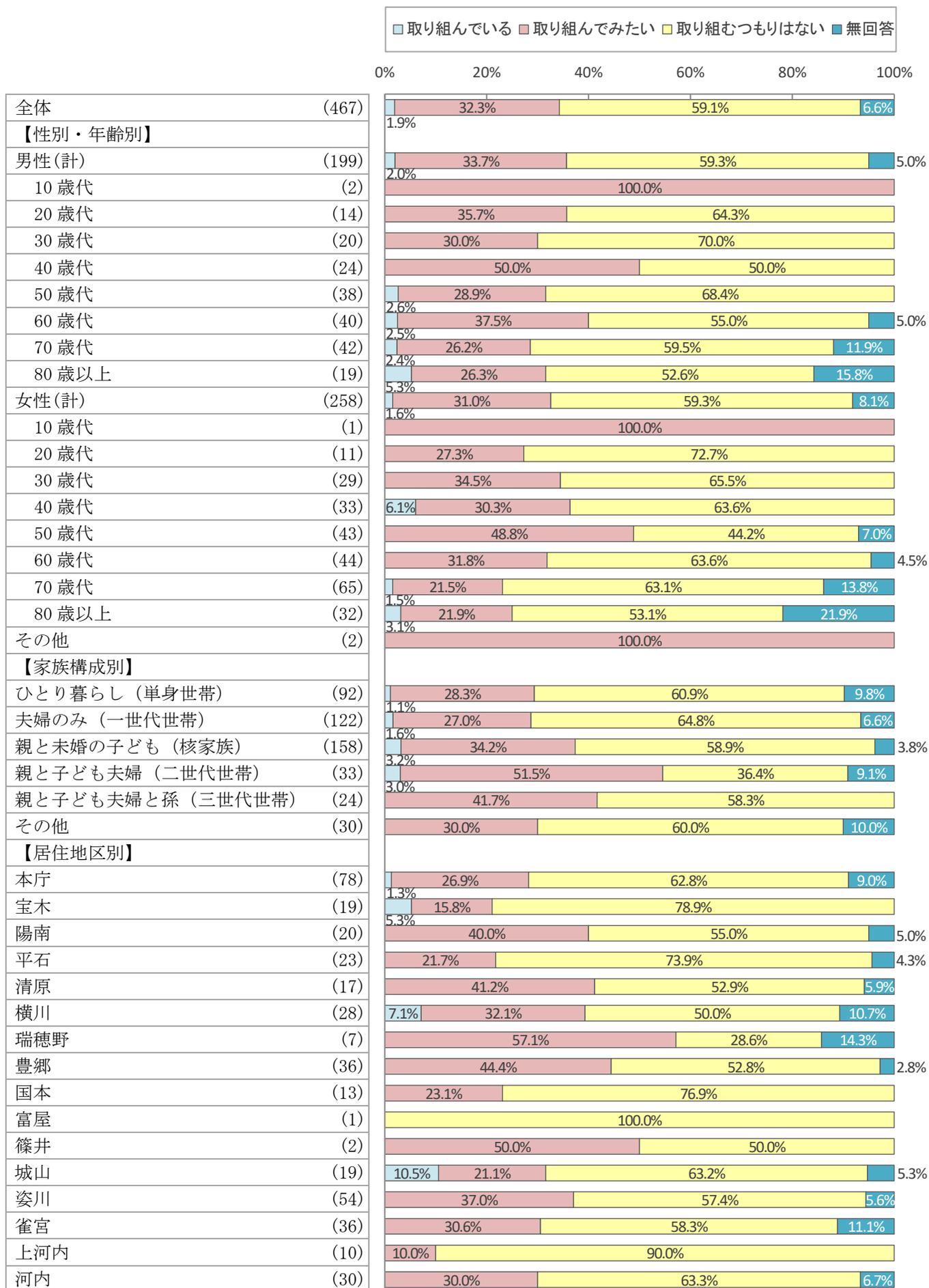
<図IV-15-3>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「太陽光発電システムの設置」



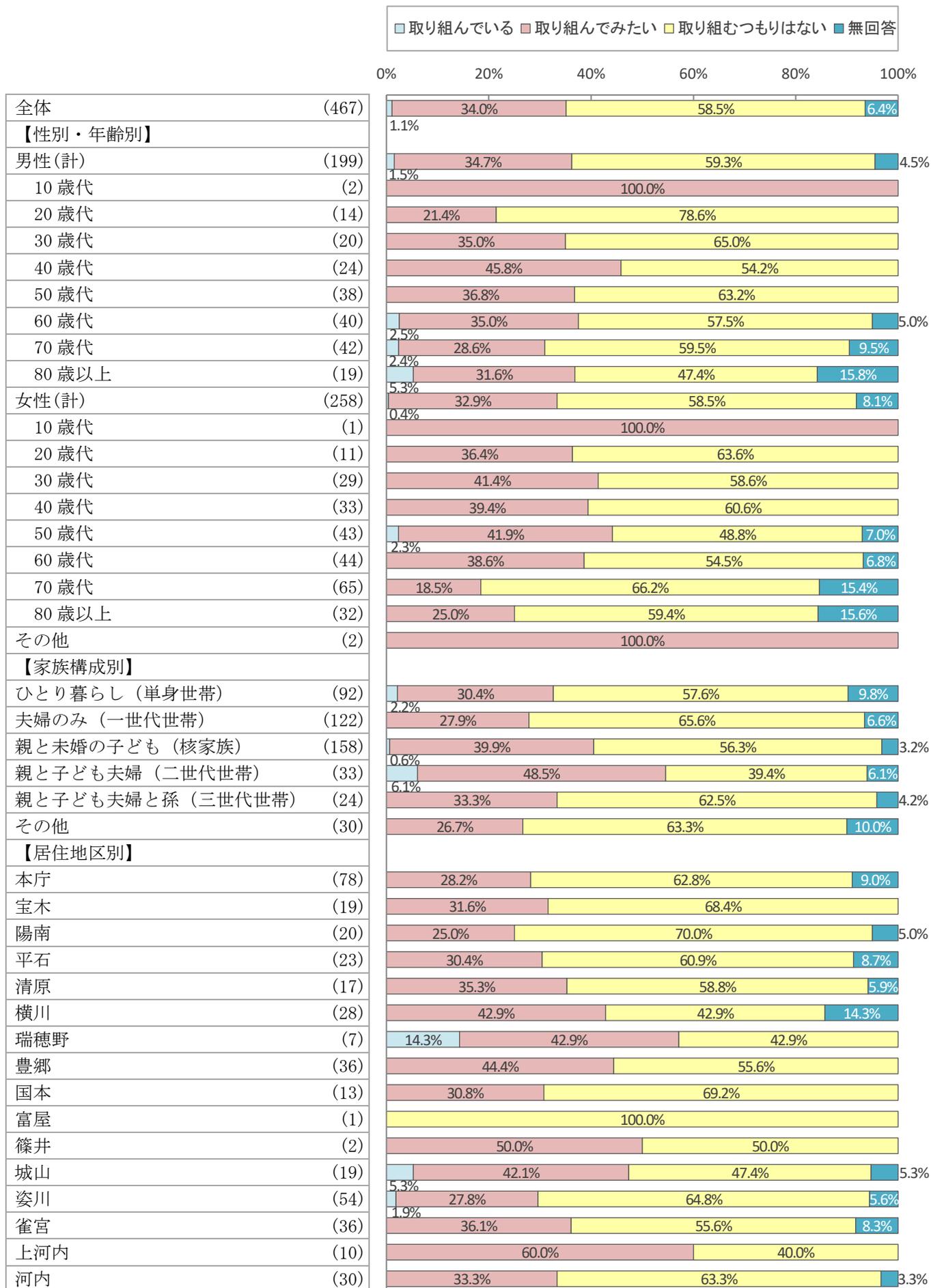
<図IV-15-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「定置型蓄電池の設置」



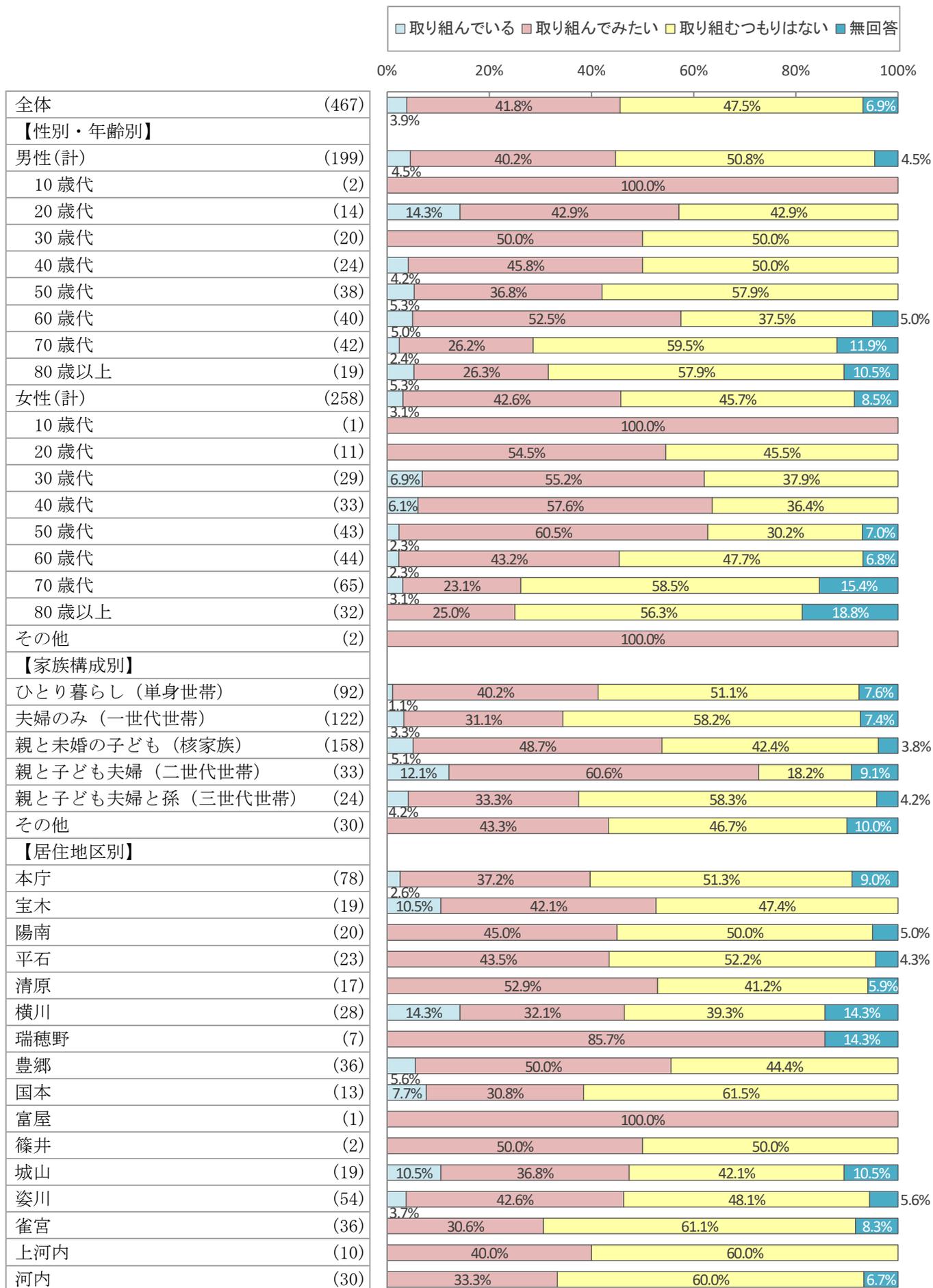
<図IV-15-5>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「燃料電池（エネファーム）の設置」



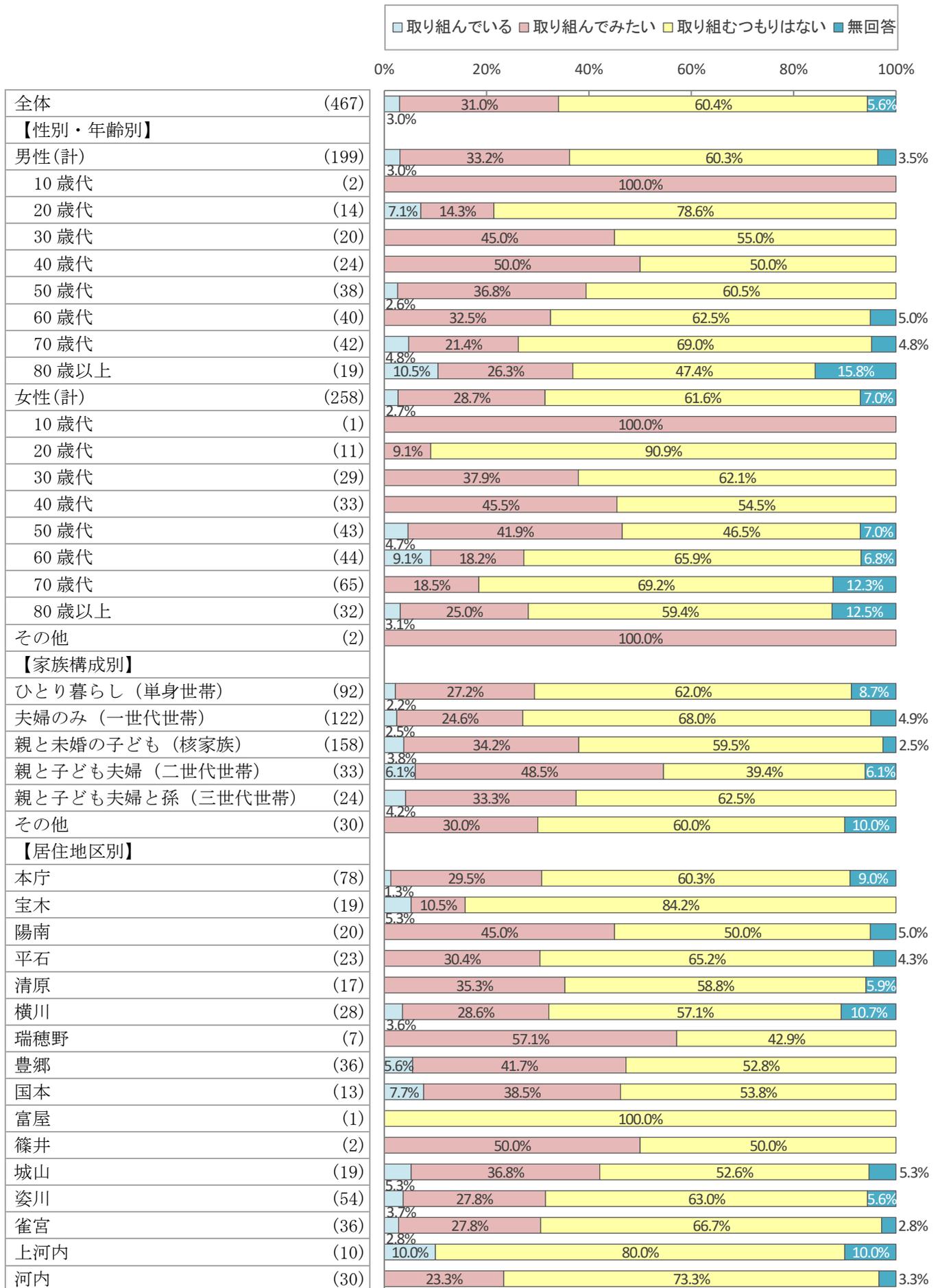
<図IV-15-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「給電性能を備えたBEVの購入」



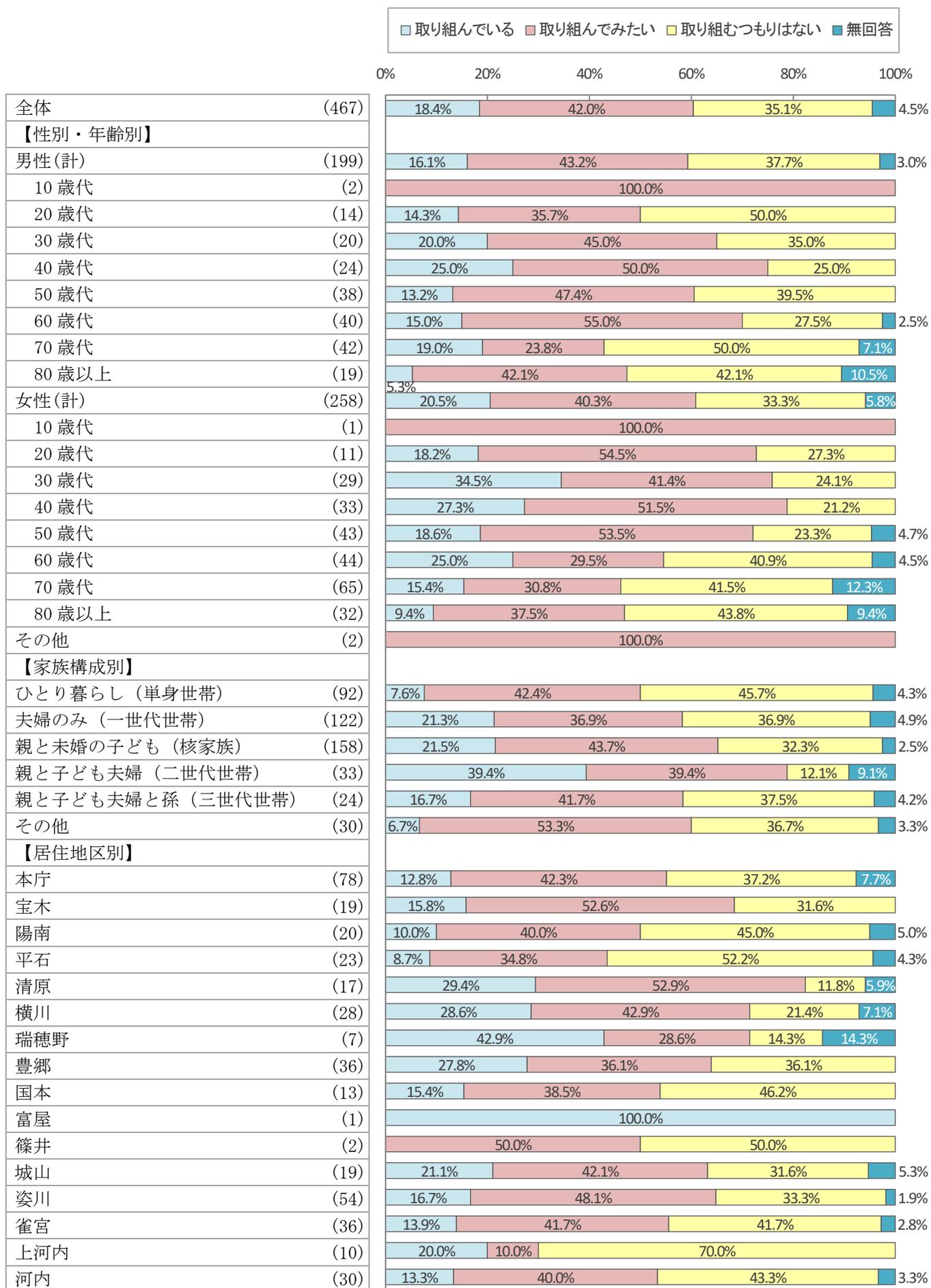
<図IV-15-7>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「HEMSの設置」



<図IV-15-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「太陽熱温水器の設置」



<図IV-15-9>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「断熱性の高い壁・屋根・窓への改修」



(2) 現在取り組んでいない理由・要因

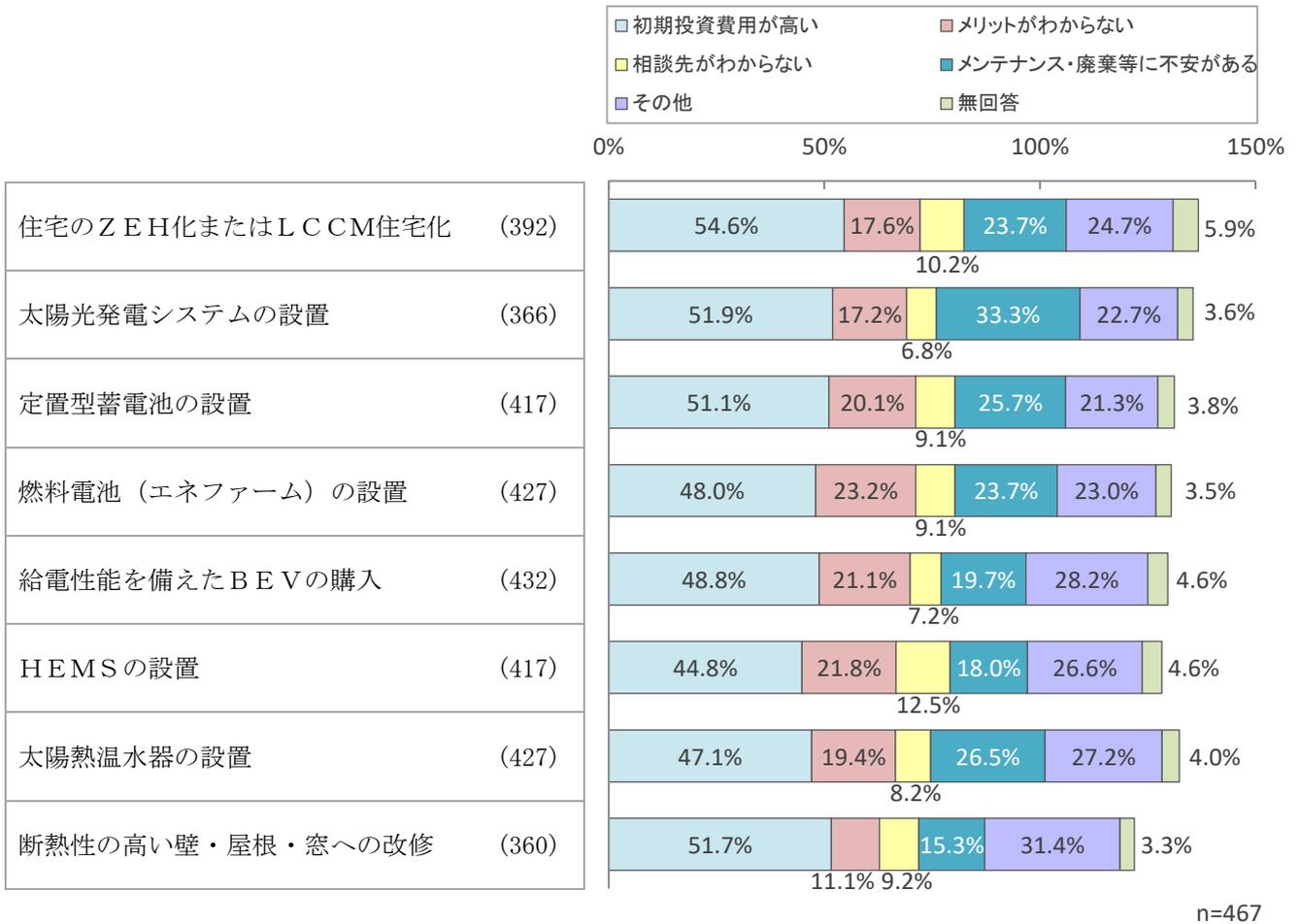
◇ 「初期投資費用が高い」がすべての項目で4割半ば超え

問36 問35で「2 取り組んでみたい」、「3 取り組むつもりはない」を選んだ方にお伺いします。  
現在取り組んでいない理由・要因について、以下の選択肢から選択してください。

- 1 「初期投資費用が高い」、2 「メリットがわからない」、3 「相談先がわからない」、  
4 「メンテナンス・廃棄等に不安がある」、5 「その他」 (〇はいくつでも)

項目	初期投資費用が高い	メリットがわからない	相談先がわからない	メンテナンス・廃棄等に不安がある	その他	(無回答)	合計
1 住宅のZEH化またはLCCM住宅化	n=392 54.6%	17.6%	10.2%	23.7%	24.7%	5.9%	136.7%
2 太陽光発電システムの設置	n=366 51.9%	17.2%	6.8%	33.3%	22.7%	3.6%	135.5%
3 定置型蓄電池の設置	n=417 51.1%	20.1%	9.1%	25.7%	21.3%	3.8%	131.2%
4 燃料電池(エネファーム)の設置	n=427 48.0%	23.2%	9.1%	23.7%	23.0%	3.5%	130.4%
5 給電性能を備えたBEVの購入	n=432 48.8%	21.1%	7.2%	19.7%	28.2%	4.6%	129.6%
6 HEMSの設置	n=417 44.8%	21.8%	12.5%	18.0%	26.6%	4.6%	128.3%
7 太陽熱温水器の設置	n=427 47.1%	19.4%	8.2%	26.5%	27.2%	4.0%	132.3%
8 断熱性の高い壁・屋根・窓への改修	n=360 51.7%	11.1%	9.2%	15.3%	31.4%	3.3%	121.9%

<図IV-15-10>全体



現在取り組んでいない理由・要因については、すべての項目で「初期投資費用が高い」が最も高かった。特に、『住宅のZEH化またはLCCM住宅化』が54.6%で最も高く、次いで『太陽光発電システムの設置』が51.9%、『断熱性の高い壁・屋根・窓への改修』が51.7%と続いた。(図IV-15-10)

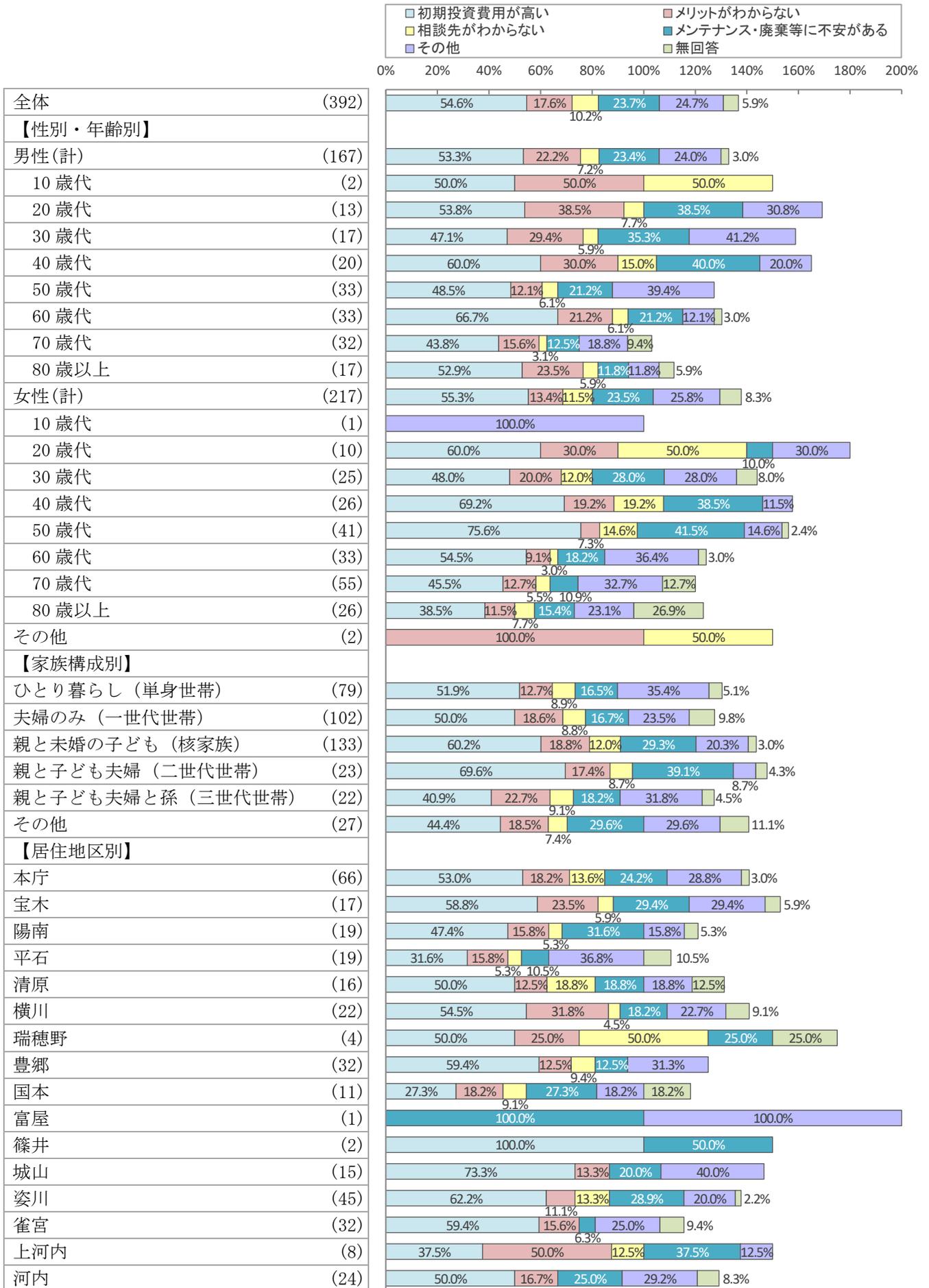
<参考>

現在取り組んでいない理由・要因について「初期投資費用が高い」が最も高かった『住宅のZEH化またはLCCM住宅化』を性別・年齢別でみると、<女性50歳代>が75.6%で最も高く、次いで<女性40歳代>が69.2%、<男性60歳代>が66.7%と続いた。(図IV-15-11)

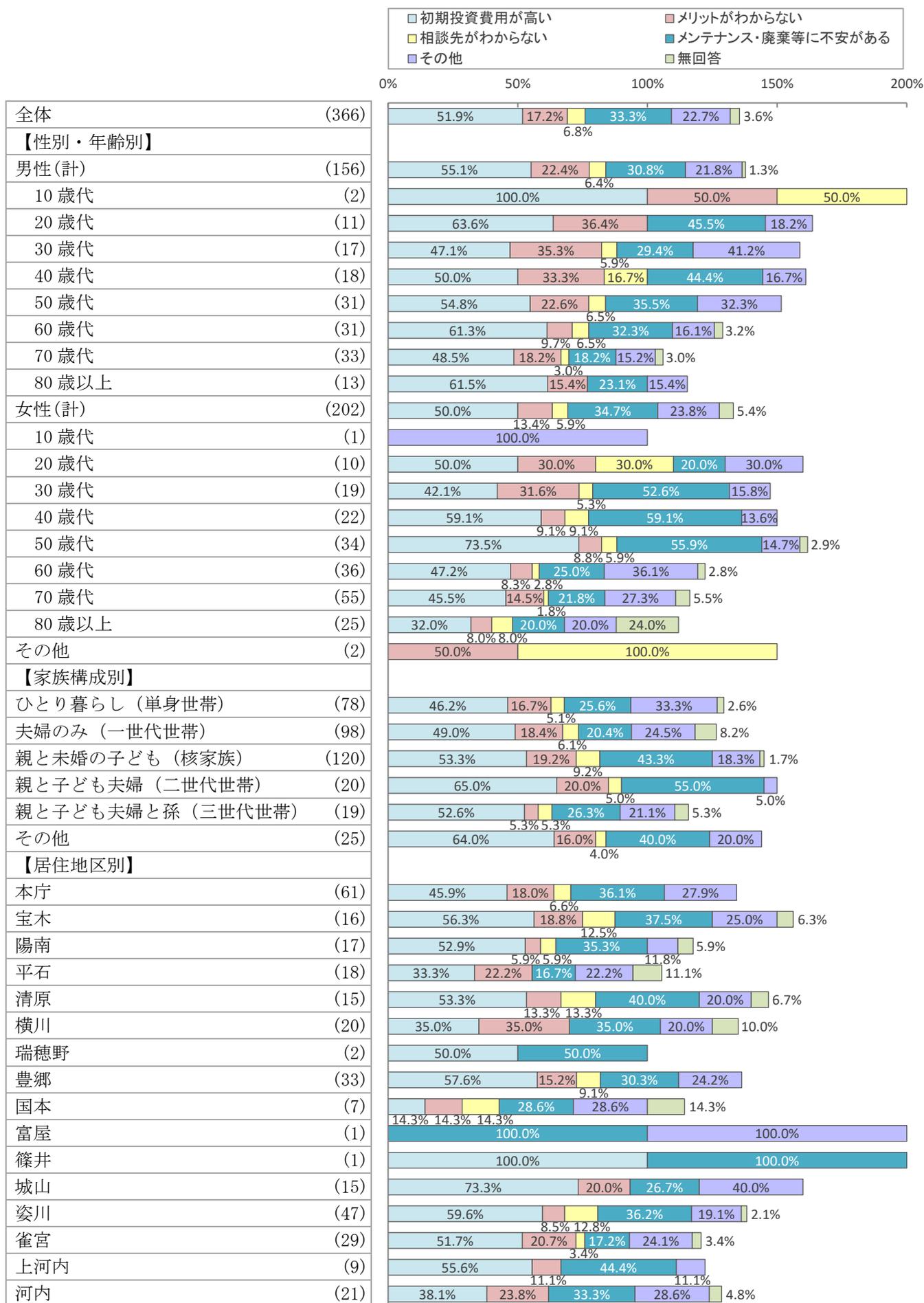
家族構成別でみると、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が69.6%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が60.2%、<ひとり暮らし(単身世帯)>が51.9%と続いた。(図IV-15-11)

居住地区別でみると、<篠井>が100.0%、次いで<城山>が73.3%、<姿川>が62.2%と続いた。(図IV-15-11)

<図IV-15-11>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「住宅のZEH化またはLCCM住宅化」



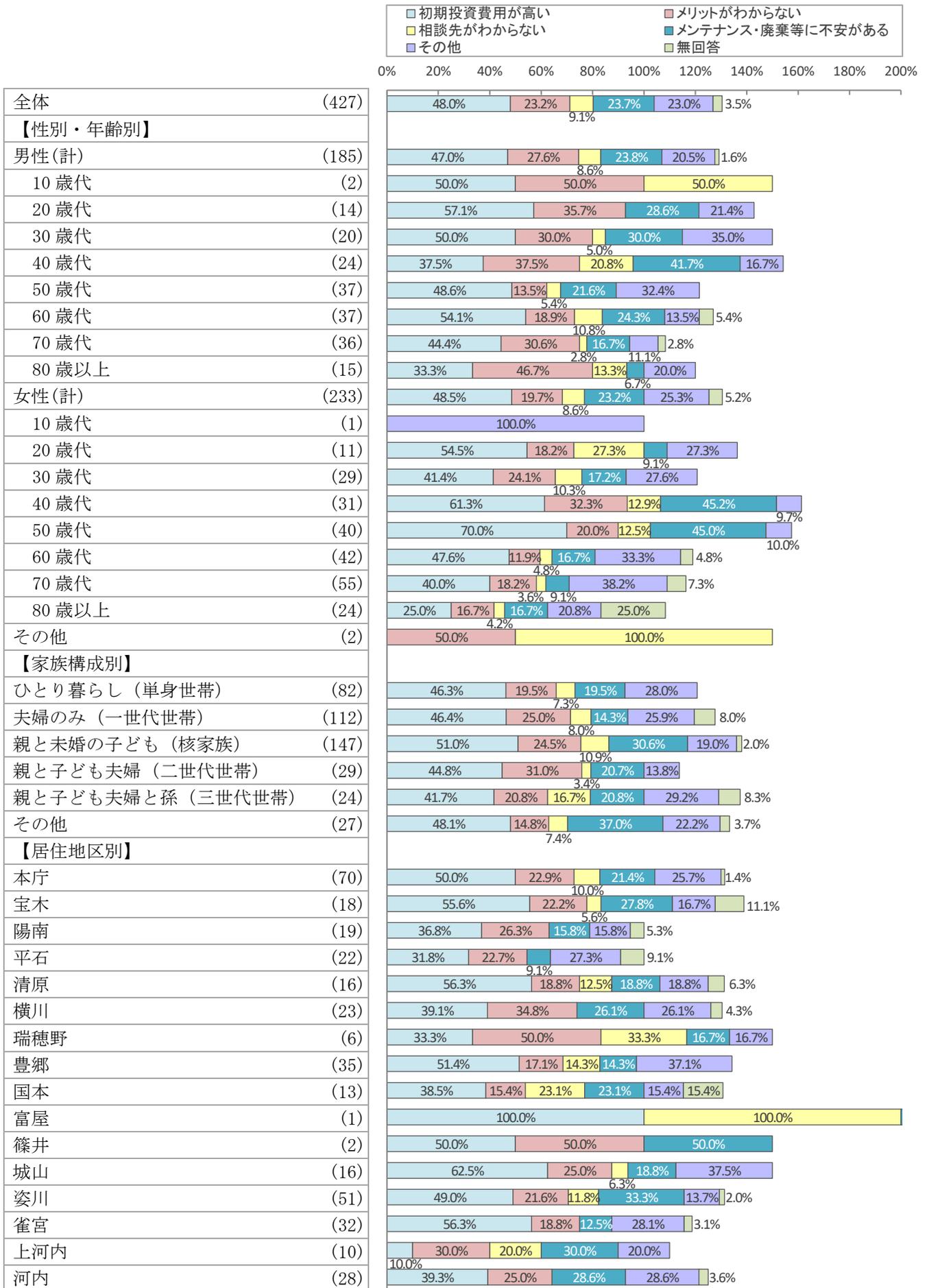
<図IV-15-12>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「太陽光発電システムの設置」



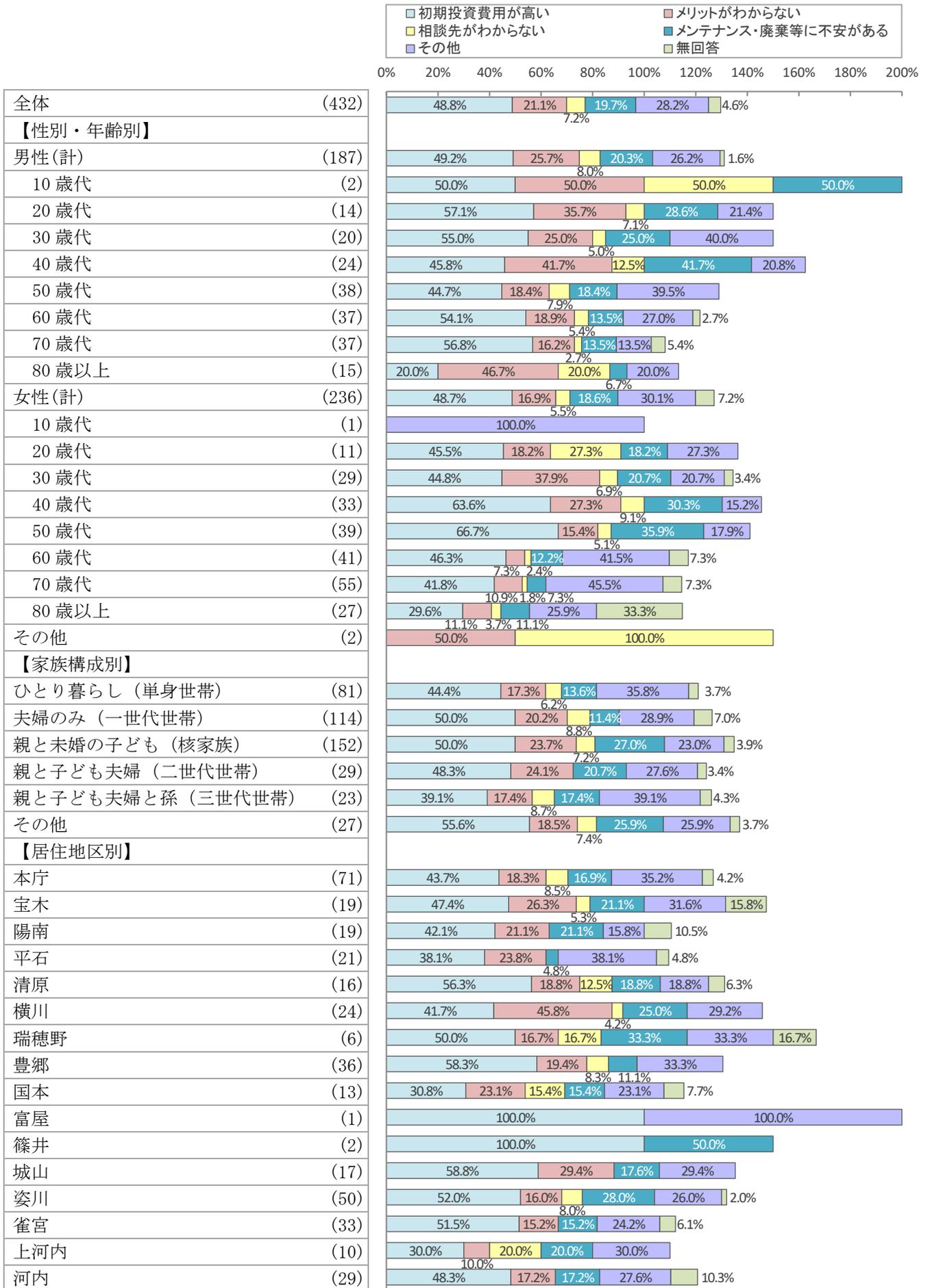
<図IV-15-13>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「定置型蓄電池の設置」



<図IV-15-14>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「燃料電池（エネファーム）の設置」



<図IV-15-15>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「給電性能を備えたBEVの購入」



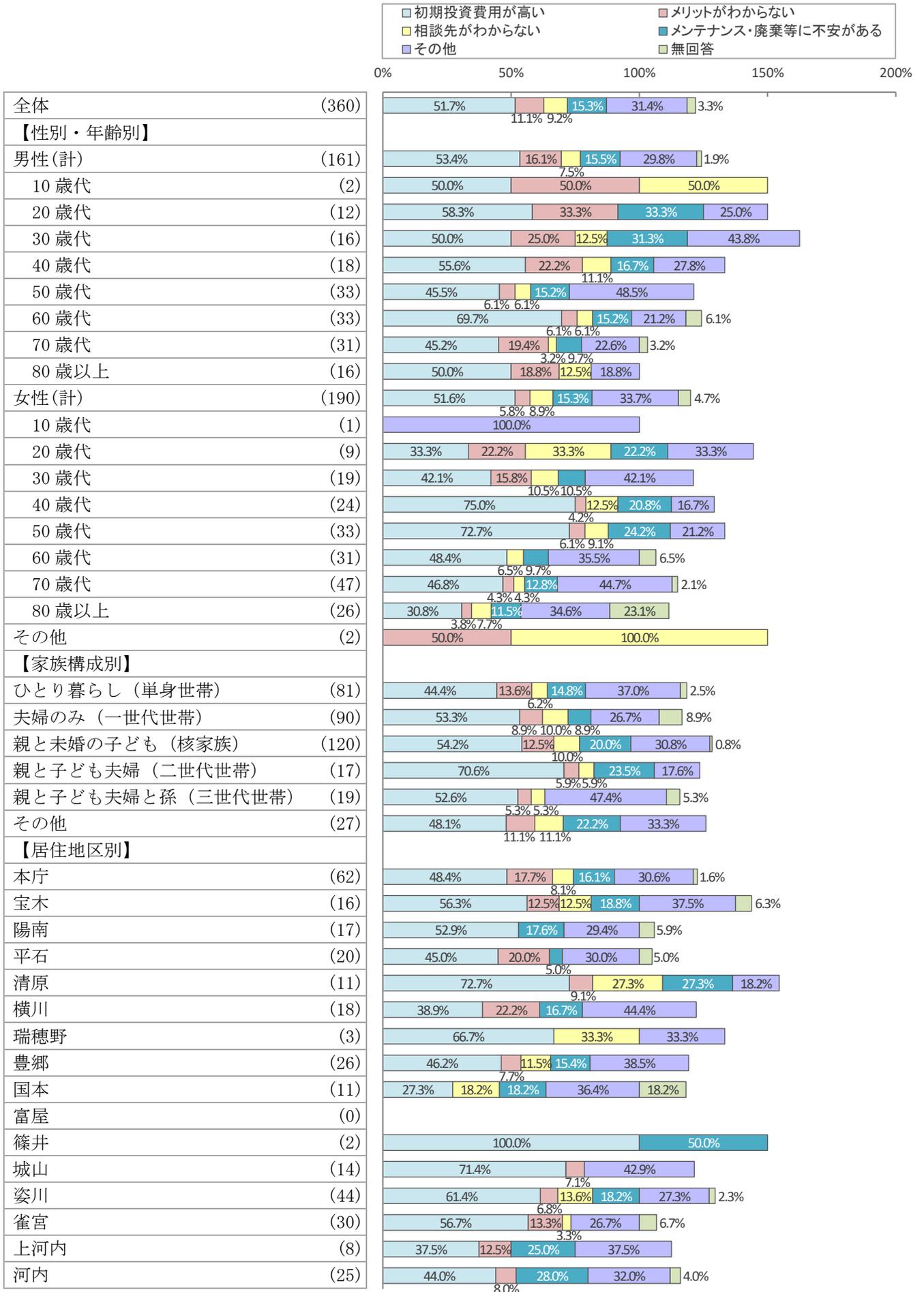
<図IV-15-16>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「HEMSの設置」



<図IV-15-17>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「太陽熱温水器の設置」



<図IV-15-18>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別「断熱性の高い壁・屋根・窓への改修」



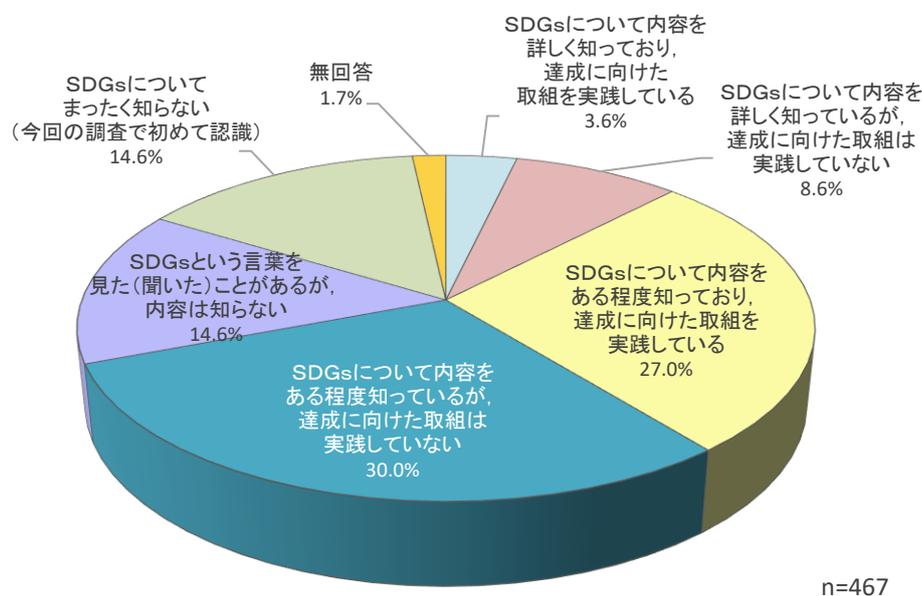
## 16. SDGsの認知度について

### (1) SDGsの認知度

◇ 「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が約3割

問37	SDGsについて、どの程度知っていますか。	(○は1つ)
		n=467
1	SDGsについて内容を詳しく知っており、達成に向けた取組を実践している	3.6%
2	SDGsについて内容を詳しく知っているが、達成に向けた取組は実践していない	8.6%
3	SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している	27.0%
4	SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない	30.0%
5	SDGsという言葉を見た(聞いた)ことがあるが、内容は知らない	14.6%
6	SDGsについてまったく知らない(今回の調査で初めて認識)	14.6%
	(無回答)	1.7%

<図IV-16-1>全体



SDGsの認知度については、「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が30.0%で最も高く、次いで「SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」が27.0%であった。(図IV-16-1)

<参考>

性別・年齢別でみると、「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<その他>を除くと、<女性30歳代>が44.8%で最も高かった。(図IV-16-2)

職業別でみると、「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<専門職>が58.3%で最も高かった。(図IV-16-2)

家族構成別でみると、「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が36.4%で最も高かった。(図IV-16-2)

<図IV-16-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別



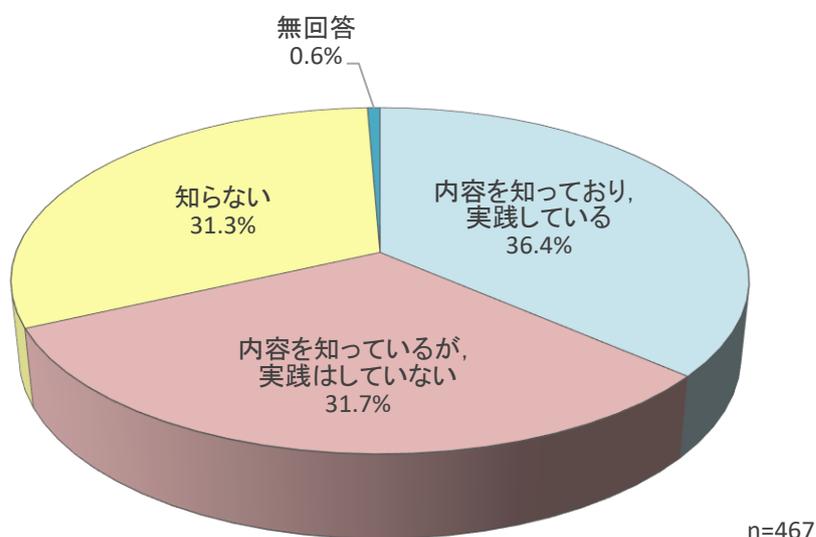
## 17. 「もったいない運動」について

### (1) 「もったいない運動」の認知度

◇ 「内容を知っており、実践している」が3割半ば

問38 「環境に配慮した行動」や「人を思いやる行動」等を推進している「もったいない運動」を知っていますか。	(○は1つ)
	n=467
1 内容を知っており、実践している	36.4%
2 内容を知っているが、実践はしていない	31.7%
3 知らない	31.3%
(無回答)	0.6%

<図IV-17-1>全体



「もったいない運動」の認知度については、「内容を知っており、実践している」が36.4%、「内容を知っているが、実践はしていない」が31.7%、一方、「知らない」は31.3%であった。(図IV-17-1)

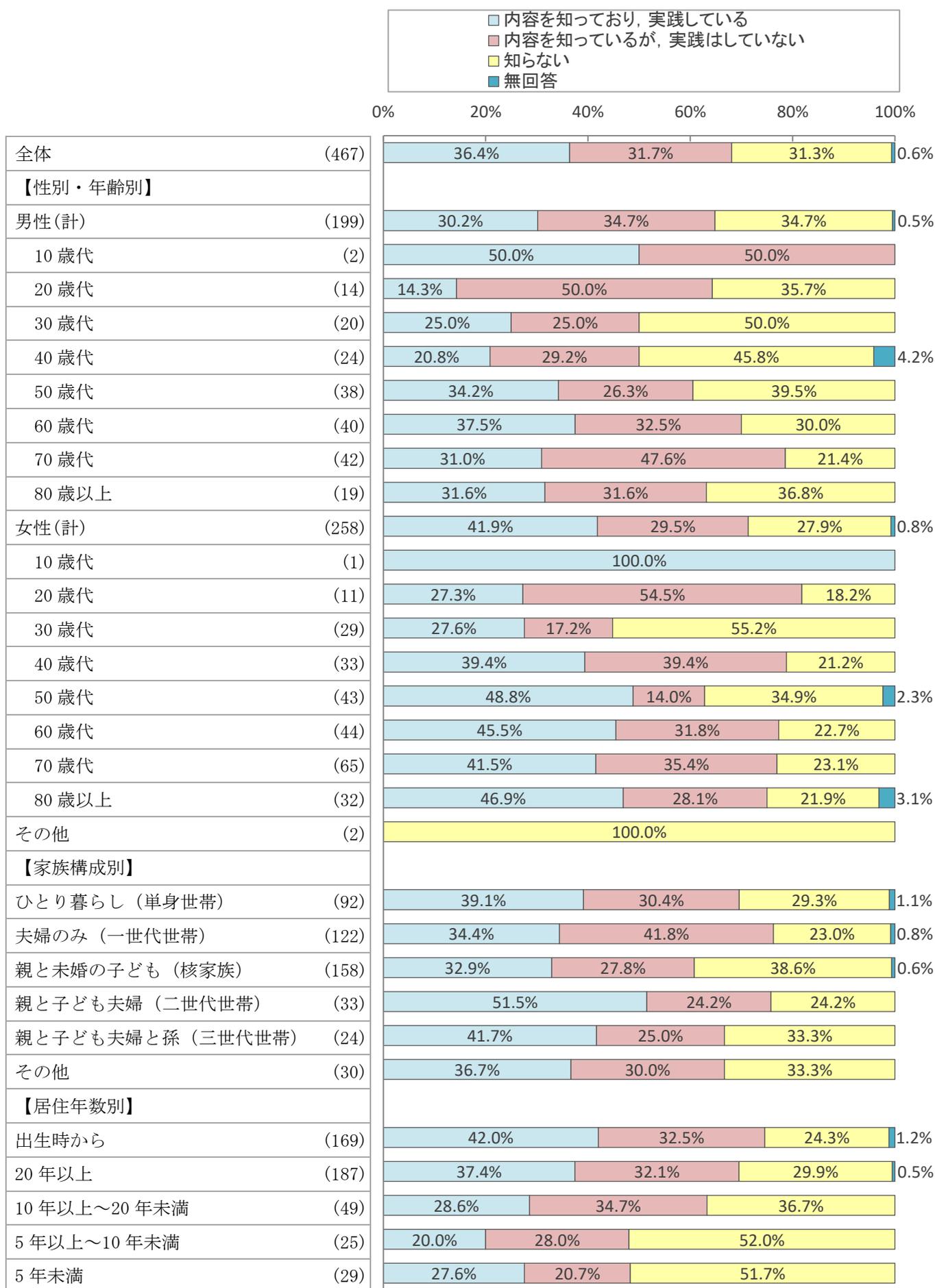
<参考>

性別・年齢別で見ると、「内容を知っており、実践している」は<女性10歳代>が100.0%、次いで<男性10歳代>50.0%、<女性50歳代>48.8%と続いた。(図IV-17-2)

家族構成別で見ると、「内容を知っており、実践している」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が51.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が41.7%であった。(図IV-17-2)

居住年数別で見ると、「内容を知っており、実践している」は<出生時から>が42.0%で最も高く、次いで<20年以上>が37.4%であった。(図IV-17-2)

<図IV-17-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



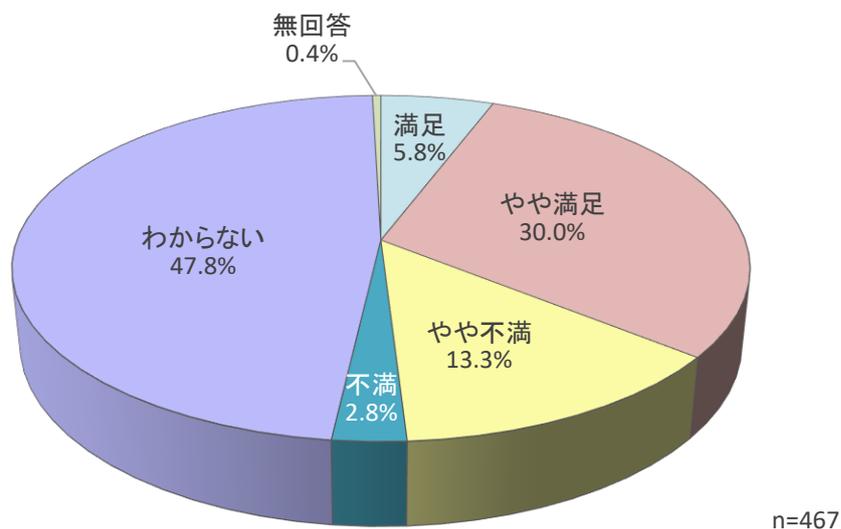
## 18. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

(1) 環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているか

◇ 「満足」と「やや満足」を合わせた【満足（計）】が3割半ば

問39 環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた、大気、水質、騒音に係る環境調査や、工場・事業場に対する立入検査・指導、事業者との相互協力による環境保全活動の推進などの本市の施策に満足していますか。		(○は1つ)
		n=467
1	満足	5.8%
2	やや満足	30.0%
3	やや不満	13.3%
4	不満	2.8%
5	わからない	47.8%
	(無回答)	0.4%

<図IV-18-1>全体



環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策の満足度については、「満足」が5.8%、「やや満足」が30.0%で、これらを合わせた【満足（計）】は35.8%であった。一方、「不満」が2.8%、「やや不満」が13.3%で、これらを合わせた【不満（計）】は16.1%であった。(図IV-18-1)

<参考>

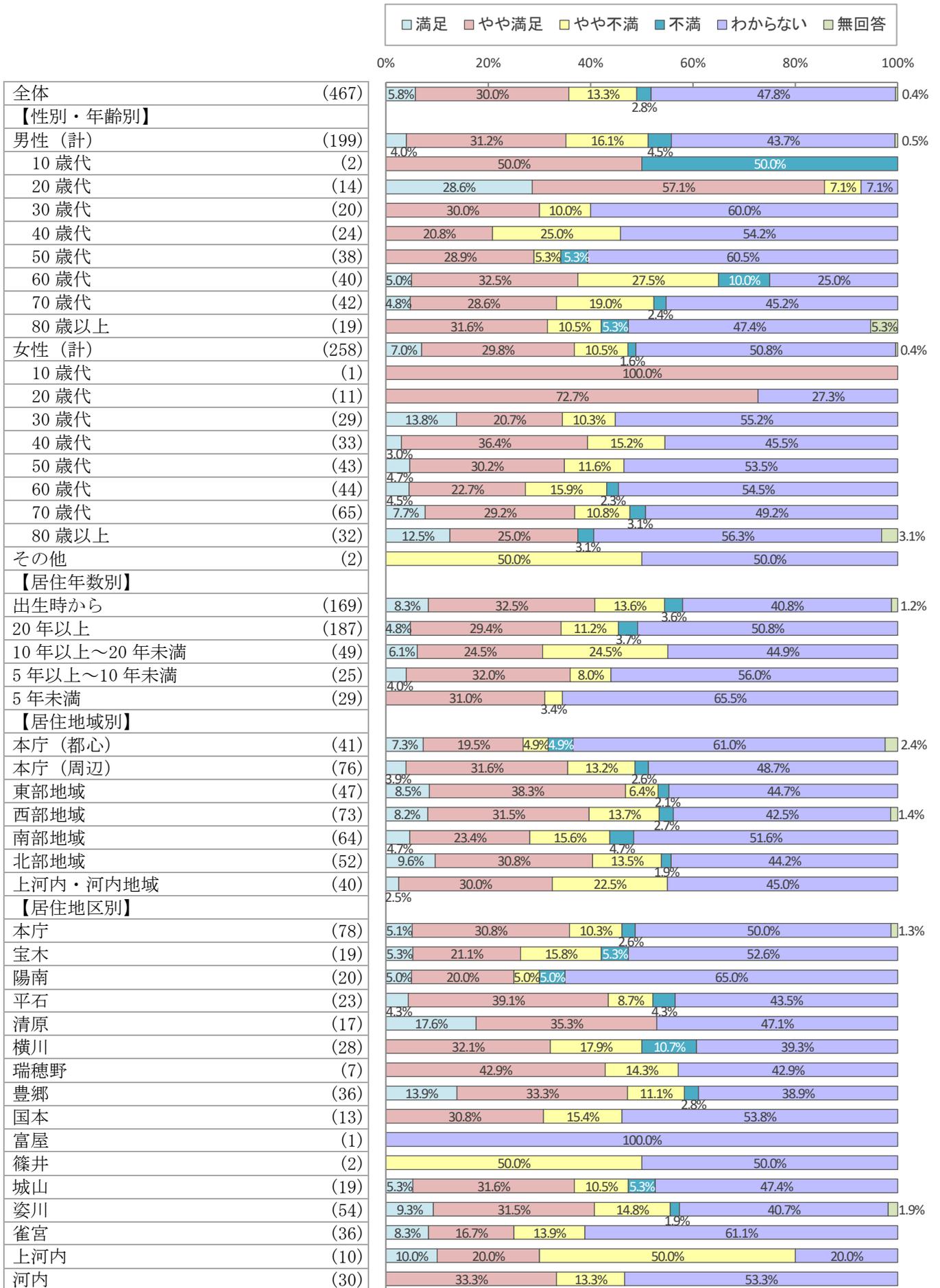
性別・年齢別でみると、【満足（計）】は<女性10歳代>が100.0%、次いで<男性20歳代>が85.7%であった。一方、【不満（計）】は<その他>を除くと、<男性10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性60歳代>が37.5%であった。(図IV-18-2)

居住年数別でみると、【満足（計）】は<出生時から>が40.8%で最も高かった。一方、【不満（計）】は<10年以上~20年未満>が24.5%で最も高かった。(図IV-18-2)

居住地域別でみると、【満足（計）】は<東部地域>が46.8%で最も高かった。一方、【不満（計）】は<上河内・河内地域>が22.5%で最も高かった。(図IV-18-2)

居住地区別でみると、【満足（計）】は<清原>が52.9%で最も高かった。一方、【不満（計）】は<篠井><上河内>がいずれも50.0%であった。(図IV-18-2)

<図IV-18-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別



## 19. 生物多様性について

### (1) 「生物多様性」の認知度

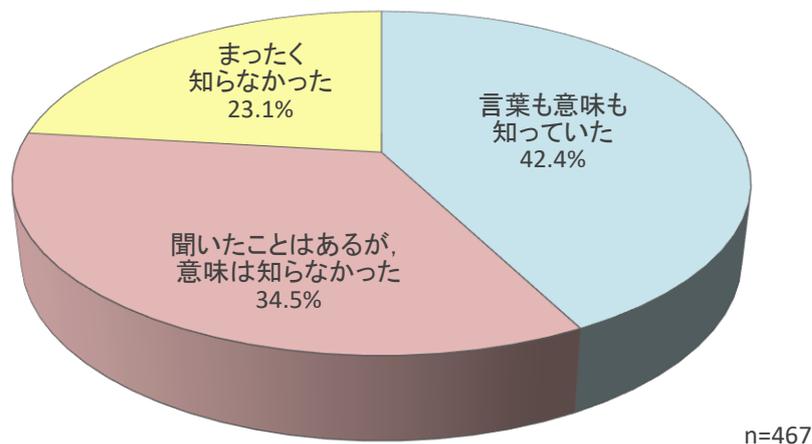
#### ◇ 「言葉も意味も知っていた」が4割強

問40 「生物多様性」(※)という言葉を知っていますか。

※ 「生物多様性」とは、「生きものの個性と自然とのつながりの豊かさ」のことです。地球上には様々な個性を持った生きものがいて、それらが自然環境の中でつながりあっている、ということを知っていれば、「生物多様性」の言葉も意味も知っていたこととします。(〇は1つ)

	n=467
1 言葉も意味も知っていた	42.4%
2 聞いたことはあるが、意味は知らなかった	34.5%
3 まったく知らなかった	23.1%
(無回答)	0.0%

<図IV-19-1>全体



「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っていた」が42.4%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」が34.5%であった。(図IV-19-1)

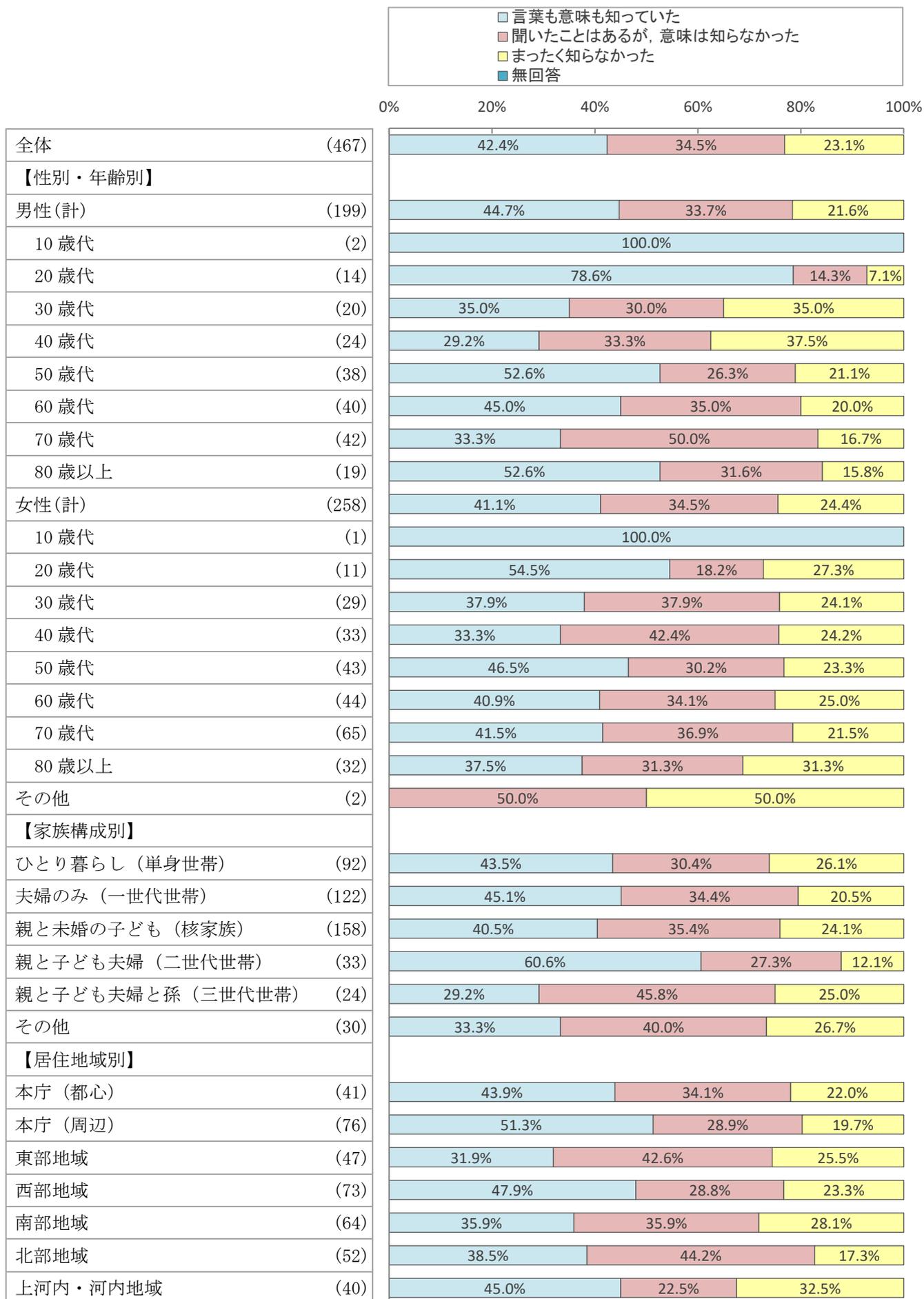
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「言葉も意味も知っていた」は<男性10歳代><女性10歳代>がいずれも100.0%、次いで<男性20歳代>が78.6%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は<その他>を除くと、<男性70歳代>が50.0%、次いで<女性40歳代>が42.4%であった。(図IV-19-2)

家族構成別でみると、「言葉も意味も知っていた」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が60.6%で、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が45.1%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が45.8%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が35.4%であった。(図IV-19-2)

居住地域別でみると、「言葉も意味も知っていた」は<本庁(周辺)>が51.3%で最も高く、次いで<西部地域>が47.9%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は<北部地域>が44.2%で最も高く、次いで<東部地域>が42.6%であった。(図IV-19-2)

<図IV-19-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



## (2) 外来種が及ぼす影響の認知度

### ◇ 「知っていた」が8割半ば

問 4 1 外来種（※）が及ぼす影響を知っていますか。

※ 「外来種」とは、「もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生きもの」のことです。

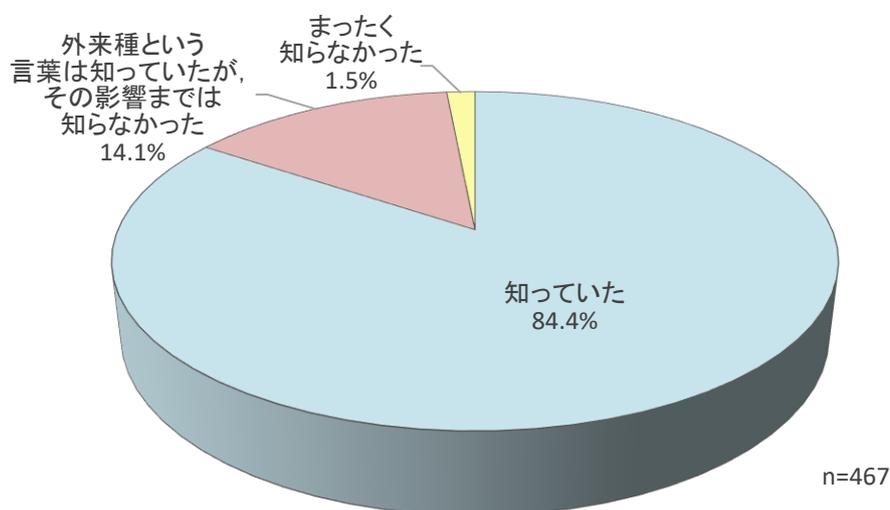
外来種は、もともといた在来の生きものの生息地を奪ったり、人の生命・身体に危険を及ぼしたり、田畑を荒らしたり、様々なことに悪影響を及ぼす場合があります。

このようなことを知っていれば、外来種が及ぼす影響を知っていたこととします。（○は1つ）

n=467

1	知っていた	84.4%
2	外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった	14.1%
3	まったく知らなかった	1.5%
	(無回答)	0.0%

<図IV-19-3>全体



外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っていた」が84.4%で最も高く、次いで「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」が14.1%であった。（図IV-19-3）

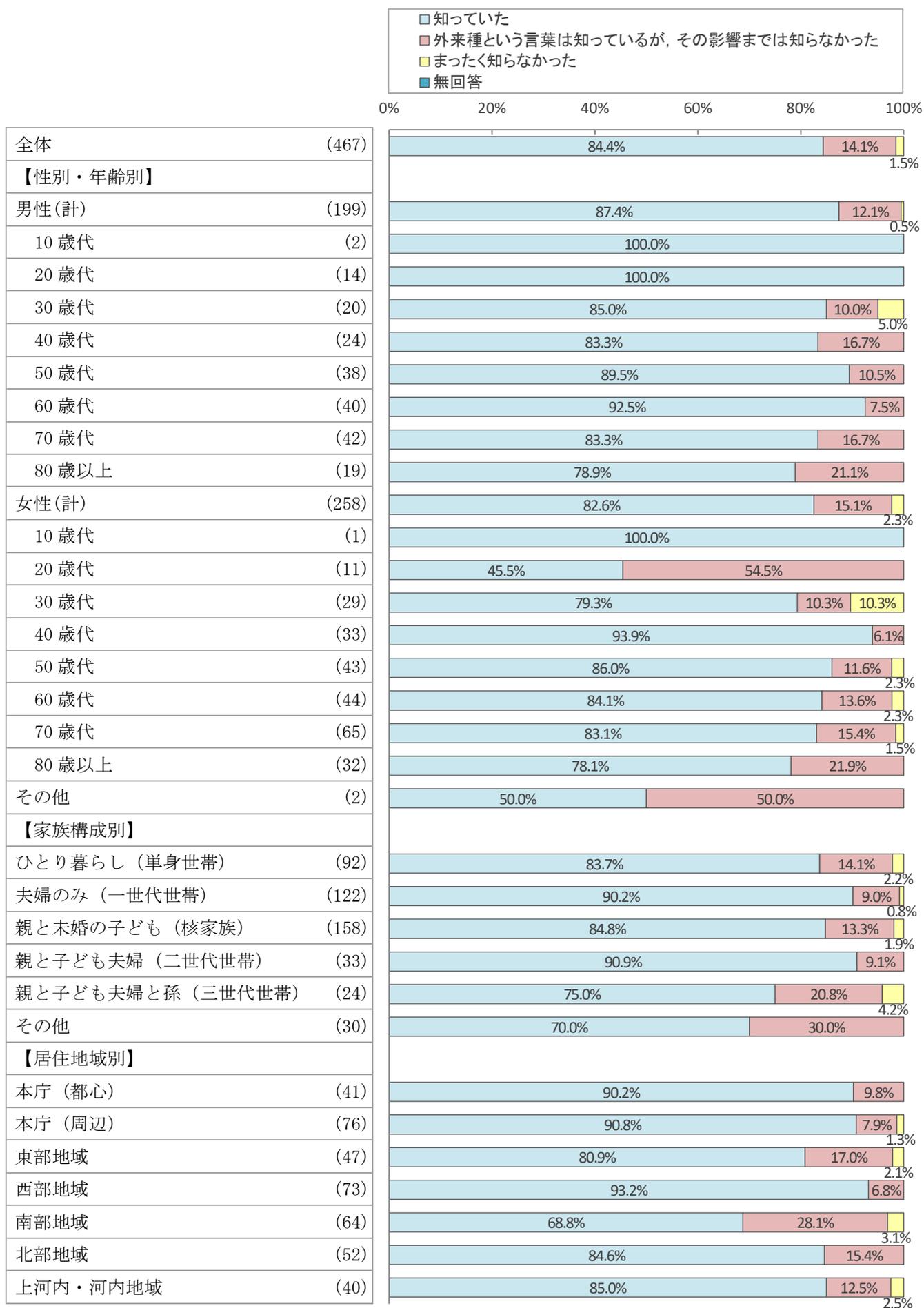
### <参考>

性別・年齢別でみると、「知っていた」は<男性 10・20 歳代><女性 10 歳代>がいずれも 100.0%、次いで<女性 40 歳代>が 93.9%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<その他>を除くと、<女性 20 歳代>が 54.5%で最も高く、次いで<女性 80 歳以上>が 21.9%であった。（図IV-19-4）

家族構成別でみると、「知っていた」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 90.9%で、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が 90.2%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 20.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が 14.1%であった。（図IV-19-4）

居住地域別でみると、「知っていた」は<西部地域>が 93.2%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が 90.8%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<南部地域>が 28.1%で最も高く、次いで<東部地域>が 17.0%であった。（図IV-19-4）

<図IV-19-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



## 20. 自転車のまちづくりについて

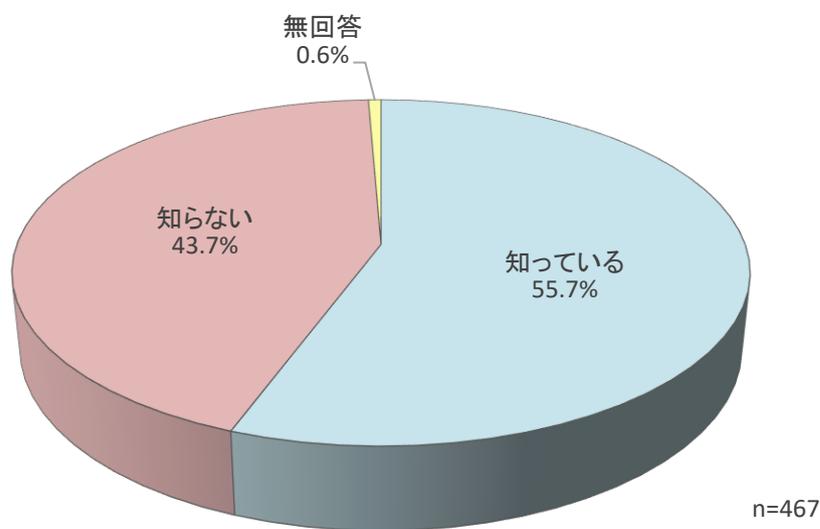
### (1) 「自転車のまち」の実現を目指していることの認知度

◇ 「知っている」が5割半ば

問42 宇都宮市が誰もが健康で便利に自転車を楽しめる「自転車のまち」の実現を目指していることを知っていますか。 (○は1つ)

		n=467
1	知っている	55.7%
2	知らない	43.7%
	(無回答)	0.6%

<図IV-20-1>全体



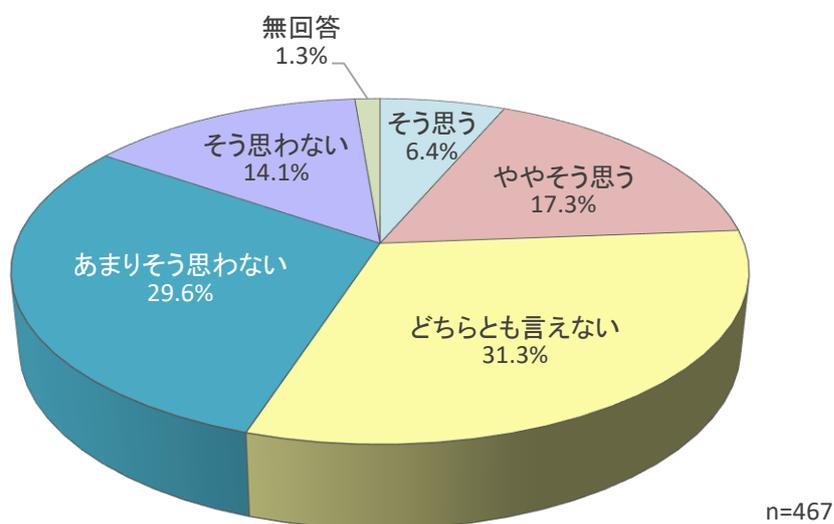
「自転車のまち」の実現を目指していることの認知度については、「知っている」が55.7%であった。一方、「知らない」は43.7%であった。(図IV-20-1)

(2) 自転車を使いやすいまちだと思うか

◇ 「どちらとも言えない」が約3割

問 4 3 宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思いませんか。		(○は1つ)
		n=467
1	そう思う	6.4%
2	ややそう思う	17.3%
3	どちらとも言えない	31.3%
4	あまりそう思わない	29.6%
5	そう思わない	14.1%
	(無回答)	1.3%

<図IV-20-2>全体



自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「どちらとも言えない」が31.3%で最も高く、次いで「あまりそう思わない」が29.6%であった。(図IV-20-2)

### (3) 「自転車のまち」を推進していく上で必要な取組

#### ◇ 「自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）の整備」が約5割

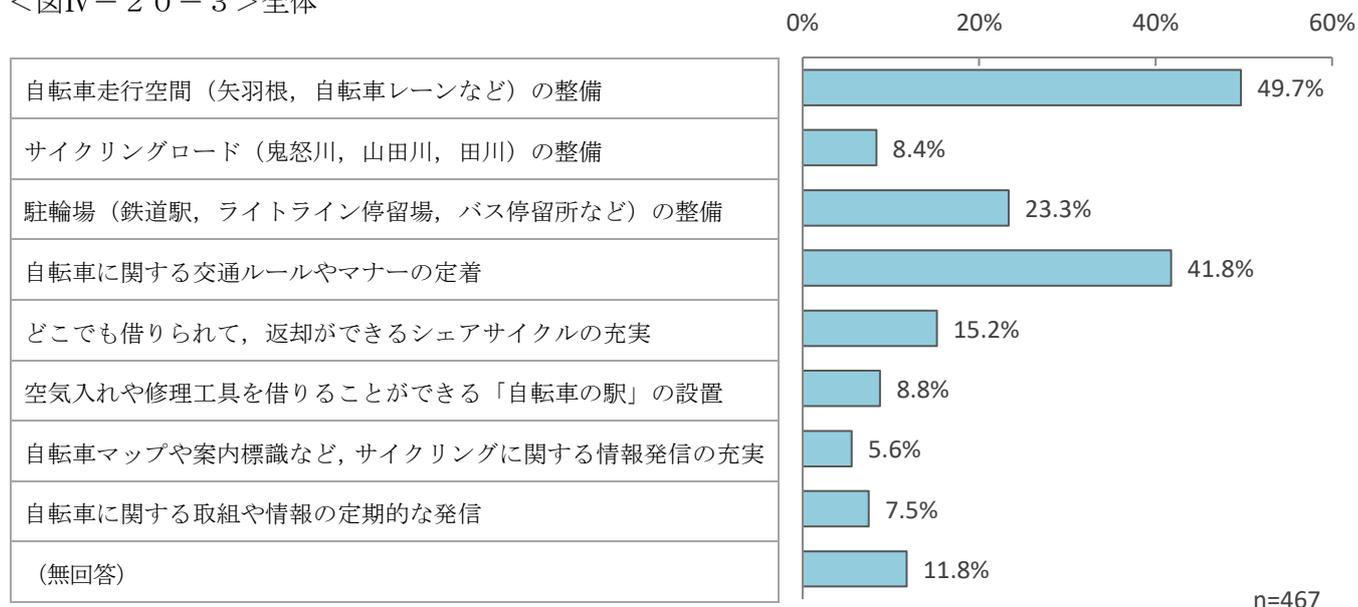
問4 4 自転車を使いやすいまちを推進していく上で、必要な取組は何だと思いますか。

(〇は2つまで)

n=467

1	自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）の整備	49.7%
2	サイクリングロード（鬼怒川、山田川、田川）の整備	8.4%
3	駐輪場（鉄道駅、ライトライン停留場、バス停留所など）の整備	23.3%
4	自転車に関する交通ルールやマナーの定着	41.8%
5	どこでも借りられて、返却ができるシェアサイクルの充実	15.2%
6	空気入れや修理工具を借りることができる「自転車の駅」の設置	8.8%
7	自転車マップや案内標識など、サイクリングに関する情報発信の充実	5.6%
8	自転車に関する取組や情報の定期的な発信	7.5%
	(無回答)	11.8%

<図IV-20-3>全体



「自転車のまち」を推進していく上で必要な取組については、「自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）の整備」が49.7%で最も高く、次いで「自転車に関する交通ルールやマナーの定着」が41.8%、「駐輪場（鉄道駅、ライトライン停留場、バス停留所など）の整備」が23.3%と続いた。（図IV-20-3）

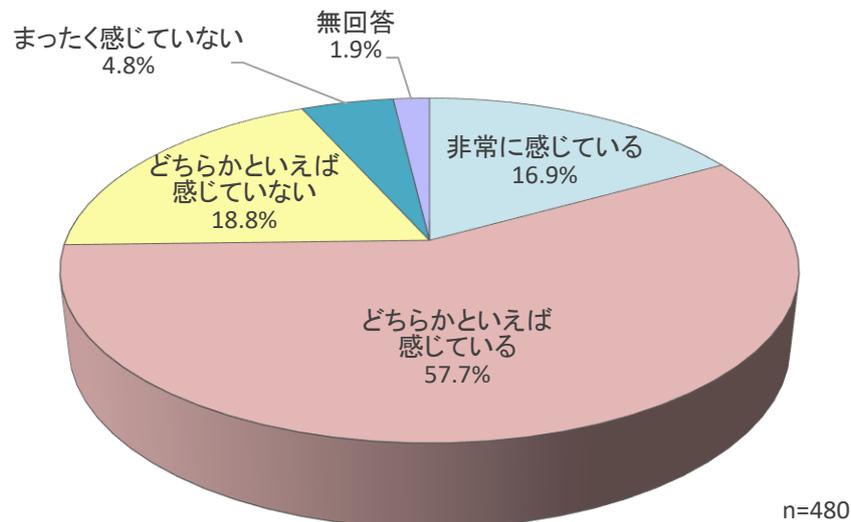
## 2 1. スポーツに関することについて

(1) 市の魅力向上にスポーツが活用されていると感じているか

◇ 「非常に感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせた【感じている（計）】が7割半ば

問 4 5	本市の魅力向上にスポーツが活用されていると感じていますか。	(○は1つ)
		n=480
1	非常に感じている	16.9%
2	どちらかといえば感じている	57.7%
3	どちらかといえば感じていない	18.8%
4	まったく感じていない	4.8%
	(無回答)	1.9%

<図IV-2 1-1>全体



市の魅力向上にスポーツが活用されていると感じているかについては、「非常に感じている」が16.9%、「どちらかといえば感じている」が57.7%で、これらを合わせた【感じている（計）】は74.6%であった。一方、「どちらかといえば感じていない」が18.8%、「まったく感じていない」が4.8%で、これらを合わせた【感じていない（計）】は23.6%であった。(図IV-2 1-1)

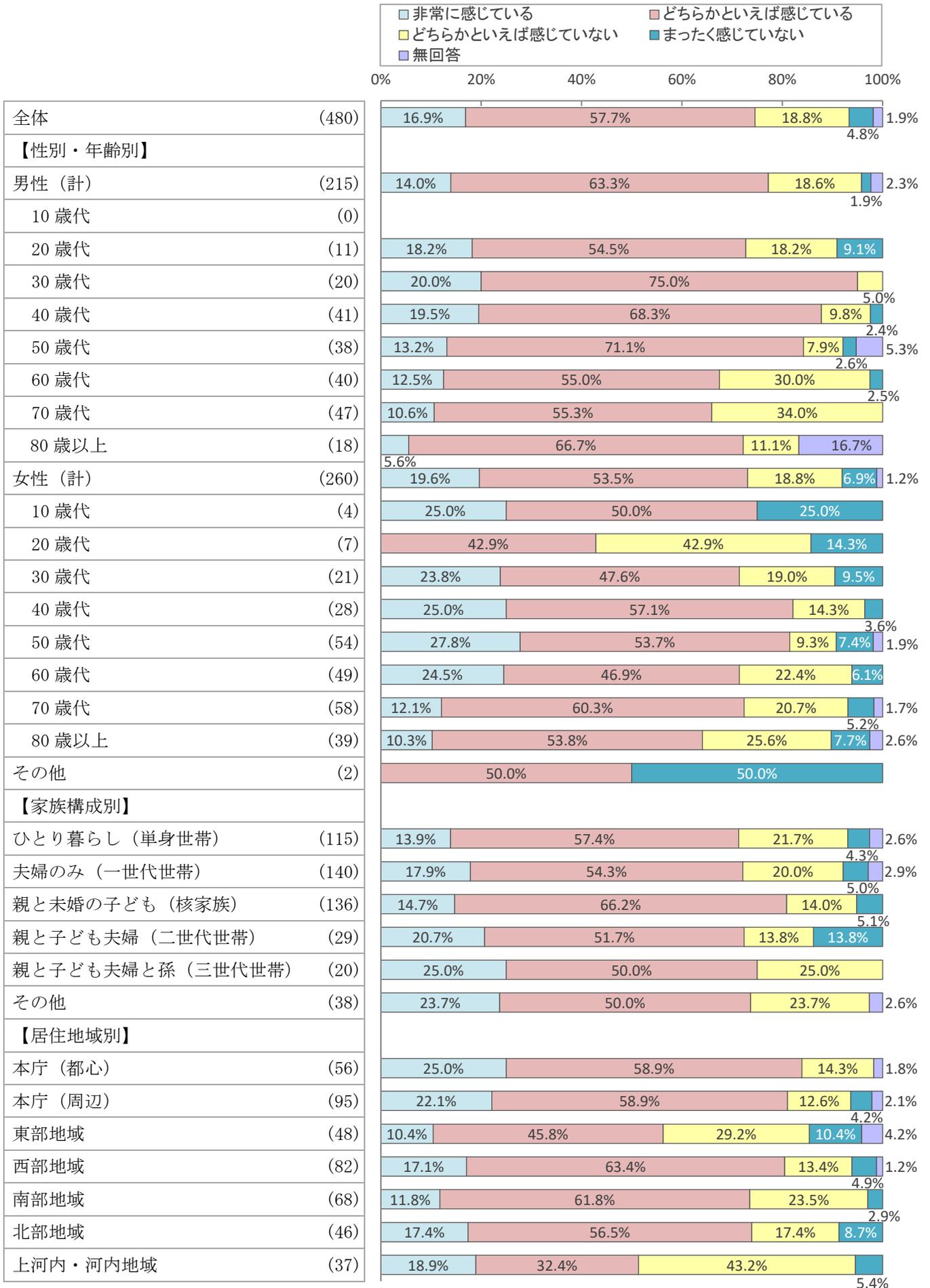
<参考>

性別・年齢別でみると、【感じている（計）】は<男性30歳代>が95.0%で最も高く、次いで<男性40歳代>が87.8%であった。一方、【感じていない（計）】は<その他>を除くと、<女性20歳代>は57.2%で最も高く、次いで<男性70歳代>が34.0%であった。(図IV-2 1-2)

家族構成別でみると、【感じている（計）】は<親と未婚の子ども（核家族）>が80.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が75.0%であった。一方、【感じていない（計）】は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が27.6%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が26.0%であった。(図IV-2 1-2)

居住地域別でみると、【感じている（計）】は<本庁（都心）>が83.9%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が81.0%であった。一方、【感じていない（計）】は<上河内・河内地域>が48.6%で最も高く、次いで<東部地域>が39.6%であった。(図IV-2 1-2)

<図IV-21-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

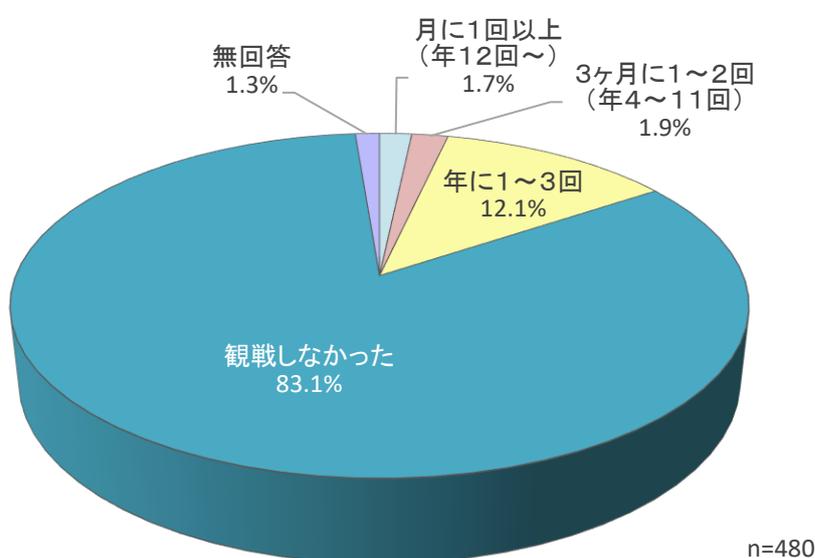


## (2) 直接会場へ行ってプロスポーツ観戦をしたか

### ◇ 「観戦しなかった」が8割強

問 4 6	この1年間に直接会場へ行ってプロスポーツ観戦をしましたか。	(○は1つ)
		n=480
1	月に1回以上 (年12回～)	1.7%
2	3ヶ月に1～2回 (年4～11回)	1.9%
3	年に1～3回	12.1%
4	観戦しなかった (無回答)	83.1%
		1.3%

<図IV-21-3>全体



直接会場へ行ってプロスポーツ観戦をしたかについては、「観戦しなかった」が83.1%で最も高く、次いで「年に1～3回」が12.1%であった。(図IV-21-3)

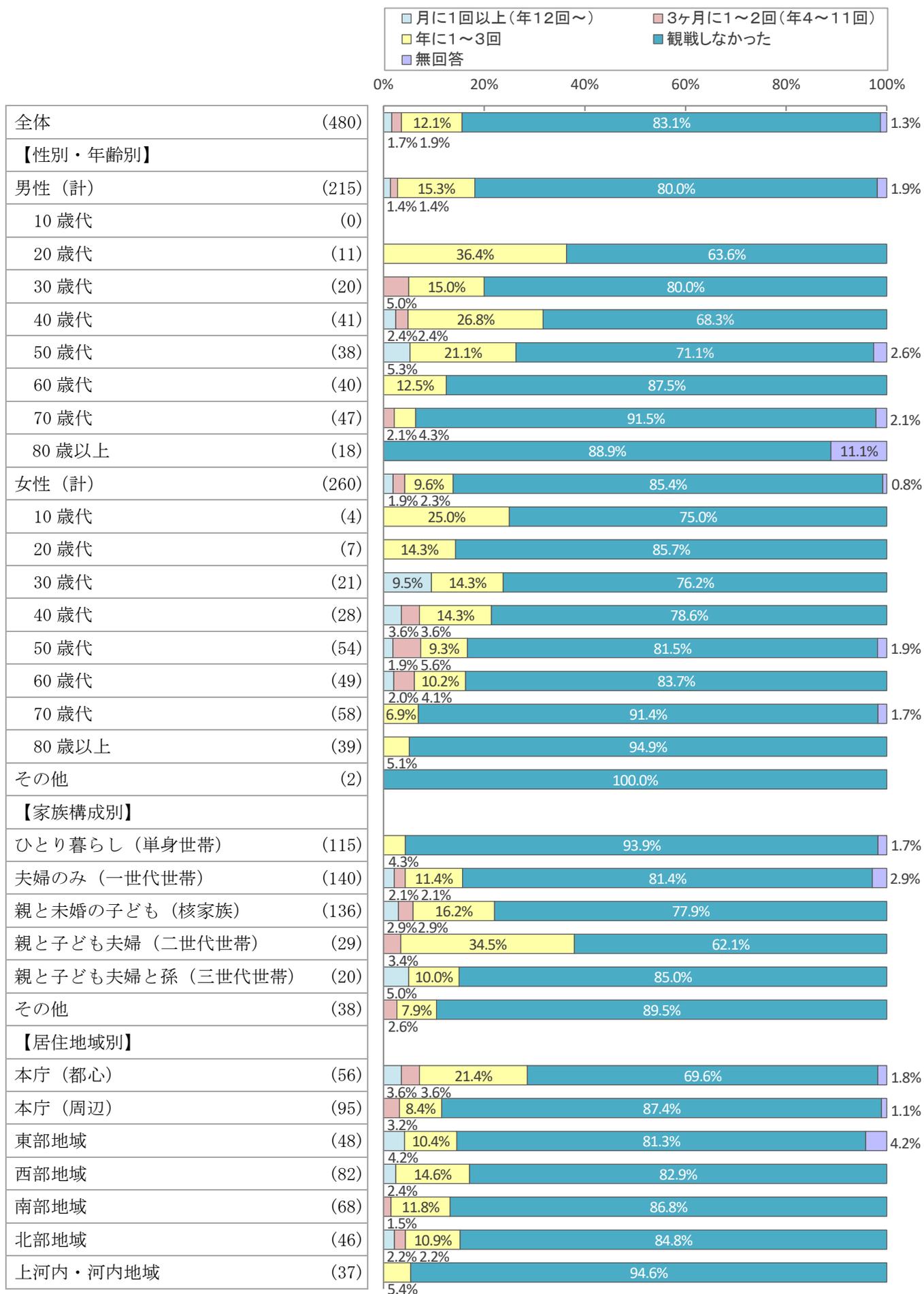
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「観戦しなかった」は<その他>を除くと、<女性80歳以上>が94.9%で最も高く、次いで<男性70歳代>が91.5%であった。「年に1～3回」は<男性20歳代>が36.4%で最も高く、次いで<男性40歳代>が26.8%であった。(図IV-21-4)

家族構成別でみると、「観戦しなかった」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が93.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が85.0%であった。「年に1～3回」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が34.5%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が16.2%であった。(図IV-21-4)

居住地域別でみると、「観戦しなかった」は<上河内・河内地域>が94.6%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が87.4%であった。「年に1～3回」は<本庁(都心)>が21.4%で最も高く、次いで<西部地域>が14.6%であった。(図IV-21-4)

<図IV-21-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



### (3) スポーツに関する指導を行ってみたいと思うか

#### ◇ 「行いたくない」が約6割

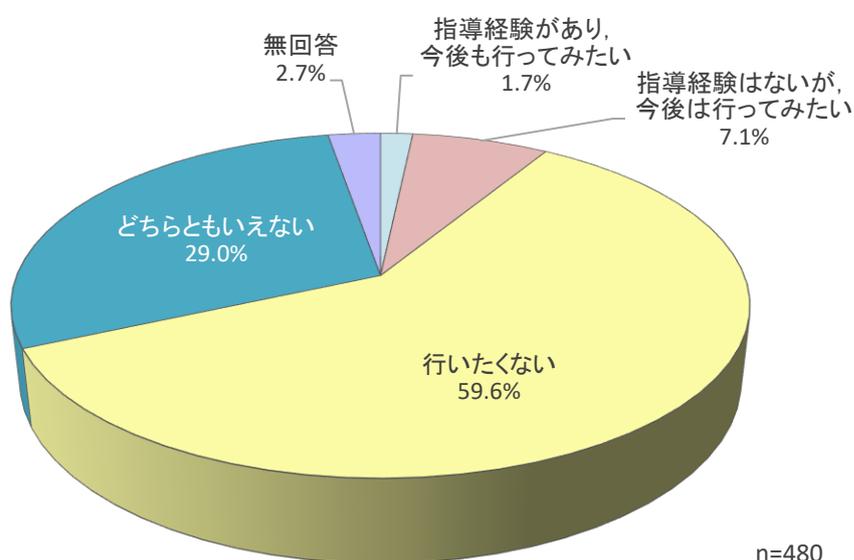
問47 今後、スポーツに関する指導を行ってみたいと思いますか。

※ スポーツに関する指導経験とは、資格の有無に関係なく、個人や団体への技術的指導や監督・コーチなどの役割を担ったことがあるということを経験があるとします。(○は1つ)

n=480

1	指導経験(※)があり、今後も行ってみたい	1.7%
2	指導経験はないが、今後は行ってみたい	7.1%
3	行いたくない	59.6%
4	どちらともいえない	29.0%
	(無回答)	2.7%

<図IV-21-5>全体



スポーツに関する指導を行ってみたいと思うかについては、「行いたくない」が59.6%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.0%であった。(図IV-21-5)

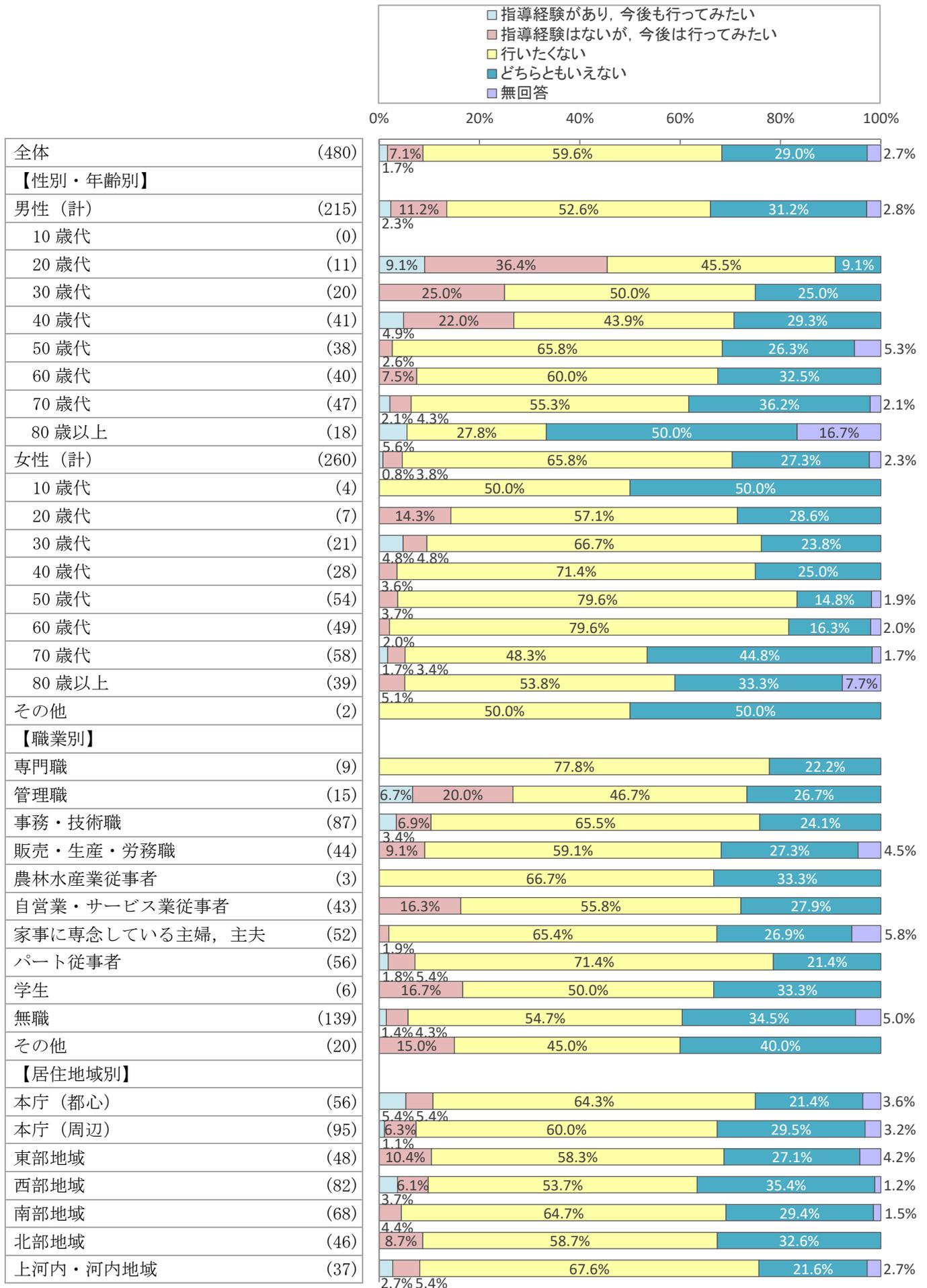
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「行いたくない」は<女性50・60歳代>がいずれも79.6%で最も高く、次いで<女性40歳代>71.4%であった。「どちらともいえない」は<その他>を除くと、<男性80歳以上><女性10歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<女性70歳代>が44.8%であった。(図IV-21-6)

職業別でみると、「行いたくない」は<専門職>が77.8%で最も高く、次いで<パート従事者>が71.4%であった。「どちらともいえない」は<その他>を除くと、<無職>が34.5%で最も高く、次いで<農林水産業従事者><学生>がいずれも33.3%であった。(図IV-21-6)

居住地域別でみると「行いたくない」は<上河内・河内地域>が67.6%で最も高く、次いで<南部地域>が64.7%であった。「どちらともいえない」は<西部地域>が35.4%で最も高く、次いで<北部地域>が32.6%であった。(図IV-21-6)

<図IV-21-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別



## 2.2. 日本遺産について

### (1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度

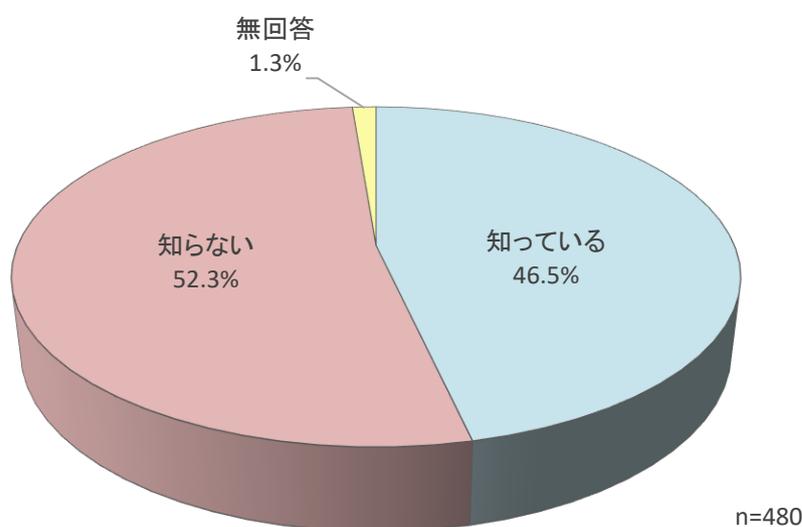
#### ◇ 「知らない」が5割強

問48 平成30年5月に「大谷石文化」が日本遺産(※)に認定されたことを知っていますか。

※ 地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定したもの。(〇は1つ)

		n=480
1	知っている	46.5%
2	知らない	52.3%
	(無回答)	1.3%

<図IV-22-1>全体



「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度については、「知らない」が52.3%、一方、「知っている」は46.5%であった。(図IV-22-1)

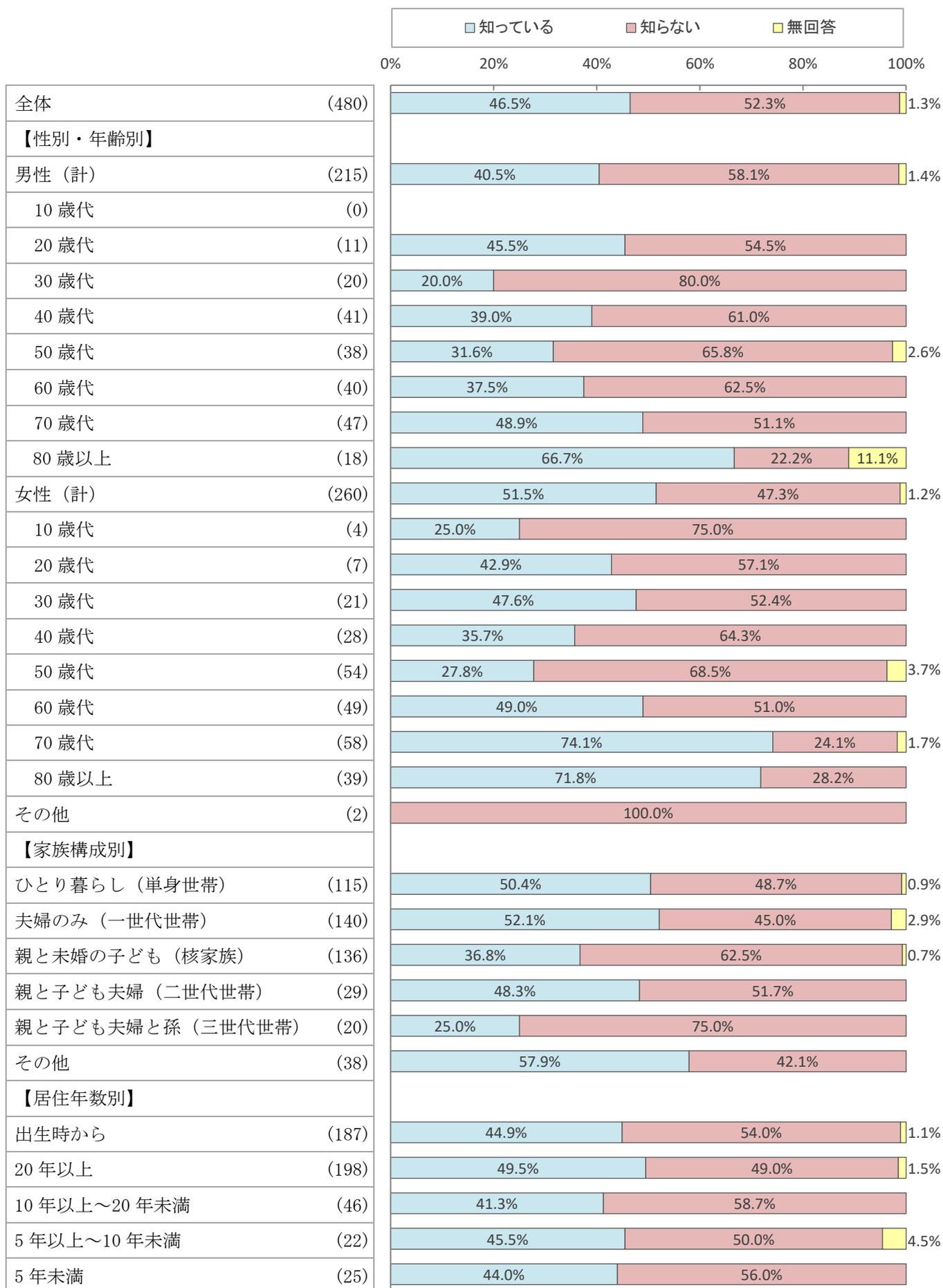
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<女性70歳代>が74.1%で最も高く、次いで<女性80歳以上>が71.8%であった。一方、「知らない」は<その他>を除くと、<男性30歳代>が80.0%で最も高く、次いで<女性10歳代>が75.0%であった。(図IV-22-2)

家族構成別でみると、「知っている」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が52.1%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が50.4%であった。一方、「知らない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が75.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が62.5%であった。(図IV-22-2)

居住年数別でみると、「知っている」は<20年以上>が49.5%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が45.5%であった。一方、「知らない」は<10年以上~20年未満>が58.7%で最も高く、次いで<5年未満>が56.0%であった。(図IV-22-2)

<図IV-22-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

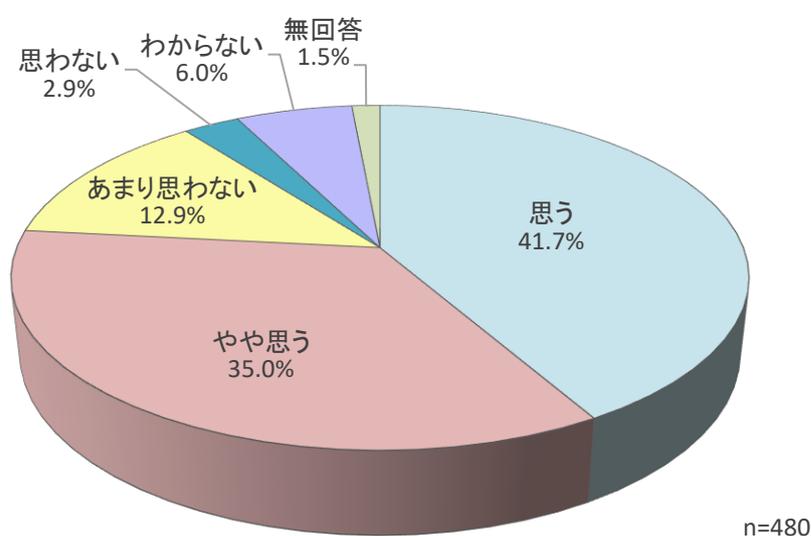


## (2) 「大谷石文化」を誇りに思うか

◇「思う」と「やや思う」を合わせた【思う(計)】が8割弱

問49 本市の「大谷石文化」を誇りに思いますか。		(○は1つ)
		n=480
1	思う	41.7%
2	やや思う	35.0%
3	あまり思わない	12.9%
4	思わない	2.9%
5	わからない	6.0%
	(無回答)	1.5%

<図IV-22-3>全体



「大谷石文化」を誇りに思うかについては、「思う」が41.7%、「やや思う」が35.0%で、これらを合わせた【思う(計)】は76.7%であった。一方、「あまり思わない」が12.9%、「思わない」が2.9%で、これらを合わせた【思わない(計)】は15.8%であった。(図IV-22-3)

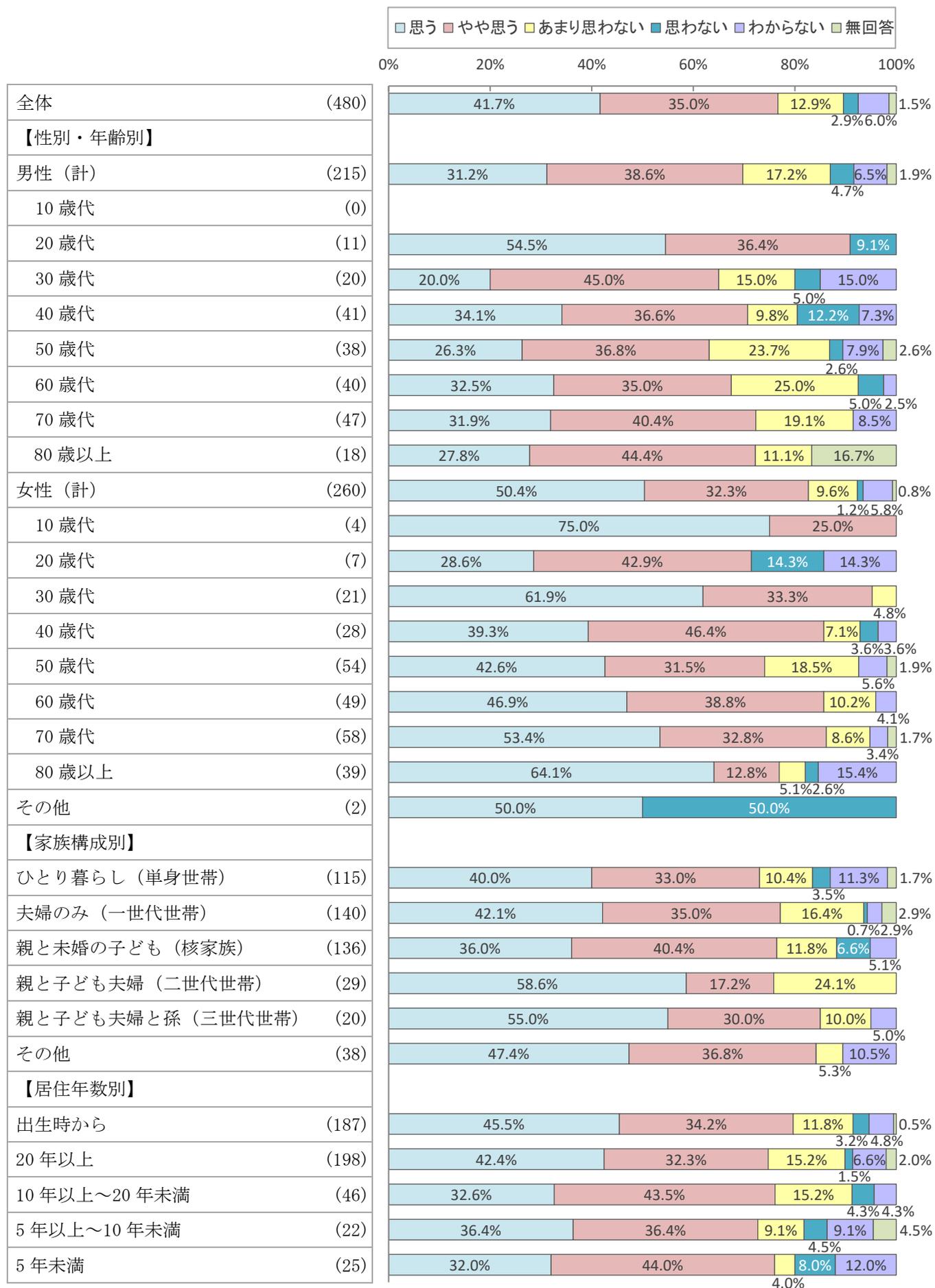
### <参考>

性別・年齢別でみると、【思う(計)】は<女性10歳代>が100.0%、次いで<女性30歳代>が95.2%であった。一方、【思わない(計)】は<その他>を除くと、<男性60歳代>が30.0%で最も高く、次いで<男性50歳代>が26.3%であった。(図IV-22-4)

家族構成別でみると、【思う(計)】は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が85.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が77.1%であった。一方、【思わない(計)】は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が24.1%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が18.4%であった。(図IV-22-4)

居住年数別でみると、【思う(計)】は<出生時から>が79.7%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が76.1%であった。一方、【思わない(計)】は<10年以上~20年未満>が19.5%で最も高く、次いで<20年以上>が16.7%であった。(図IV-22-4)

<図Ⅳ-22-4>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



## 23. 文化的景観について

### (1) 「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことの認知度

#### ◇ 「知らなかった」が6割半ば

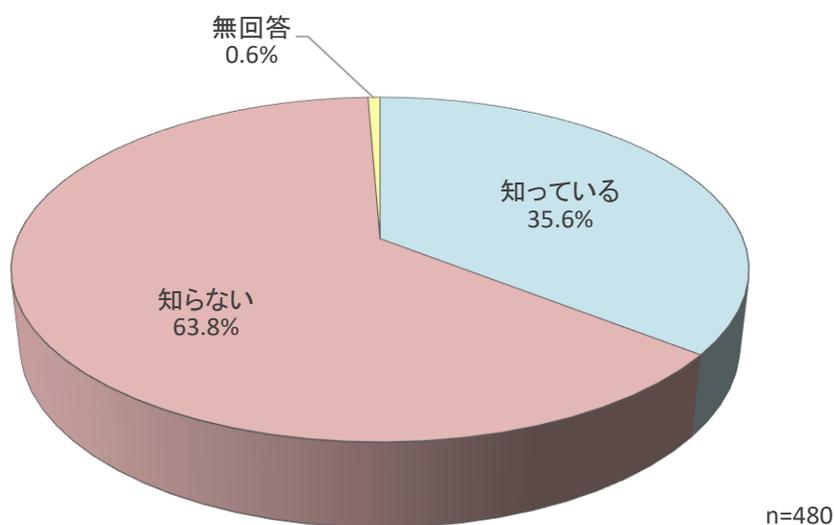
問50 令和6年に本市の「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観（※）に選定されたことを知っていますか。

※ 文化財の一種で、人間と自然の相互作用によって生み出された景観のことであり、地域の特色を示す代表的なものとして国が選定したもの。 (○は1つ)

1	知っている	35.6%
2	知らない	63.8%
	(無回答)	0.6%

n=480

<図IV-23-1>全体



「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことの認知度については、「知らない」が63.8%、一方、「知っている」は35.6%であった。(図IV-23-1)

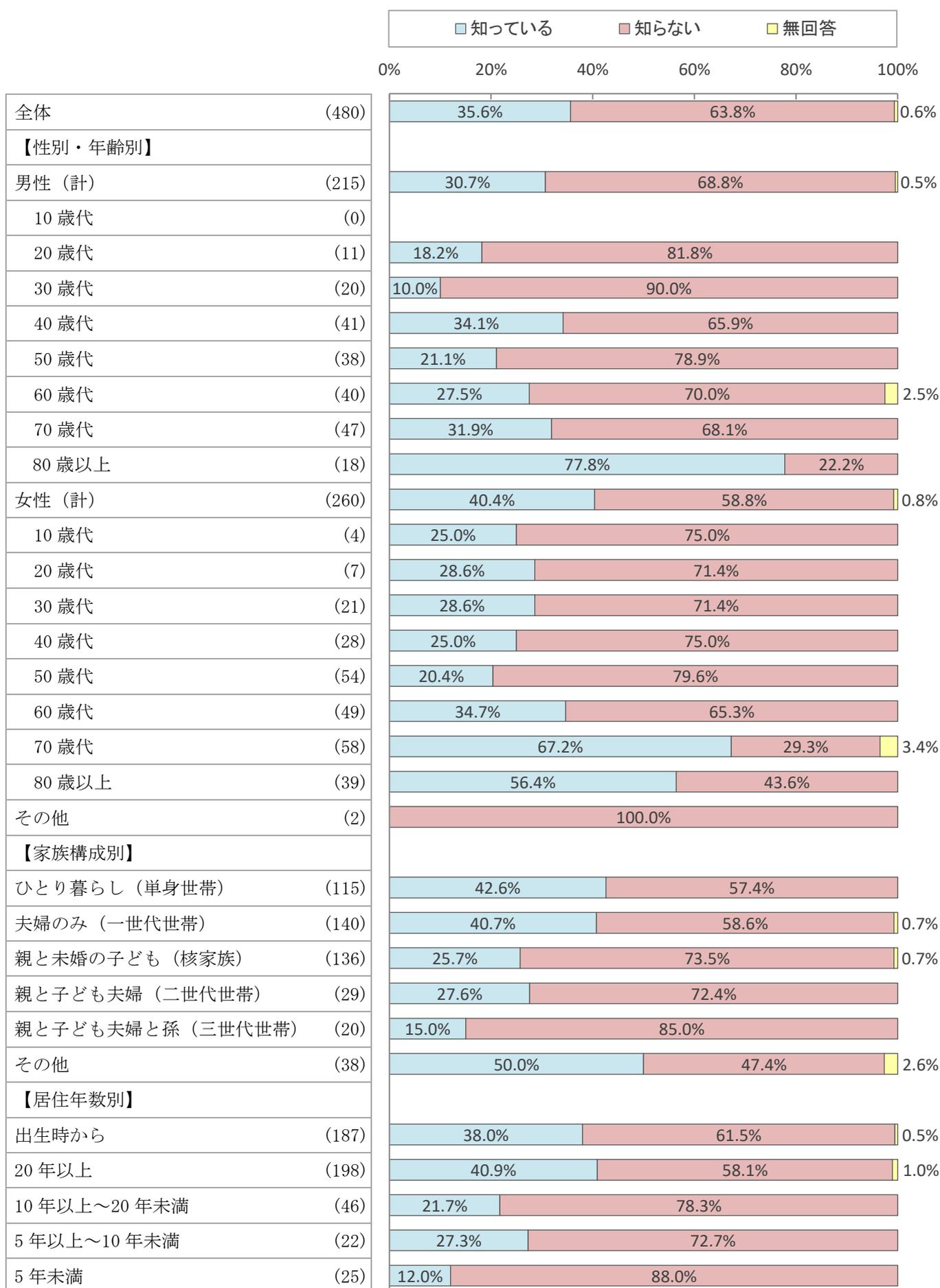
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<男性80歳以上>が77.8%で最も高く、次いで<女性70歳代>が67.2%であった。一方、「知らない」は<その他>を除くと、<男性30歳代>が90.0%で最も高く、次いで<男性20歳代>が81.8%であった。(図IV-23-2)

家族構成別でみると、「知っている」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が42.6%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が40.7%であった。一方、「知らない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が85.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が73.5%であった。(図IV-23-2)

居住年数別でみると、「知っている」は、<20年以上>が40.9%で最も高く、次いで<出生時から>が38.0%であった。一方、「知らない」は<5年未満>が88.0%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が78.3%であった。(図IV-23-2)

<図IV-23-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

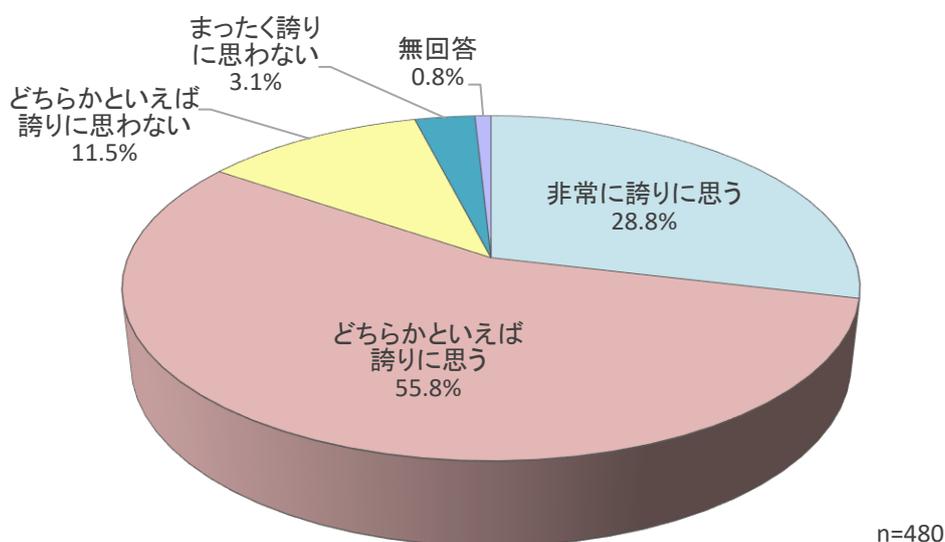


(2) 大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことを誇りに思うか

◇ 「非常に誇りに思う」と「どちらかといえば誇りに思う」を合わせた【思う(計)】が8割半ば

問5 1	「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことを誇りに思いますか。	(○は1つ) n=480
1	非常に誇りに思う	28.8%
2	どちらかといえば誇りに思う	55.8%
3	どちらかといえば誇りに思わない	11.5%
4	まったく誇りに思わない	3.1%
	(無回答)	0.8%

<図IV-23-3>全体



「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことを誇りに思うかについては、「非常に誇りに思う」が28.8%、「どちらかといえば誇りに思う」が55.8%で、これらを合わせた【思う(計)】は84.6%であった。一方、「どちらかといえば誇りに思わない」が11.5%、「まったく誇りに思わない」が3.1%で、これらを合わせた【思わない(計)】は14.6%であった。(図IV-23-3)

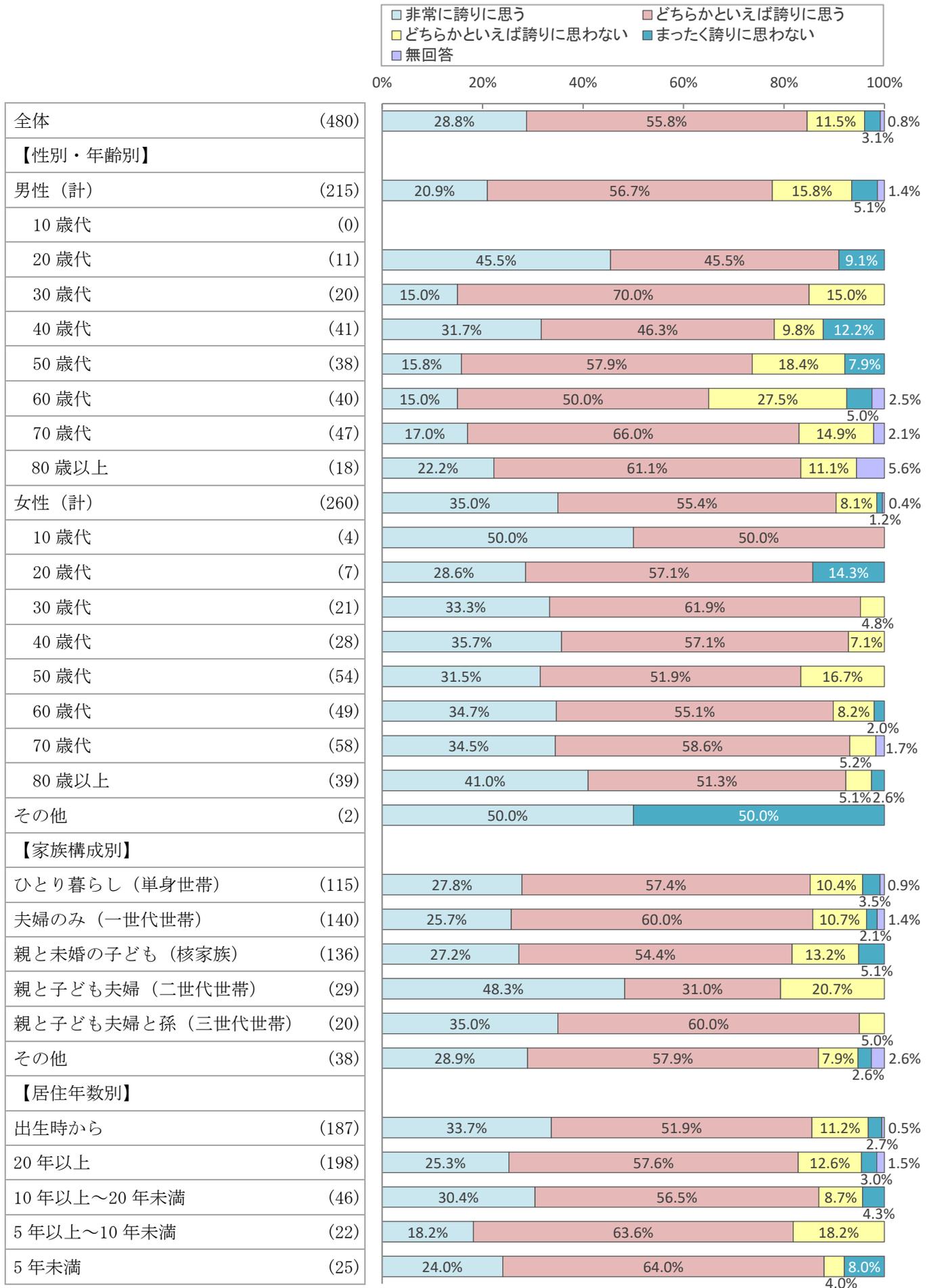
<参考>

性別・年齢別でみると、【思う(計)】は<女性10歳代>が100.0%、次いで<女性30歳代>が95.2%であった。一方、【思わない(計)】は<その他>を除くと、<男性60歳代>が32.5%で最も高く、次いで<男性50歳代>が26.3%であった。(図IV-23-4)

家族構成別でみると、【思う(計)】は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が95.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が85.7%であった。一方、【思わない(計)】は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が20.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が18.3%であった。(図IV-23-4)

居住年数別でみると、【思う(計)】は<5年未満>が88.0%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が86.9%であった。一方、【思わない(計)】は<5年以上~10年未満>が18.2%で最も高く、次いで<20年以上>が15.6%であった。(図IV-23-4)

<図IV-23-4>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



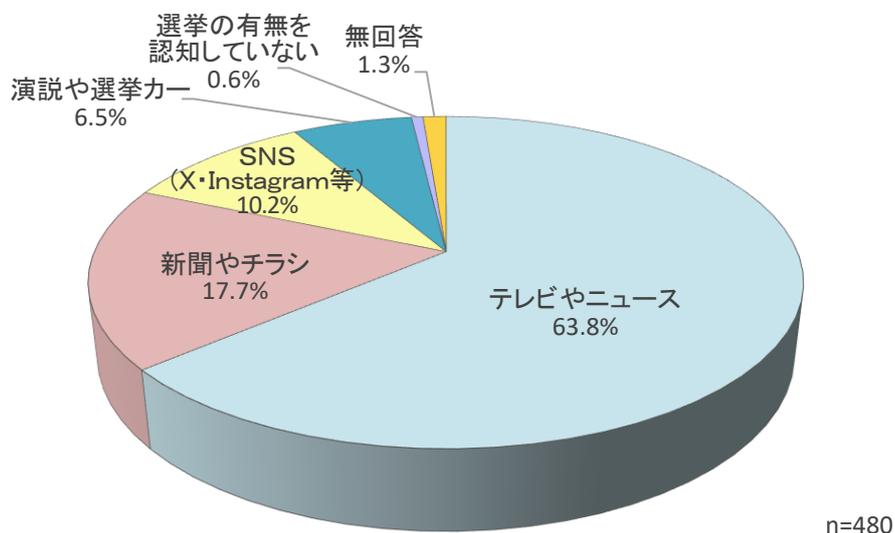
## 2 4. 選挙の投票率向上に向けた取組について

### (1) どのような方法で選挙の有無を認知しているか

◇ 「テレビやニュース」が6割半ば

問 5 2	どのような方法で選挙の有無を認知していますか。	(○は1つ)
		n=480
1	テレビやニュース	63.8%
2	新聞やチラシ	17.7%
3	SNS (X・Instagram等)	10.2%
4	演説や選挙カー	6.5%
5	選挙の有無を認知していない	0.6%
6	その他 (無回答)	0.0% 1.3%

<図IV-24-1>全体



どのような方法で選挙の有無を認知しているかについては、「テレビやニュース」は 63.8%で最も高く、次いで「新聞やチラシ」が 17.7%、「SNS (X・Instagram等)」が 10.2%と続いた。

(図IV-24-1)

#### <参考>

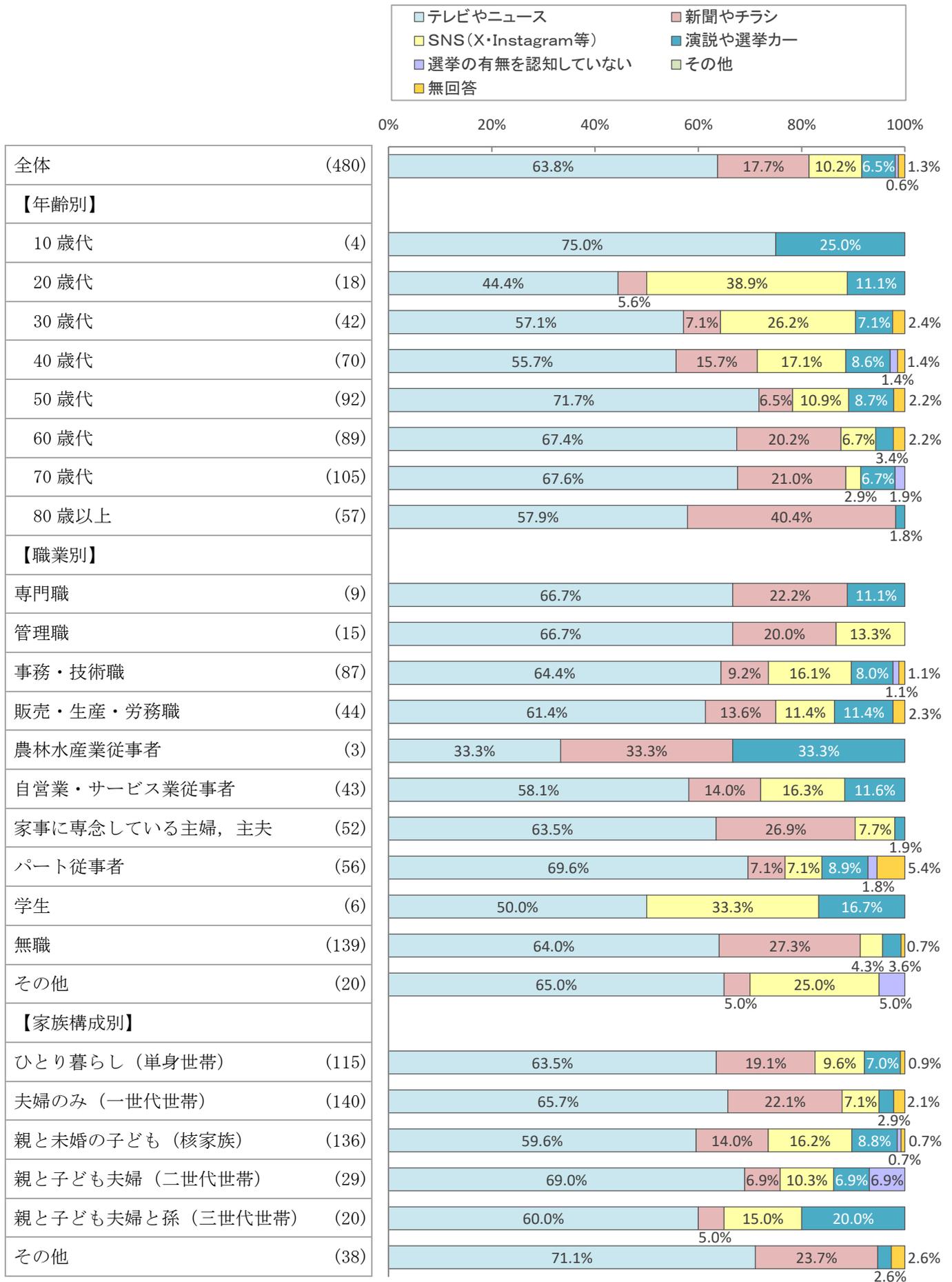
年齢別でみると、「テレビやニュース」は<10歳代>が 75.0%で最も高く、次いで<50歳代>が 71.7%であった。「新聞やチラシ」は<80歳以上>が 40.4%で最も高く、次いで<70歳代>が 21.0%であった。

(図IV-24-2)

職業別でみると、「テレビやニュース」は<パート従事者>が 69.6%で最も高く、次いで<専門職><管理職>がいずれも 66.7%であった。「新聞やチラシ」は<農林水産業従事者>が 33.3%で最も高く、次いで<無職>が 27.3%であった。(図IV-24-2)

家族構成別でみると、「テレビやニュース」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 69.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が 65.7%であった。「新聞やチラシ」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世帯世帯)>が 22.1%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が 19.1%であった。(図IV-24-2)

<図IV-24-2>年齢別／職業別／家族構成別

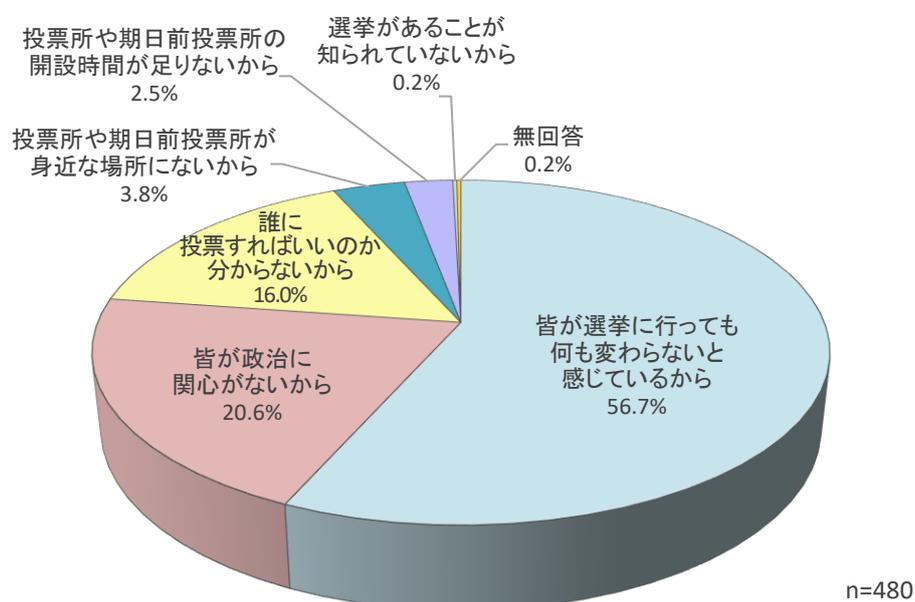


## (2) 選挙の低投票率の理由

### ◇ 「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が6割弱

問 5 3	選挙の低投票率の理由は何だと思いますか。	(○は1つ)
		n=480
1	皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから	56.7%
2	皆が政治に関心がないから	20.6%
3	誰に投票すればいいのかわからないから	16.0%
4	投票所や期日前投票所が身近な場所がないから	3.8%
5	投票所や期日前投票所の開設時間が足りないから	2.5%
6	選挙があることが知られていないから	0.2%
	(無回答)	0.2%

#### <図IV-24-3>全体



選挙の低投票率の理由については、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が56.7%で最も高く、次いで「皆が政治に関心がないから」が20.6%、「誰に投票すればいいのかわからないから」が16.0%と続いた。(図IV-24-3)

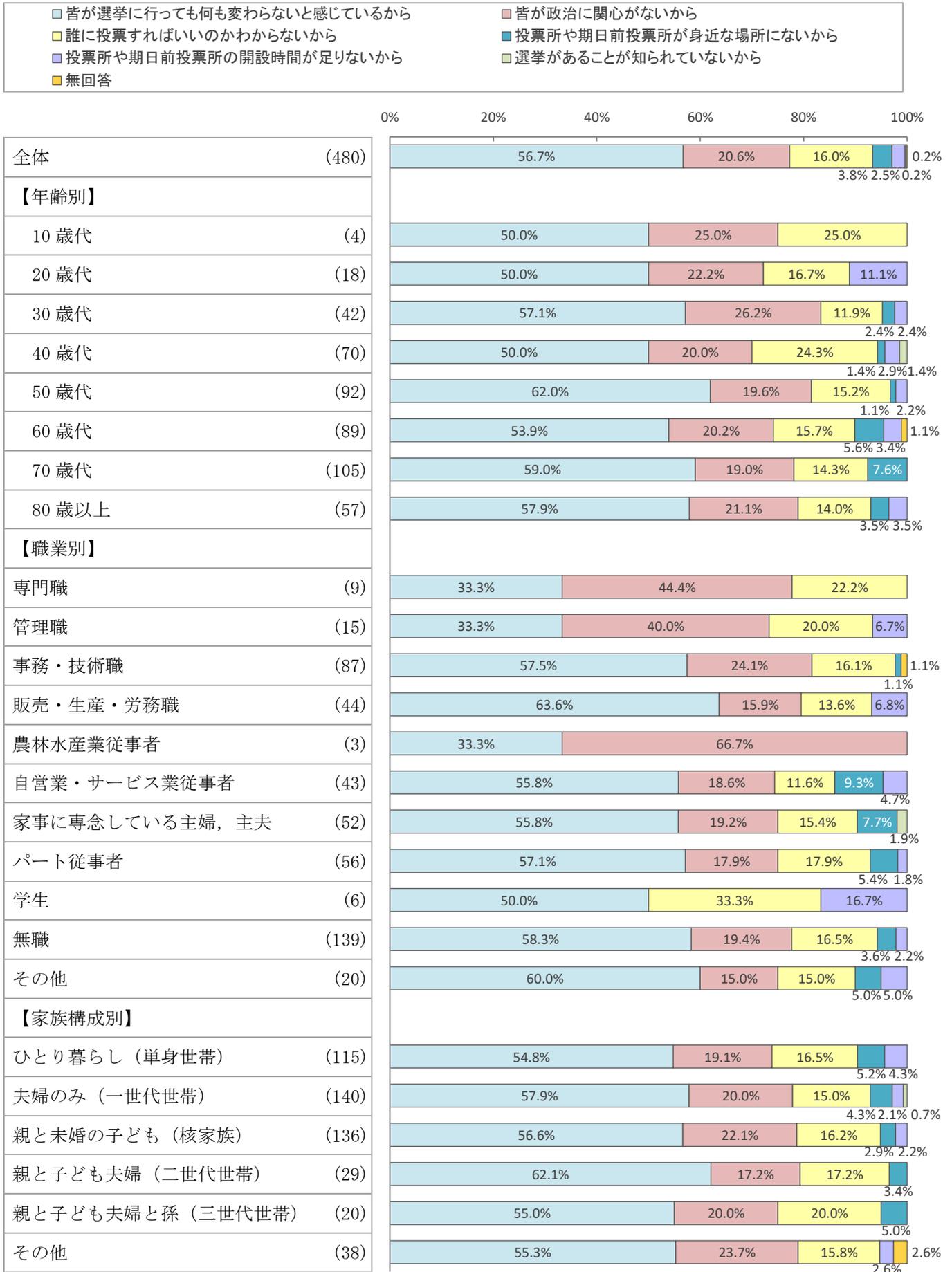
#### <参考>

年齢別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<50歳代>が62.0%で最も高く、次いで<70歳代>が59.0%であった。「皆が政治に関心がないから」は<30歳代>が26.2%で最も高く、次いで<10歳代>が25.0%であった。(図IV-24-4)

職業別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<その他>を除くと、<販売・生産・労務職>が63.6%で最も高く、次いで<無職>が58.3%であった。「皆が政治に関心がないから」は<農林水産業従事者>が66.7%で最も高く、次いで<専門職>が44.4%であった。(図IV-24-4)

家族構成別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が62.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が57.9%であった。「皆が政治に関心がないから」は<その他>を除くと、<親と未婚の子ども(核家族)>が22.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)><親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>がいずれも20.0%であった。(図IV-24-4)

<図IV-24-4>年齢別／職業別／家族構成別



## 25. 生涯学習について

### (1) 現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているか

◇ 「していない」が約6割弱

問54 現在、生涯学習（※）として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしていますか。

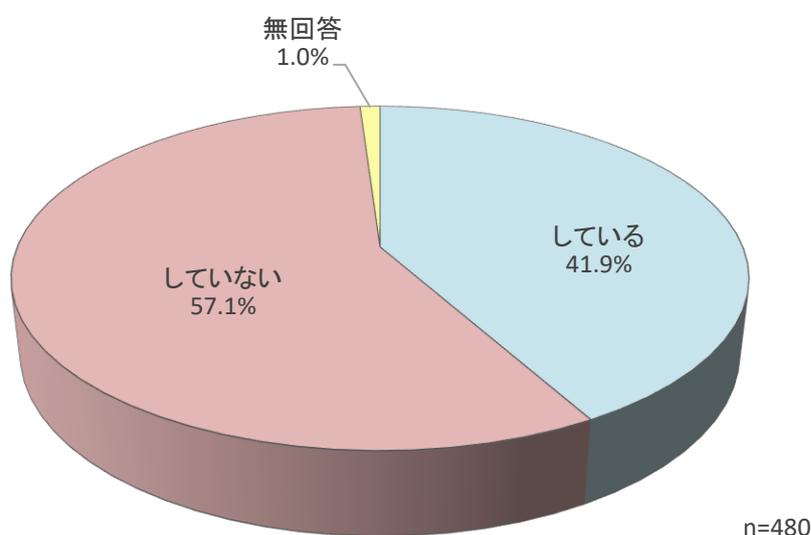
※ 生涯にわたって学び、知識や技術等を獲得していくことです。教育による学習だけでなく、読書や芸術鑑賞、運動等の豊かな人間性を育む趣味活動など、個人による学び（自己学習）も含めた幅広い行為を指します。

（○は1つ）

n=480

1	している	41.9%
2	していない	57.1%
	（無回答）	1.0%

<図IV-25-1>全体



現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているかについては、「していない」が57.1%、一方、「している」は41.9%であった。（図IV-25-1）

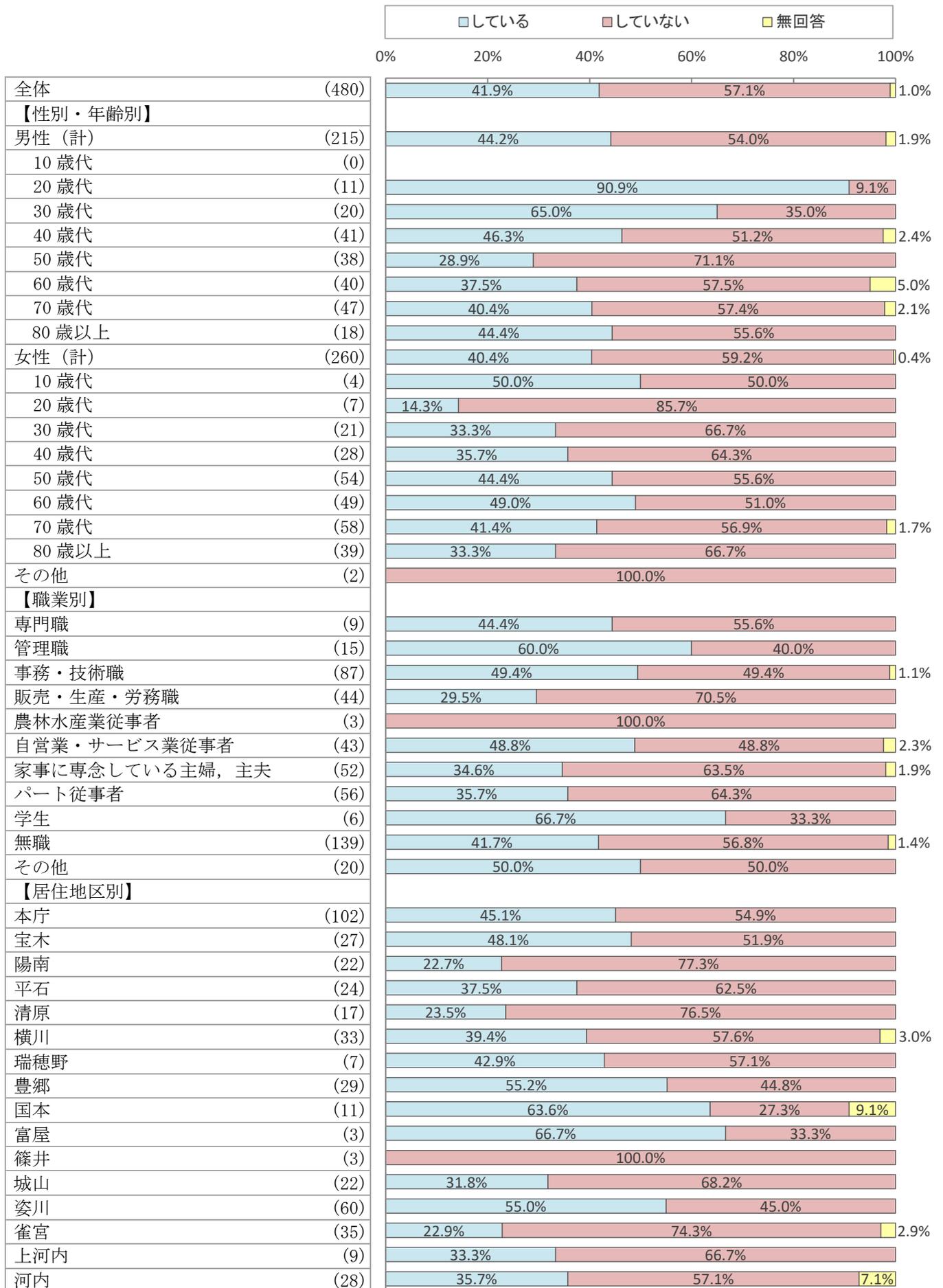
<参考>

性別・年齢別でみると、「していない」は<その他>を除くと、<女性20歳代>が85.7%で最も高く、次いで<男性50歳代>が71.1%であった。一方、「している」は<男性20歳代>が90.9%で最も高く、次いで<男性30歳代>が65.0%であった。（図IV-25-2）

職業別でみると、「していない」は<農林水産業従事者>が100.0%、次いで<販売・生産・労務職>が70.5%であった。一方、「している」は<学生>が66.7%で最も高く、次いで<管理職>が60.0%であった。（図IV-25-2）

居住地区別でみると、「していない」は、<篠井>が100.0%、次いで<陽南>が77.3%であった。一方、「している」は<富屋>が66.7%で最も高く、次いで<国本>が63.6%であった。（図IV-25-2）

<図IV-25-2>性別・年齢別／職業別／居住地区別



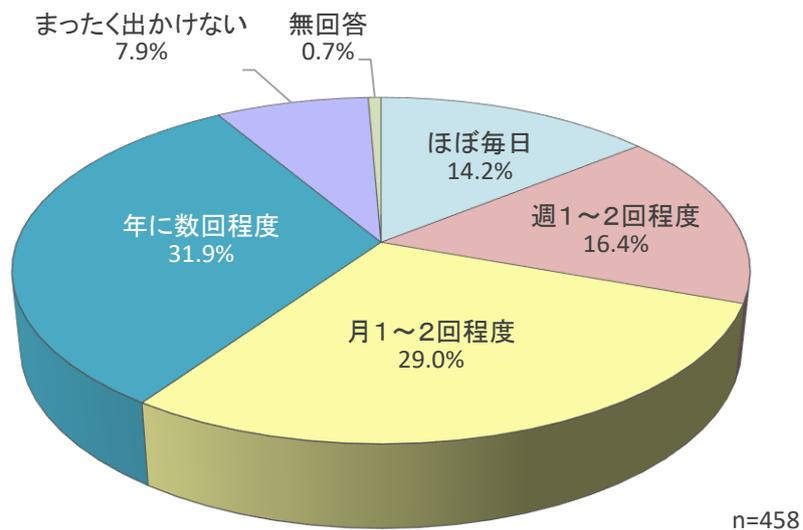
## 26. 中心市街地の活性化について

### (1) 中心市街地に出かける頻度

#### ◇ 「年に数回程度」が3割強

問55 中心市街地にどのくらいの頻度で出かけますか。		(○は1つ)
		n=458
1	ほぼ毎日	14.2%
2	週1～2回程度	16.4%
3	月1～2回程度	29.0%
4	年に数回程度	31.9%
5	まったく出かけない	7.9%
	(無回答)	0.7%

<図IV-26-1>全体



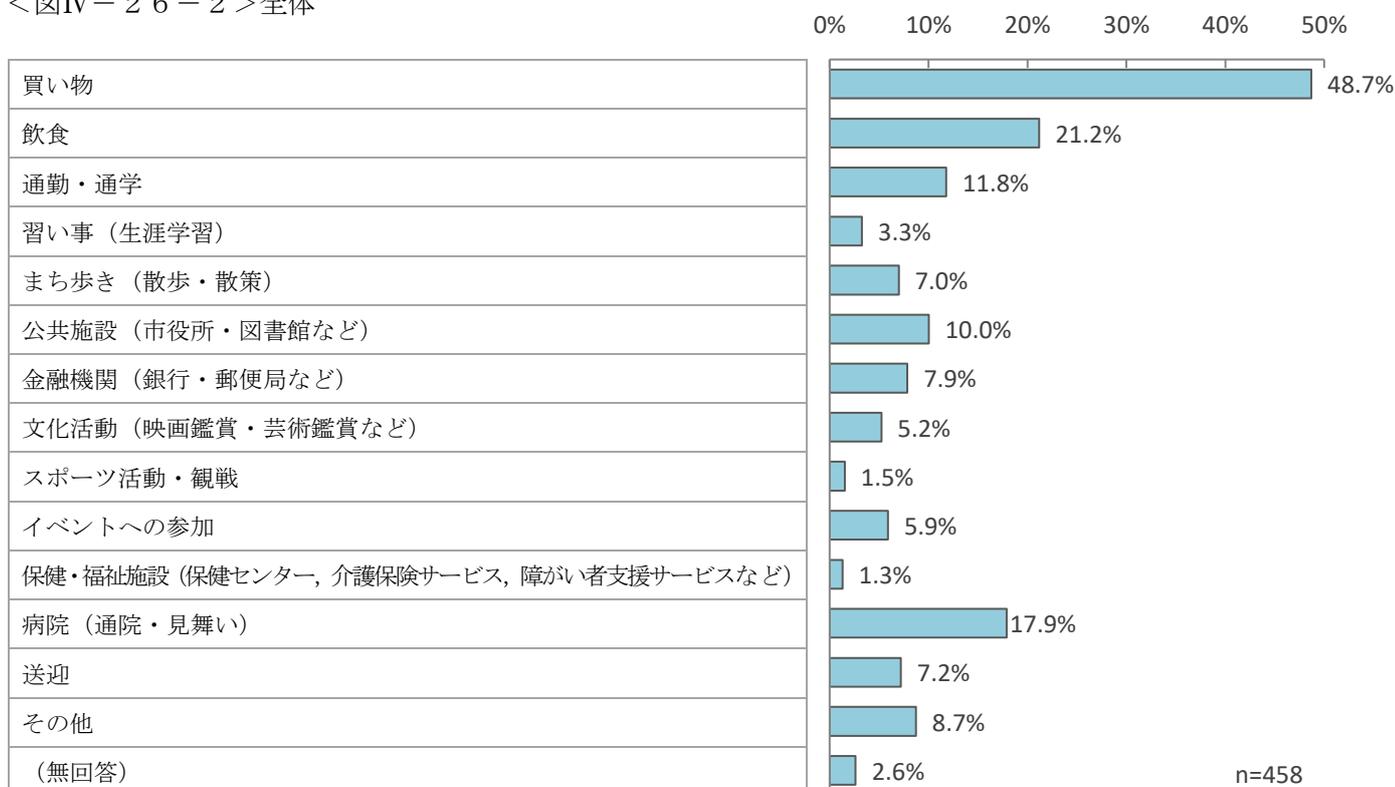
中心市街地にどのくらいの頻度で出かけるかについては、「年に数回程度」が31.9%で最も高く、次いで「月1～2回程度」が29.0%であった。(図IV-26-1)

## (2) 中心市街地へ出かける目的

### ◇ 「買い物」が約5割

問56 中心市街地に出かける主な目的は何ですか。	(○は3つまで)
	n=458
1 買い物	48.7%
2 飲食	21.2%
3 通勤・通学	11.8%
4 習い事(生涯学習)	3.3%
5 まち歩き(散歩・散策)	7.0%
6 公共施設(市役所・図書館など)	10.0%
7 金融機関(銀行・郵便局など)	7.9%
8 文化活動(映画鑑賞・芸術鑑賞など)	5.2%
9 スポーツ活動・観戦	1.5%
10 イベントへの参加	5.9%
11 保健・福祉施設(保健センター, 介護保険サービス, 障がい者支援サービスなど)	1.3%
12 病院(通院・見舞い)	17.9%
13 送迎	7.2%
14 その他	8.7%
(無回答)	2.6%

<図IV-26-2>全体



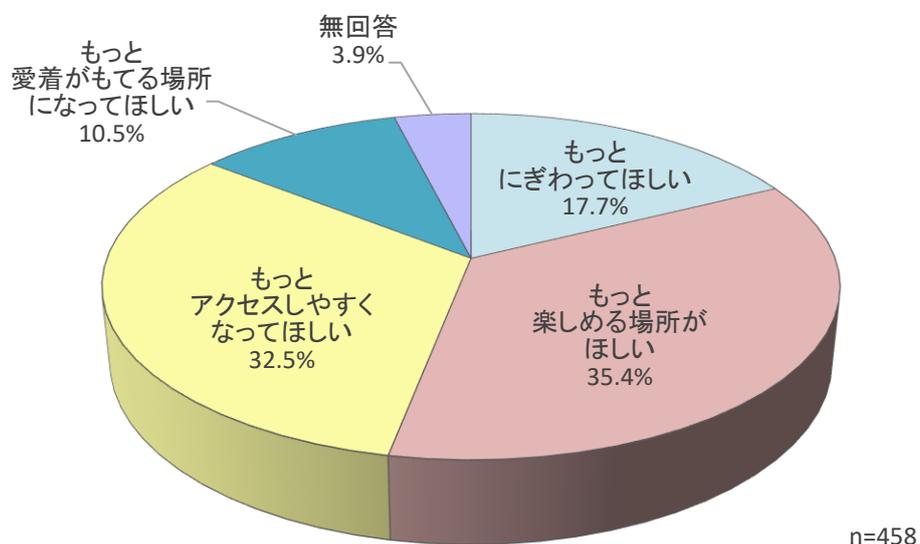
中心市街地に出かける目的については、「買い物」が48.7%で最も高く、次いで「飲食」が21.2%、「病院(通院・見舞い)」が17.9%と続いた。(図IV-26-2)

(3) 街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか

◇ 「もっと楽しめる場所がほしい」が3割半ば

問57 街なかがどう変化すれば更に中心市街地へ出かけたくなりますか。(○は1つ)		n=458
1	もっとにぎわってほしい	17.7%
2	もっと楽しめる場所がほしい	35.4%
3	もっとアクセスしやすくなってほしい	32.5%
4	もっと愛着がもてる場所になってほしい	10.5%
	(無回答)	3.9%

<図IV-26-3>全体



街なかがどう変化すれば更に中心市街地へ出かけたくなるかについては、「もっと楽しめる場所がほしい」が35.4%で最も高く、次いで「もっとアクセスしやすくなってほしい」が32.5%であった。

(図IV-26-3)

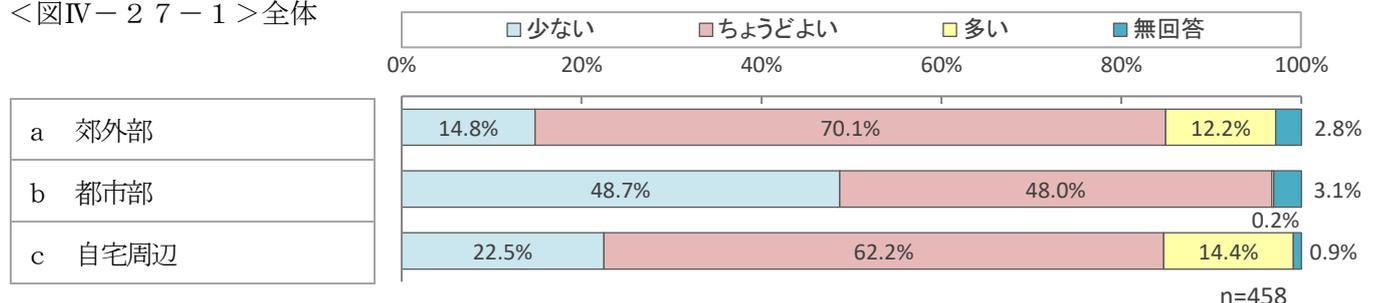
## 27. 宇都宮市のみどりについて

### (1) みどりの量についての感じ方

◇ 「ちょうどよい」は「a 郊外部のみどり」が約7割

問58 宇都宮市の「a 郊外部」, 「b 都市部」, 「c 自宅周辺」のみどりの量について, それぞれどのよう に感じていますか。(○は1つずつ)		n=458
a 郊外部		
1	少ない	14.8%
2	ちょうどよい	70.1%
3	多い	12.2%
	(無回答)	2.8%
b 都市部		
1	少ない	48.7%
2	ちょうどよい	48.0%
3	多い	0.2%
	(無回答)	3.1%
c 自宅周辺		
1	少ない	22.5%
2	ちょうどよい	62.2%
3	多い	14.4%
	(無回答)	0.9%

<図IV-27-1>全体



宇都宮市のみどりの量についての感じ方については、「a 郊外部」は『ちょうどよい』が70.1%、「b 都市部」は『少ない』が48.7%、「c 自宅周辺」は『ちょうどよい』が62.2%でそれぞれ最も高かった。

(図IV-27-1)

#### <参考>

性別・年齢別でみると、「a 郊外部」が『ちょうどよい』と感じたのは、<男性10歳代><女性10歳代>がいずれも100.0%、次いで<男性20歳代>が87.5%であった。「b 都市部」が『ちょうどよい』と感じたのは<男性10歳代><女性10歳代>がいずれも100.0%、次いで<女性50歳代>が63.0%であった。「c 自宅周辺」が『ちょうどよい』と感じたのは、<男性10歳代><女性10歳代>がいずれも100.0%、次いで<女性50歳代>が78.3%であった。(図IV-27-2・3・4)

居住年数別でみると、『ちょうどよい』と感じたのは、「a 郊外部」では<5年未満>が73.7%、「b 都市部」では<10年以上~20年未満>が60.8%、「c 自宅周辺」では<5年未満>が73.7%で最も高かった。

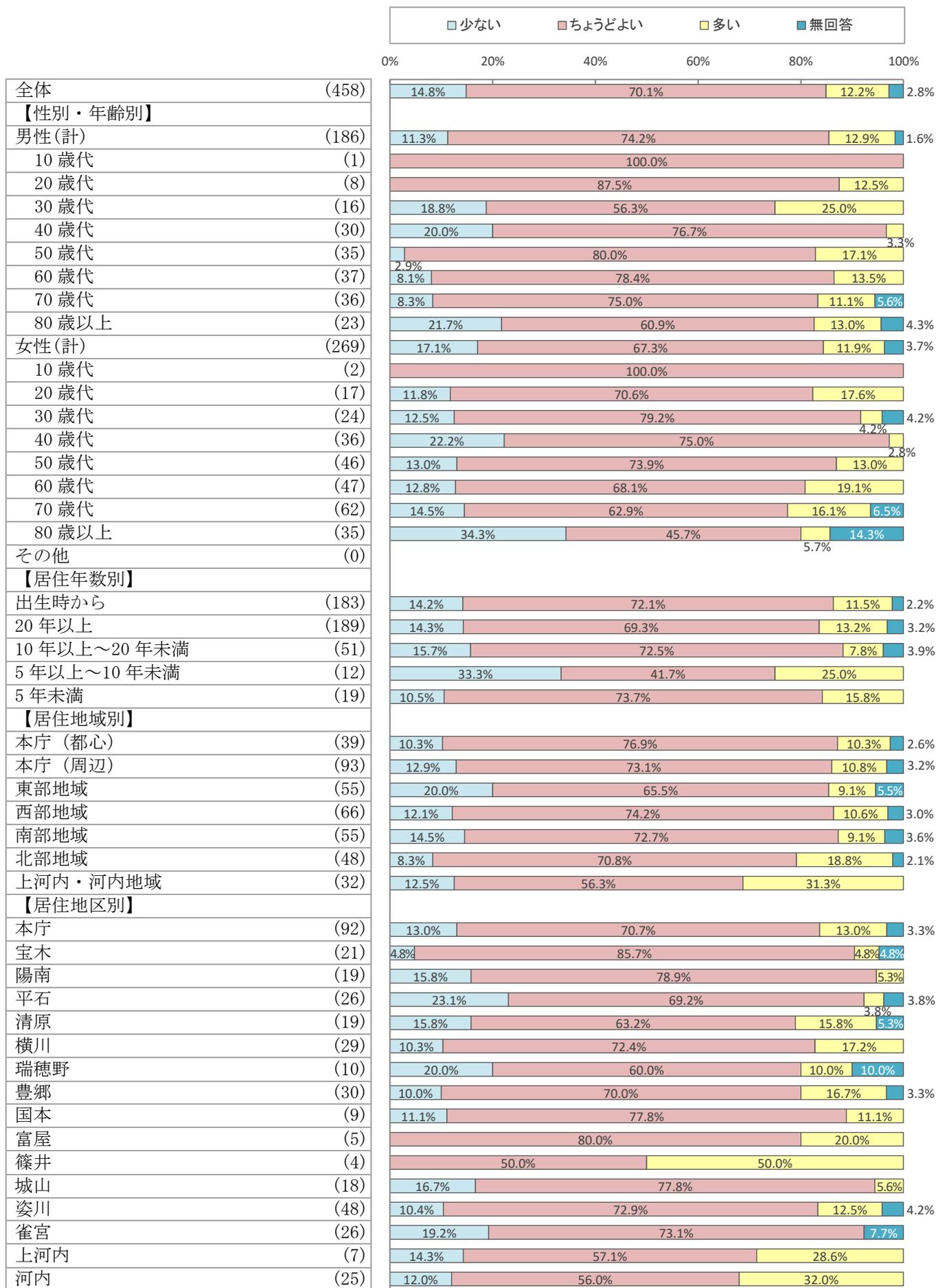
(図IV-27-2・3・4)

居住地域別でみると、『ちょうどよい』と感じたのは、「a 郊外部」では<本庁(都心)>が76.9%、「b 都市部」では<北部地域>が62.5%、「c 自宅周辺」では<西部地域>が72.7%で最も高かった。

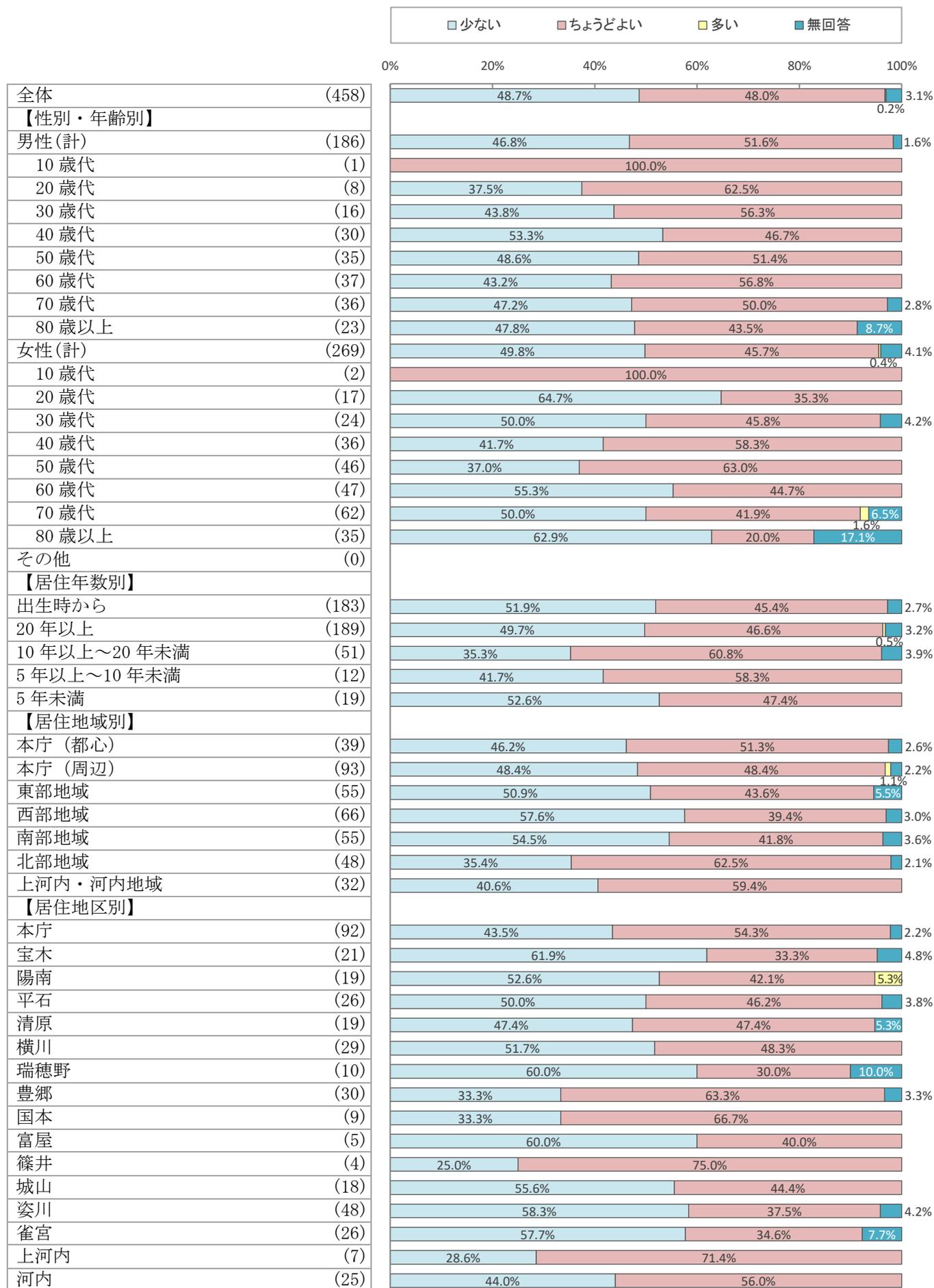
(図IV-27-2・3・4)

居住地区別でみると、『ちょうどよい』と感じたのは、「a 郊外部」では<宝木>が85.7%、「b 都市部」では<篠井>が75.0%、「c 自宅周辺」では<国本>が88.9%で最も高かった。(図IV-27-2・3・4)

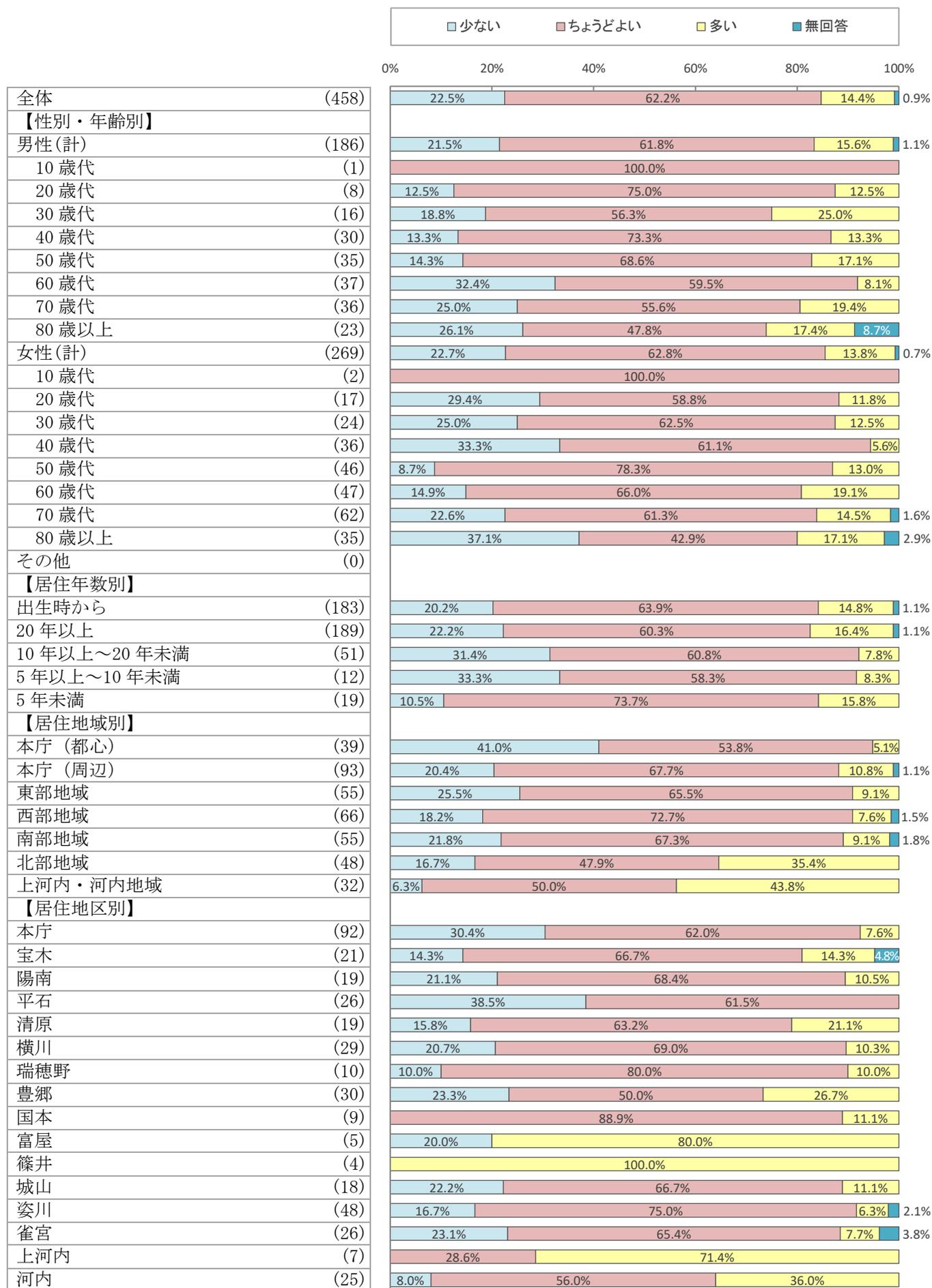
<図IV-27-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別「a 郊外部」



<図Ⅳ-27-3>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別「b 都市部」



<図Ⅳ-27-4>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別「c 自宅周辺」

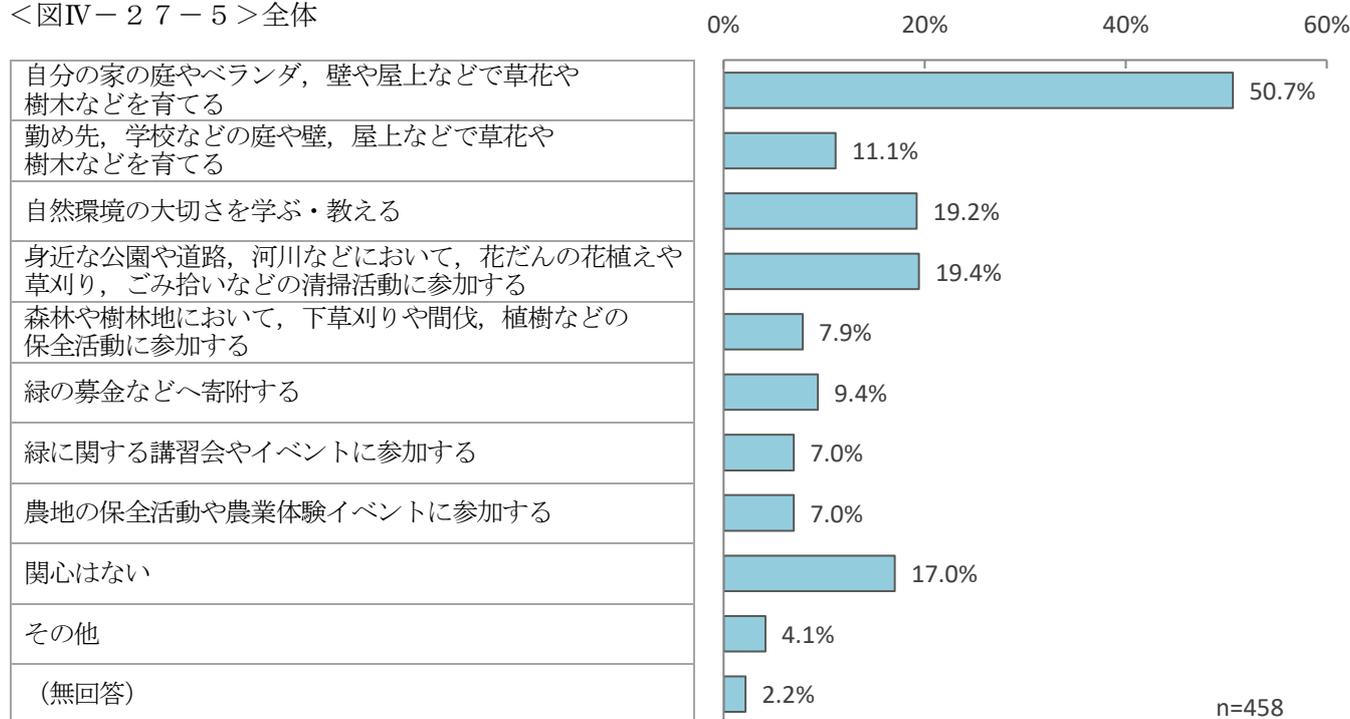


## (2) 「みどり」に関することで取り組みたいこと

### ◇ 「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」が約5割

問59 今後、「みどり」に関することで、どのようなことに取り組んでみたいと思いますか。 (○はいくつでも)		n=458
1	自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる	50.7%
2	勤め先、学校などの庭や壁、屋上などで草花や樹木などを育てる	11.1%
3	自然環境の大切さを学ぶ・教える	19.2%
4	身近な公園や道路、河川などにおいて、花だんの花植えや草刈り、ごみ拾いなどの清掃活動に参加する	19.4%
5	森林や樹林地において、下草刈りや間伐、植樹などの保全活動に参加する	7.9%
6	緑の募金などへ寄附する	9.4%
7	緑に関する講習会やイベントに参加する	7.0%
8	農地の保全活動や農業体験イベントに参加する	7.0%
9	関心はない	17.0%
10	その他	4.1%
	(無回答)	2.2%

<図IV-27-5>全体



今後、「みどり」に関することで、どのようなことに取り組んでみたいと思うかについては、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」が50.7%で最も高く、次いで「身近な公園や道路、河川などにおいて、花だんの花植えや草刈り、ごみ拾いなどの清掃活動に参加する」が19.4%、「自然環境の大切さを学ぶ・教える」が19.2%と続いた。(図IV-27-5)

#### <参考>

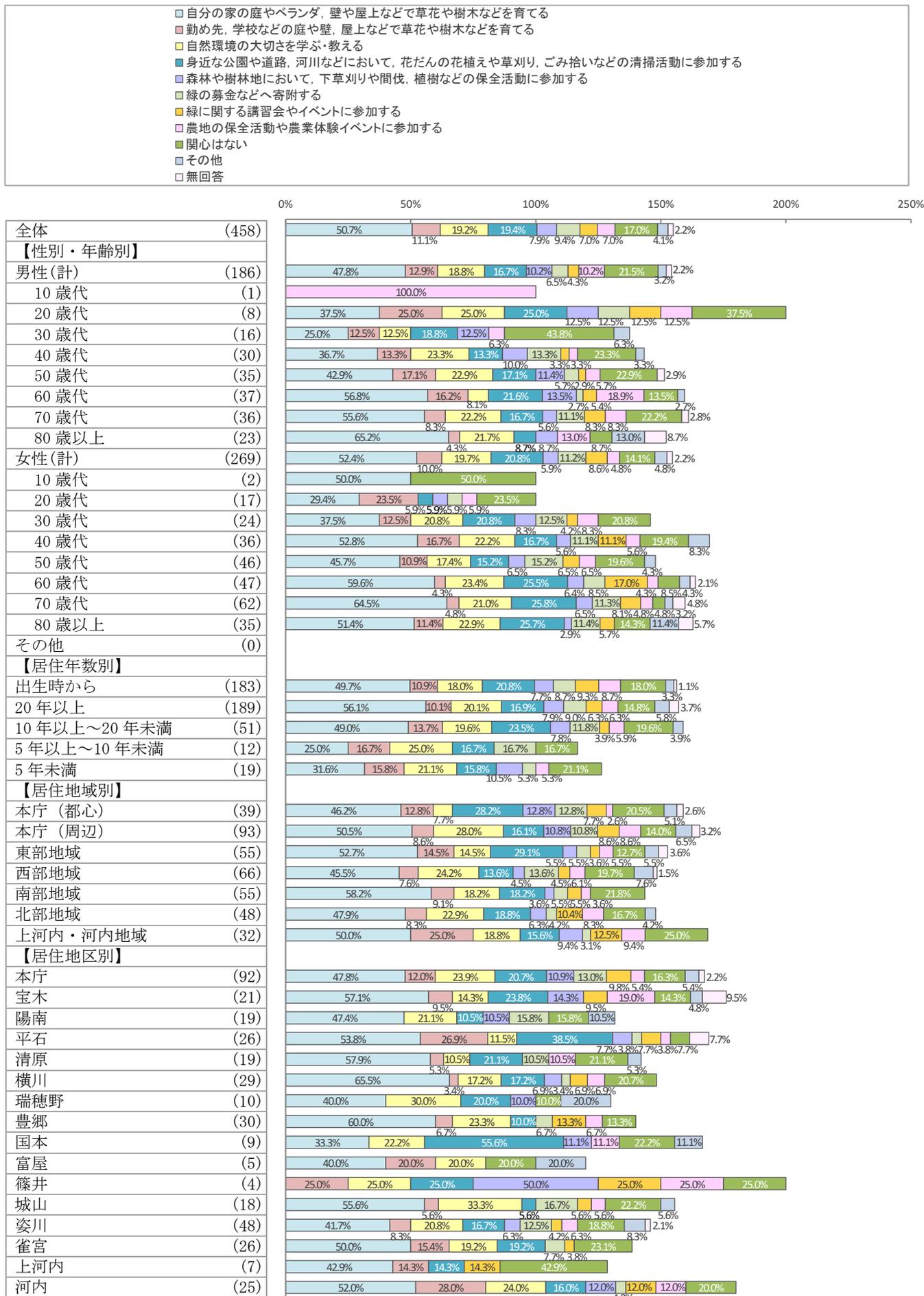
性別・年齢別でみると、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」は<男性80歳以上>が65.2%、次いで<女性70歳代>が64.5%であった。(図IV-27-6)

居住年数別でみると、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」は<20年以上>が56.1%で最も高く、次いで<出生時から>が49.7%であった。(図IV-27-6)

居住地域別でみると、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」は<南部地域>が58.2%で最も高く、次いで<東部地域>が52.7%であった。(図IV-27-6)

居住地区別でみると、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」は<横川>が65.5%で最も高く、次いで<豊郷>が60.0%であった。(図IV-27-6)

<図IV-27-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

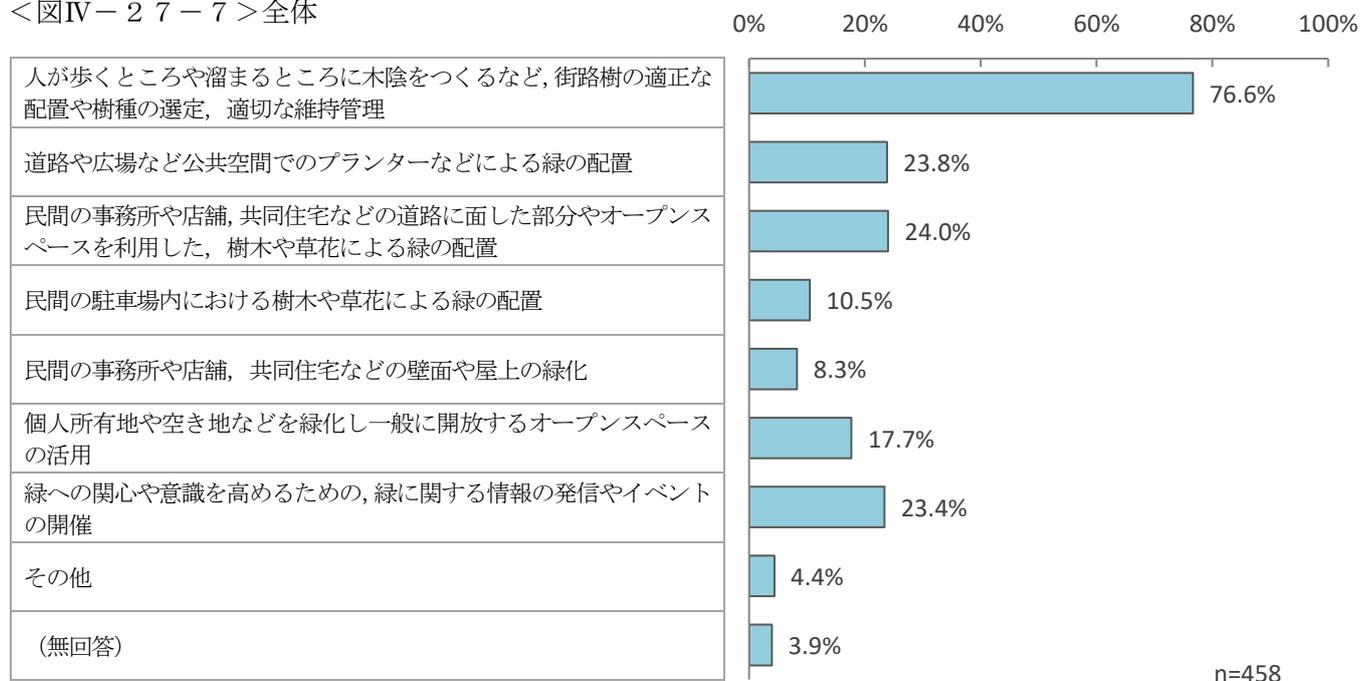


### (3) 「みどり」を増やすために必要な取組

◇ 「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」が8割弱

問60 本市の顔となる中心市街地において、人の目に映る「みどり」を増やすためには、どのような取組が必要だと思いますか。 (〇はいくつでも)		n=458
1	人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理	76.6%
2	道路や広場など公共空間でのプランターなどによる緑の配置	23.8%
3	民間の事務所や店舗、共同住宅などの道路に面した部分やオープンスペースを利用した、樹木や草花による緑の配置	24.0%
4	民間の駐車場内における樹木や草花による緑の配置	10.5%
5	民間の事務所や店舗、共同住宅などの壁面や屋上の緑化	8.3%
6	個人所有地や空き地などを緑化し一般に開放するオープンスペースの活用	17.7%
7	緑への関心や意識を高めるための、緑に関する情報の発信やイベントの開催	23.4%
8	その他 (無回答)	4.4% 3.9%

<図IV-27-7>全体



「みどり」を増やすために必要な取組については、「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」が76.6%で最も高く、次いで「民間の事務所や店舗、共同住宅などの道路に面した部分やオープンスペースを利用した、樹木や草花による緑の配置」が24.0%、「道路や広場など公共空間でのプランターなどによる緑の配置」が23.8%と続いた。(図IV-27-7)

#### <参考>

「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」を性別・年齢別でみると、<男性10歳代>が100.0%、次いで<男性30歳代>が87.5%であった。(図IV-27-8)

居住年数別でみると、<5年以上～10年未満>が91.7%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が82.4%であった。(図IV-27-8)

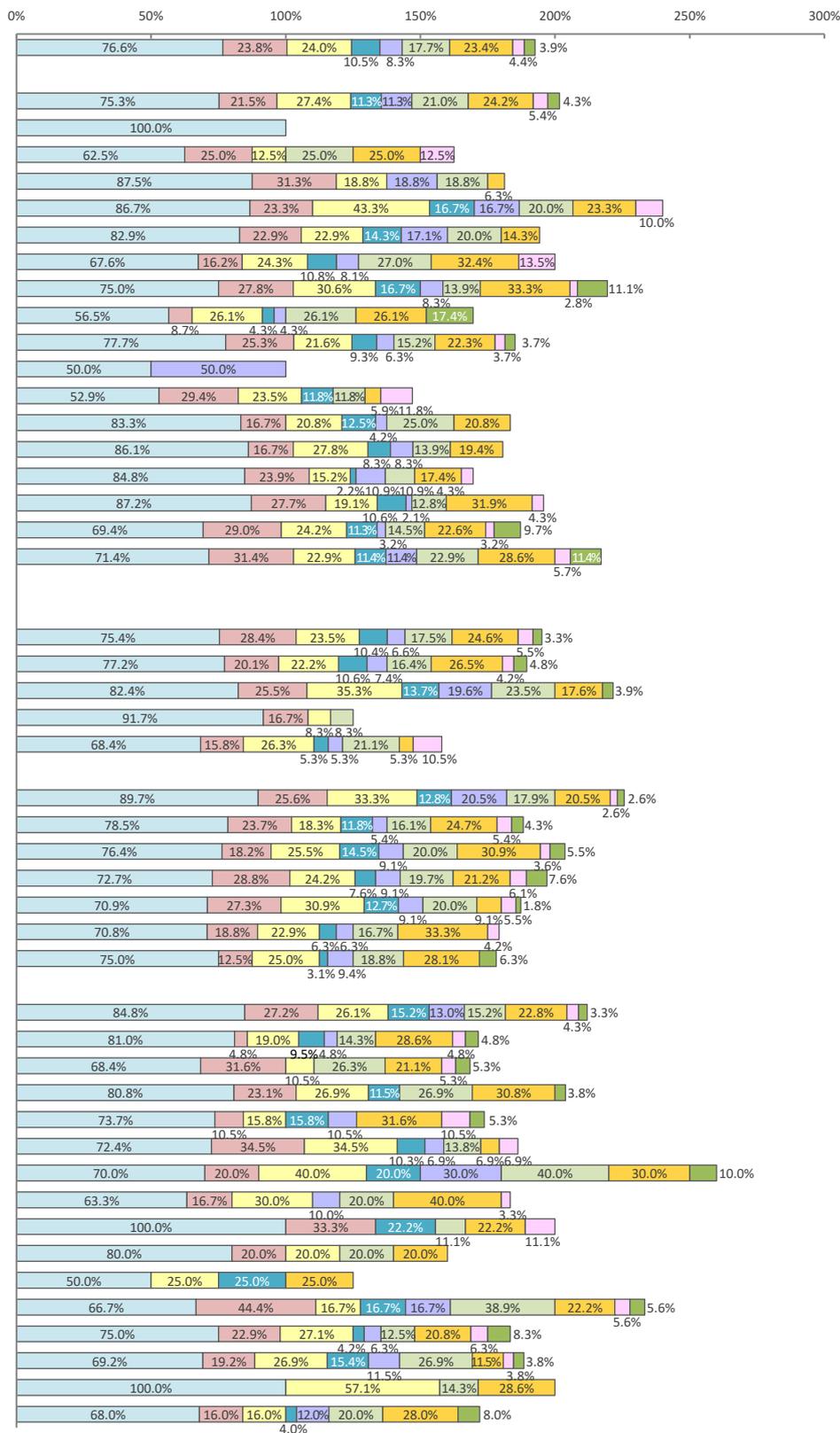
居住地域別でみると、<本庁(都心)>が89.7%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が78.5%であった。(図IV-27-8)

居住地区別でみると、<国本><上河内>がいずれも100.0%、次いで<本庁>が84.8%であった。(図IV-27-8)

<図IV-27-8>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

- 人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理
- 道路や広場など公共空間でのプランターなどによる緑の配置
- 民間の事務所や店舗、共同住宅などの道路に面した部分やオープンスペースを利用した、樹木や草花による緑の配置
- 民間の駐車場内における樹木や草花による緑の配置
- 民間の事務所や店舗、共同住宅などの壁面や屋上の緑化
- 個人所有地や空き地などを緑化し一般に開放するオープンスペースの活用
- 緑への関心や意識を高めるための、緑に関する情報の発信やイベントの開催
- その他
- 無回答

全体	(458)
<b>【性別・年齢別】</b>	
男性(計)	(186)
10歳代	(1)
20歳代	(8)
30歳代	(16)
40歳代	(30)
50歳代	(35)
60歳代	(37)
70歳代	(36)
80歳以上	(23)
女性(計)	(269)
10歳代	(2)
20歳代	(17)
30歳代	(24)
40歳代	(36)
50歳代	(46)
60歳代	(47)
70歳代	(62)
80歳以上	(35)
その他	(0)
<b>【居住年数別】</b>	
出生時から	(183)
20年以上	(189)
10年以上～20年未満	(51)
5年以上～10年未満	(12)
5年未満	(19)
<b>【居住地域別】</b>	
本庁(都心)	(39)
本庁(周辺)	(93)
東部地域	(55)
西部地域	(66)
南部地域	(55)
北部地域	(48)
上河内・河内地域	(32)
<b>【居住地区別】</b>	
本庁	(92)
宝木	(21)
陽南	(19)
平石	(26)
清原	(19)
横川	(29)
瑞穂野	(10)
豊郷	(30)
国本	(9)
富屋	(5)
篠井	(4)
城山	(18)
姿川	(48)
雀宮	(26)
上河内	(7)
河内	(25)



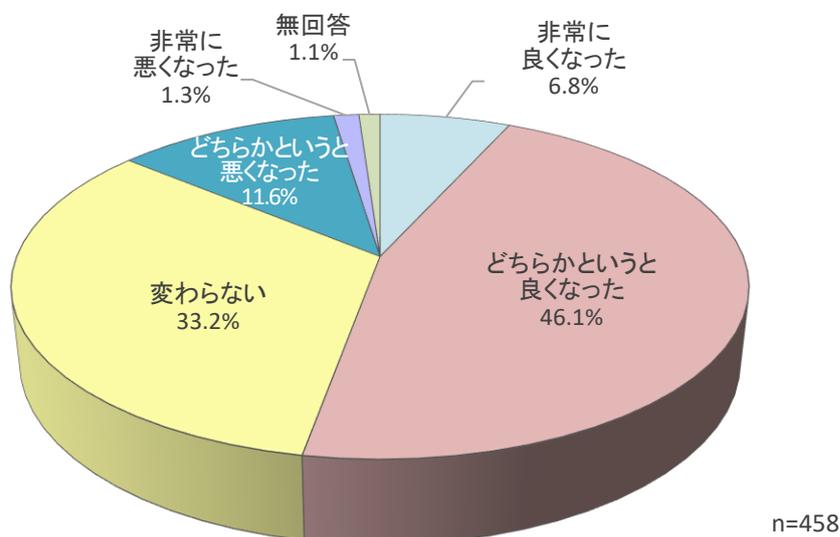
## 28. 宇都宮市の景観について

### (1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかというと言良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が5割強

問61 宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じますか。	(○は1つ)
	n=458
1 非常に良くなった	6.8%
2 どちらかというと言良くなった	46.1%
3 変わらない	33.2%
4 どちらかというと言悪くなった	11.6%
5 非常に悪くなった	1.3%
(無回答)	1.1%

<図IV-28-1>全体



宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるかについては、「非常に良くなった」が6.8%、「どちらかというと言良くなった」が46.1%で、これらを合わせた【良くなった(計)】は52.9%であった。一方、「非常に悪くなった」が1.3%、「どちらかというと言悪くなった」が11.6%で、これらを合わせた【悪くなった(計)】は12.9%であった。(図IV-28-1)

#### <参考>

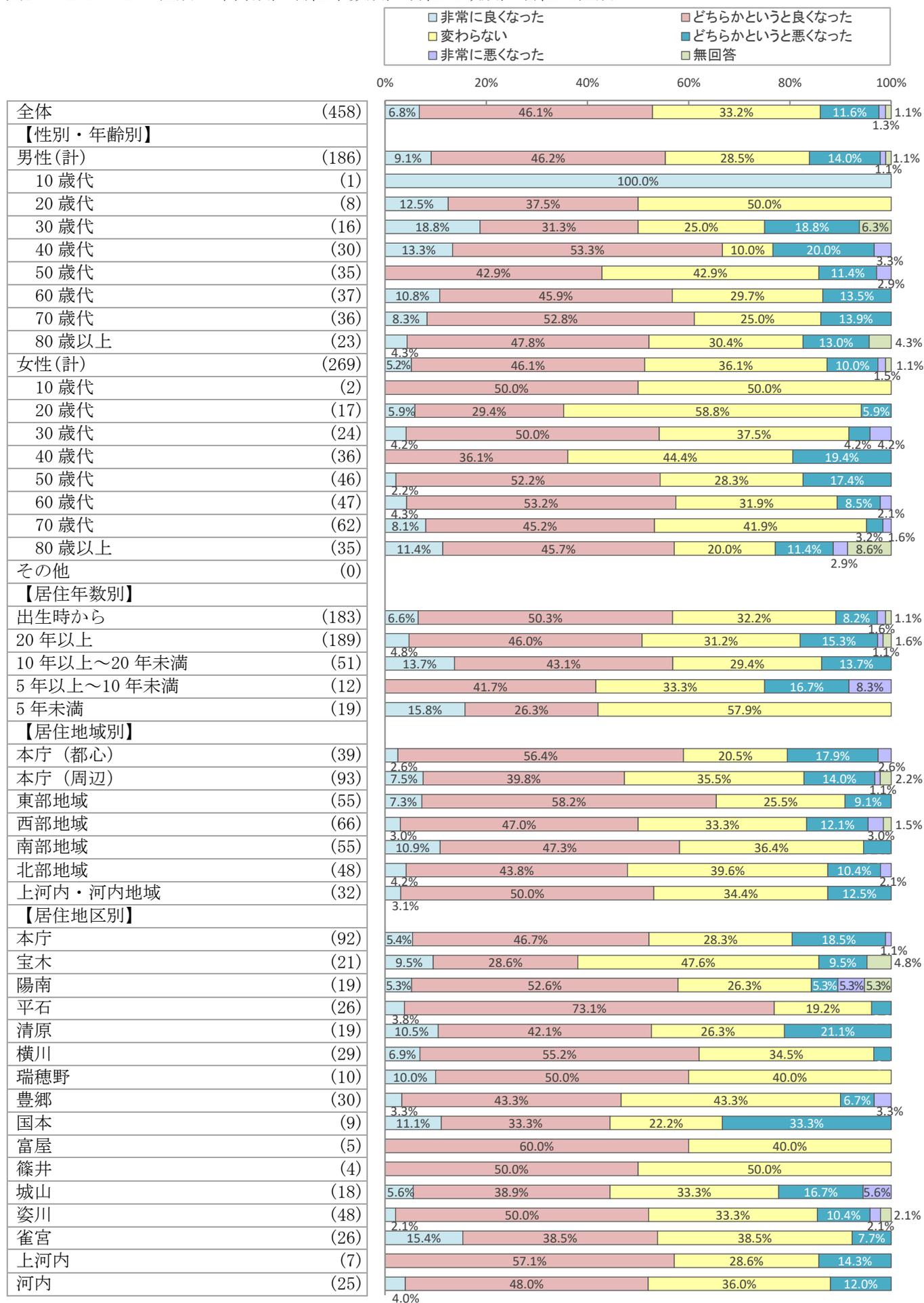
性別・年齢別で見ると、【良くなった(計)】は<男性10歳代>が100.0%、次いで<男性40歳代>が66.6%であった。一方、【悪くなった(計)】は<男性40歳代>が23.3%で最も高かった。(図IV-28-2)

居住年数別で見ると、【良くなった(計)】は<出生時から>が56.9%で最も高く、一方、【悪くなった(計)】は<5年以上~10年未満>が25.0%で最も高かった。(図IV-28-2)

居住地域別で見ると、【良くなった(計)】は<東部地域>が65.5%で最も高く、一方、【悪くなった(計)】は<本庁(都心)>が20.5%で最も高かった。(図IV-28-2)

居住地区別で見ると、【良くなった(計)】は<平石>が76.9%で最も高く、一方、【悪くなった(計)】は<国本>が33.3%で最も高かった。(図IV-28-2)

<図IV-28-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

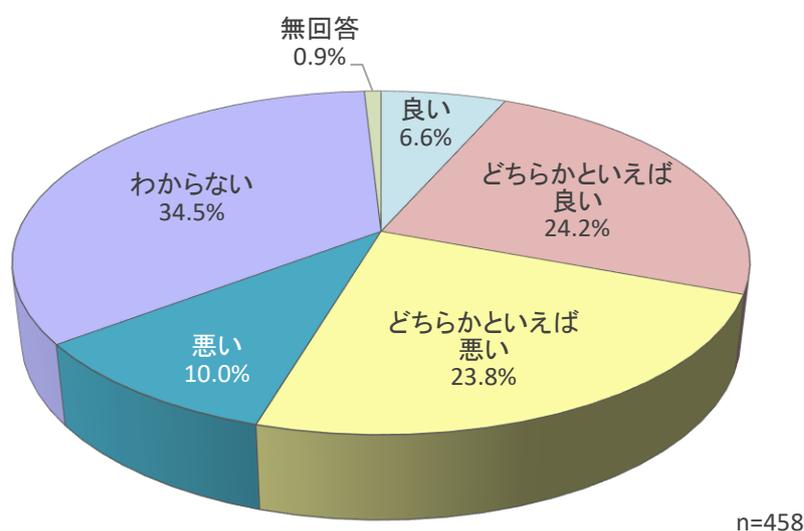


## (2) イベントや求人告知などで街なかを走行する広告宣伝車の印象

◇「悪い」と「どちらかといえば悪い」を合わせた【悪い(計)】が3割半ば

問62 イベントや求人告知などで街なかを走行する広告宣伝車について、どのような印象をお持ちですか。(○は1つ)		n=458
1	良い	6.6%
2	どちらかといえば良い	24.2%
3	どちらかといえば悪い	23.8%
4	悪い	10.0%
5	わからない	34.5%
	(無回答)	0.9%

<図IV-28-3>全体



イベントや求人告知などで街なかを走行する広告宣伝車の印象については、「良い」が6.6%、「どちらかといえば良い」が24.2%で、これらを合わせた【良い(計)】は30.8%であった。一方、「悪い」が10.0%、「どちらかといえば悪い」が23.8%で、これらを合わせた【悪い(計)】は33.8%であった。(図IV-28-3)

<参考>

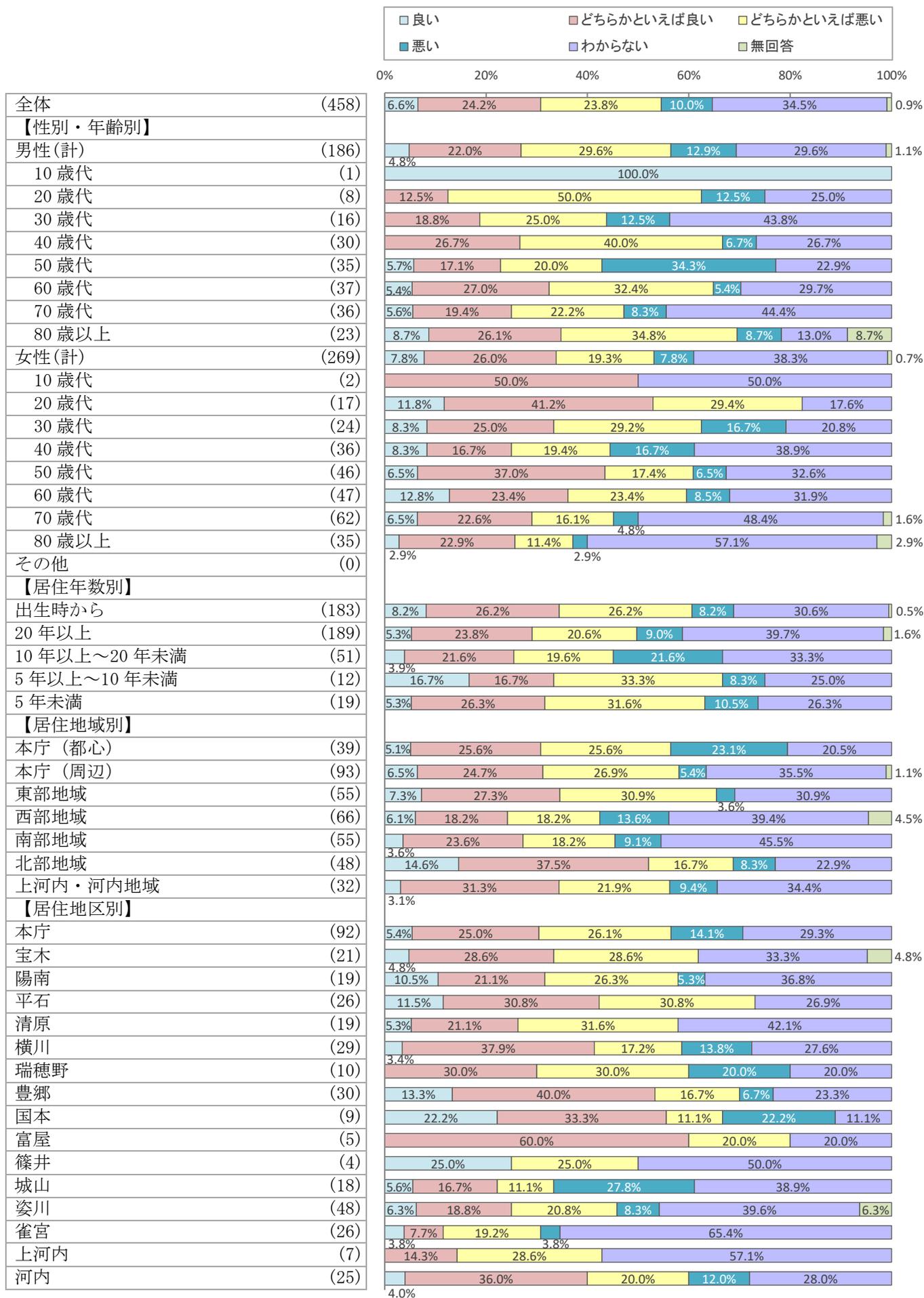
性別・年齢別で見ると、【良い(計)】は<男性10歳代>が100.0%、次いで<女性20歳代>が53.0%であった。一方、「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせた【悪い(計)】は<男性20歳代>が62.5%で最も高かった。(図IV-28-4)

居住年数別で見ると、【良い(計)】は<出生時から>が34.4%で最も高かった。一方、【悪い(計)】は<5年未満>が42.1%で最も高かった。(図IV-28-4)

居住地域別で見ると、【良い(計)】は<北部地域>が52.1%で最も高かった。一方、【悪い(計)】は<本庁(都心)>が48.7%で最も高かった。(図IV-28-4)

居住地区別で見ると、【良い(計)】は<富屋>が60.0%で最も高かった。一方、【悪い(計)】は<瑞穂野>が50.0%で最も高かった。(図IV-28-4)

<図Ⅳ-28-4>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別

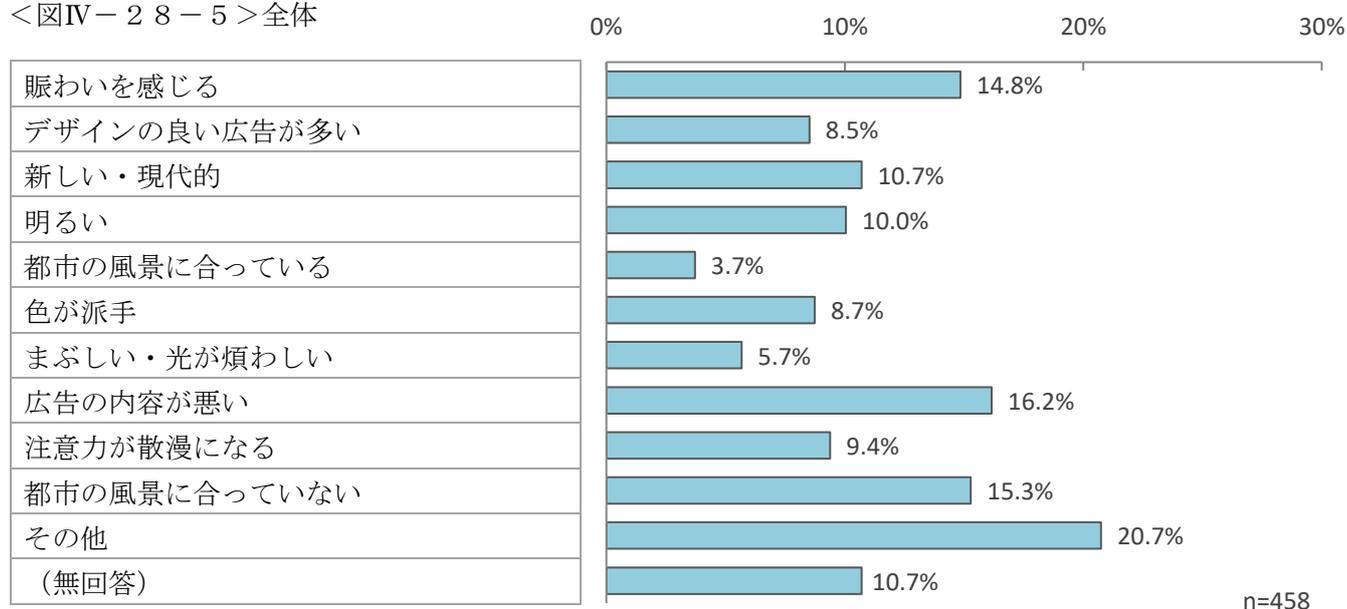


### (3) 街なかを走行する広告宣伝車について、そのような印象を持たれた点

#### ◇ 「広告の内容が悪い」と「都市の風景に合っていない」が1割半ば

問63	問62でそのような印象を持たれたのはどのような点についてですか。	(○は2つまで)	n=458
1	賑わいを感じる		14.8%
2	デザインの良い広告が多い		8.5%
3	新しい・現代的		10.7%
4	明るい		10.0%
5	都市の風景に合っている		3.7%
6	色が派手		8.7%
7	まぶしい・光が煩わしい		5.7%
8	広告の内容が悪い		16.2%
9	注意力が散漫になる		9.4%
10	都市の風景に合っていない		15.3%
11	その他 (無回答)		20.7% 10.7%

<図IV-28-5>全体



街なかを走行する広告宣伝車について、そのような印象を持たれた点については、「その他」を除くと、「広告の内容が悪い」が16.2%で最も高く、次いで「都市の風景に合っていない」が15.3%であった。(図IV-28-5)

#### <参考>

性別・年齢別で見ると、「広告の内容が悪い」は<女性30歳代>が29.2%で最も高く、次いで<女性40歳代>が27.8%であった。「都市の風景に合っていない」は<男性20歳代>が37.5%で最も高く、次いで<男性50歳代>が31.4%であった。(図IV-28-6)

居住年数別で見ると、「広告の内容が悪い」は<10年以上~20年未満>が25.5%で最も高く、次いで<5年未満>が21.1%であった。「都市の風景に合っていない」は<5年未満>が31.6%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が25.0%であった。(図IV-28-6)

居住地域別で見ると、「広告の内容が悪い」は<本庁(都心)>が23.1%で最も高く、次いで<東部地域>が21.8%であった。「都市の風景に合っていない」は<本庁(都心)>が25.6%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が18.8%であった。(図IV-28-6)

居住地区別で見ると、「広告の内容が悪い」は<瑞穂野>が30.0%で最も高く、次いで<篠井>が25.0%であった。「都市の風景に合っていない」は<上河内>が28.6%で最も高く、次いで<横川>が24.1%であった。(図IV-28-6)

<図IV-28-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別／居住地区別



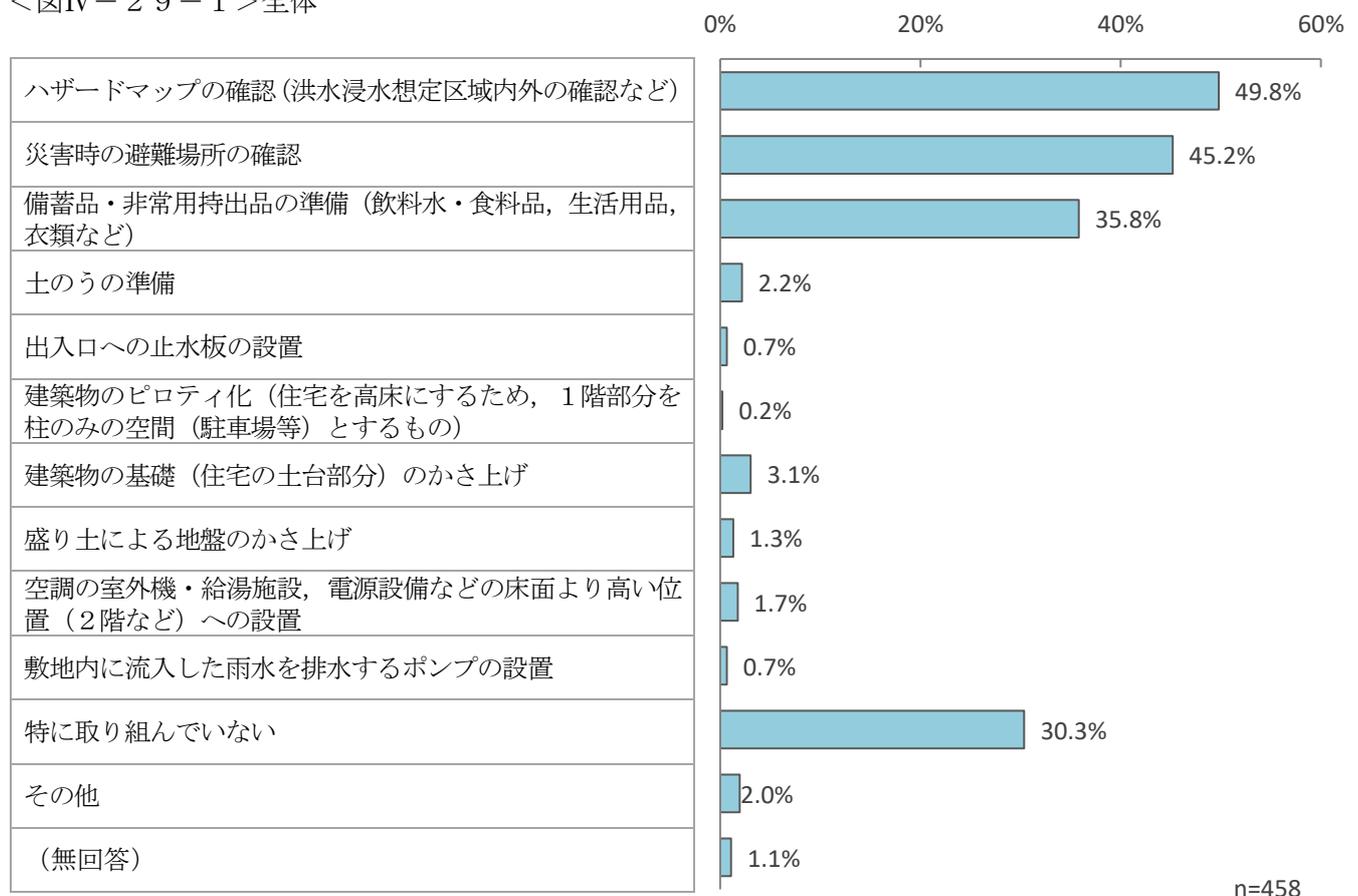
## 29. 水災害（洪水など）への備えについて

### (1) 水災害への備えとして取り組んでいること

◇ 「ハザードマップの確認（洪水浸水想定区域内外の確認など）」が約5割

問64 水災害への備えとして取り組んでいることはありますか。	(○はいくつでも)	n=458
1 ハザードマップの確認（洪水浸水想定区域内外の確認など）	49.8%	
2 災害時の避難場所の確認	45.2%	
3 備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品，生活用品，衣類など）	35.8%	
4 土のうの準備	2.2%	
5 出入口への止水板の設置	0.7%	
6 建築物のピロティ化（住宅を高床にするため，1階部分を柱のみの空間（駐車場等）とするもの）	0.2%	
7 建築物の基礎（住宅の土台部分）のかさ上げ	3.1%	
8 盛り土による地盤のかさ上げ	1.3%	
9 空調の室外機・給湯施設，電源設備などの床面より高い位置（2階など）への設置	1.7%	
10 敷地内に流入した雨水を排水するポンプの設置	0.7%	
11 特に取り組んでいない	30.3%	
12 その他	2.0%	
(無回答)	1.1%	

<図IV-29-1>全体



水災害への備えとして取り組んでいることについては、「ハザードマップの確認（洪水浸水想定区域内外の確認など）」が49.8%で最も高く、次いで「災害時の避難場所の確認」が45.2%、「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品，生活用品，衣類など）」が35.8%と続いた。（図IV-29-1）

## V 調査結果の考察

---

## V 調査結果の考察

宇都宮大学の中村祐司教授に御協力をいただき、専門的、客観的な立場から、各テーマについて、調査結果を考察していただきました。

### ●中村祐司教授のプロフィール●

1991年3月、早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程を満期退学し、早稲田大学人間科学部助手(1991年4月～1993年3月)を経て、1993年4月に宇都宮大学に赴任。博士(政治学)。2003年4月に宇都宮大学国際学部・大学院国際学研究科教授。2016年4月から宇都宮大学地域デザイン科学部教授。2019年4月から同大学院地域創生科学研究科教授(現在に至る)。

専門は行政学・地方自治。現在、うつのみや市政研究センター運営協議会委員など、主として栃木県内の地方自治体における審議会等の活動に積極的に従事している。単著に、『スポーツの行政学』(成文堂、2006年)、『“とちぎ発”地域社会を見るポイント100』(下野新聞新書、2007年)、『スポーツと震災復興』(成文堂、2016年)、『政策を見抜く10のポイント』(同、2016年)、『危機と地方自治』(同、2016年)、『2020年東京オリンピックの研究—メガ・スポーツイベントの虚と実—』(同、2018年)、『2020年東京オリンピックを問う—自治の終焉、統治の歪み—』(同、2020年)、『2020年東京オリンピックの変質—コロナ禍で露呈した誤謬—』(同、2021年)、『2020年東京オリンピックとは何だったのか—欺瞞の祭典が残したもの—』。共著に、『日本の公共経営』(北樹出版、2014年)、『地方自治の基礎』(一藝社、2017年)など多数。

### 1. 宇都宮市に対する感じ方について

「どちらかといえば好き」を含め、9割台半ば(94.7%、前年93.3%、前々年91.9%)が宇都宮市を「好き」と回答した。年々着実に増加している。

内訳は、「好き」が50.5%と遂に5割を超えた(前年47.7%)。「どちらかといえば好き」は44.2%と前年の45.6%から微減した分、「好き」の上乗せにつながった。

「どちらかといえば嫌い」(3.1%)は僅かだが前年(3.5%)よりも減り、「嫌い」(0.6%)も減った(前年1.1%)。果たして「好き」はこれで高止まるのだろうか。次回の結果に注目したい。

好きな理由としては、「自然災害の少なさ」が47.8%(前年45.8%、前々年44.2%)と若干の増加傾向を見て取れる。「買い物など日常生活の便利さ」の場合40.5%となり、前年40.7%、前々年40.1%とほとんど変化がなかった。この二項目は、他の項目と比べて市民から非常に重要視されているのがわかる。

これに同率で続いたのが、「慣れ親しんだところ」(26.8%、前年27.2%)と「自然環境の豊かさ」(26.8%、前年26.4%)であった。それ以外では「治安の良さ」(16.3%)、「病院などの医療機関が充実しているところ」(15.3%)、「都心に行くのに便利なところ」(13.7%)が目立つ。自然環境の良さや都心に行きやすいというのが、宇都宮市の強みだ。

嫌いな理由となると、「交通マナーの悪さ」(27.4%、前年29.5%、前々年31.1%)が1位ではあるものの、着実に減少している。横断歩道を渡る人優先の交通マナーが向上していることも要因として挙げられよう。

---

ただ、「交通渋滞の多さ」(25.9%, 前年 26.6%, 前々年 27.5%)の経年変化を見ると、減少傾向にあるとはいえない。LRT効果は確実にあるのだろうが、渋滞エリアからすれば部分的なものであり、市全体として見た場合の影響力は限定的なのだろう。

「街に活気がないところ」(20.4%, 前年 21.6%, 前々年 24.2%)について、スポーツイベントや多彩な催し、新店舗や飲食店の賑わいなどが、もっと市の活気感の上昇につながってほしい。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」(19.0%, 前年 20.2%, 前々年 18.5%)が嫌いな理由の上位であり続けているのも気掛かりだ。

## 2. 広報媒体の活用状況について

広報媒体の活用について、広報紙を「よく利用する」(23.5%),「ときどき利用する」(40.2%)を合わせれば、「利用したことがない」(31.6%)の2倍となり、広報紙が多くの人に使われているのは明らかである。ただ経年で見ると、前年は「よく利用する」が39.9%,「ときどき利用する」が41.2%,前々年は前者が39.9%,後者が41.5%なので、とくに「よく利用する」率が大きく下がったことになる。ただし、前回調査までは「よく見る(聞く)」「ときどき見る(聞く)」との文言であり、「聞く」が入っていた。この点を割り引く必要があろう。

「よく利用する」に注目すると、広報紙以外では「宇都宮市公式ホームページ」が続くが、僅か6.1%である。そして、「ときどき利用する」(44.5%)と「利用したことがない」(44.2%)が拮抗している。かなりの市民がホームページにもアクセスしていないとすると、電子媒体を通じた市と市民との情報共有にはまだまだ課題があると言わざるを得ない。

SNSによる市の情報発信は、「LINE(教えてミヤリー)(宇都宮市公式アカウント)」「YouTube(宇都宮市公式アカウント)」「X(宇都宮市公式アカウント)」「Instagram(宇都宮市公式アカウント)」とフルスペックで揃っている。それにもかかわらず、「利用したことがない」(81.7%)が8割を超え、他項目と比べても最も高い割合だ。裏を返せば、上記SNSは行政以外の領域で既に広く深く浸透しており、エンターテインメント性も強く、現状では行政が入り込む余地がない狭き門となっているのだろう。市は既に知恵を絞っているのだろうが、なかなか難しい課題だ。

「広報うつのみや」の入手方法では、「新聞折込」(49.2%, 前年 54.8%, 前々年 57.0%)の割合が最も高いものの、下降傾向にある。広報の伝達手段として、紙媒体そのものが曲がり角に来ている。

ただ、「郵送」(前回調査までは「送付で自宅に届いている」)の場合、10.2%, 前年 10.1%, 前々年 11.1%と定着傾向が見て取れる。「SNS疲れ」との言葉もある。一覧性など紙は紙の良さがあるので、周知をさらに強化するなど「郵送」を拡充する手立てをぜひ考えてほしい。

「広報うつのみや」で読んでいる主な記事について、「うつのみやのイベント」(57.4%, 前年 53.8%)と「市政情報」(55.1%, 前年 55.0%, 前々年 53.5%)とがトップに並び、「特集」(42.3%, 前年 45.6%, 前々年 36.2%)がこれに続いた。日常性が強い市政情報と非日常のイベントといった具合に市民の読まれ方のバランスは取れている。「特集」も市民の関心を喚起したり引き付けたりする機会となっている。

「県や国からのお知らせ」が得られる「情報ひろば」(41.6%)も市民にとっては貴重な情報源だ。また、「相談窓口」(25.6%, 前年 25.2%)の内容は「法律・行政・健康・福祉・子ども・女性に関する相談窓口などの案内」と幅広く、市民にとっては切実な相談の入り口となる大切な情報である。

---

### 3. デジタル化について

デジタル機器の所有状況について、「スマートフォン」(85.3%, 前年 83.1%)が圧倒的に多く、「パソコン」(49.9%, 前年 50.9%)と「固定電話」(48.8%, 前年 48.1%)が続いた。「ウェアラブル端末(メガネ型・腕時計型情報端末 等)」(4.1%)がスマホに取って代わるとの声もある中で、まだまだスマホ利用全盛の状況が続きそうだ。

インターネットについて、「利用している」(73.8%, 前年 72.5%)が多く、「利用していない」(25.1%, 前年 26.8%)市民もほぼ4人に1人いるものの、若干の利用率上昇が見て取れる。利用したい気持ちがあるのに、ネット環境、費用、操作などの点で利用をあきらめている市民が相当いるのではないかと。

利用しない理由について、「操作方法等がわからない」(50.5%, 前年 59.7%)と前回調査よりもかなり下がった。一方で、「必要性を感じない」(56.8%, 前年 41.9%)や「興味がない」(29.7%, 前年 19.4%)が大きく上昇した。いわゆる「ネット疲れ」が影響しているのかもしれない。さらに、「犯罪に巻き込まれないか心配」(22.5%, 前年 18.5%)が市民の間で加速しているのかもしれない。

### 4. 男女共同参画について

家事・育児・介護それぞれに費やした時間について、家事の場合、「7時間未満」(35.0%, 前年 22.7%, 前々年 21.3%)がトップとなった。「7時間以上21時間未満」(32.1%, 前年 45.5%, 前々年 47.3%)が二番手となったが、とくに前年比で大幅に減少した。家事の時間は着実に減少している。

育児の場合も、「7時間未満」(5.6%, 前年 5.0%, 前々年 5.7%)が最上位となり、「7時間以上21時間未満」(4.5%, 前年 5.8%, 前々年 6.7%)が続いた。

さらに介護の場合でも、「7時間未満」(9.5%, 前年 6.1%, 前々年 5.2%)がトップとなり、他項目を大きく引き離れた。「7時間以上21時間未満」(3.8%, 前年 2.6%, 前々年 5.4%)を見ると、前年比で減少した分が今回調査で「7時間未満」を押し上げた形となった。

家事や育児や介護に割く時間の減少傾向がはっきりした。個別事情を考えれば手放して喜べる結果ではないのだろう。しかし、全体として自助、共助、公助における後者2者への緩やかな移行を見て取ることができる。

社会的活動の実施状況について、「特になし」(62.3%, 前年 64.9%, 前々年 57.7%)を除けば、「地域活動(自治会やまちづくりなど)」(19.4%, 前年 20.8%, 前々年 21.8%)が最上位であった。

「グループ活動(芸術やスポーツなど)」(8.4%, 前年 9.7%, 前々年 9.4%)は前年比で若干下がっているが、前年までの項目は「文化、スポーツなどのグループ活動」となっていたので、回答の微妙なずれがあったと思われる、その意味では横這い状況が続いているといえそうだ。

「子どもや青少年の育成(PTAや子ども会などの)」(6.5%, 前年 6.3%, 前々年 6.7%)の場合も、活動率は底止まり傾向にある。

過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、今回調査でも「精神的な暴力」「1, 2度あった」と「何度もあった」の合計(8.1%, 前年 5.2%, 前々年 7.7%)が、他の項目よりも比較的高い割合となり、前年よりも増加したのが気になる。

一方で、「身体的な暴力」(1.0%, 前年 2.1%, 前々年 3.7%)となると低下傾向にあり、改善状況が見て取れる。

「経済的な暴力」(1.6%, 前年 1.5%, 前々年 2.2%)はともかく、「性的な暴力」(1.8%, 前年 0.6%, 前々年 0.9%)となると前年よりも増加した。

---

いずれの項目においても「まったくない」が9割に達しておらず、このことは重く受け止めざるを得ない。行政は「まったくない」の9割台後半を目標にしてほしい。

## 5. 保健と福祉のまると相談窓口エールUについて

「エールU」の認知度は極めて低い(91.6%, 前年95.0%) ままだが、前回よりも改善している。行政にはPRを粘り強く継続してほしい。保健と福祉に関わる総合相談窓口は市民にとって心強い存在なのは間違いない。「適切な支援機関等につなぐ」迅速性も問われる。エールUが、市民からすれば「誰でも知っている」、つまりそれだけ市民の間に名前が浸透している存在になってほしい。

## 6. まちづくり活動への参加意識について

まちづくり活動への参加率は、「参加している」(14.6%), 「参加していない」(84.5%) と決して高いとはいえない。

「参加中または興味があるまちづくり活動」となると、「健康や医療サービスに関する活動」(29.5%, 前年21.0%), 「高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動」(29.1%, 前年22.3%), 「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」(26.8%, 前年23.7%) が上位に並んだ。

いずれも前年よりも上昇し、とくに健康、医療、社会福祉の活動に参加中か興味を持つ市民の存在が浮かび上がってくる。

まちづくり活動に参加していないと回答した理由について、「参加するチャンス・きっかけがない」(45.9%, 前年43.9%) が最上位であった。若干ではあるものの、前年よりも率が上がってしまったことは、少し気掛かりだ。

「どのように参加すれば良いかわからない」(32.0%, 前年20.9%) 市民が大幅に増加した。市民がスムーズに情報把握できる環境があつてこそ参加が促進される。参加希望者が諦めてしまうような状況はもったいない。一方で、参加意欲を持つ市民がこれだけいるというのは、今後のまちづくりへの参加者を増やす原動力になり得る。

「参加する事に興味や関心がない」(11.7%, 前年18.8%) はかなり下がった。興味・関心を喚起させる方策が効果を発揮しつつあるのかもしれない。

## 7. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

安心して暮らすことができているかとの問いに対して、「そう思う」(22.5%, 前年24.9%, 前々年29.7%) が低下傾向にある。ただし、「どちらかといえばそう思う」(64.6%, 前年63.9%, 前々年59.4%) は微増している。「どちらかといえば」を含めれば、全体としては9割近くの市民が「そう思う」と回答していることになるので、この率を安定的に維持してほしい。

自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用状況について、着用派が伸び悩んでいる(6.8%, 前年8.0%, 前々年6.9%)。「ヘルメットを保有しているが着用していない」(4.3%, 前年5.4%, 前々年4.5%) 挫折派も存在する。

「普段自転車に乗るが保有していない」(17.1%, 前年15.4%, 前々年20.5%) を着用派に転じさせるにはどうしたらいいのだろうか。安全を考えると決して「たかがヘルメット」とは言えないものの、他方で着脱の煩

---

わしさと外出時の保管の面倒は、市民からヘルメットを遠ざける主要因となっており、ヘルメット保有・着用問題は予想外の難題なのである。

自転車保険の加入状況について、普段において自転車利用がなければ、「相手方への賠償を補償する保険に加入していない」(60.8%)というのはうなずける。問題は、自転車利用者において「相手方への賠償を補償する保険に加入している」(24.1%)率と「相手方への賠償を補償する保険には加入していない」(8.8%)率をどう見るかだ。

保険加入者であっても相手方への賠償額の限度など考えると、それで誰もが安心とはいえないだろうし、一部ではあろうが加入していることで乱暴な運転につながってしまうおそれもないとはいえない。そうはいつでもやはり、保険未加入の自転車利用は、未加入率の高低どころより、他の自転車利用者のみならず歩行者を含めたすべての移動者に不安を投げかける類のものである。

やはり自転車利用者の「皆保険」こそが望ましく、この達成を現実的な目標に設定した方がいいのではないだろうか。

## 8. 多様な性について

何をもって認知しているかによるが、言葉だけでなく内容もということになると、LGBTQの認知度(48.4%)は決して高いとはいえないと思う。ただし、たとえばLGBTまではわかるが、Qがわからないという市民の場合、そのうちの一定割合が「言葉だけは聞いたことがある」(39.4%)と回答した可能性はある。今後の認知の変化に注目したい。

## 9. 空き家に関する意識について

所有する等の住宅の今後について、「話し合っていて決まっている」(19.1%)と「話し合っていないが決まっている」(19.8%)がほぼ同率となった。決まっているか決まっていないかはともかく、「話し合っている」は38.9%に達し、「話し合っていない」(33.8%)を上回った。

話し合いは合意や解決に向けた大前提であり、多くの市民は真摯に空き家問題に向き合っている。

近所の空き家をどう活用すれば良いかについて、「住宅のままの利用」(41.0%)がトップで、「管理されていれば空き家のままで良い」(27.9%)、「地域住民が集まる場所(地域集会所など)」(27.3%)、「子どもが集まる場所(子ども食堂など)」(25.0%)が続いた。

他の項目と比べて「管理されていれば空き家のままで良い」が唯一の消極的活用といえそうだが、否定的に捉える必要はないだろう。防犯、周辺への迷惑、破損などの面で、管理されている状態こそがまずは優先されるべきであり、それが達成されていれば「空き家のまま」というのもある種の活用策の一つといえよう。

宇都宮空き家会議にして欲しい取組について、「空き家の活用方法の提案」(45.9%)と「相談窓口の設置」(44.6%)が上位に並んだ。市民からの強い要望として受け止めてほしい。個々のケースは千差万別なのだろうが、市民は、解決の糸口となるプラットホーム的な空き家対策を行政に強く求めているのである。

## 10. 成年後見制度について

成年後見制度の認知度について、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」(41.7%)、前年

---

42.6%) が「制度の内容を知っている」(35.8%, 前年 30.5%) を数ポイント上回った。しかし、前年よりは両者の差が縮まっている。メディアでも取り上げられる機会が増えているようだ。この制度を利用するかどうかはともかく、まずは市民の間で内容の理解が進むことが大切だと思う。

### 1 1. 結婚・出産・子育てに関する意識について

「結婚している」(59.0%, 前年 63.1%, 前々年 66.9%) が減少傾向にある。その裏返しで現段階において「結婚していない」(結婚経験者と合わせて 40.6%, 前年 36.0%, 前々年 32.1%) が増加傾向にある。

結婚するつもりがあるか聞いたところ、「いずれ結婚するつもり」(17.5%, 前年 22.6%, 前々年 30.0%) と減少傾向は明白で、一方で、これと連動するかのよう「結婚するつもりはない」(77.2%, 前年 71.3%, 前々年 60.0%) の増加傾向がはっきりした。

結婚をするかしないかはあくまでも本人の自由意思であり、行政も含めた他者が強制する類のものではないだろう。しかし、若い世代の流出や少子化に危機感を抱える自治体は多い。結婚率が減り、するつもり率が減り、つもりなしが増えるというのは、都市や農村にかかわらず当該自治体にとって深刻な課題だ。

結婚後の出産とその人数に注目する行政からすれば、結婚している場合に持ちたい子どもの数について、「2人」(48.1%, 前年 51.6%, 前々年 54.6%) が低下傾向にあり、「1人」(17.5%, 前年 16.0%, 前々年 12.2%) が増加傾向にある状況に危機感を抱かざるを得ない。

ただし、「3人」(20.1%, 前年 16.4%, 前々年 22.9%) が前年よりも5ポイント近く増加し、心強いと思われる要素もある。しかも「3人」が「1人」を上回っている。前回の指摘と同様、出産減に歯止めが掛からなくなると、人口減少対策の面からは深刻な課題が突き付けられたことになる。結婚対策も少子化対策もなかなか一筋縄ではいかない。

### 1 2. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について

「宮っこを守り・育てる都市宣言」について、「宣言は知らないが、子どもを大切にしている行動を実践している」(52.8%) が最も多く、「宣言を知っており、子どもを大切にしている行動を実践している」(13.7%) を大きく引き離れた。市民が宣言を認知する意義はあると思うが、それ以上に市民の6割台後半が実践していることに注目したい。

「子どもを大切にしている」行動の中身をどう捉えるかで選択にばらつきがあった。ただ、例示に「子どもを見守る」とあるように、実践の敷居はかなり低いともいえる。「宣言は知っているが、子どもを大切にしている行動は実践していない」(7.7%) の率はできるだけ下がってほしいものだ。

### 1 3. 雇用形態について

現在の雇用形態について、「働いていない」(40.1%) を除くと、「正社員(フルタイム)」(24.5%)、「パート、アルバイト」(15.5%)、「会社役員、自営業、その他」(10.1%) の順となった。「派遣社員、契約社員」(5.6%) や「求職中」(1.7%) の割合が意外と少ないという印象を持った。自営業などもフルタイムと捉えれば、5割が正規の働き手となる。

希望する雇用形態について、やはりと言おうか、「正社員(フルタイム)」(30.3%) が最上位であった。「パ

---

ート、アルバイト」(19.3%)の希望も2割近くいる。「正社員(短時間)」(9.0%)の希望者もいるので、時短的なあるいは柔軟な働き方を求める市民が4人に1人はいることになる。

希望する雇用形態を選んだ理由について、「生計を立てるため、安定して働きたいから」(33.7%)が最上位となった。3人に1人が「安定した」雇用を望んでいる。その声の重みをどう受け止めたらいいのであろうか。

一方で、「自分の都合のよい時間に働きたいから」(18.2%)が2割近くに達した。パート、アルバイト、短時間勤務の正社員などその形態はいろいろあるし、個々の事情も様々であろう。しかし、「生計を立てるため」という理由よりも切実度に差があるし、本人の裁量や選択の余地が広いようにも思われる。

また、「専門的な技能等をいかせるから」(16.7%)と回答した市民からすれば、その受け皿があることが重要だ。行政は多様な雇用の場や機会を生み出す支援策をさらに打ち出してほしい。

#### 14. 宇都宮産の農産物について

「宇都宮産」の農産物の購入意欲について、「非常にそう思う」(25.1%, 前年24.9%, 前々年27.5%)と「そう思う」(54.7%, 前年57.5%, 前々年56.2%)の割合が、ここ数年安定的に推移している。地元産の食の価値を考えると「非常に」の割合がもう少し上がってもいいとの思いはあるものの、市民の8割が購入意欲を持っていること自体、誇るべき事実だ。

そのことは宇都宮の農業を大切にしたいと思う市民についてもいえる。「非常にそう思う」(36.7%, 前年31.5%, 前々年35.9%)と前年比で数ポイント上昇し、「そう思う」(53.0%, 前年58.8%, 前々年54.7%)と合わせて9割の市民が大切と考えている。大切とは「思わない」とは言いづらい面もあるだろうが、ほとんどの市民が地元農業に対する愛着を持っていることは喜ばしい。

さらに、環境に配慮して生産された農産物を積極的に選択して購入したいかについて、「非常にそう思う」(29.2%, 前年24.3%, 前々年28.0%)と「そう思う」(57.1%, 前年61.9%, 前々年58.9%)を合わせれば、前回調査と同様、8割台後半となった。先述したように、もちろん後者よりも前者の割合が増えてほしいものの、環境配慮と宇都宮産農産物は強く結びついており、こうした市民の受け止め方が長期にわたって続いてほしい。

#### 15. カーボンニュートラル(脱炭素)について

省エネルギーや創エネルギーなどの取組について、「取り組んでいる」は、「断熱性の高い壁・屋根・窓への改修」(18.4%)、「太陽光発電システムの設置」(16.7%)、「住宅のZEH化またはLCCM住宅化」(12.0%)が上位に並んだ。「取り組んでみたい」について、「断熱性の高い壁・屋根・窓への改修」が42.0%、「住宅のZEH化またはLCCM住宅化」が40.3%と高いが、「太陽光発電システムの設置」となると27.8%と他項目の中で最も低い割合となった。大規模ソーラーシステムの設置が山林などの自然環境に負の影響を及ぼすイメージを持つ市民もいて、そのことが取組希望を抑制しているのかもしれない。ちなみに太陽光については、「メンテナンス・廃棄等に不安がある」(33.3%)の割合がトップである。

「定置型蓄電池の設置」については、「取り組んでいる」が4.9%と低いのに、「取り組んでみたい」は40.0%に達していて、両者の乖離が大きい。「HEMSの設置」についても各々、3.9%、41.8%である。日常のエネルギー使用を節約しながらも快適にして、さらに豊かにしたい市民の気持ちが、こうした新しい省エネ・創エネへの関心につながっているのだろう。

---

現在取り組んでいない理由・要因について、最下位の「HEMSの設置」でも44.8%、最上位の「住宅のZEH化またはLCCM住宅化」は54.6%となり、いずれの項目においても「初期投資費用が高い」ことがネックになっている。

このネックを軽減する方策を強化するにあたって、行政からすれば項目すべてを対象にすれば、どうしても薄く広くとならざるを得ないだろう。行政は、たとえば省エネ・創エネというテーマで市民に対して掘り下げた意向調査を実施し、専門家による提言を踏まえつつ、対象とする項目を絞り込んだ新たな重点支援策を打ち出してもいいタイミングだ。

## 16. SDGsの認知度について

SDGsについての認知度の場合、「まったく知らない」(14.6%、前年11.0%、前々年13.8%)が10%超ある。しかし、ここでは認知派に注目したい。

「内容を詳しく知っている」(12.2%、前年9.7%、前々年11.3%)は増加傾向にある。そのうちの実践派(3.6%、前年4.0%、前々年4.9%)は微減傾向にある。

「内容をある程度知っている」実践派(27.0%、前年29.2%、前々年25.9%)の場合、その割合は定着傾向にある。

懸念されるのは「詳しく」と「ある程度」を合わせた実践派の合計(30.6%、前年33.2%、前々年30.8%)が実践していないの割合(38.6%)を下回っている点である。時代的趨勢としてSDGsについては、認知から実践の段階に入っている。

認知派・実践派は30.6%であり、まずは両者の割合が逆転することが大切だ。

## 17. 「もったいない運動」について

「もったいない運動」の認知度について、実践の有無にかかわらず認知している市民が68.1%(前年44.2%)と大幅に増加した。しかし、「内容を知っており、実践している」が36.4%(前年27.7%)と伸びてはいるものの、それを大きく上回り「内容を知っているが、実践はしていない」が31.7%(前年16.5%)と大幅増となった。

傾向として認知が増加しているのに、なかなかすんなりと実践に移行していない状況が浮かび上がった。これまで長期にわたって行政が事例も含めて市民に粘り強く訴え続けてきただけに、今回の調査結果は残念である。認知派であってもその具体的な行為については思い浮かばない、といった漠然とした捉え方をする市民が多くなってきたのかもしれない。行政によるPRをテコ入れするか、これまでに一定の役割を果たしてきたことを勘案して、別のキーワードを検討する時期に来ているのかもしれない。

## 18. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

「環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているか」との質問に対して、「満足」(5.8%、前年17.1%、前々年11.3%)が前年比で急減し、「やや満足」(30.0%、前年37.0%、前々年40.2%)も減少した。

ただ、「わからない」(47.8%、前年34.6%、前々年34.3%)が前年比で大幅増加しており、どう回答すればいいのか戸惑う市民が多かったはずだ。市民からすれば「大気、水質、騒音に係る環境調査や、工場・事業場に対する立入検査・指導、事業者との相互協力による環境保全活動」の重要性は否定しないが、満足かどうかを判断する具体的なイメージが持ちにくかったのではないだろうか。市が行っている「環境調査」や「環境保全活動」の事例を設問に盛り込んでおいた方が回答しやすかったのかもしれない。

---

## 19. 生物多様性について

生物多様性という言葉について、今回調査では「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」(34.5%, 前年36.6%, 前々年38.6%)と減少傾向が鮮明となり、それと相俟って「言葉も意味も知っていた」(42.4%, 前年37.6%, 前々年34.7%)が上昇したことで、認知派がトップとなった。

外来種が及ぼす影響については、「知っていた」(84.4%, 前年87.1%, 前々年88.4%)が横這い状況で定着したようだ。言い換えれば認知度が定着した。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らなかった」(14.1%, 前年10.6%, 前々年9.2%)が増加傾向にあるものの、外来種の認知度も浸透したといえるだろう。この結果を受けて行政はどう対応するのか。一方では重い課題が突き付けられたともいえそうだ。

## 20. 自転車のまちづくりについて

「自転車のまち」の実現を目指していることの認知度について、拮抗しているとまでは言えないものの、「知っている」(55.7%), 「知らない」(43.7%)という結果になった。普段から自転車を利用している市民からすれば、認知度が思いのほか低いと受け止めたかもしれない。

ただ、自転車を使いやすいまちだと思ふかについて、「そう思う」(6.4%, 前年7.3%)と「ややそう思う」(17.3%, 前年18.5%)を合わせても2割台後半に届かず、若干ではあるものの、両項目とも減少傾向にある。行政の目指している方策と市民の実際の受け止め方とにずれが生じている。

そのことは、「どちらとも言えない」(31.3%, 前年29.6%)と「あまりそう思わない」(29.6%, 前年25.3%)の結果にも反映したようだ。

必要な取組について、「自転車走行空間(矢羽根、自転車レーンなど)の整備」(49.7%, 前年51.5%)が最上位であった。前回は指摘したが、矢羽根は工夫が凝らされており、ガードレールの設置などと比べると、比較的安いコストでハード面の効果をあげているのは間違いない。さらに拡充してほしいというのが市民の思いなのであろう。

「自転車に関する交通ルールやマナーの定着」(41.8%, 前年30.1%)は市民側に求められる重要なソフト面の取組である。この両項目を徹底することで、「自転車のまち」推進のまさに両輪として、名を実に近づける決定打となるはずだ。

## 21. スポーツに関することについて

市の魅力向上にスポーツが活用されていると感じているかについて、「どちらかといえば感じている」(57.7%)が他項目を大きく引き離れた。「どちらかといえば」は微妙な標記で「かなり」とまではいなくても「ある程度」との記載があれば、回答結果は変わったかもしれない。「非常に感じている」(16.9%)を合わせれば、7割台半ばが市のスポーツ活用を認知していることになり、これは相当に高い割合だ。地元のプロスポーツの活躍が押し上げ効果となっているのは間違いない。

ところが、プロスポーツの会場観戦となると、「観戦しなかった」(83.1%)の割合が圧倒的で、観戦経験でも最上位が「年に1~3回」の12.1%で、「月に1回以上(年12回~)」(1.7%)や「3ヶ月に1~2回(年4~11回)」(1.9%)は非常に低い率となった。市の積極的なスポーツ活用に水を差された格好である。

---

スポーツに関する指導を行ってみたいかについて、「行いたくない」(59.6%, 前年 62.2%, 前々年 50.7%) が前年比で若干下降したものの、指導経験の有無にかかわらず、「行ってみたい」となると 8.8% (前年 5.5%, 前々年 9.7%) と大きな上昇とはいえない。

部活動の地域展開を考えても、「どちらともいえない」(29.0%, 前年 23.2%) を是が非でも指導希望派に引き入れたいところだ。もちろん、「行いたくない」層から「どちらともいえない」層への移行も将来の指導者の底上げにとって大切だ。

## 2.2. 日本遺産について

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度について、「知らない」(52.3%, 前年 49.9%, 前々年 50.2%) が「知っている」(46.5%, 前年 49.7%, 前々年 48.6%) を上回った。こうした類の認知度は高ければ高いほど市への愛着の濃さにつながると思う。

その証拠に「大谷石文化」を誇りに思うかについて、「思う」(41.7%, 前年 39.1%) が最上位で、「やや思う」(35.0%, 前年 31.4%) を上回った。合わせて 7 割台後半が誇りに思っていることになる。誇るべき高い割合である。

また、「あまり思わない」(12.9%, 前年 16.9%) の市民でも情報入手など何かのきっかけで「やや思う」に移行しやすいはずである。

## 2.3. 文化的景観について

「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことの認知度について、「知っている」(35.6%) は「知らない」(63.8%) に大きく引き離されたが、今後、大谷石文化の認知度の向上と連動する可能性もあるし、現状で慌てる必要はないであろう。

また、重要文化的景観に選定されたことを誇りに思うかについて、「非常に誇りに思う」(28.8%) と「どちらかといえば誇りに思う」(55.8%) が合わせて 8 割台半ばに達していて、この結果にも力付けられる。

## 2.4. 選挙の投票率向上に向けた取組について

どのような方法で選挙の有無を認知しているのかについて、「テレビやニュース」(63.8%) が最上位で、大きく離れて「新聞やチラシ」(17.7%) が続いた。

その他で目立つのが「演説や選挙カー」(6.5%) の割合の低さである。選挙の有無の認知をめぐっては、もはや「選挙カー」の有用度合いは弱くなった。

低投票率の理由について、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」(56.7%, 前年 56.1%, 前々年 53.7%) が今回調査でも高い割合となったが、横這い状況にある。議員、議会、政治に対する期待感が持てないと意識が定着してしまっている。良くも悪くも「何も変わらない」はずはないと思うのだが。

---

## 25. 生涯学習について

生涯学習としての学習、文化・スポーツ活動等について、「している」(41.9%, 前年 41.1%, 前々年 38.5%)が微増傾向にある。「していない」(57.1%, 前年 57.1%, 前々年 60.5%)はほぼ変化なしだ。4割の市民が学ぶ意欲を持ちそれを実践している状況は決して悪くない。また、「していない」と回答した市民の中にも一定割合は「やってみたい」という意識を持っているはずだ。

## 26. 中心市街地の活性化について

中心市街地に出かける頻度について、前回調査では「月1～2回程度」(前年 35.8%, 前々年 28.2%)が「年に数回程度」(前年 29.6%, 前々年 32.7%)を上回ったが、今回は残念なことに「年に数回程度」(31.9%)が「月1～2回程度」(29.0%)を僅かとはいえ逆転した。

中心市街地へ出かける目的では、「買い物」(48.7%, 前年 66.5%, 前々年 52.0%)がとくに前年比で大きく減少し、「飲食」(21.2%, 前年 36.0%, 前々年 29.0%)も前年比で大きく下がった。背景には客層の限定傾向があるのかもしれない。

「公共施設(市役所・図書館など)」(10.0%, 前年 15.0%, 前々年 10.9%)は下降し、「まち歩き(散歩・散策)」(7.0%, 前年 7.4%, 前々年 10.1%)や「イベントへの参加」(5.9%, 前年 5.6%, 前々年 8.4%)は横這いだ。

「文化活動(映画鑑賞・芸術鑑賞など)」(5.2%, 前年 6.6%, 前々年 5.9%)についても率の変化はない。

このように中心市街地へ出かける目的は多様化しているとはいっても、明確な特徴を見出しにくくなっている。どこをどう改善すればいいのかが不透明なのだが、中心市街地の魅力はこうした点にあることも事実だ。

「街なかはどう変化すれば更に中心市街地へ出かけたいか」に対して、上位の「もっと楽しめる場所がほしい」(35.4%)と「もっとアクセスしやすくなってほしい」(32.5%)が並んだ。「楽しめる」と「アクセス」の良さを具体的にどう改善していけばいいのか、たとえばLRTの駅西側延伸なども関連してくるよう思われるが、行政側からの思い切った仕掛けがほしいところだ。

## 27. 宇都宮市のみどりについて

みどりの量についての感じ方をめぐり、やはりというのか都市部では「少ない」(48.7%)と「ちょうどよい」(48.0%)が拮抗する形となった。「少ない」は郊外部(14.8%)で1割台半ば、自宅周辺(22.5%)で2割超であり、少なくとも大都市との比較でいえば宇都宮の都市部のみどりの量は多いといえそうだ。また、「ちょうどよい」では、自宅周辺(62.2%)が郊外部(70.1%)に迫っている。この点からも市の居住環境はみどりに恵まれていることがわかる。

「みどり」に関することで取り組みたいことについて、「自分の家の庭やベランダ、壁や屋上などで草花や樹木などを育てる」(50.7%)が5割となり、居住空間周辺のみどりの環境に強い関心を持っていることがわかる。これに続いたのが、「身近な公園や道路、河川などにおいて、花だんの花植えや草刈り、ごみ拾いなどの清掃活動に参加する」(19.4%)と「自然環境の大切さを学ぶ・教える」(19.2%)となった。みどりに対する学びと社会貢献に関心を持つ市民の存在が浮かび上がってくる。

「みどり」を増やすために必要な取組について、「人が歩くところや溜まるところに木陰をつくるなど、街路樹の適正な配置や樹種の選定、適切な維持管理」(76.6%)が高い割合となった。外出時のみどりの環境にも

---

多くの市民が関心の目を向けている。

その他にも「民間の事務所や店舗、共同住宅などの道路に面した部分やオープンスペースを利用した、樹木や草花による緑の配置」(24.0%)や「道路や広場など公共空間でのプランターなどによる緑の配置」(23.8%),さらには「緑への関心や意識を高めるための、緑に関する情報の発信やイベントの開催」(23.4%)など、市民、企業、行政がみどりを軸に工夫を凝らす余地はたくさんあることがわかった。

## 28. 宇都宮市の景観について

宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるかについて、「非常に良くなった」(6.8%)は7ポイント弱だが、「どちらかというとなった」(46.1%)が、5割近くに達した。景観の向上を半数近くの市民が認識したことは大きいし、今後10年間の推移に期待が持てる結果だ。確かに「変わらない」(33.2%)が3割超ではあるが、判断の基準は個人で異なる。むしろ、「どちらかというとなった」と回答した市民のうち、「非常に良くなった」と回答する市民を増やす後押しも大切だ。

イベントや求人の告知などで街なかを走行する広告宣伝車の印象について、「どちらかといえば良い」(24.2%)と「どちらかといえば悪い」(23.8%)が拮抗する結果となった。後者には広告の中身に関心を持てなかったり、騒音あるいは交通の妨げと考えたりする市民がいるからだろう。「わからない」(34.5%)が最も多く、このあたりに市民の戸惑いが現れている。行政にはデリケートな対応が求められそうだ。

広告宣伝車の印象について、「賑わいを感じる」(14.8%)、「新しい・現代的」(10.7%)、「明るい」(10.0%)といった肯定的受け止め一方で、「広告の内容が悪い」(16.2%)、「都市の風景に合っていない」(15.3%)、「注意力が散漫になる」(9.4%)といった否定的評価があり、賛否両論が明白になった。どちらが良いとか悪いとかではなく、両者の接点に至るには、まずは少しずつでも互いの尊重や歩み寄りが必要ではないか。行政には多段階での試行が求められる。

## 29. 水災害（洪水など）への備えについて

水災害への備えとして取り組んでいることについて、「ハザードマップの確認（洪水浸水想定区域内外の確認など）」(49.8%)、「災害時の避難場所の確認」(45.2%)、「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」(35.8%)が上位に並んだ。

「災害時の避難場所の確認」では前年53.3%、前々年55.4%だったので減少傾向にあり、「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」(前年50.1%、前々年41.3%)の場合も前年比で割合が大きく下がった。

「特に取り組んでいない」(30.3%、前年27.1%、前々年32.7%)が横這い状況で定着しそうで、この点が気掛かりだ。割合の低かった他項目も含めて、これからの時代は市民による何らかの取組が必須であると思われるからだ。その出発点となるのが上位三項目である。たとえば居住地域についてのハザードマップの位置づけなど、事前に頭に入っているかどうかで豪雨災害時の判断や咄嗟の行動を左右する。

## VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

---

## VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

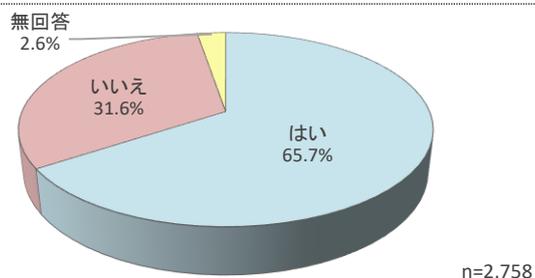
### 1. あなたのことについて

#### (1-1) 結婚について

問 1-1(1) あなたは、現在、結婚していますか。

n=2,758

	回答数	構成比
はい	1,813	65.7%
いいえ	872	31.6%
無回答	73	2.6%
計	2,758	100.0%



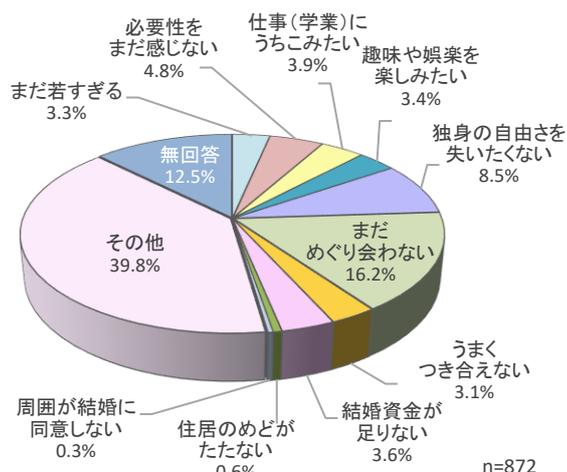
現在、結婚しているかについては、「はい」が6割半ば、「いいえ」が3割強であった。

#### (1-2) 結婚していない理由について

問 1-1(2) あなたが結婚していない最も大きな理由は何ですか。

n=872

	回答数	構成比
結婚するにはまだ若すぎる	29	3.3%
結婚する必要性をまだ感じない	42	4.8%
今は、仕事（または学業）にうちこみたい	34	3.9%
今は、趣味や娯楽を楽しみたい	30	3.4%
独身の自由さや気楽さを失いたくない	74	8.5%
適当な相手にまだめぐり会わない	141	16.2%
異性とうまくつき合えない	27	3.1%
結婚資金が足りない	31	3.6%
結婚生活のための住居のめどがたたない	5	0.6%
親や周囲が結婚に同意しない（だろう）	3	0.3%
その他	347	39.8%
無回答	109	12.5%
計	872	100.0%

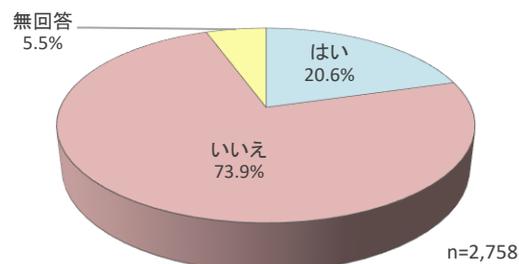


前問で「いいえ」と答えた人(872人)の、結婚していない最も大きな理由については、「その他」を除くと「適当な相手にまだめぐり会わない」が16.2%で最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくない」が8.5%であった。

### (2-1) 子育ての関わりについて

問 1-2(1) あなたは、現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがありますか。 n=2,758

	回答数	構成比
はい	567	20.6%
いいえ	2,038	73.9%
無回答	153	5.5%
計	2,758	100.0%

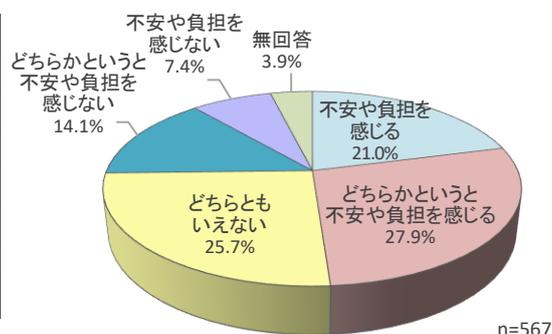


現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがあるかについては、「いいえ」が7割半ば、「はい」が約2割であった。

### (2-2) 子育てに関して不安感や負担感を感じることもあるかについて

問 1-2(2) あなたは、子育てに関して不安感や負担感を感じることはありますか。 n=567

	回答	構成比
不安や負担を感じる	119	21.0%
どちらかという不安や負担を感じる	158	27.9%
どちらともいえない	146	25.7%
どちらかという不安や負担を感じない	80	14.1%
不安や負担を感じない	42	7.4%
無回答	22	3.9%
計	567	100.0%

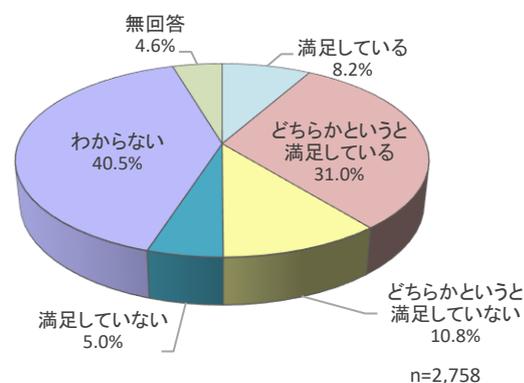


前問で「はい」と答えた人（567人）に、子育てに関して不安感や負担感を感じることもあるかについて聞いたところ、「どちらかという不安や負担を感じる」が27.9%で最も高く、「不安や負担を感じる」の21.0%を合わせると、不安や負担を感じている人は約5割であった。

### (3) 学習や活動を行う機会や生涯学習センターや図書館などの学習環境について

問 1-3 あなたは、学習や活動を行う機会、生涯学習センター、図書館などの学習環境に満足していますか。 n=2,758

	回答数	構成比
満足している	226	8.2%
どちらかという満足している	854	31.0%
どちらかという満足していない	297	10.8%
満足していない	139	5.0%
わからない	1,116	40.5%
無回答	126	4.6%
計	2,758	100.0%



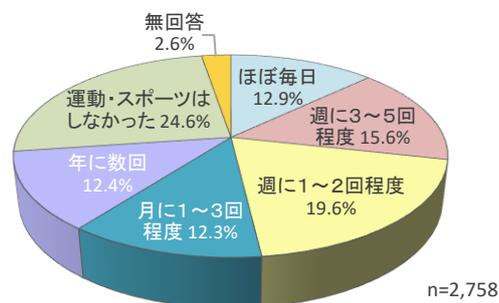
学習や活動を行う機会、生涯学習センター、図書館などの学習環境に満足しているかについては、「わからない」が40.5%で最も高かった。「どちらかという満足している」が31.0%、「満足している」が8.2%で、満足していると感じている人は約4割であった。

#### (4) 運動やスポーツの活動状況について

問 1-4 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で運動・スポーツを行いましたか。複数の運動・スポーツを行っている場合は、合計の回数でお答えください。

n=2,758

	回答数	構成比
ほぼ毎日	357	12.9%
週に3～5回程度	429	15.6%
週に1～2回程度	541	19.6%
月に1～3回程度	338	12.3%
年に数回	342	12.4%
運動・スポーツはしなかった	679	24.6%
無回答	72	2.6%
計	2,758	100.0%



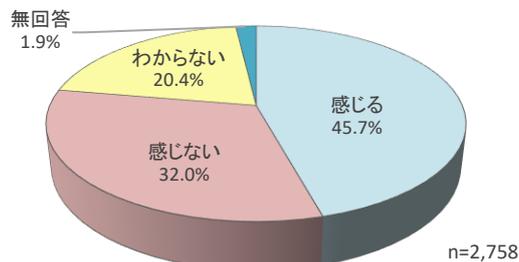
この1年間にどのくらいの頻度で運動・スポーツを行ったかについては、「週に1～2回程度」が19.6%で最も高かった。「ほぼ毎日」、「週に1～2回程度」、「週に3～5回程度」と週1回以上運動・スポーツを行った人は5割弱で、運動やスポーツに対しての意識は高い傾向にある。一方、「運動・スポーツはしなかった」は24.6%であった。

#### (5) 地域の中での「絆」や「つながり」について

問 1-5 地域の中で「絆」や「つながり」を感じますか。

n=2,758

	回答数	構成比
感じる	1,261	45.7%
感じない	882	32.0%
わからない	563	20.4%
無回答	52	1.9%
計	2,758	100.0%



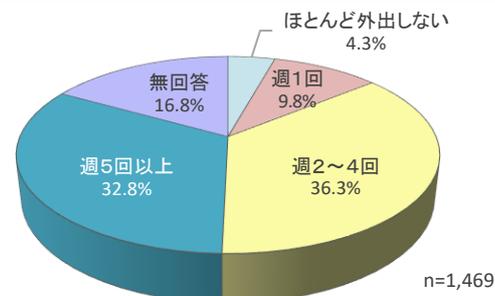
地域の中で「絆」や「つながり」を感じるかについては、「感じる」が45.7%で最も高く、「感じない」は32.0%であった。

#### (6) 65歳以上の方の外出状況について

問 1-6 65歳以上の方にお伺いします。あなたは週に何回くらい外出していますか。

n=1,469

	回答数	構成比
ほとんど外出しない	63	4.3%
週1回	144	9.8%
週2～4回	533	36.3%
週5回以上	482	32.8%
無回答	247	16.8%
計	1,469	100.0%

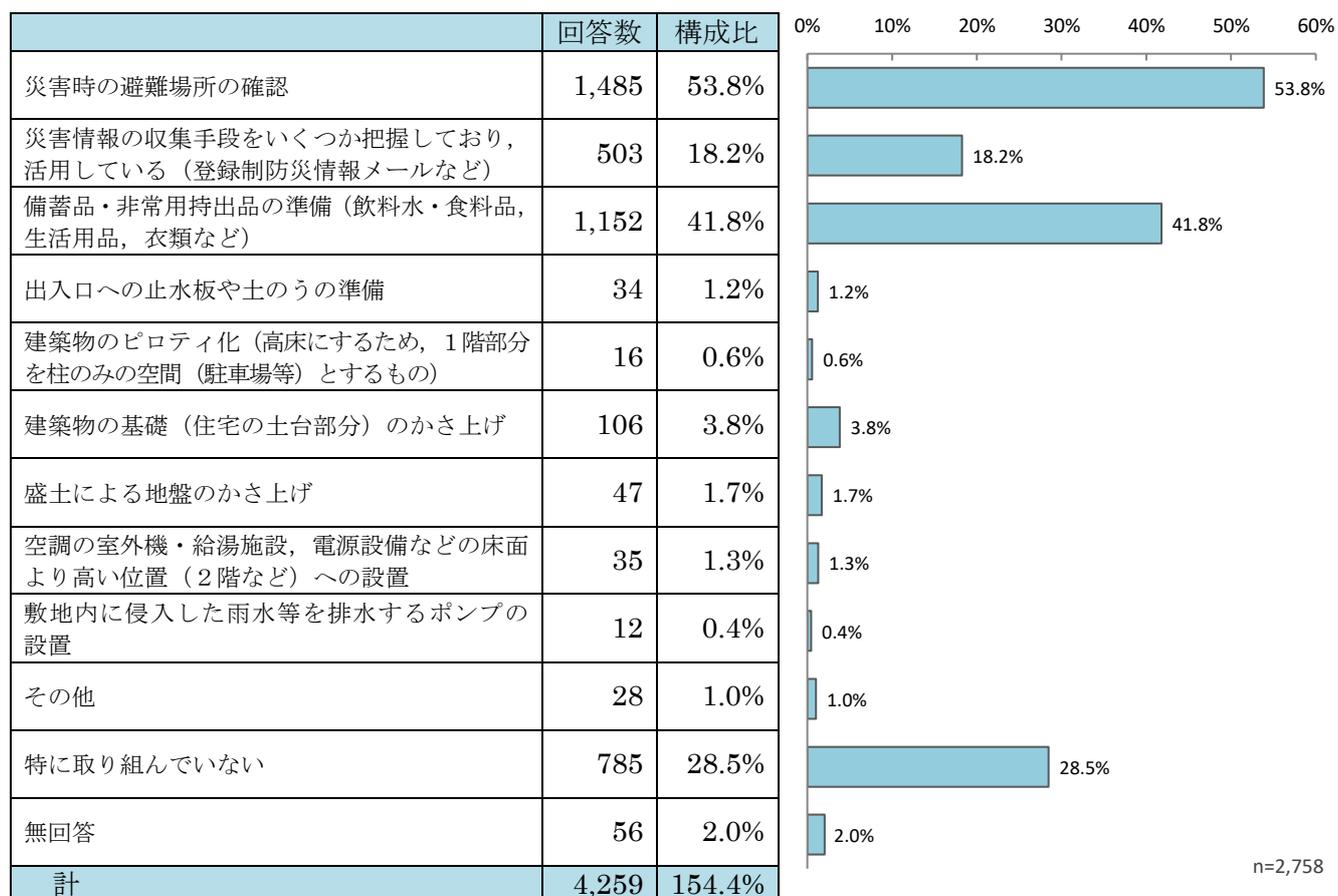


65歳以上の方に、週に何回くらい外出しているかについて聞いたところ、「週2～4回」が36.3%で最も高く、次いで「週5回以上」が32.8%、「週1回」が9.8%で、週1回以上外出している人は約8割であった。

## (7-1) 災害を想定した備えについて

問 1-7(1) あなたは、災害を想定して、以下の備えに取り組んでいますか。

n=2,758

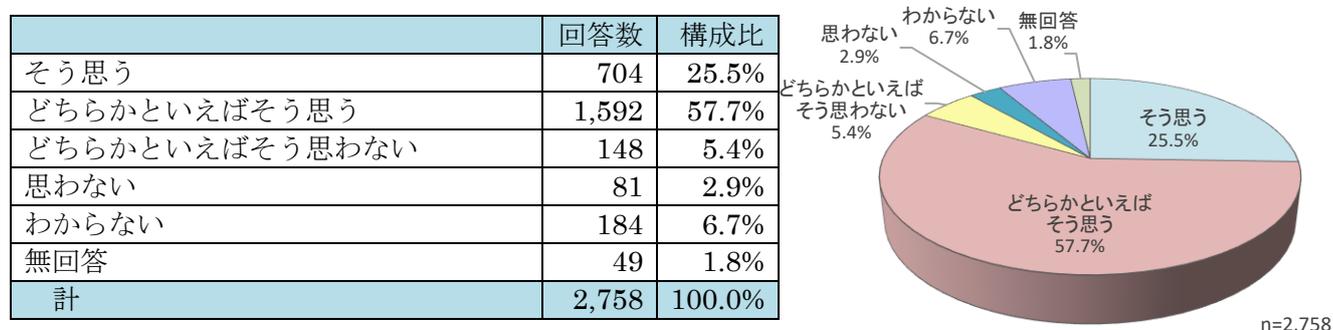


災害を想定しての備えに取り組んでいるかについては、「災害時の避難場所の確認」が 53.8%で最も高く、次いで「備蓄品・非常用持出品の準備」が 41.8%、「特に取り組んでいない」が 28.5%と続いた。

## (7-2) 安心した生活が送れているかについて

問 1-7(2) 日ごろから、戸締りなどの防犯や交通安全、詐欺に遭わないための消費行動（買い物）、自宅での調理や食材の保存などの食品安全、ペットの正しい飼い方などの生活環境の衛生に気を配り、安心した生活が送れていると感じていますか。

n=2,758



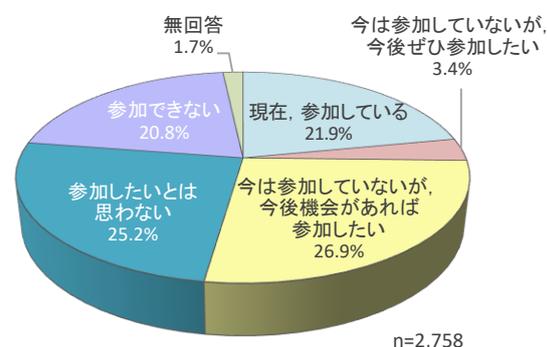
安心した生活が送れているかについては、「どちらかといえばそう思う」が 57.7%で最も高く、次いで「そう思う」が 25.5%で、そう思うと感じている人は8割強であった。

## (8) まちづくり活動の参加状況について

問 1-8 あなたの「まちづくり活動」の参加状況について教えてください。

n=2,758

	回答数	構成比
現在、参加している	605	21.9%
今は参加していないが、今後ぜひ参加したい	95	3.4%
今は参加していないが、今後機会があれば参加したい	742	26.9%
参加したいとは思わない	694	25.2%
参加できない	575	20.8%
無回答	47	1.7%
計	2,758	100.0%



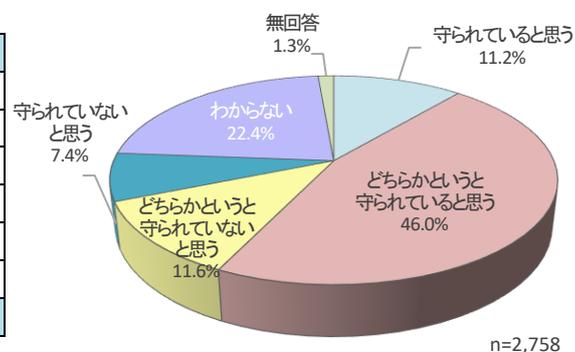
まちづくり活動の参加状況については、「現在、参加している」が2割強であった。参加していない理由として、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が26.9%で最も高く、次いで「参加したいとは思わない」が25.2%、「参加できない」が20.8%であった。

## (9) 一人一人の権利が守られているかについて

問 1-9 あなたは、子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じていますか。

n=2,758

	回答	構成比
守られていると思う	308	11.2%
どちらかというと思われていると思う	1,269	46.0%
どちらかというと思われていないと思う	321	11.6%
守られていないと思う	204	7.4%
わからない	619	22.4%
無回答	37	1.3%
計	2,758	100.0%

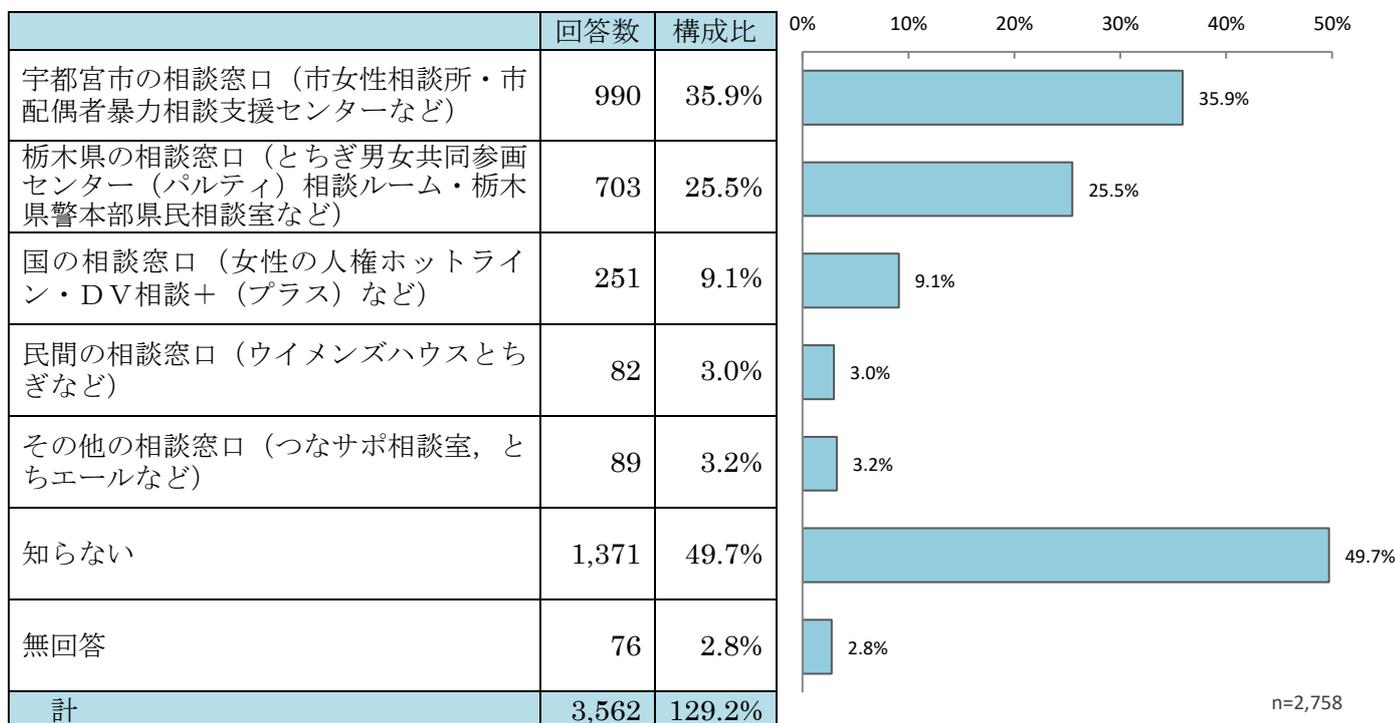


子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じているかについては、「どちらかというと思われていると思う」が46.0%、「守られていると思う」が11.2%で、守られていると感じている人は6割弱であった。

## (10) 女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口の認知度について

問 1-10 あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口を知っていますか。

n=2,758



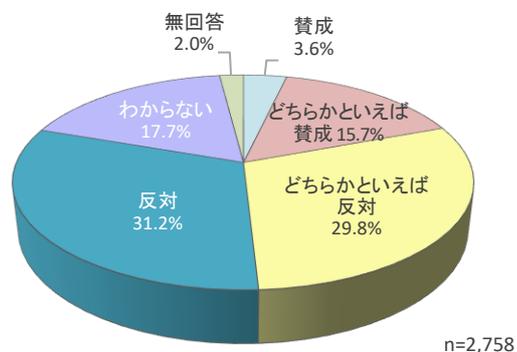
女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口の認知度については、「知らない」が約5割であった。認知されている相談窓口については、「宇都宮市の相談窓口（市女性相談所・市配偶者暴力相談支援センターなど）」が35.9%で最も高く、次いで「栃木県の相談窓口（とちぎ男女共同参画センター（パルティ）相談ルーム・栃木県警本部県民相談室など）」が25.5%であった。

## (11) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

問 1-11 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。

n=2,758

	回答数	構成比
賛成	100	3.6%
どちらかといえば賛成	432	15.7%
どちらかといえば反対	823	29.8%
反対	861	31.2%
わからない	487	17.7%
無回答	55	2.0%
計	2,758	100.0%

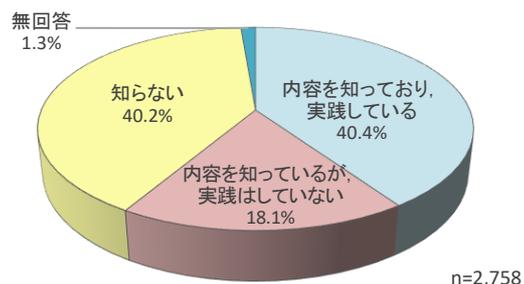


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「反対」が31.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば反対」が29.8%で、反対と考えている人は約6割であった。

## (12) 「もったいない運動」について

問 1-12 あなたは、宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」を知っていますか。 n=2,758

	回答数	構成比
内容を知っており、実践している	1,115	40.4%
内容を知っているが、実践はしていない	499	18.1%
知らない	1,108	40.2%
無回答	36	1.3%
計	2,758	100.0%

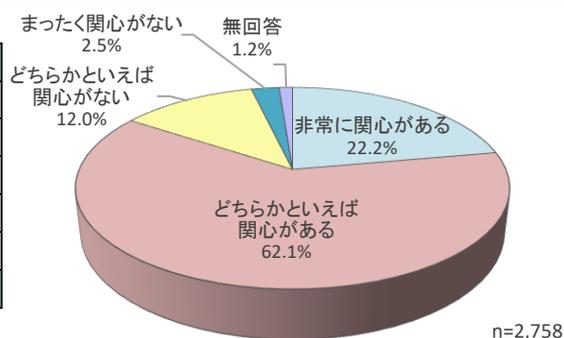


宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」を知っているかについては、「内容を知っており、実践している」が40.4%、「内容を知っているが、実践はしていない」が18.1%で、知っている人は約6割であった。

## (13) 自然環境について

問 1-13 あなたは、自然環境について関心がありますか。 n=2,758

	回答数	構成比
非常に関心がある	611	22.2%
どちらかといえば関心がある	1,714	62.1%
どちらかといえば関心がない	332	12.0%
まったく関心がない	68	2.5%
無回答	33	1.2%
計	2,758	100.0%

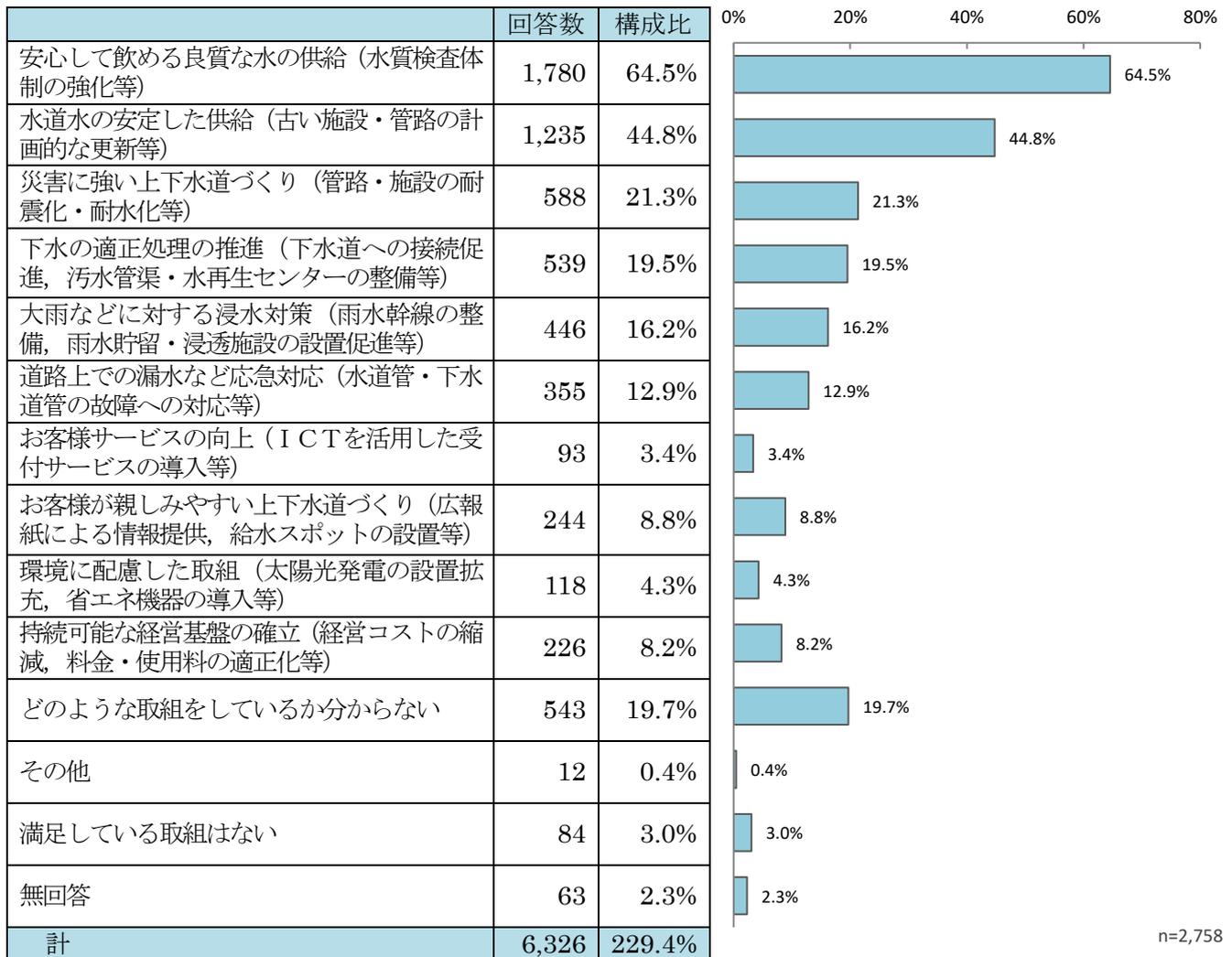


自然環境に関心があるかについては、「どちらかといえば関心がある」が62.1%、「非常に関心がある」が22.2%で、関心がある人は8割半ばであった。

## (14) 上下水道事業の取組について

問 1-14 あなたは、上下水道事業のどのような取組に満足していますか。

n=2,758

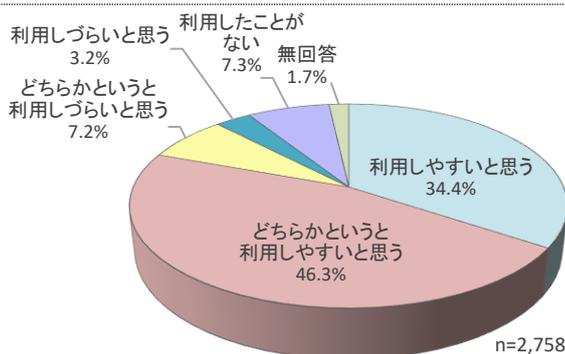


上下水道事業のどのような取組に満足しているかについては、「安心して飲める良質な水の供給（水質検査体制の強化等）」が 64.5%で最も高く、次いで「水道水の安定した供給（古い施設・管路の計画的な更新等）」が 44.8%、「災害に強い上下水道づくり（管路・施設の耐震化・耐水化等）」が 21.3%と続いた。一方、「どのような取組をしているか分からない」が 19.7%であった。

### (15) 地域行政機関を利用しやすいと感じているかについて

問 1-15 あなたは、地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じていますか。  
n=2,758

	回答数	構成比
利用しやすいと思う	948	34.4%
どちらかという利用しやすいと思う	1,276	46.3%
どちらかという利用しづらいと思う	199	7.2%
利用しづらいと思う	87	3.2%
利用したことがない	200	7.3%
無回答	48	1.7%
計	2,758	100.0%

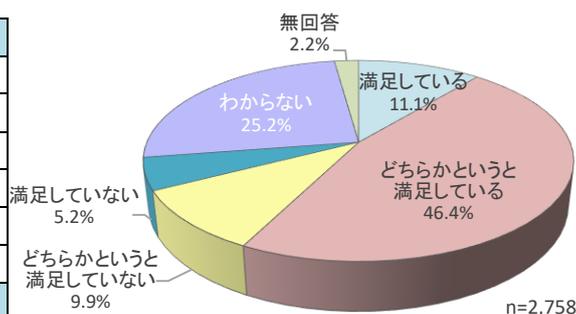


地域行政機関を利用しやすいと感じているかについては、「どちらかという利用しやすいと思う」が46.3%、「利用しやすいと思う」が34.4%で、利用しやすいと感じている人は約8割であった。

### (16) 市が提供するサービスの内容や手段に満足しているかについて

問 1-16 市が提供するサービスの内容や手段に満足していますか。  
n=2,758

	回答数	構成比
満足している	305	11.1%
どちらかという満足している	1,281	46.4%
どちらかという満足していない	273	9.9%
満足していない	143	5.2%
わからない	696	25.2%
無回答	60	2.2%
計	2,758	100.0%

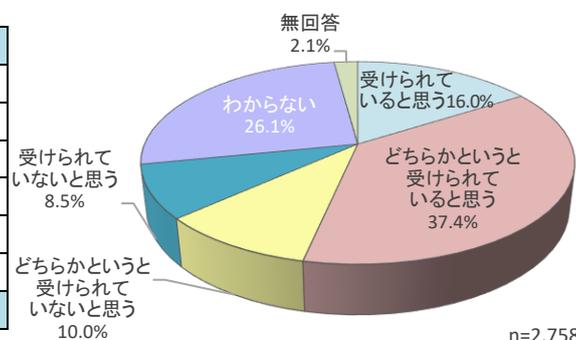


市が提供するサービスの内容や手段に満足しているかについては、「どちらかという満足している」が46.4%、「満足している」が11.1%で、満足している人は6割弱であった。

### (17) デジタルの恩恵を受けられている（便利である）と感じているかについて

問 1-17 日々の暮らしの中で、自分や家族などの身近な人が、それぞれの生活スタイルや目的に合ったデジタルサービスを利用し、便利だ（恩恵を受けられている）と感じることがありますか。  
n=2,758

	回答数	構成比
受けられていると思う	440	16.0%
どちらかという受けられていると思う	1,032	37.4%
どちらかという受けられていないと思う	275	10.0%
受けられていないと思う	234	8.5%
わからない	719	26.1%
無回答	58	2.1%
計	2,758	100.0%



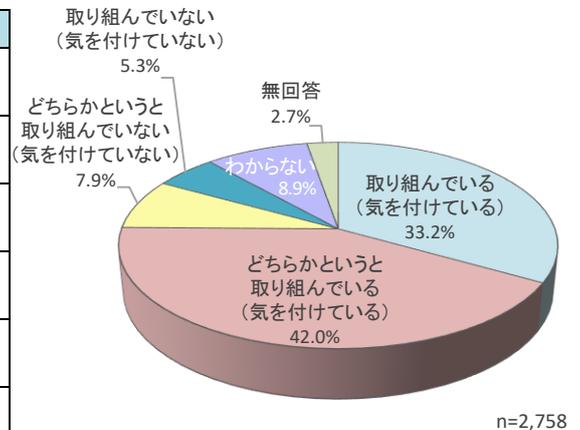
デジタルの恩恵を受けられている（便利である）と感じているかについては、「どちらかという受けられていると思う」が37.4%、「受けられていると思う」が16.0%で、受けられている（便利である）と感じている人は5割強であった。

**(18) 情報セキュリティ対策や不審なメールによるフィッシング詐欺などへの適切な対応に取り組んでいるかについて**

問 1-18 あなたは、スマートフォンなどを利用するに当たり、情報セキュリティ対策やフィッシング詐欺などへの対策に取り組んでいますか。

n=2,758

	回答数	構成比
取り組んでいる（気を付けている）	917	33.2%
どちらかというに取り組んでいる（気を付けている）	1,158	42.0%
どちらかというに取り組んでいない（気を付けていない）	217	7.9%
取り組んでいない（気を付けていない）	147	5.3%
わからない	245	8.9%
無回答	74	2.7%
計	2,758	100.0%



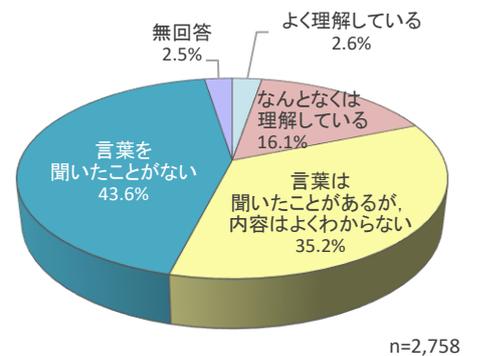
情報セキュリティ対策や不審なメールによるフィッシング詐欺などへの適切な対応に取り組んでいるかについては、「どちらかというに取り組んでいる（気を付けている）」が 42.0%、「取り組んでいる（気を付けている）」が 33.2%で、取り組んでいる（気を付けている）人は7割半ばであった。

**(19) スーパースマートシティに関してどの程度知っているかについて**

問 1-19 あなたは、本市が目指すまちの姿「スーパースマートシティ」について、どの程度知っていますか。

n=2,758

	回答数	構成比
よく理解している	73	2.6%
なんとなくは理解している	445	16.1%
言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない	970	35.2%
言葉を聞いたことがない	1,202	43.6%
無回答	68	2.5%
計	2,758	100.0%



「スーパースマートシティ」に関してどの程度知っているかについては、「なんとなくは理解している」が 16.1%、「よく理解している」が 2.6%であった。一方、「言葉を聞いたことがない」が 43.6%、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が 35.2%であった。

## 2. 現在の宇都宮市について

問2 宇都宮市がまちづくりとして実施している各種取組について、お伺いします。  
あなたは、下記の取組の「重要度」と「満足度」をどう感じていますか。 (1つに○)

### (1) 宇都宮市が実施している取組 (14 政策 53 施策) の重要度

#### ①政策の柱Ⅰ:「子育て・教育・学習」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	重要度
1. 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現	結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実	71.3
	子育て支援の充実	72.3
	子ども・若者の健全育成環境の充実	68.2
	子どもを守り育てる支援の充実	72.5
2. 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現	新たな時代に必要となる資質・能力の育成	68.6
	誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進	70.2
	児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実	70.9
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	65.7
	生涯にわたる学習活動の促進	69.8
3. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現	生涯にわたるスポーツ活動の推進	64.8

#### ②政策の柱Ⅱ:「健康・福祉・医療」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	重要度
4. 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現	健康づくりの推進	81.9
	感染症対策の推進	88.5
	安心して医療を受けられる環境の充実	90.1
5. あらゆる市民が安心して支え合いながら、自立して生活できる社会の実現	安心して暮らせる福祉基盤の充実	80.8
	高齢期の生活の充実	84.7
	障がいのある人の生活の充実	83.8
	共に支え合う地域づくりの推進	77.4

#### ③政策の柱Ⅲ:「安心・協働・共生」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	重要度
6. 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現	危機に対する体制・都市基盤の強化	87.8
	総合的な治水・雨水対策の推進	85.6
	消防・救急体制の充実	85.6
	日常生活の安心感の向上	88.0
	快適で衛生的な生活環境の確保	81.9
7. 市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現	地域主体の協働によるまちづくりの推進	66.1
	市政への理解と参画の促進	62.2
	かけがえのない個人の尊重	76.2
	男女共同参画の推進	68.0
	多文化共生の推進	66.8

#### ④政策の柱Ⅳ:「魅力・交流・文化」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	重要度
8. 地域資源を守り、活用した賑わいと活力ある社会の実現	個性豊かな観光と交流の創出	76.2
	MICEの推進による魅力と交流の創出	52.5
	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	72.8
	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	71.3
9. 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現	都市ブランド戦略の推進	70.4
	移住定住支援の充実	65.7

### ⑤政策の柱Ⅴ:「産業・環境」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
10. 各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現	地域産業の創造性・発展性の向上	73.6
	商工・サービス業の活力の向上	71.3
	農林業の生産力・販売力・地域力の向上	75.6
11. 脱炭素で循環型、自然共生社会の実現	環境配慮行動の推進	74.4
	脱炭素化の推進	67.5
	ごみの減量化・資源化と適正処理の推進	94.5
	自然との共生の推進	91.2

### ⑥政策の柱Ⅵ:「都市空間・交通」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
12. 魅力的で持続可能な都市空間の形成	地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	74.0
	安心で快適な住まいづくりの促進	73.6
	空き家・空き地対策の推進	75.3
	緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出	72.7
	質の高い上下水道サービスの提供	91.7
13. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現	公共交通ネットワークの充実・強化	81.5
	公共交通の利便性向上と利用促進	74.9
	円滑、快適、安全・安心な道路づくりの推進	81.4
	「自転車のまち宇都宮」の推進	50.4

### ■各政策の柱を支える行政経営基盤

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
14. 持続可能な公共的サービスの提供体制の確立	新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	68.3
	地区行政の推進	80.5
	行政の組織マネジメント力の向上	60.2
	財政基盤の更なる強化	77.3

(2) 宇都宮市が実施している取組（14 政策 53 施策）の現在の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
1. 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現	結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実	28.6
	子育て支援の充実	30.7
	子ども・若者の健全育成環境の充実	26.6
	子どもを守り育てる支援の充実	24.1
2. 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現	新たな時代に必要となる資質・能力の育成	26.0
	誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進	22.6
	児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実	24.2
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	27.1
	生涯にわたる学習活動の促進	29.8
3. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現	生涯にわたるスポーツ活動の推進	26.8

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
4. 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現	健康づくりの推進	57.6
	感染症対策の推進	65.1
	安心して医療を受けられる環境の充実	56.7
5. あらゆる市民が安心して支え合いながら、自立して生活できる社会の実現	安心して暮らせる福祉基盤の充実	38.5
	高齢期の生活の充実	37.4
	障がいのある人の生活の充実	32.2
	共に支え合う地域づくりの推進	34.0

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
6. 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現	危機に対する体制・都市基盤の強化	50.8
	総合的な治水・雨水対策の推進	47.9
	消防・救急体制の充実	53.4
	日常生活の安心感の向上	47.9
	快適で衛生的な生活環境の確保	47.7
7. 市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現	地域主体の協働によるまちづくりの推進	39.0
	市政への理解と参画の促進	39.1
	かけがえのない個人の尊重	33.7
	男女共同参画の推進	31.1
	多文化共生の推進	25.7

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
8. 地域資源を守り、活用した賑わいと活力ある社会の実現	個性豊かな観光と交流の創出	54.2
	MICEの推進による魅力と交流の創出	32.3
	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	57.8
	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	44.6
9. 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現	都市ブランド戦略の推進	48.2
	移住定住支援の充実	29.8

### ⑤政策の柱Ⅴ:「産業・環境」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
10. 各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現	地域産業の創造性・発展性の向上	25.4
	商工・サービス業の活力の向上	28.8
	農林業の生産力・販売力・地域力の向上	30.1
11. 脱炭素で循環型、自然共生社会の実現	環境配慮行動の推進	35.6
	脱炭素化の推進	24.1
	ごみの減量化・資源化と適正処理の推進	61.7
	自然との共生の推進	40.1

### ⑥政策の柱Ⅵ:「都市空間・交通」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
12. 魅力的で持続可能な都市空間の形成	地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	43.7
	安心で快適な住まいづくりの促進	31.7
	空き家・空き地対策の推進	15.7
	緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出	45.4
	質の高い上下水道サービスの提供	76.6
13. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現	公共交通ネットワークの充実・強化	42.1
	公共交通の利便性向上と利用促進	41.3
	円滑、快適、安全・安心な道路づくりの推進	37.8
	「自転車のまち宇都宮」の推進	30.4

### ■各施策の柱を支える行政経営基盤

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
14. 持続可能な公共的サービスの提供体制の確立	新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	38.7
	地区行政の推進	55.6
	行政の組織マネジメント力の向上	23.6
	財政基盤の更なる強化	45.0

### 3. 各施策についての重要度

#### (1) 宇都宮市が実施している取組（14 政策 53 施策）の重要度

##### ①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

##### ①-1 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現 (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実	443	53.7	17.6	2.3	1.8	18.3	6.3
子育て支援の充実		54.9	17.4	1.4	1.8	17.8	6.8
子ども・若者の健全育成環境の充実		44.7	23.5	2.9	1.4	20.8	6.8
子どもを守り育てる支援の充実		56.7	15.8	1.4	0.9	18.3	7.0

全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現について、【重要】と【やや重要】を合わせた【重要(計)】(以下【重要(計)】とする)は「子育て支援の充実」と「子どもを守り育てる支援の充実」がいずれも7割強であった。

##### ①-2 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現 (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
新たな時代に必要となる資質・能力の育成	443	46.3	22.3	3.6	0.5	19.6	7.7
誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進		51.2	19.0	0.7	0.7	20.5	7.9
児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実		48.3	22.6	1.8	1.1	18.7	7.4
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実		37.0	28.7	4.1	1.4	21.2	7.7
生涯にわたる学習活動の促進		40.2	29.6	4.5	0.2	17.8	7.7

誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現について、【重要(計)】は「誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進」と「児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実」がいずれも約7割であった。

①-3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
生涯にわたるスポーツ活動の推進	443	32.7	32.1	8.8	2.7	16.9	6.8

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現について、【重要(計)】は「生涯にわたるスポーツ活動の推進」が6割半ばであった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-4 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
健康づくりの推進	444	49.5	32.4	4.7	0.7	7.7	5.0
感染症対策の推進		66.2	22.3	0.9	0.0	6.1	4.5
安心して医療を受けられる環境の充実		76.4	13.7	0.5	0.5	5.2	3.8

誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現について、【重要(計)】は「感染症対策の推進」と「安心して医療を受けられる環境の充実」がいずれも約9割であった。

②-5 あらゆる市民が安心し、支え合いながら自立して生活できる社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
安心して暮らせる福祉基盤の充実	444	56.3	24.5	2.0	0.0	12.2	5.0
高齢期の生活の充実		53.8	30.9	1.4	0.7	9.2	4.1
障がいのある人の生活の充実		61.7	22.1	1.1	0.7	10.4	4.1
共に支え合う地域づくりの推進		45.0	32.4	4.7	0.9	12.8	4.1

あらゆる市民が安心し、支え合いながら自立して生活できる社会の実現について、【重要(計)】は「高齢期の生活の充実」と「障がいのある人の生活の充実」がいずれも8割半ばであった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-6 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
危機に対する体制・都市基盤の強化	466	72.1	15.7	1.5	0.0	8.4	2.4
総合的な治水・雨水対策の推進		67.8	17.8	0.9	0.2	10.9	2.4
消防・救急体制の充実		69.1	16.5	1.7	0.0	9.7	3.0
日常生活の安心感の向上		61.8	26.2	1.5	0.4	8.2	1.9
快適で衛生的な生活環境の確保		50.4	31.5	4.5	0.4	10.9	2.1

誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現について、【重要(計)】は「危機に対する体制・都市基盤の強化」と「日常生活の安心感の向上」がいずれも9割弱であった。

③-7 市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域主体の協働によるまちづくりの推進	466	26.6	39.5	10.9	2.4	18.5	2.1
市政への理解と参画の促進		23.8	38.4	12.4	3.0	20.4	1.9
かけがえのない個人の尊重		45.5	30.7	4.5	1.3	16.1	1.9
男女共同参画の推進		36.7	31.3	7.1	2.6	20.0	2.4
多文化共生の推進		29.2	37.6	9.0	4.7	18.2	1.3

市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現について、【重要(計)】は「かけがえのない個人の尊重」が7割半ばで最も高く、次いで「男女共同参画の推進」が7割弱であった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-8 地域資源を守り，活用した賑わいと活力ある社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
個性豊かな観光と交流の創出	467	37.7	38.5	7.1	2.1	11.3	3.2
MICE の推進による魅力と交流の創出		21.2	31.3	11.1	3.4	29.3	3.6
スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化		35.3	37.5	6.6	2.4	15.2	3.0
暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		33.4	37.9	4.1	0.6	21.0	3.0

地域資源を守り，活用した賑わいと活力ある社会の実現について，【重要(計)】は「個性豊かな観光と交流の創出」が7割半ばで最も高く，次いで「スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化」が7割強であった。

④-9 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市ブランド戦略の推進	467	37.9	32.5	9.2	2.8	15.2	2.4
移住定住支援の充実		33.4	32.3	6.9	2.8	21.8	2.8

着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現について，【重要(計)】は「都市ブランド戦略の推進」が約7割で「移住定住支援の充実」が6割半ばであった。

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

⑤-10 各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域産業の創造性・発展性の向上	480	44.6	29.0	0.8	1.3	20.2	4.2
商工・サービス業の活力の向上		42.5	28.8	3.3	0.4	20.2	4.8
農林業の生産力・販売力・地域力の向上		52.3	23.3	0.8	0.2	19.4	4.0

各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現について，【重要(計)】は「地域産業の創造・発展の向上」と「農林業の生産力・販売力・地域力の向上」がいずれも7割半ばであった。

⑤-11 脱炭素で循環型、自然共生社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
環境配慮行動の推進	480	41.7	32.7	4.4	0.6	16.0	4.6
脱炭素化の推進		38.3	29.2	6.3	3.3	19.4	3.5
ごみの減量化・資源化と適正処理の推進		73.7	20.8	1.1	0.4	3.6	0.4
自然との共生の推進		65.7	25.5	4.0	0.0	4.4	0.4

脱炭素で循環型、自然共生社会の実現について、【重要(計)】は「ごみの減量化・資源化と適正処理の推進」が9割半ばで「自然との共生の推進」が約9割であった。

⑥政策の柱VI：「都市空間・交通」

⑥-12 魅力的で持続可能な都市空間の形成

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	458	41.9	32.1	5.9	1.1	14.4	4.6
安心で快適な住まいづくりの促進		39.1	34.5	4.4	1.1	15.7	5.2
空き家・空き地対策の推進		44.5	30.8	3.3	0.9	16.4	4.1
緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出		34.3	38.4	7.2	2.6	12.9	4.6
質の高い上下水道サービスの提供		80.3	11.4	0.4	0.0	5.5	2.4

魅力的で持続可能な都市空間の形成について、【重要(計)】は「質の高い上下水道サービスの提供」が9割強で最も高く、次いで「空き家・空き地対策の推進」が7割半ばであった。

⑥-13 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
公共交通ネットワークの充実・強化	458	50.9	30.6	5.0	4.4	5.0	4.1
公共交通の利便性向上と利用促進		41.9	33.0	9.4	2.6	9.8	3.3
円滑、快適、安全・安心な道路づくりの推進		53.5	27.9	4.4	1.3	9.4	3.5
「自転車のまち宇都宮」の推進		23.8	26.6	22.9	9.0	13.5	4.1

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現について、【重要(計)】は「公共交通ネットワークの充実・強化」が8割強で最も高く、次いで「円滑、快適、安全・安心な道路づくりの推進」が約8割であった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

14 持続可能な公共的サービスの提供体制の確立

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	467	32.8	35.5	5.6	2.1	20.6	3.4
地区行政の推進		42.2	38.3	3.0	1.1	12.0	3.4
行政の組織マネジメント力の向上		31.3	28.9	6.6	3.2	26.6	3.4
財政基盤の更なる強化		46.7	30.6	3.4	1.3	15.0	3.0

持続可能な公共的サービスの提供体制の確立について、【重要(計)】は「地区行政の推進」が約8割で最も高く、次いで「財政基盤の更なる強化」が8割弱であった。

## 4. 各施策についての満足度

### (1) 宇都宮市が実施している取組（14 政策 53 施策）の満足度

#### ①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

##### ①-1 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現 (%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実	443	7.4	21.2	8.6	2.9	51.9	7.9
子育て支援の充実		10.2	20.5	6.1	5.0	51.0	7.2
子ども・若者の健全育成環境の充実		7.0	19.6	7.0	3.8	55.5	7.0
子どもを守り育てる支援の充実		5.6	18.5	7.2	4.5	56.7	7.4

全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現について、【満足】と【やや満足】を合わせた【満足(計)】(以下【満足(計)】とする)は「子育て支援の充実」と「結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実」がいずれも約3割であった。

##### ①-2 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現 (%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
新たな時代に必要となる資質・能力の育成	443	6.8	19.2	8.1	4.7	52.4	8.8
誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進		4.5	18.1	7.4	5.4	55.5	9.0
児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実		6.8	17.4	9.9	5.6	51.7	8.6
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実		5.2	21.9	4.3	4.1	55.5	9.0
生涯にわたる学習活動の促進		6.3	23.5	7.4	6.1	48.1	8.6

誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現について、【満足(計)】は「生涯にわたる学習活動の促進」が約3割で最も高く、次いで「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」が3割弱であった。

①-3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
生涯にわたるスポーツ活動の推進	443	5.4	21.4	11.3	4.7	49.2	7.9

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現について、【満足(計)】は「生涯にわたるスポーツ活動の推進」が3割弱であった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-4 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
健康づくりの推進	444	15.5	42.1	10.1	3.4	25.5	3.4
感染症対策の推進		19.6	45.5	8.1	4.1	18.7	4.1
安心して医療を受けられる環境の充実		19.8	36.9	16.0	5.9	17.8	3.6

誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現について、【満足(計)】は「感染症対策の推進」が6割半ばで最も高く、次いで「健康づくりの推進」が6割弱であった。

②-5 あらゆる市民が安心して、支え合いながら自立して生活できる社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
安心して暮らせる福祉基盤の充実	444	9.7	28.8	11.9	4.1	41.4	4.1
高齢期の生活の充実		9.2	28.2	14.6	5.0	40.3	2.7
障がいのある人の生活の充実		8.8	23.4	9.2	3.8	50.5	4.3
共に支え合う地域づくりの推進		8.3	25.7	10.8	3.6	46.6	5.0

あらゆる市民が安心して、支え合いながら自立して生活できる社会の実現について、【満足(計)】は「安心して暮らせる福祉基盤の充実」が約4割で最も高く、次いで「高齢期の生活の充実」が4割弱であった。

### ③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

#### ③-6 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
危機に対する体制・都市基盤の強化	466	13.7	37.1	7.7	3.2	34.1	4.1
総合的な治水・雨水対策の推進		11.8	36.1	11.4	5.4	32.4	3.0
消防・救急体制の充実		20.4	33.0	6.0	1.1	36.5	3.0
日常生活の安心感の向上		9.9	38.0	14.8	6.0	29.0	2.4
快適で衛生的な生活環境の確保		9.9	37.8	8.6	3.2	37.6	3.0

誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現について、【満足(計)】は「消防・救急体制の充実」が5割強で最も高く、次いで「危機に対する体制・都市基盤の強化」が約5割であった。

#### ③-7 市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域主体の協働によるまちづくりの推進	466	6.0	33.0	15.0	4.7	38.4	2.8
市政への理解と参画の促進		8.2	30.9	10.3	3.9	44.6	2.1
かけがえのない個人の尊重		8.2	25.5	8.4	4.5	51.1	2.4
男女共同参画の推進		4.9	26.2	10.9	5.2	50.6	2.1
多文化共生の推進		4.7	21.0	11.4	5.6	56.0	1.3

市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現について、【満足(計)】は「地域主体の協働によるまちづくりの推進」と「市政への理解と参画の促進」がいずれも約4割であった。

#### ④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

##### ④-8 地域資源を守り，活用した賑わいと活力ある社会の実現 (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
個性豊かな観光と交流の創出	467	9.0	45.2	15.0	3.2	23.1	4.5
MICE の推進による魅力と交流の創出		5.1	27.2	7.3	4.1	52.2	4.1
スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化		15.4	42.4	6.2	2.8	30.2	3.0
暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		10.3	34.3	9.4	3.9	38.5	3.6

地域資源を守り，活用した賑わいと活力ある社会の実現について，【満足(計)】は「スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化」が6割弱で最も高く，次いで「個性豊かな観光と交流の創出」が5割半ばであった。

##### ④-9 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現 (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市ブランド戦略の推進	467	9.4	38.8	15.2	4.7	28.5	3.4
移住定住支援の充実		4.5	25.3	12.0	5.6	50.3	2.4

着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現について，【満足(計)】は「都市ブランド戦略の推進」が5割弱で，「移住定住支援の充実」が約3割であった。

#### ⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

##### ⑤-10 各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現 (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域産業の創造性・発展性の向上	480	3.1	22.3	17.5	6.9	44.4	5.8
商工・サービス業の活力の向上		3.8	25.0	19.2	4.4	42.1	5.6
農林業の生産力・販売力・地域力の向上		3.8	26.3	18.5	7.3	38.8	5.4

各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現について，【満足(計)】は「商工・サービス業の活力の向上」と「農林業の生産力・販売力・地域力の向上」がいずれも約3割であった。

⑤-11 脱炭素で循環型、自然共生社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
環境配慮行動の推進	480	5.4	30.2	15.0	3.5	41.0	4.8
脱炭素化の推進		3.3	20.8	15.2	9.6	46.5	4.6
ごみの減量化・資源化と適正処理の推進		12.4	49.3	16.4	10.6	10.9	0.4
自然との共生の推進		9.1	31.0	24.8	6.9	27.7	0.4

脱炭素で循環型、自然共生社会の実現について、【満足(計)】は「ごみの減量化・資源化と適正処理の推進」が6割強で「自然との共生の推進」が約4割であった。

⑥政策の柱VI：「都市空間・交通」

⑥-12 魅力的で持続可能な都市空間の形成

(%)

取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	458	4.6	39.1	21.0	7.2	22.5	5.7
安心して快適な住まいづくりの促進		3.5	28.2	19.9	5.2	37.8	5.5
空き家・空き地対策の推進		2.2	13.5	21.8	14.2	43.2	5.0
緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出		5.2	40.2	14.8	5.9	29.5	4.4
質の高い上下水道サービスの提供		31.0	45.6	5.2	1.5	14.2	2.4

魅力的で持続可能な都市空間の形成について、【満足(計)】は「質の高い上下水道サービスの提供」が8割弱で最も高く、次いで「緑豊かで魅力ある都市景観の提供」が4割半ばであった。

⑥-13 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
公共交通ネットワークの充実・強化	458	8.7	33.4	25.8	17.7	10.7	3.7
公共交通の利便性向上と利用促進		8.1	33.2	19.4	10.0	24.9	4.4
円滑，快適，安全・安心な道路づくりの推進		6.1	31.7	21.8	12.4	24.5	3.5
「自転車のまち宇都宮」の推進		7.9	22.5	17.0	10.0	38.6	3.9

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現について，【満足(計)】は「公共交通ネットワークの充実・強化」が4割強で最も高く，次いで「公共交通の利便性向上と利用促進」が約4割であった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

14 持続可能な公共的サービスの提供体制の確立

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	467	6.6	32.1	11.8	4.5	40.7	4.3
地区行政の推進		12.6	43.0	12.8	5.4	23.1	3.0
行政の組織マネジメント力の向上		5.8	17.8	11.1	7.7	54.2	3.4
財政基盤の更なる強化		11.8	33.2	10.5	3.9	37.9	2.8

持続可能な公共的サービスの提供体制の確立について，【満足(計)】は「地区行政の推進」が5割半ばと最も多く，次いで「財政基盤の更なる強化」が4割半ばであった。

# 市政に関する世論調査報告書

—第58回 令和7年度—

発行日／令和8年1月

発行／宇都宮市総合政策部広報広聴課

〒320-8540（宇都宮市役所専用番号）

宇都宮市旭1丁目1番5号

電話 028-632-2025